

2003年度

全学共通授業科目シラバス

外国語学部共通科目（2002年度以前入学生用）

獨協大学

[シラバスとは?]

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとに授業計画、目的、講義内容および評価方法を学生に周知することにより履修登録の指針と授業の理解を深めるために作成されたものです。

学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

[シラバスの編集]

・2002年度以前入学生の「外国語学部共通科目(原則として通年)」と、2003年度入学生の「全学共通授業科目」と兼用しています。自分の入学年度を確認し、該当の目次を参照してください。

*シラバスの見方は次のとおりです。

①外国語学部共通科目	② 科目名	③ 担当者
④全学共通授業科目	⑤ 科目名(副題)	③ 担当者
⑥ 講義目的および講義内容	春学期	⑦ 授業計画
		1 授業のポイント以下同じ
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
12		
評価方法	⑧	
テキスト参考文献	⑨	

上段は、春学期の科目です

- ① 2002年度以前入学生の外国語学部共通科目名です。
- ② 2002年度以前入学生の科目名で原則として通年の授業です。
- ③ 担当者氏名
- ④ 2003年度入学生の全学共通授業科目名です。
- ⑤ 科目の他に副題が付いています。
- ⑥ 授業の目的、ポイントなど教員からの要望を記載してあります。
- ⑦ 春学期は原則として12回の授業があります。主なポイントを示し、効率良く授業が進むようにしています。
- ⑧ 2003年度入学生は、半期完結授業のため、春学期終了時に評価が出されます。また、各教員によって評価方法は様々です。2002年度以前の入学生の通年科目は、秋学期終了後、評価が出されます。
- ⑨ 授業をより深く理解させるために、参考文献、テキストなどを提示しています。

④全学共通授業科目	⑤ 科目名(副題)	③ 担当者
⑥ 講義目的および講義内容	秋学期	⑦ 授業計画
		1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
12		
評価方法	⑧	
テキスト参考文献	⑨	

下段は、秋学期の科目で各項目は春学期と同じです。

① ② は省略

[注意]

1. 定員
「全学共通授業科目」および合併される「外国語学部共通科目」は、定員を設けています。「授業時間割表」を参照してください。
2. 集中講義
春学期授業のスポーツ・リクリエーションに伴う集中講義は下段に記載してあります。
3. 登録条件
秋学期の科目には、春学期の科目履修登録または単位の修得を条件にした科目があります。

*カテゴリー I の「全学総合講座」は、春学期、秋学期それぞれ1ページに記載しています。

全学共通授業科目

(2003年度入学生用)

目 次

注 科目名の◇印は秋学期科目、◆印は夏季または冬季の集中授業、無印は春学期科目を表す。

【 全 学 総 合 科 目 】

カ テ ゴ リ - I ~ V

カ テ ゴ リ - I 全学総合講座

科 目 名	担当教員	ページ
◇全学総合講座（現代世界論）	有吉 広介	1
全学総合講座（日本文化—ことばとところ）	飯島 一彦	2
◇全学総合講座（日本文化—行動と思索）	飯島 一彦	3
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）春学期	伊藤 為一郎	4
◇全学総合講座（キャンパスライフと仕事）秋学期	伊藤 為一郎	5
全学総合講座（現代社会と法—平和と人権）	右崎 正博	6
全学総合講座（現代世界を理解する視点）	桑原 靖夫	7
全学総合講座（獨協学）春学期	堅田 剛	8
◇全学総合講座（獨協学）秋学期	堅田 剛	9
全学総合講座（国際人入門—マーケットから見える世界）	鈴木 淳一	10
◇全学総合講座（国際人入門—商品から見える世界）	鈴木 淳一	11
全学総合講座（21世紀を探る）春学期	辻 康吾	12
◇全学総合講座（21世紀を探る）秋学期	辻 康吾	13
全学総合講座（国家と国境を考える）	古川 堅治	14
全学総合講座（環境学）	湯田 雅夫	15
全学総合講座（スポーツ・健康の世界）春学期	松原 裕	16
◇全学総合講座（スポーツ・健康の世界）秋学期	松原 裕	17
全学総合講座（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）春学期	矢羽々 崇	18
◇全学総合講座（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）秋学期	矢羽々 崇	19

カ テ ゴ リ ー Ⅱ 概 論 科 目

科 目 名	担当教員	ページ
哲学 a (近現代西欧個人主義の誕生)	谷口 郁夫	20
◇哲学 b (歴史を哲学する)	谷口 郁夫	20
哲学 a (愛について)	松丸 壽雄	21
◇哲学 b (生きる意味)	松丸 壽雄	21
倫理学 a (倫理の基本について考える)	市川 達人	22
◇倫理学 b (環境と生命の倫理)	市川 達人	22
社会思想史 a (市民的社会像の黎明期)	市川 達人	23
◇社会思想史 b (市民的社会像の確立期)	市川 達人	23
社会思想史 a (魔女裁判と現代)	松丸 壽雄	24
◇社会思想史 b (錬金術と現代)	松丸 壽雄	24
心理学 a (人間の個性・多様性理解)	杉山 憲司	25
◇心理学 b (人間の行動・認知・感情の共通法則)	杉山 憲司	25
心理学 a (知覚・認知)	増田 直衛	26
◇心理学 b (行動・個性)	増田 直衛	26
言語学 a (一般言語学)	浅山 佳郎	27
◇言語学 b (一般言語学)	浅山 佳郎	27
言語学 a (母語の修得と日本人)	桂 千佳子	28
◇言語学 b (コトバの構造と文法観)	桂 千佳子	28
言語学 a (日本語とはどのような言語か)	小島 幸枝	29
◇言語学 b (辞書を読む)	小島 幸枝	29
文学 a (日本の神話・説話)	肥田野 昌之	30
◇文学 b (万葉集)	肥田野 昌之	30
文学 a (日本文学—上代から中古前期)	福沢 健	31
◇文学 b (日本文学—中古後期から現代)	福沢 健	31
文学 a (スペイン文学)	野々山 ミチコ	32
◇文学 b (ラテンアメリカ文学)	野々山 ミチコ	32
文学 a (メディアとしてのテキスト)	宮谷 尚実	33
◇文学 b (現代日本でメルヒエンを「読む」)	宮谷 尚実	33
歴史学 a (維新の変革)	新宮 譲治	34
◇歴史学 b (帝国憲法体制と資本主義)	新宮 譲治	34
歴史学 a (日本中世社会における「悪党」)	櫻井 彦	35
◇歴史学 b (中世「悪党」の諸相)	櫻井 彦	35
歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大)	熊谷 哲也	36
◇歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	36

科 目 名	担当教員	ページ
歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	37
◇歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	37
歴史学 a (西洋史概説—中東を基点に)	高橋 正男	38
◇歴史学 b (西洋史概説—中東を基点に)	高橋 正男	38
歴史学 a (ヨーロッパの歴史—統合と分裂の視点から)	古川 堅治	39
◇歴史学 b (バルカン情勢の現在—地域・国家・民族の視点から)	古川 堅治	39
文化人類学 a (未開文化の理解へ)	井上 兼行	40
◇文化人類学 b (未開文化の理解へ)	井上 兼行	40
現代文化論 a (グローバリゼーションを巡って)	柴崎 信三	41
◇現代文化論 b (日本の表象と世界)	柴崎 信三	41
経済学 a (理論経済学の基礎的理解)	片岡 晴雄	42
◇経済学 b (理論経済学の基礎的理解)	片岡 晴雄	42
経済学 a (国民所得の概念と決定メカニズム)	浜本 光紹	43
◇経済学 b (経済政策の基礎理論と課題)	浜本 光紹	43
◇日本国憲法 (憲法と私たち)	加藤 一彦	44
日本国憲法 (憲法と私たち)	古関 彰一	45
日本国憲法 (憲法と私たち)	高佐 智美	46
国際法 a (国際社会と私たち)	廣部 和也	47
◇国際法 b (国際紛争を考える)	廣部 和也	47
政治学 a (身近な政治学)	志摩 園子	48
◇政治学 b (参加する政治学)	志摩 園子	48
社会学 a (産業社会およびグローバル社会)	有吉 広介	49
◇社会学 b (現代社会の構造)	有吉 広介	49
地理学 a (自然環境と文化)	秋本 弘章	50
◇地理学 b (自然環境と文化)	秋本 弘章	50
地理学 a (世界の自然環境と文化)	犬井 正	51
◇地理学 b (里山と二次林文化)	犬井 正	51
女性学 a (女性学と女性の歴史)	井上 たかこ	52
◇女性学 b (女性学と女性の現状)	井上 たかこ	52
数学 a (微分学)	福井 尚生	53
◇数学 b (積分学)	福井 尚生	53
物理学 a (特殊相対論の世界)	東 孝博	54
◇物理学 b (一般相対論の世界)	東 孝博	54
化学 a (自然と環境の化学)	和田 浩志	55
◇化学 b (生命と健康の化学)	和田 浩志	55
生物学 a (植物を分類する)	加藤 僊重	56
◇生物学 b (植物の分布)	加藤 僊重	56
地球科学 a (太陽系天文学)	福井 尚生	57
◇地球科学 b (銀河系天文学)	福井 尚生	57

科 目 名	担当教員	ページ
健康科学 a (東洋の健康哲学)	青柳 多恵子	58
◇健康科学 b (東洋の健康哲学)	青柳 多恵子	58
スポーツ・レクリエーション学 a (身体運動と生体の生理的变化)	梶野 克之	59
◇スポーツ・レクリエーション学 b (トレーニングの科学的基礎)	梶野 克之	59
スポーツ・レクリエーション学 a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう) ..	和田 智	60
◇スポーツ・レクリエーション学 b (最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう) ..	和田 智	60

カ テ ゴ リ ー Ⅲ 各 論 科 目

注 玉井寛先生担当の秋学期科目、ことばと思想(Ⅳ)(心理検査一調査法と社会的適応)はカテゴリーⅣになります。

科 目 名	担当教員	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造 a)	伊豆山 敦子	61
◇ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造 b)	伊豆山 敦子	61
ことばと思想(Ⅲ)(思想を形づくるもの)	金田一 秀穂	62
◇ことばと思想(Ⅲ)(思想を伝えるもの)	金田一 秀穂	62
ことばと思想(Ⅲ)(悪の思想史)	谷口 郁夫	63
◇ことばと思想(Ⅲ)(ニヒリズムの克服と生きる意味)	谷口 郁夫	64
ことばと思想(Ⅲ)(心理社会的能力の向上と課題)	玉井 寛	65
◇ことばと思想(Ⅳ)(心理検査一調査法と社会的適応)	玉井 寛	65
ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	中西 家栄子	66
◇ことばと思想(Ⅲ)(通訳論)	永田 小絵	67
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽史)	園田 みどり	68
◇歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	69
歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争-その歴史と遺産 a)	中村 粲	70
◇歴史と文化(Ⅲ)(近代日本の戦争-その歴史と遺産 b)	中村 粲	70
歴史と文化(Ⅲ)(西洋美術史 a)	前川 久美子	71
◇歴史と文化(Ⅲ)(西洋美術史 b)	前川 久美子	71
歴史と文化(Ⅲ)(中東・イスラム世界と欧米)	水口 章	72
◇歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	水口 章	72
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	阿部 純一	73
◇現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	73
現代社会(Ⅲ)(英国人は階級問題抜きで語れない)	有吉 広介	74
◇現代社会(Ⅲ)(少子・高齢社会を生きる)	有吉 広介	74
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a)	堅田 剛	75
◇現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b)	堅田 剛	75
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	柴崎 信三	76
◇現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	柴崎 信三	76

科 目 名	担当教員	ページ
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるa)	辻 康吾	77
◇現代社会(Ⅲ)(中国を考えるb)	辻 康吾	77
現代社会(Ⅲ)(民法a)	橋本 恭宏	78
◇現代社会(Ⅲ)(民法b)	橋本 恭宏	78
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想a)	藤原 和彦	79
◇現代社会(Ⅲ)(中東政治思想b)	藤原 和彦	79
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	鈴木 滋	80
◇自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	80
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)	福井 尚生	81
◇自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)	福井 尚生	81
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論a)	福井 尚生	82
◇自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)	福井 尚生	82

カ テ ゴ リ ー Ⅳ 実 習 ・ 実 践 科 目

科 目 名	担当教員	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-コミュニケーション篇)	飯島 一彦	83
◇ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-表現篇)	飯島 一彦	83
ことばと思想(Ⅳ)(作品を読む)	小島 幸枝	84
◇ことばと思想(Ⅳ)(作品を書く)	小島 幸枝	84
ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践a)	千本 健一郎	85
◇ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践b)	千本 健一郎	85
ことばと思想(Ⅳ)(日本語とその表現a)	肥田野 昌之	86
◇ことばと思想(Ⅳ)(日本語とその表現b)	肥田野 昌之	86
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	福沢 健	87
◇ことばと思想(Ⅳ)(小論文を書く)	福沢 健	87
現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るa)	川村 肇	88
◇現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るb)	川村 肇	88
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a)	橋口 徹	89
◇現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)b)	橋口 徹	89
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)a)	橋口 徹	90
◇現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)b)	橋口 徹	90
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)(法学部用)	各担当教員	91
◇現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)(法学部用)	各担当教員	91
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門(アドヴァンス)a)(法学部用)	施 建明	92
◇現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門(アドヴァンス)b)(法学部用)	施 建明	92
自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	加藤 僖重	93
◇自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	93

カ テ ゴ リ ー V 体 育 科 目

科 目 名	担当教員	ページ
スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	和田 智	94
◆スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	和田 智	94
◇スポーツ・レクリエーション（インラインスケートレーニング）	松原 裕	95
◆スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	松原 裕	95
スポーツ・レクリエーション（インラインスケートa）	和田 智	96
◇スポーツ・レクリエーション（インラインスケートb）	和田 智	96
スポーツ・レクリエーション（インラインホッケーa）	松原 裕	97
◇スポーツ・レクリエーション（インラインホッケーb）	松原 裕	97
スポーツ・レクリエーション（硬式テニスa）	松原 裕	98
◇スポーツ・レクリエーション（硬式テニスb）	松原 裕	98
スポーツ・レクリエーション（ゴルフa）	山中 邦夫	99
◇スポーツ・レクリエーション（ゴルフb）	山中 邦夫	99
スポーツ・レクリエーション（ゴルフa）	吉田 卓司	100
◇スポーツ・レクリエーション（ゴルフb）	吉田 卓司	100
スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	田代 力也	101
◇スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	田代 力也	101
スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	田中 茂宏	102
◇スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	田中 茂宏	102
スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	檜山 康	103
◇スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	檜山 康	103
スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	松本 光弘	104
◇スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	松本 光弘	104
スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズa）	梶野 克之	105
◇スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズb）	梶野 克之	105
スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	池垣 功一	106
◇スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	池垣 功一	106
スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	太田 朝博	107
◇スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	太田 朝博	107
スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	田代 力也	108
◇スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	田代 力也	108
スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	萩野 元祐	109
◇スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	萩野 元祐	109
スポーツ・レクリエーション（卓球a）	奥野 忠枝	110
◇スポーツ・レクリエーション（卓球b）	奥野 忠枝	110
スポーツ・レクリエーション（卓球a）	本田 稔祐	111
◇スポーツ・レクリエーション（卓球b）	本田 稔祐	111

科 目 名	担当教員	ページ
スポーツ・レクリエーション（トレーニング）	青柳 多恵子	112
◆スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	青柳 多恵子	112
スポーツ・レクリエーション（トレーニング）	田代 力也	113
◆スポーツ・レクリエーション（アウトドア高原）	田代 力也	113
スポーツ・レクリエーション（バスケットボールa）	勝瀬 武	114
◇スポーツ・レクリエーション（バスケットボールb）	勝瀬 武	114
スポーツ・レクリエーション（バドミントンa）	太田 朝博	115
◇スポーツ・レクリエーション（バドミントンb）	太田 朝博	115
スポーツ・レクリエーション（バドミントンa）	梶野 克之	116
◇スポーツ・レクリエーション（バドミントンb）	梶野 克之	116
スポーツ・レクリエーション（バレーボールa）	小川 又八朗	117
◇スポーツ・レクリエーション（バレーボールb）	小川 又八朗	117
スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	田代 力也	118
◇スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	田代 力也	118
スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	松原 裕	119
◇スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	松原 裕	119
スポーツ・レクリエーション（フリスビーa）	和田 智	120
◇スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	和田 智	120
スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンスa）	青柳 多恵子	121
◇スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンスb）	青柳 多恵子	121

【 外 国 語 科 目 】

English 111a	111b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 112a	112b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 121a	121b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 122a	122b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 131a	131b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 132a	132b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 141a	141b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する
English 142a	142b	（経済学部・法学部用）	各担当教員	最初の授業で説明する

科 目 名	担当教員	ページ
English 110 a (独・仏学科用)	日下 正一	122
◇English 110 b (独・仏学科用)	日下 正一	122
English 110 a (独・仏学科用)	佐藤 保	123
◇English 110 b (独・仏学科用)	佐藤 保	123
English 110 a (独・仏学科用)	藤田 登久子	124
◇English 110 b (独・仏学科用)	藤田 登久子	124
English 110 a (独・仏学科用)	宮廻 和男	125
◇English 110 b (独・仏学科用)	宮廻 和男	125
English 111 a (独・仏学科用)	栗原 勝	126
◇English 111 b (独・仏学科用)	栗原 勝	126
English 111 a (独・仏学科用)	田中 公美子	127
◇English 111 b (独・仏学科用)	田中 公美子	127
English 112 a (独・仏学科用)	大田原 眞澄	128
◇English 112 b (独・仏学科用)	大田原 眞澄	128
English 112 a (独・仏学科用)	本田 謙介	129
◇English 112 b (独・仏学科用)	本田 謙介	129
English 121 a (独・仏学科用)	Ch.Carpenter	130
◇English 121 b (独・仏学科用)	Ch.Carpenter	130
English 121 a (独・仏学科用)	工藤 政司	131
◇English 121 b (独・仏学科用)	工藤 政司	131
English 121 a (独・仏学科用)	栗原 勝	132
◇English 121 b (独・仏学科用)	栗原 勝	132
English 122 a (独・仏学科用)	E.J.Naoumi	133
◇English 122 b (独・仏学科用)	E.J.Naoumi	133
English 122 a (独・仏学科用)	福井 星一	134
◇English 122 b (独・仏学科用)	福井 星一	134
English 131 a (独・仏学科用)	瀬戸 千尋	135
◇English 131 b (独・仏学科用)	瀬戸 千尋	135
English 131 a (独・仏学科用)	高松 節子	136
◇English 131 b (独・仏学科用)	高松 節子	136
English 131 a (独・仏学科用)	中上 健二	137
◇English 131 b (独・仏学科用)	中上 健二	137
English 131 a (独・仏学科用)	八丁 由比	138
◇English 131 b (独・仏学科用)	八丁 由比	138
English 132 a (独・仏学科用)	J.Waldman	139
◇English 132 b (独・仏学科用)	J.Waldman	139
English 132 a (独・仏学科用)	T.J.Fotos	140
◇English 132 b (独・仏学科用)	T.J.Fotos	140

科 目 名	担当教員	ページ
ドイツ語 I Aa (会話)	A.Lipsky	141
◇ドイツ語 I Ab (会話)	A.Lipsky	141
ドイツ語 I Aa	各担当教員	142
◇ドイツ語 I Ab	各担当教員	142
ドイツ語 I Ba	各担当教員	143
◇ドイツ語 I Bb	各担当教員	143
ドイツ語 I Ca	各担当教員	144
◇ドイツ語 I Cb	各担当教員	144
フランス語 I Aa	各担当教員	145
◇フランス語 I Ab	各担当教員	145
フランス語 I Ba	各担当教員	146
◇フランス語 I Bb	各担当教員	146
フランス語 I Ca	各担当教員	147
◇フランス語 I Cb	各担当教員	147
スペイン語 I Aa	各担当教員	148
◇スペイン語 I Ab	各担当教員	148
スペイン語 I Ba	各担当教員	149
◇スペイン語 I Bb	各担当教員	149
スペイン語 I Ca	各担当教員	150
◇スペイン語 I Cb	各担当教員	150
中国語 I Aa	各担当教員	151
◇中国語 I Ab	各担当教員	151
中国語 I Ba	各担当教員	152
◇中国語 I Bb	各担当教員	152
中国語 I Ca	各担当教員	153
◇中国語 I Cb	各担当教員	153
ポルトガル語 I a	山本 麻美子	154
◇ポルトガル語 I b	山本 麻美子	154
ポルトガル語 II a	山本 麻美子	155
◇ポルトガル語 II b	山本 麻美子	155
ロシア語 I Aa	齊藤 毅	156
◇ロシア語 I Ab	齊藤 毅	156
ロシア語 I Ba	佐藤 千登勢	157
◇ロシア語 I Bb	佐藤 千登勢	157
ロシア語 II Aa	佐藤 千登勢	158
◇ロシア語 II Ab	佐藤 千登勢	158
ロシア語 II Ba	齊藤 毅	159
◇ロシア語 II Bb	齊藤 毅	159

科 目 名	担当教員	ページ
朝鮮語 I Aa	朴 勇俊	160
◇朝鮮語 I Ab	朴 勇俊	160
朝鮮語 I Ba	李 貞美	161
◇朝鮮語 I Bb	李 貞美	161
朝鮮語 II Aa	李 貞美	162
◇朝鮮語 II Ab	李 貞美	162
朝鮮語 II Ba	朴 勇俊	163
◇朝鮮語 II Bb	朴 勇俊	163
タイ語 I a	江藤 双恵	164
◇タイ語 I b	江藤 双恵	164
タイ語 II a	江藤 双恵	165
◇タイ語 II b	江藤 双恵	165
アラビア語 I a	師岡 カリーマ	166
◇アラビア語 I b	師岡 カリーマ	166
アラビア語 II a	師岡 カリーマ	167
◇アラビア語 II b	師岡 カリーマ	167
現代ヘブライ語 I a	高橋 正男	168
◇現代ヘブライ語 I b	高橋 正男	168
現代ヘブライ語 II a	高橋 正男	169
◇現代ヘブライ語 II b	高橋 正男	169
古典ギリシア語 I a	古川 堅治	170
◇古典ギリシア語 I b	古川 堅治	170
古典ギリシア語 II a	古川 堅治	171
◇古典ギリシア語 II b	古川 堅治	171
ラテン語 I a	松田 治	172
◇ラテン語 I b	松田 治	172
ラテン語 II a	松田 治	173
◇ラテン語 II b	松田 治	173

*注 科目名の◇印は秋学期科目、◆印は夏季または冬季の集中授業、無印は春学期科目を表す。

外国語学部共通科目

(2002年度以前入学生用)

目次

「人文科学」部門						
科目名		担当	教員		ページ	
哲学	担谷	口丸	教郁	員夫	20
哲学	松丸	口丸	郁壽	夫雄	21
心理学	杉山	丸山	憲直	司衛	25
心理学	増田	山田	直	寛	26
倫理学	玉井	井	達	寛	65
国語学	市川	川	佳	人	22
国語学	桂千	千	幸	子	28
国語表現	小飯	島	幸	枝	29
国語表現	小島	島	一	彦	83
国語表現	千本	本	健	郎	84
国語表現	肥田	田	昌	之	85
国語表現	福野	野	一	健	86
国語表現	福野	野	昌	健	87
国語表現	肥田	田	昌	之	174
日本文学	福野	野	昌	健	30
日本文学	福野	野	昌	健	31
外国文学	野々	々	ミ	コ	32
外国文学	宮谷	谷	尚	実	33
歴史学(日本史)	新宮	宮	讓	治	34
歴史学(日本史)	櫻井	井		彦	35
歴史学(東洋史)	熊谷	谷	哲	也	36
歴史学(西洋史)	佐藤	藤	唯	行	37
歴史学(西洋史)	高橋	橋	正	男	38
歴史学(西洋史)	古川	川	堅	治	39
人文科学特殊講義A(日本近現代史)	今野	野	日	出	175
人文科学特殊講義A(現代文化論)	柴崎	崎	信	晴	41
人文科学特殊講義A(日本近代史)	中村	村		三	70
人文科学特殊講義A(西洋美術史)	前川	川	久	美	71
人文科学特殊講義B(西洋哲学史)	谷口	口	郁	夫	63
人文科学特殊講義B(哲学思想史)	谷口	口	郁	夫	64
人文科学特殊講義B(通訳文化論)	永田	田	小	繪	67
人文科学特殊講義B(イタリア音楽史)	園田	田	み	ど	68
人文科学特殊講義B(イタリアの音楽)	園田	田	み	ど	69
「社会科学」部門						
経済学	片岡	岡	晴	雄	42
経済学	浜本	本	光	紹	43
経済原論	阿志	部	正	浩	176
政治学	加藤	藤	園	子	48
日本国憲法	橋本	本	一	彦	177
民法	市川	川	恭	宏	78
教育法	廣市	市	須	美	178
国際法	阿部	部	和	也	47
国際関係論	阿部	部	純	一	73
社会学	有市	市	広	介	49
社会思想史	松川	川	達	人	23
社会思想史	丸井	井	壽	雄	24
社会心理学	玉井	井		寛	179
文化人類学	井上	上	兼	行	40
社会科学特殊講義A(女性学)	井上	上	た	こ	52
社会科学特殊講義A(異文化との触れ合い)	水口	口	か	章	72
社会科学特殊講義A(現代英米社会研究)	有吉	吉	広	介	74
社会科学特殊講義A(社会科学概論)	堅田	田		剛	75
社会科学特殊講義A(マスコミュニケーション論)	柴崎	崎	信	三	76
社会科学特殊講義A(現代中国論)	辻康	康		吾	77
社会科学特殊講義A(イスラム(原理)主義過激思想)	藤原	原	和	彦	79

科目名	担当教員	ページ
社会科学特殊講義A(教育の現場:教師と語る)	川村肇	88
社会科学特殊講義A(生活に役立つ経理(A))	橋口徹	89
社会科学特殊講義A(生活に役立つ経理(B))	橋口徹	90
社会科学特殊講義A(文化人類学特殊講義)	井上兼行	180
社会科学特殊講義A(広告論)	梶山皓	181

「自然科学」部門

数学	福井尚生	53
物理学	東孝博	54
地学	福井尚生	57
生物学A	加藤重	56
生物学B	加藤重	93
自然科学概論	福和生	82
自然科学特殊講義A(化学)	和志	55
自然科学特殊講義A(地球環境論)	鈴木木	80
自然科学特殊講義A(宇宙論)	福井尚生	81
自然科学特殊講義A(人間の自然認識)	東孝博	182
自然科学特殊講義A(自然環境と文化)	秋本弘章	50

「情報科学」部門

コンピュータ入門	各担当教員	183
情報科学概論	呉浩東	184
言語学	浅山佳郎	27
言語学	伊豆山敦子	61
情報科学各論(初級)「表計算入門」(春・秋学期)	各担当教員	185
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」(春・秋学期)	各担当教員	186
情報科学各論(初級)「HTML入門」(春・秋学期)	各担当教員	187
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	松山孝美	188
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	東孝博	189
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	金子憲一	190
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	田中雅英	191
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	東孝博	192
情報科学各論(中級)「データベース1」(春・秋学期)	松山恵美子	193
情報科学各論(中級)「データベース1」	長崎等	194
情報科学各論(中級)「データベース2」	長崎等	195
情報科学各論(中級)「プログラミング論1・2」	呉浩東	196

「日本語教育」部門

日本語学概論	金田一秀穂	62
日本語教育概論	中西家栄子	66
日本語学特殊講義A	(春学期)城田俊子 (秋学期)中西家栄子	197

「第三外国語」部門

基礎ドイツ語 I (A会話)	A . L i p s k y	141
基礎ドイツ語 I (A)	各担当教員	142
基礎ドイツ語 I (B)	各担当教員	143
基礎ドイツ語 I (C)	各担当教員	144
基礎ドイツ語 II (A)	各担当教員	198
基礎ドイツ語 II (B)	各担当教員	199
基礎ドイツ語 II (C)	各担当教員	200
基礎フランス語 I (A)	各担当教員	145
基礎フランス語 I (B)	各担当教員	146
基礎フランス語 I (C)	各担当教員	147
基礎フランス語 II	各担当教員	201
基礎スペイン語 I (A)	各担当教員	148
基礎スペイン語 I (B)	各担当教員	149
基礎スペイン語 I (C)	各担当教員	150
基礎スペイン語 II (総合)	各担当教員	202
基礎スペイン語 II (会話)	各担当教員	203
基礎中国語 I (A)	各担当教員	151
基礎中国語 I (B)	各担当教員	152

科目名	担当	教員	ページ
基礎中国語Ⅰ(C)	各	教員	153
基礎中国語Ⅱ(講読)	各	教員	204
基礎中国語Ⅱ(会話)	各	教員	205
基礎ポルトガル語Ⅰ	山	麻美子	154
基礎ポルトガル語Ⅱ	山	麻美子	155
基礎ロシア語Ⅰ(総合)	山	藤登	156
基礎ロシア語Ⅰ(会話)	佐	藤登	157
基礎ロシア語Ⅱ(総合)	佐	藤登	158
基礎ロシア語Ⅱ(会話)	齊	藤登	159
基礎朝鮮語Ⅰ(総合)	朴	勇貞	160
基礎朝鮮語Ⅰ(講読・会話)	朴	勇貞	161
基礎朝鮮語Ⅱ(総合)	李	勇貞	162
基礎朝鮮語Ⅱ(講読・会話)	李	勇貞	163
基礎タイ語Ⅰ	江	双	164
基礎タイ語Ⅱ	江	双	165
基礎アラビア語Ⅰ	師	岡力	166
基礎アラビア語Ⅱ	師	岡力	167
現代ヘブライ語Ⅰ	高	橋正	168
現代ヘブライ語Ⅱ	高	橋正	169
古典ギリシア語Ⅰ	古	川正	170
古典ギリシア語Ⅱ	古	川正	171
ラテン語Ⅰ	松	田	172
ラテン語Ⅱ	松	田	173

「総合」部門

総合講座B(春・秋学期)	佐藤唯行	206
--------------	------	-----

「保健体育」部門

体育Ⅰ・Ⅱ	各	担当教員	94～
保健体育講義	青柳	多恵子	58
保健体育講義	梶野	克之	59
保健体育講義	和田	智	60

全学共通授業科目	全学総合講座(現代世界論)	担当者	有吉広介
講義目標および講義概要	<p>講義目標</p> <p>21世紀の国際化時代に必要とされるグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標とする。この講義では、経済学部の桑原靖夫・千代浦昌道の2教授と益山光央教授、外国語学部言語文化学科の有吉広介・辻康吾の2教授 および三本 茂名誉教授(社会心理学)の6名が、オムニバス形式で、それぞれ異なる視点から世界の諸現象について講義し、現代世界の多面的な理解を促す。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、外国為替と焦点を合わせて国際経済についての理解を促し、「グローバル経済」と日本の変化にも言及する。次に、労働市場のボーダーレス現象の一つ、いわゆる「外国人労働者」の問題を巡る。ついで、奴隷貿易、植民地支配、そして第二次世界大戦後は、戦争紛争に苦しむアフリカ人の歴史とアフリカの政治・経済・社会の諸課題について論じる。さらに、多民族国家ネパールの多様な生活様式と文化について論じる。そこにおける近年における民主化運動のめざす過激な政府運動が起こる政治状況を取り上げる。続いて、現代中国にみられる経済発展とその背後にある中国の歴史的・社会的な条件と関連させて考察し、そしてまた現在の中国にある農業問題と社会諸問題をとらえ、中国の将来を予測する。最後に、近代化・産業化に伴ってすべての国に人口の高齢化が起こるが、国によって異なる高齢者の生活と意識を、各国の文化との関連で考察する。</p>	授業計画	1 「国際経済と為替」 ゲストスピーカー：益山光央(経済学部助教授)
	2 「日本経済と外国為替市場」 ゲストスピーカー：益山光央(経済学部助教授)		
	3 「グローバル化と人の移動」 ゲストスピーカー：桑原靖夫(経済学部教授)		
	4 「国際的な労働移動の流れと日本の対応」 ゲストスピーカー：桑原靖夫(経済学部教授)		
	5 「現代アフリカの経済と社会」 ゲストスピーカー：千代浦昌道(経済学部教授)		
	6 「現代アフリカの経済と社会」 ゲストスピーカー：千代浦昌道(経済学部教授)		
	7 「多民族国家としてのネパールの特徴」 ゲストスピーカー：三本 茂(獨協大学名誉教授)		
	8 「ネパールにおける民主化運動と体制の変革」 ゲストスピーカー：三本 茂(獨協大学名誉教授)		
	9 「現代中国にみられる伝統と社会主義の遺産」 ゲストスピーカー：辻 康吾(外国語学部教授)		
	10 「現代中国の農業問題と社会諸問題」 ゲストスピーカー：辻 康吾(外国語学部教授)		
	11 「高齢者の生活と意識の国際比較」 担当者：有吉広介(外国語学部教授)		
	12 「高齢者の生活と意識への文化の影響」 担当者：有吉広介(外国語学部教授) および「現代世界論」のまとめ		
評価方法	前後6回のレポートの評価を総合しておく。		
テキスト	随時資料を配布する。		
参考文献	<p>桑原靖夫『外国人労働者』岩波書店</p> <p>桑原靖夫『グローバル時代の外国人労働者』東洋経済新報社</p> <p>小田英典他『アフリカ 第2版』自由国民社</p> <p>伊谷純一郎『アフリカを知る事典・改訂版』平凡社</p> <p>小島晋台『中国近現代史』岩波書店</p> <p>瀬田角『東アジアの家父長制：ジェンダーの比較社会学』基草書房</p> <p>有吉広介『個人主義社会・英国での家族連帯の責任』マテニス・ウニヴェルサリス第4巻第2号・獨協大学言語文化学科</p>		

全学共通授業科目	全学総合講座(日本文化—ことばとこころ)	担当者	飯島一彦
<p>講義目標および講義概要</p> <p>日本文化と言った時の「日本」とは一体何を、どういう範囲を指して「日本」と言うのだろうか? 「文化」とは何を意味しているのだろうか? 実は分かっているようでよく分からないのだ。明治維新後、civilisation の訳語として「文明開化」という語が使われ、それが明治末年からつづめられて「文化」という語として使われるようになった。従って当初は「文化」には「進歩的」というイメージが常につきまとうことになった。このような使われ方は第二次世界大戦後まで影響を及ぼしている。いわく、「文化住宅」「文化生活」等々。</p> <p>しかし今、我々はどんな「文化」を持っているのだろうか? 国際化社会を迎えた我々が現実にそれと向き合って直面するのは、「あなたの国の文化はどんなもの? 」という問い掛けである。留学経験者でそのような問い掛けを受けて返答に窮した日本人は多い。これでは国際社会で日本人は対等に交際していくことは出来まい。「日本人は金持ちだ」「日本人はエコノミックアニマルだ」などと自嘲気味に自己規定できる時代はもう終わった。ならば、我々は我々自身を、今どう捉えるのか? そのような命題を根底において、様々な側面から「日本」の「文化」を考え直してみる、というのが本講座の目的である。</p> <p>春学期は「ことばとこころ」という観点から、「日本語」の様々な側面を明らかにし、それを用いて生きる人間を多面的に捉えようとする試みである。</p>	<p>授業計画</p>	<p>1 オリエンテーション及び導入 飯島 一彦 講座出席についての注意、評価方法についての説明 「日本」とは何か? その意味は? 「文化」とは何か? その意味は?</p>	
		<p>2 日本語の多様性 伊豆山 敦子 日本は豊かで様々な特徴的地域文化を持っている。当然そこには、豊かな方言がある。ところが今日本人はそれを忘れようとしている。消えかけつつある方言とそれを支えてきた人々のこころを明らかにする。</p>	
		<p>3 日本語と外国語 中西 家栄子 日本語と外国語の違いのうち大きなものに語順の違いがある。語順が違うということは、考え方が違うということである。主に日本語と英語の違いから、語順の違いがどのような文化的差異を示しているのか考える。</p>	
		<p>4 「文学」「音楽」という日本語 飯島 一彦 「文学」も「音楽」も古くから日本にある言葉だが、明治維新以後はそれまでとは大きく違った意味で用いられるようになっていく。その結果何を得て、何を失ったかを考えていく。</p>	
		<p>5 異文化・異言語との出会い 武井 浩一 国際化社会は一般人にも異文化との出会いの機会を数多くもたらす。戦争の後遺症に悩みながら復興に進むアフガニスタンに出掛けた現役カメラマンの報告。イスラム文化・ダリ語との出会い、NGO活動の実際。</p>	
		<p>6 日本語・中国語の表現の違い 辻 康吾 文化的差異は言語表現の差異に表れる。日本語と中国語の表現の差と行動への反映が、どのような文化的差異をもたらしているのか、身近な例から考えてみる。</p>	
		<p>7 日本の信仰・宗教 松丸 壽雄 日本文化の中で忘れてはならないのに表立って考えようしない問題の一つに、信仰と宗教の問題がある。人は何故信仰を持つのかあるい持たないのか。文化の根底から考える。</p>	
		<p>8 日本の歴史と言葉 新井 孝重 日本の歴史のあちこちに登場する色々な言葉、それは時代々々に生きた人々によって発せられたものである。それらの言葉の背後にはどのような生活や心が潜んでいたのかを考える。</p>	
		<p>9 花の名前—日本人の心 加藤 僊重 世界にも稀な程豊かな植物相を持つ日本には、様々な花や植物の名前がある。その名付け方や意味から文化的な価値観や意識を探り、人々の感受性や生き方を考える。</p>	
		<p>10 ベストセラーとサイコパス 佐藤 毅 最近の文芸のベストセラーにはサイコパスを表現したり、テーマとするものが多い。その表現がどのようなものであるのか、なぜそのようなベストセラーが生まれるのかを考える。</p>	
		<p>11 日本語と思想 川村 肇 日本語は論理的思考に不向きだという意見があるが果たしてそうか? かつて平易な言葉で高邁な思想を一般民衆に説いた思想家がいた。それがどのようなものか紹介し、現代的意義について考える。</p>	
		<p>12 まとめ 飯島 一彦 各ゲストスピーカーが呈示した様々な問題、提起を振り返り、これからの「日本文化」はどうあるべきか考える。</p>	
<p>評価方法</p> <p>定期試験の成績。定期試験は各回のゲストスピーカーが採り上げた具体的なテーマに対する論述で行う。誤字脱字、不真面目な答案などは大幅な減点対象とする。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし。</p>			
<p>参考文献</p> <p>各回のゲストスピーカーの指定があれば、あらかじめそれを示す。</p>			

全学共通授業科目	全学総合講座(日本文化—行動と思索)	担当者	飯島一彦
<p>講義目標および講義概要</p> <p>日本文化と言った時の「日本」とは一体何を、どういう範囲を指して「日本」と言うのだろうか? 「文化」とは何を意味しているのだろうか? 実は分かっているようでよく分からないのだ。明治維新後、civilisation の訳語として「文明開化」という語が使われ、それが明治末年からつづめられて「文化」という語として使われるようになった。従って当初は「文化」には「進歩的」というイメージが常につきまとうことになった。このような使われ方は第二次世界大戦後まで影響を及ぼしている。いわく、「文化住宅」「文化生活」等々。</p> <p>しかし今、我々はどんな「文化」を持っているのだろうか? 国際化社会を迎えた我々が現実にもそれと向き合って直面するのは、「あなたの国の文化はどんなもの?」という問い掛けである。留学経験者でそのような問い掛けを受けて返答に窮した日本人は多い。これでは国際社会で日本人は対等に交際していくことは出来まい。「日本人は金持ちだ」「日本人はエコノミックアニマルだ」などと自嘲気味に自己規定できる時代はもう終わった。ならば、我々は我々自身を、今どう捉えるのか? そのような命題を根底において、様々な側面から「日本」の「文化」を考え直してみる、というのが本講座の目的である。</p> <p>秋学期は「行動と思索」という観点から、「日本文化」の中に生きる人間そのものを多面的に捉えようとする試みである。</p>	<p>授業計画</p>	<p>1 オリエンテーション及び導入 飯島 一彦 講座出席についての注意、評価方法についての説明 「日本」とは何か? その意味は? 「文化」とは何か? その意味は?</p>	
		<p>2 日本人はどうやって生きてきたか? 飯島 一彦 複合重層文化史観と、日本人の生き方 時代々々と人々との関わり</p>	
		<p>3 日本の二重王権 城田 俊 日本の共同体(地域・会社・学校・家庭等々)には様々なレベルで二重王権という制度が潜んでいる。アジア諸地域に見られるこの制度を明らかにし、我々の行動を振り返る。</p>	
		<p>4 日英教育制度の比較 有吉 広介 教育は次代を担う人間を作る大きな事業である。そこには人を見る眼差しが潜んでいる。日本と英国の教育制度を比較して、一国の文化が人をどう育てようとしているか、その枠組みを考える。</p>	
		<p>5 日本文化と環境—自然と価値観 加藤 僊重 文化の性格は自然環境に大きく左右される。特に豊かな自然にめぐまれた日本の文化に見られる、自然とのかかわりの中で生まれた価値観について考える。</p>	
		<p>6 日本文化にとって「知」とは何か? 松丸 壽雄 思索という行動の根本には「知」が求められる。しかし「知」とは単なる知識ではないはずだ。豊かで思慮深い文化を創り上げるためにも「知」とは何かを考える必要がある。</p>	
		<p>7 日本の庶民・中国の庶民 辻 康吾 民衆のレベルでも古くから交流があり、関わり深い中国という国は、日本と似ているようでいて実はずいぶん違う文化を持っている。庶民の生活・行動からその違いを明らかにする。</p>	
		<p>8 未定</p>	
		<p>9 日本の広告・海外の広告 梶山 皓 様々な広告にはその国の文化が如実に表れる。文化の枠の中で訴えなければ受け入れられないからである。日本と海外の広告、それに伴うマーケティングの方法などから文化的差異を明らかにする。</p>	
		<p>10 近現代文学から見る日本人の行動 佐藤 毅 文学が文化の所産、もしくは文化そのものであるならば、そこには文化的特徴が反映する行動や思索が表現されているはずだ。それは一体どのように文学に反映しているかを探る。</p>	
		<p>11 日本人と音楽との関わり 谷垣内 和子 音楽もすぐれて文化的な営みの一つだが、日本にある様々な音楽に関わる人々は日々どのように行動し暮らしているか、演奏者・教育者・享受者の様々な有様を紹介し、表現活動の現在を明らかにする。</p>	
		<p>12 生活綴り方教育と日本人 川村 肇 生活綴り方教育は、日々の生活実感を重視し、それを表現活動に結びつける事で全人的な発達をうながし、また新たな価値を生み出そうとする教育である。その過去と現在から日本人の生活を考える。</p>	
		<p>13 まとめ 飯島 一彦 各ゲストスピーカが呈示した様々な問題、提起を振り返り、これからの「日本文化」はどうあるべきか考える。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>定期試験の成績。定期試験は各回のゲストスピーカが採り上げた具体的なテーマに対する論述で行う。誤字脱字、不真面目な答案などは大幅な減点対象とする。</p>		
<p>テキスト</p>	<p>特になし。</p>		
<p>参考文献</p>	<p>各回のゲストスピーカの指定があれば、あらかじめそれを示す。</p>		

全学共通授業科目		全学総合講座(キャンパスライフと仕事)春学期	担当者	伊藤爲一郎
講義 目標 および 講義 概要	講義の目標 「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など、日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職・雇用情勢が大きく変わり、大学に求められる人材についても変化が起きています。社会は広く深い教養基盤の上に専門を持った人材を求めています。一方ではせっかく就職したのに、3年以内に離職する若者が3割にも達するという結果がでています。その主な理由は学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生で最も重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容を問われるのです。この講義は、皆さんが、個性にあった生き方をデザインし、充実した学生生活をおくれるよう支援するものです。	授 業 計 画	1 キャンパスライフと仕事 担当:伊藤爲一郎 経済学部教授	
	講義概要 講義は、伊藤(経済学部)がコーディネーターを担当します。生きるためにはなにかの事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標をもってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。		2 企業で働く(企業が学生に求めるもの) 担当:未定	
	受講生への要望 将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれませんが。キャンパスライフの目標を見つけるために、しんぼうして講義に参加をしているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時の明瞭な将来像が楽しみです。		3 公共部門(教員・公務員・公益法人・NPO...)で働く 担当:阿部正浩 経済学部教授	
	評価方法 レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況(10回以上出席のこと)を総合して評価します。		4 男女共同参画社会(男女共生参画社会を推進する) 担当:濱田久子 草加市男女共同参画課	
テキスト テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	5 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 担当:山越 徳 経済学部教授			
参 考 文 献	講義のなかで参考文献を紹介します。		6 ベンチャー企業を起業する、企業を意識して働く 担当:上坂卓郎 経済学部教授	
			7 正社員とフリーター 担当:小杉礼子 日本労働研究機構	
			8 仕事と適性(仕事をどのように選ぶか) 担当:本間啓二 日本体育大学講師	
			9 自己理解・自己表現 ①(自分を知らう) 担当:津久井洋 時事通信社	
			10 自己理解・自己表現 ②(事務文書の書き方) 担当:津久井洋 時事通信社	
	11 実習(論作文) 担当:津久井洋 時事通信社			
	12 活躍するOB・OG 担当:未定			
	13 キャンパスライフと仕事(パネルディスカッション) パネラー:未定			

全学共通授業科目	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)秋学期	担当者	伊藤爲一郎
講義目標および講義概要	<p>講義の目標 「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など、日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職・雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化が起きています。社会は広く深い教養基盤の上に専門を持った人材を求めています。一方ではせっかく就職したのに、3年以内に離職する若者が3割にも達するという結果がでています。その主な理由は学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生で最も重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容を問われるのです。この講義は、個性にあった生き方をデザインし、充実した学生生活をおくれるよう支援するものです。</p> <p>講義概要 講義は、伊藤(経済学部)がコーディネーターを担当します。生きるためにはなにかの事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標をもってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。</p> <p>受講生への要望 将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれませんが。キャンパスライフの目標を見つけるために、しんぼうして講義に参加をしているとだんだんはつきりとしてくるでしょう。卒業時の明瞭な将来像が楽しみです。</p>	授業計画	1 キャンパスライフと仕事 担当:伊藤爲一郎 経済学部教授
	2 企業で働く(企業が学生に求めるもの) 担当:未定		
	3 公共部門(教員・公務員・公益法人・NPO..)で働く 担当:阿部正浩 経済学部助教授		
	4 男女共同参画社会(男女共同参画社会を推進する) 担当:濱田久子 草加市男女共同参画課		
	5 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 担当:山越 徳 経済学部教授		
	6 ベンチャー企業を起業する(起業を意識して働く) 担当:上坂卓郎 経済学部教授		
	7 正社員とフリーター 担当:小杉礼子 日本労働研究機構		
	8 仕事と適性(仕事をどのように選ぶか) 担当:未定		
	9 自己理解・自己表現 ①(自分を知ろう) 担当:津久井洋 時事通信社		
	10 自己理解・自己表現 ②(事務文書の書き方) 担当:津久井洋 時事通信社		
	11 実習(論作文) 担当:津久井洋 時事通信社		
	12 キャンパスライフと仕事(パネルディスカッション) パネラー:未定		
評価方法	レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況(9回以上出席のこ)を総合して評価します。		
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
参考文献	講義の中で参考文献を紹介します。		

全学共通授業科目	全学総合講座(現代社会と法—平和と人権)	担当者	右崎正博
講義目標および講義概要	<p>〔講義目標〕本講義の目標は、いま私たちが生きている世界の現状を正確に認識するとともに、私たち自身の将来の研究・教育の課題を探求することに置かれます。ゲストスピーカーの澤 良世さんは、ユニセフ(国連児童基金)駐日事務所広報官として、ユニセフ親善大使の活動をサポートするなどの仕事を通して、これまで多くの発展途上の国や地域の平和と人権の問題に関わってきました。その貴重な経験をうかがうことから、平和と人権をめぐる世界の現状がどのようなものであるかを知ってください。その上で、私たちがいま生きている現代日本における平和と人権の課題を捉え直してください。世界の現状を知ることは、平和と人権を考え、日本の国家と社会のあり方を考え、また、私たち自身の生き方を問い直すよい機会にもなるでしょう。この講義を通して、今後4年間の大学での学習と研究の目標を見出せるような講義にしたいと考えています。</p> <p>〔講義概要〕法学部で憲法を担当している右崎がコーディネーターとなり、ゲストスピーカーである澤 良世さん(ユニセフ駐日事務所広報官)からさまざまなお話をうかがいながら、講義を進めます。全体を通して「平和と人権」がテーマです。大きな流れとしては、国連やユニセフの活動、発展途上国の現状、世界の紛争地帯の現状、そこから生じてきている平和と人権をめぐる諸問題を考えることとなります。この講義を通して、現代日本に生きているわれわれ自身の平和と人権をめぐる課題を考えるきっかけが得られるようなものにしたいと思います。毎回、質疑応答の時間を設けますから、ぜひ積極的に質疑に参加してください。</p>	授業計画	1 ガイダンス(本講義の目標と構成、進め方、ゲストスピーカーの紹介等)
	2 国連の平和・人権活動、ユニセフの活動 ゲストスピーカー:澤 良世(以下同じ)		
	3 世界の現状を見る—発展途上国と先進国		
	4 発展途上国の現状を見る(1) インド、バングラディッシュ		
	5 発展途上国の現状を見る(2) フィリピン、インドネシアなど		
	6 世界の紛争地帯を見る(1) 旧ユーゴ、アフガニスタン、スーダン		
	7 世界の紛争地帯を見る(2) エチオピア、ソマリア、ルワンダなど		
	8 武力紛争と難民問題		
	9 児童労働と子どもの権利		
	10 子どもと女性の権利		
	11 HIV(エイズ)と人権		
	12 まとめ(日本国憲法からの発言、平和と人権をめぐる私たちの課題) レポート作成		
評価方法	何よりも毎回の質疑への参加度を評価の資料として重視します。また、出席調査の意味も含めて、講義の適切な区切りごとに小レポートを、そして、最終回にはまとめのレポートを書いていただく予定です。成績評価は、質疑への参加度、レポート、出席状況を総合して行います。		
テキスト	テキストはとくに用いません。必要な資料は、適宜プリントして配布します。		
参考文献	参考文献は講義のなかで適宜指示します。		

全学共通授業科目	全学総合講座(現代世界を理解する視点)	担当者	桑原靖夫
<p>[講義目標]</p> <p>この講義では、グローバル化、IT(情報技術)革命などの展開とともに激しく変化する現代の世界を理解するために、人生において重要な部分を占める「仕事の世界」(労働市場)に起きているさまざまな変化を紹介する。経済学、社会学などの理論を背景に、現実を解き明かすための枠組み、問題の切り口を見出す視点を学ぶ。単なるお話に終始することなく、よりレベルの高い専門科目を受講するための土台作りを目指す。大事なことは知識の集積ではなく、自ら問題を発見し、考える力を養うことにある。</p> <p>[講義概要]</p> <p>いつの頃からか、働く人たちの間に現在、そして将来の仕事についての漠然とした不安が広がっている。1980年代後半から進行している「グローバル化」と呼ばれる変化と根底でつながっているようだ。この授業は、「仕事」の世界に起きているさまざまな変化を幅広い視野で展望し、濃霧がかかったような未来を見通す手がかりを得ようという試みである。人生において、「働くこと」(仕事)は、大変重要な意味を持っている。「働くこと」なく人生を送れる人は、幸せかもしれないが、実際にはほとんどいないだろう。仕事から得られる所得は、職業選択に際しての重要な要因となっはいるが、それがすべてではない。今回のノーベル化学賞受賞者の例を挙げるまでもなく、仕事は、しばしば人々の「生きがい」に関係している。人生で大きな比重を占める「働く時間」がつまらないものであれば、雇う人(使用者)にも、雇われる人(労働者)にも大きな損失である。面白い仕事であれば成果が上がり、雇う側にも歓迎すべきことである。それでは、なぜ働く人々が不安を感じているのか。仕事につけないこと、仕事に興味が見出せない、自分の仕事の将来性など、不安の内容もさまざまである。この講義では、「グローバル化」と呼ばれる大きな潮流が、世界の「仕事の世界」(経済学では「労働市場」と呼ぶ)を変容させていることを紹介し、そのいくつかの断面を提示してみたい。「グローバル化」は、貿易や投資、人の移動を通して、世界の産業や雇用の基盤に大きな衝撃を与えており、「仕事の世界」は激しい再編の渦中にある。なくなってしまう仕事がある反面では、新しい仕事が生まれている。仕事の内容も大きく変わっている。</p> <p>「仕事の世界」をグローバルな視点から展望することによって、現代の世界における仕事の意義や変化の行方について見通すことができる。「仕事の世界」について学ぶことは、現代世界を理解する上で強力な武器となり、突破口となる。そして、なぜ、自分は大学に入ったのか。大学と自分のあり方について考える手がかりも与えてくれるだろう。</p>	授業計画	1 授業の全体像説明 グローバル化は「仕事の世界」をどう変えるか 桑原靖夫	
		2 人口爆発の世界と少子・高齢化の日本 桑原靖夫	
		3 国境を越える労働者 桑原靖夫	
		4 変わる「仕事の世界」 佐野陽子(嘉悦大学学長)又は篠塚英子(御茶の水女子大副学長)	
		5 仕事のある人、仕事につけない人(現代の雇用・失業) 桑原靖夫	
		6 山越徳(経済学部教授) 21世紀の産業構造と雇用:あなたの仕事はどこにあるか	
		7 雇用はどうして決まるのか 桑原靖夫	
		8 ホワイトカラー・プロフェッショナルの世界 玄田有史(東京大学社会科学研究所助教授)又は笠原清志(立教大学社会学部教授、総長補佐)	
		9 増加する女性の仕事とその実態 大沢真知子(日本女子大学人間社会学部教授)	
		10 大卒者に求められる条件(大卒労働市場の仕組み) 桑原靖夫	
		11 職業の未来とキャリア設計 川喜多喬(法政大学キャリア・デザイン学部教授)	
		12 総括:21世紀の「仕事の世界」を見通す (外部講師との対談予定) 桑原靖夫	
評価方法		登録受講者の数にもよるが、学期中に実施する理解度を見る小テスト(30%)と学期末に提出する課題レポート(70%)によって評価する。	
テキスト		特に指定しないが、授業中に関連リーディング・リストなどを配布する。	
参考文献		※学外講師については交渉中のため変更の可能性がある	

全学共通授業科目	全学総合講座(獨協学)春学期	担当者	堅田剛
講義目標および講義概要	<p>〔講義目標〕</p> <p>「獨協学」とは、主として新入生の皆さんに獨協(大学・学園)の過去・現在・未来を考えてもらう授業です。縁あって獨協の一員となった皆さんと私たちとで、獨逸学協会の歴史や獨協大学の現状を共有し、獨協の近未来像と一緒にデザインしてみたいと思います。「獨協学」は全学共通授業科目の一環として、学部・学科を問わず全学的に開かれています。さらに学生諸君だけでなく、教職員はもとより、社会にも世界にも開かれた自由な授業をめざします。この授業を「ニュー獨協」の発信基地として共に育ててください。獨協を「共育」しましょう。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>春学期の講義は、堅田(法学部)がコーディネーターとなり、新井孝重、新宮讓治の両先生他にご協力いただきます。「独」りではなく「協」力してこそその獨協学です。今年度は獨逸学協会学校が開設されてちょうど120年の節目に当たりますので、まずは獨逸学協会や獨協中高や天野貞祐先生の事跡について、明治・大正・昭和の社会的背景とも絡めながら紹介していきます。また翌年度には大学創立40周年を迎えますので、獨協大学の歴史についても振り返って、大学のあまり遠くない将来像についても考えてみます。ミニ・シンポジウムやディスカッションの方式なども採り入れながら、いわゆる参加型の授業を心がけます。</p> <p>〔受講生への希望〕</p> <p>「獨協学」は獨協の歴史を継承し、ニュー獨協を創っていくための授業です。教える・教えられるの関係を超えて、この授業を共に育てていきましょう。学生諸君の主体的な参加を強く望みます。</p>	授業計画	1 「獨協学」とはなにか(ガイダンス) 4/10 コーディネーター:堅田剛(法学部教授)
			2 獨協の歴史を振り返る(ミニ・シンポジウム) 4/17 司会:堅田剛 パネリスト:酒井府(外国語学部教授)、新井孝重(経済学部教授)、新宮讓治(経済学部非常勤講師)
			3 獨逸学協会と明治法制(その1) 4/24 担当:堅田剛
			4 獨逸学協会と明治法制(その2) 5/1 担当:堅田剛
			5 獨逸学協会と明治法制(その3) 5/8 担当:堅田剛 レポート課題1
			6 戦争・平和・獨協(その1) 5/15 担当:新宮讓治
			7 戦争・平和・獨協(その2) 5/22 担当:新宮讓治
			8 戦争・平和・獨協(その3) 5/29 担当:新宮讓治 レポート課題2
			9 天野貞祐と獨協(その1) 6/5 担当:新井孝重
			10 天野貞祐と獨協(その2) 6/12 担当:新井孝重
			11 天野貞祐と獨協(その3) 6/19 担当:新井孝重 レポート課題3
			12 特別講演「大学史の中の獨協」(仮題) 6/26 講師:寺崎昌男氏(東京大学名誉教授)
			13 獨協大学の近未来を探る(ミニ・シンポジウム) 7/3 パネリスト:堅田剛、新井孝重、新宮讓治 レポート課題4
評価方法	<p>授業の各項目に即して何回かレポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。状況により、これに出席点を加味します。この授業では定期試験は実施せず、いわゆる平常点によって評価します。</p>		
テキスト	<p>特定のテキストは用いません。ただし、授業と並行して以下の参考文献を読むことを前提に授業を進めます。必要に応じて資料を配布します。</p>		
参考文献	<p>①天野貞祐『学生に与ふる書』岩波新書、1939年 ②齊藤博『歴史の精神』学文社、1986年 ③中井晶夫『ドイツ人とスイス人の戦争と平和――ミハエーリスとニッポルトー』南窓社、1995年 ④堅田剛『獨逸学協会と明治法制』木鐸社、1999年 ⑤瀧井一博『ドイツ国家学と明治国制――シュタイン国家学の軌跡――』ミネルヴァ書房、1999年</p>		

全学共通授業科目	全学総合講座(獨協学)秋学期	担当者	堅田剛
講義目標および講義概要	<p>〔講義目標〕</p> <p>「獨協学」とは、主として新入生の皆さんに獨協(大学・学園)の過去・現在・未来を考えてもらう授業です。縁あって獨協の一員となった皆さんと私たちとで、獨逸学協会の歴史や獨協大学の現状を共有し、獨協の近未来像と一緒にデザインしてみたいと思います。「獨協学」は全学共通授業科目の一環として、学部・学科を問わず全学的に開かれています。さらに学生諸君だけでなく、教職員はもとより、社会にも世界にも開かれた自由な授業をめざします。この授業を「ニュー獨協」の発信基地として共に育ててください。獨協を「共育」しましょう。</p>	授業計画	<p>1 獨協の歴史を振り返る(ミニ・シンポジウム) 9/25 司会: 堅田剛 パネリスト: 酒井府(外国語学部教授)、 鳥谷部志乃恵(外国語学部教授)、新宮讓治(経済学部非常勤講師)</p>
	<p>〔講義概要〕</p>		<p>2 獨逸学協会と明治法制(その1) 10/2 担当: 堅田剛</p>
	<p>秋学期の講義は、堅田(法学部)がコーディネーターとなり、松丸壽雄、新宮讓治の両先生他にご協力いただきます。「独」りではなく「協」力してこそその獨協学です。今年度は獨逸学協会学校が開設されてちょうど120年の節目に当たりますので、まずは獨逸学協会や獨協中高や天野貞祐先生の事跡について、明治・大正・昭和の社会的背景とも絡めながら紹介していきます。また翌年度には大学創立40周年を迎えますので、獨協大学の歴史についても振り返って、大学のあまり遠くない将来像についても考えてみます。ミニ・シンポジウムやディスカッションの方式なども採り入れながら、いわゆる参加型の授業を心がけます。</p>		<p>3 獨逸学協会と明治法制(その2) 10/9 担当: 堅田剛</p>
	<p>〔受講生への希望〕</p> <p>「獨協学」は獨協の歴史を継承し、ニュー獨協を創っていくための授業です。教える・教えられるの関係を超えて、この授業を共に育てていきましょう。学生諸君の主体的な参加を強く望みます。</p>		<p>4 獨逸学協会と明治法制(その3) 10/16 担当: 堅田剛 レポート課題1</p>
	<p>〔評価方法〕</p> <p>授業の各項目に即して何回かレポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。状況により、これに出席点を加味します。この授業では定期試験は実施せず、いわゆる平常点によって評価します。</p>		<p>5 戦争・平和・獨協(その1) 10/23 担当: 新宮讓治</p>
	<p>〔テキスト〕</p> <p>特定のテキストは用いません。ただし、授業と並行して以下の参考文献を読むことを前提に授業を進めます。必要に応じて資料を配布します。</p>		<p>6 戦争・平和・獨協(その2) 10/30 担当: 新宮讓治</p>
	参考文献		<p>7 戦争・平和・獨協(その3) 11/6 担当: 新宮讓治 レポート課題2</p>
			<p>8 西田哲学と天野貞祐(仮題)(その1) 11/13 担当: 松丸壽雄</p>
			<p>9 西田哲学と天野貞祐(仮題)(その2) 11/20 担当: 松丸壽雄</p>
			<p>10 西田哲学と天野貞祐(仮題)(その3) 11/27 担当: 松丸壽雄 レポート課題3</p>
			<p>11 特別講演「大学史の中の獨協」(仮題) 12/4 講師: 寺崎昌男氏(東京大学名誉教授)</p>
			<p>12 獨協大学の近未来を探る(ミニ・シンポジウム) 12/11 パネリスト: 堅田剛、鳥谷部志乃恵、新宮讓治 レポート課題4</p>

全学共通授業科目	全学総合講座(国際人入門ーマーケットから見える世界)	担当者	鈴木淳一
講義 目 標 お よ び 講 義 概 要	<p>(講座の目的)</p> <p>本講座の目的は、①みなさんがこれから国際社会で活躍するためには、大学生活や卒業後の人生において何を学ぶ必要があるのか、②これからの大学内外での勉強や生活が、将来の職業とどのように関係するのかを理解することです。講師を務める元商社マンの話に耳を傾けることで、現実の国際社会のイメージをもってもらい、そこにみなさん自身の将来の姿を投影してみてください。また自分自身の進路や夢を見据えることで、これから大学の内外での勉強や、人生の意義を見出してもらうことを期待します。さらに、みなさんが将来国際社会で活躍するためには、仕事や人生をどのようにとらえ、人生のキャリアを積み上げよいかも、各講師が実際のビジネス現場で体験したエピソードを交えて、お話ししていただく予定です。</p> <p>(講義の内容)</p> <p>本講座では、国際社会貢献センター(ABIC)の協力を得て、目まぐるしく変転する世界の動きを国際ビジネスを切口として捉え、その現場の中で活躍してきた元商社マンを講師に迎え、具体的な事例を交えながら、分かりやすく講義を展開します。この講義では、講師たちが実際に駐在した世界の主要地域の文化的、社会的基盤を視野に入れながら、実際のビジネス体験を例としてそれぞれの地域におけるビジネス前線の実像を理解していきます。なお、必要に応じて日本語のほか、簡単な英語を使用することがあります。</p>	授 業 計 画	1 「国際ビジネス・輸出編・輸入編」 担当: 荒尾紀倫(国際社会貢献センター)
			2 「国際ビジネス・輸出編・輸入編」(続) 担当: 荒尾紀倫(国際社会貢献センター)
			3 「北米市場へのアプローチ」 担当: 村瀬省三(国際社会貢献センター)
			4 「北米市場へのアプローチ」(続) 担当: 村瀬省三(国際社会貢献センター)
			5 「欧州市場へのアプローチ」 担当: 福岡健(国際社会貢献センター)
			6 「欧州市場へのアプローチ」(続) 担当: 福岡健(国際社会貢献センター)
			7 「東南アジア市場へのアプローチ」 担当: 平野實(国際社会貢献センター)
			8 「東南アジア市場へのアプローチ」(続) 担当: 平野實(国際社会貢献センター)
			9 「中国市場へのアプローチ」 担当: 白土茂雄(国際社会貢献センター)
			10 「中国市場へのアプローチ」(続) 担当: 白土茂雄(国際社会貢献センター)
			11 「中東市場へのアプローチ」 担当: 竹内良知(国際社会貢献センター)
			12 「中東市場へのアプローチ」(続) 担当: 竹内良知(国際社会貢献センター)
評 価 方 法	本講座では、皆さんは「国際人」の新人として、「教室」という現場に来てもらわなければなりません。ですから、毎回出席をとります。また、単に元商社マンの方々の話を聞くだけでなく、1 Semesterにつき少なくとも3回は日本語又は英語でレポートを提出してもらいます。英語の苦手な人でも敬遠しないでチャレンジしてください。		
テ キ ス ト			
参 考 文 献	必要に応じて講義の中で紹介します。		

全学共通授業科目		全学総合講座(国際人入門ー商品から見える世界)	担当者	鈴木淳一
講義 目 標 お よ び 講 義 概 要	(講義の目的) 本講座の目的は、①みなさんがこれから国際社会で活躍するためには、大学生活や卒業後の人生において何を学ぶ必要があるのか、②これからの大学内外での勉強や生活が、将来の職業とどのように関係するのかを理解することです。講師を務める元商社マンの話に耳を傾けることで、現実の国際社会のイメージをもってもらい、そこにみなさん自身の将来の姿を投影してみてください。また自分自身の進路や夢を見据えることで、これから大学の内外での勉強や、人生の意義を見出してもらうことを期待します。さらに、みなさんが将来国際社会で活躍するためには、仕事や人生をどのようにとらえ、人生のキャリアを積み上げたいかも、各講師が実際のビジネス現場で体験したエピソードを交えて、お話していただく予定です。		1 「世界人口の増加と食糧の確保」 担当: 小山治弥(国際社会貢献センター)	
			2 「世界人口の増加と食糧の確保」(続) 担当: 小山治弥(国際社会貢献センター)	
			3 「LNG原油取引とクリーンエネルギー」 担当: 大久保徳衛(国際社会貢献センター)	
			4 「LNG原油取引とクリーンエネルギー」(続) 担当: 大久保徳衛(国際社会貢献センター)	
			5 「工業化さきがけとしての繊維産業」 担当: 矢野清一(国際社会貢献センター)	
			6 「工業化さきがけとしての繊維産業」(続) 担当: 矢野清一(国際社会貢献センター)	
			7 「国際分業体制の進む電機・電子産業」 担当: 相原淳雄(国際社会貢献センター)	
			8 「国際分業体制の進む電機・電子産業」(続) 担当: 相原淳雄(国際社会貢献センター)	
			9 自動車産業の世界戦略 担当: 南正紀(国際社会貢献センター)	
			10 「自動車産業の世界戦略」(続) 担当: 南正紀(国際社会貢献センター)	
			11 「21世紀の国際ビジネス」 担当: 渡邊晴郎(国際社会貢献センター)	
			12 「21世紀の国際ビジネス」(続) 担当: 渡邊晴郎(国際社会貢献センター)	
評 価 方 法	この講座では、皆さんは「国際人」の新人として、「教室」という現場に来てもらわなければなりません。ですから、毎回出席をとります。また、単に元商社マンの方々の話を聞くだけでなく、1 Semesterにつき少なくとも3回は日本語又は英語でレポートを提出してもらいます。英語の苦手な人でも敬遠しないでチャレンジしてください。			
テ キ ス ト				
参 考 文 献	必要に応じて講義の中で紹介します。			

授
業
計
画

講義 目 標 お よ び 講 義 概 要	<p>[講義目標] 激動の20世紀が終わりを告げ、私たちは21世紀の扉を開いたところに立っている。21世紀がいかなる時代となるか、またその中でいかに生きていくべきか。我々に共通する大きな疑問であり、また課題である。本講義の目的は、20世紀を振り返るとともに、可能な限り、この疑問に答え、課題への準備を整えることである。それも20世紀の学問領域にこだわらず、日々変動を続ける世界と社会の現実の流れの中から、21世紀の潮流を探り、今後の学習、研究、そして来るべき現実社会への参加において、判断、行動の指針となるべきものを、この講義から獲得することを期待している。</p>	<p>1 世紀の狭間で —20世紀への回顧と評価— 外国語学部 辻康吾 開講予定日 2003/4/9(水)</p>
	<p>[講義概要] 上記の目標にそって現実の世界と社会の流れの中で活躍する新聞、通信社の記者に協力を求め、その実体験を踏まえつつ21世紀において取り組むべき新たな疑問と課題について報告してもらう。その分野は広範であり、我々の日常、あるいは将来に深く関わっている政治、経済、社会、文化の諸現象から、その背景に流れる潮流を探る。</p>	<p>2 クローン人間って、なあーに？ —生命とは・人類とは— 毎日新聞論説委員・青野由里 開講予定日 2003/4/16(水)</p>
	<p>[受講生への要望] ややもすると無関心のまま過ぎてゆく日常生活の中から関心を持ち、また持つべき問題について自ら選択し、知識を増やし、判断を試みる必要がある。</p>	<p>3 ポップアートの世界 —21世紀の美— 読売新聞社・吉弘幸介 開講予定日 2003/4/23(水)</p>
	<p>各回の出欠席・遅刻を記録し、最終評価に加える。またマークシートを使い、各回最後に小テストを、期末に総合テストを行い、希望者には任意のリポート提出を求める。詳しくは第一回講義で説明するので、受講希望者は必ず出席のこと。</p>	<p>4 隣のドラゴン —21世紀中国の行方— 朝日新聞編集委員・加藤千洋 開講予定日 2003/4/30(水)</p>
	<p>新聞、ラジオ、テレビを利用し、社会常識を蓄えておくこと。テストでは講義ではとくに触れないような社会常識としての問題も出題されるので、日ごろから注意しておくこと。</p>	<p>5 会社盛衰記 —しよせん「人」次第一— 時事通信社産業部次長・星田淳一 開講予定日 2003/5/7(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p> <p>[注意事項] 講師の都合や内外情勢によってテーマ、講師、予定日の変更がある。</p>	<p>6 テロリズムの哲学 —原理主義と人間— 毎日新聞・観堂義憲 開講予定日 2003/5/14(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>7 (題未定) (副題未定) 朝日新聞編集委員・原淳二郎 開講予定日 2003/5/21(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>8 ジーンズとパリ・コレ —21世紀のファッション— 毎日新聞編集委員・西川恵 開講予定日 2003/5/28(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>9 株を買おうよ —キーマンの発言にご注意— 時事通信社経済部次長・中村恒夫 開講予定日 2003/6/4(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>10 次は誰かな？ —ノーベル賞物語— 読売新聞主任研究員・今泉哲雄 開講予定日 2003/6/11(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>11 人類の半分 —フェミニズムとジェンダー— 読売新聞社主任研究員・北村節子 開講予定日 2003/6/18(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>12 (題未定) (副題未定) 朝日新聞社編集委員・田辺巧 開講予定日 2003/6/25(水)</p>
	<p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p>	<p>13 ♪♪ポップスのツボ♪♪ —ひばりからリンゴへ～日本大衆音楽の今— 毎日新聞学芸部・川崎浩 開講予定日 2003/7/2(水)</p>

全学共通授業科目	全学総合講座(21世紀を探る)秋学期	担当者	辻康吾
<p>講義目標</p> <p>激動の20世紀が終わりを告げ、私たちは21世紀の扉を開いたところに立っている。21世紀がいかなる時代となるか、またその中でいかに生きていくべきか。我々に共通する大きな疑問であり、また課題である。本講義の目的は、20世紀を振り返るとともに、可能な限り、この疑問に答え、課題への準備を整えることである。それも20世紀の学問領域にこだわらず、日々変動を続ける世界と社会の現実の流れの中から、21世紀の潮流を探り、今後の学習、研究、そして来るべき現実社会への参加において、判断、行動の指針となるべきものを、この講義から獲得することを期待している。</p> <p>講義概要</p> <p>上記の目標にそって現実の世界と社会の流れの中で活躍するマス・メディアの人々に協力を求め、その体験を踏まえつつ21世紀において取り組むべき新たな疑問と課題について報告してもらう。その分野は広範であり、我々の日常、あるいは将来に深く関わっている政治、経済、社会、文化の諸現象から、その背景に流れる潮流を探る。</p> <p>受講生への要望</p> <p>ややもすると無関心のまま過ぎてゆく日常生活の中から関心を持ち、また持つべき問題について自ら選択し、知識を増やし、判断を試みる必要がある。</p> <p>評価方法</p> <p>各回の出欠席・遅刻を記録し、最終評価に加える。またマークシートを使い、各回最後に小テストを、期末に総合テストを行い、希望者には任意のレポート提出を求める。詳しくは第一回講義で説明するので、受講希望者は必ず出席のこと。</p> <p>テキスト</p> <p>新聞、ラジオ、テレビを利用し、社会常識を蓄えておくこと。テストでは講義ではとくに触れないような社会常識としての問題も出題されるので、日ごろから注意しておくこと。</p> <p>参考文献</p> <p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p> <p>[注意事項]</p> <p>秋学期授業内容は登録前に掲示します。</p>	<p>[講義目標]</p> <p>激動の20世紀が終わりを告げ、私たちは21世紀の扉を開いたところに立っている。21世紀がいかなる時代となるか、またその中でいかに生きていくべきか。我々に共通する大きな疑問であり、また課題である。本講義の目的は、20世紀を振り返るとともに、可能な限り、この疑問に答え、課題への準備を整えることである。それも20世紀の学問領域にこだわらず、日々変動を続ける世界と社会の現実の流れの中から、21世紀の潮流を探り、今後の学習、研究、そして来るべき現実社会への参加において、判断、行動の指針となるべきものを、この講義から獲得することを期待している。</p> <p>[講義概要]</p> <p>上記の目標にそって現実の世界と社会の流れの中で活躍するマス・メディアの人々に協力を求め、その体験を踏まえつつ21世紀において取り組むべき新たな疑問と課題について報告してもらう。その分野は広範であり、我々の日常、あるいは将来に深く関わっている政治、経済、社会、文化の諸現象から、その背景に流れる潮流を探る。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>ややもすると無関心のまま過ぎてゆく日常生活の中から関心を持ち、また持つべき問題について自ら選択し、知識を増やし、判断を試みる必要がある。</p> <p>各回の出欠席・遅刻を記録し、最終評価に加える。またマークシートを使い、各回最後に小テストを、期末に総合テストを行い、希望者には任意のレポート提出を求める。詳しくは第一回講義で説明するので、受講希望者は必ず出席のこと。</p> <p>新聞、ラジオ、テレビを利用し、社会常識を蓄えておくこと。テストでは講義ではとくに触れないような社会常識としての問題も出題されるので、日ごろから注意しておくこと。</p> <p>とくに指定しないが、各回のテーマについて新聞、ラジオ、テレビの内容に注意しておくこと。</p> <p>[注意事項]</p> <p>秋学期授業内容は登録前に掲示します。</p>	<p>1</p> <p>(以下未定)</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>授業計画</p>	

全学共通授業科目	全学総合講座(国家と国境を考える:地域・民族・国家)	担当者	古川堅治
<p>[講義目標] 21世紀の世界は様々な分野でグローバル化が進み、人・物・情報が国境を越えて自由に出入りするようになった。このような状況は、一方で、人々が国家という枠を越えた新しい集団単位を必要としていく動きを加速させると同時に、他方で、従来の国を単位として生活基盤をおいてきたわれわれの帰属意識を含めていろいろの影響を及ぼしてきている。本講座では、このようなグローバル化に伴って国家と国境がどのように変容しているのかを世界各地からいくつかの事例を取り出して考えていくことによって、人々の共存のあり方を探ることを目標としている。</p> <p>[講義概要] 講義は、古川がコーディネーターとなり、「はじめに」で問題提起と諸概念の説明、講座全体の概要を紹介したあと、具体的考察対象として、最初にカブ海地域の諸国家のめぐる諸問題を三回にわたって扱う。この際、この地域の国家成立の特殊性などを中心とした整理がなされる。次に、アメリカ・メキシコ国境線の設定が、一方で「アメリカ」、また一方で「ラテンアメリカ」といった地域性の形成とどのように関係しているのかを歴史および現代的諸問題の両側面から三回にわたり考えたい。続いて、現代中国の国家意識と国境問題を二回にわたって取り上げ、東アジアの大国中国の抱える諸問題を提示し、最後に、カナダの子供たちを取り巻く環境から国家や国境がどのように具体的に感じられているかを紹介し、最終回で全体の「まとめと展望」を試みる。</p> <p>[受講生への要望] 本講座で扱う内容はすぐれて現代的かつ重要な問題である。受講生諸君は常日頃新聞等で世界情勢に目を向けておいて欲しい。また、授業には積極的・主体的に参加してもらいたい。</p>	<p>授業計画</p>	<p>1 はじめに 問題提起、講座全体の概要、講義の進め方等 担当:古川堅治(外国語学部教授)</p>	
		<p>2 カブ海地域の「国家」をめぐる諸問題(1) 担当:井上兼行(外国語学部教授)</p>	
		<p>3 カブ海地域の「国家」をめぐる諸問題(2) 担当:井上兼行(外国語学部教授)</p>	
		<p>4 カブ海地域の「国家」をめぐる諸問題(3) 担当:井上兼行(外国語学部教授)</p>	
		<p>5 アメリカ・メキシコ国境から考える(1) —アメリカ・メキシコ国境の南と北— 担当:佐藤勘治(外国語学部教授)</p>	
		<p>6 アメリカ・メキシコ国境から考える(2) —非対称世界の形成過程— 担当:佐藤勘治(外国語学部教授)</p>	
		<p>7 アメリカ・メキシコ国境から考える(3) —複数形のアメリカ人は可能か?— 担当:佐藤勘治(外国語学部教授)</p>	
		<p>8 現代中国の「国家」と「国境」(1) —中華世界と中国国家— 担当:辻 康吾(外国語学部教授)</p>	
		<p>9 現代中国の「国家」と「国境」(2) —中国の国境問題— 担当:辻 康吾(外国語学部教授)</p>	
		<p>10 カナダの子供たちを取り巻く環境から見た「国家」と「国境」の問題(1) 担当:櫻井悠美(新潟大学非常勤講師)</p>	
		<p>11 カナダの子供たちを取り巻く環境から見た「国家」と「国境」の問題(2) 担当:櫻井悠美(新潟大学非常勤講師)</p>	
		<p>12 まとめと展望 担当:古川堅治(外国語学部教授)</p>	
<p>評価方法</p>	<p>各回ごとに小レポートあるいは小テストを実施し、それぞれの評価と、併せて出席点を加味して総合的に評価する。</p>		
<p>テキスト</p>	<p>統一的なテキストを使用するというはしない。必要に応じて資料を配布する。</p>		
<p>参考文献</p>	<p>ベネデ(クト・アンダーソン/白石さや・白石隆訳「増補 想像の共同体:ナショナリズムの起源と流行」(NTT出版、2002)</p> <p>油井大三郎・遠藤泰生編「侵透するアメリカ/拒絶するアメリカ」(東大出版会、200)。その他は、授業中に適宜紹介する予定。</p>		

全学共通授業科目	全学総合講座(環境学)	担当者	湯田雅夫
講義目標および講義概要	<p>[講義目標]</p> <p>「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」に関わる本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に生かしていくことも大切です。授業に参加するだけでなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。</p> <p>[講義概要]</p> <p>講義のコーディネーターは湯田(経済学部)が担当します。今年度は、数多くの環境諸課題を取り上げました。1回目は、「環境学」のオリエンテーションとして地球環境問題全般に触れます。3回目を除き、2回目から8回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。9回目から12回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。最終回の13回目は、この授業の纏めとして、「循環型経済社会と地球環境」をテーマに複数のパネラーによる討論を行います。</p> <p>受講生への要望</p> <p>地球環境問題は、今日的テーマです。今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ1回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持つてください。</p>	授業計画	1 地球環境問題 担当:清水 汪 (財)地球・人間環境フォーラム理事長 元環境庁事務次官
	2 自然保護 担当:犬井 正 経済学部教授		
	3 環境NGO 担当:向後元彦 マングローブ植林行動計画代表		
	4 環境資源について 担当:秋本弘章 経済学部専任講師		
	5 生物の多様性 担当:加藤僊重 外国語学部教授		
	6 化学物質と生活 担当:和田浩志 本学非常勤講師 東京理科大教授		
	7 エコデザイン 担当:鈴木 隆 外国語学部教授		
	8 環境リスク 担当:大内 功 (株)損保ジャパン 主任コンサルタント		
	9 環境経営 担当:湯田雅夫 経済学部教授		
	10 環境と管理会計 担当:香取 徹 経済学部教授		
	11 地方自治と環境 担当:伊藤為一郎 経済学部教授		
	12 環境経済 担当:浜本光紹 経済学部助教授		
	13 総括 パネラー:鈴木、大内、浜本 司会:湯田		
評価方法	授業のテーマをいくつかのグループに分類して、そのグループごとにひとつづつレポートを作成し、提出していただきます。提出されたレポートに出席状況を加えた総合評価です。定期試験は実施しません。		
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。なお、授業のとき、ときどき参考書の一覧を配ります。一覧に挙げられた書物は読むように努めてください。		
参考文献	オリエンテーション時および毎回の授業のときに参考書を示します。		

全学共通授業科目	全学総合講座(スポーツ・健康の世界)春学期	担当者	松原裕
<p>[講義目標]</p> <p>大学の起源を調べてみると、賢者の話を聞く所、という説があります。「スポーツ」も「健康」も耳慣れた言葉ですが、一人一人どんな人にも関係の深い世界です。今も持つてはいるでしょうが、学校生活が終わると貴重な体育関係の時間もなくなり、全員がそれぞれの「スポーツの世界」「健康の世界」を持って生活することになります。縁あって獨協の一員となった皆さんが、生涯にわたって、スポーツ・健康を考える参考になる情報を提供するがこの講義の目標です。</p> <p>[講義概要]</p> <p>講義は、松原(言語文化学科)がコーディネーターとなり、スポーツ・健康の世界でさまざまな経験を積んで来られた先輩の方々をゲストとしてお招きし、それぞれの角度からスポーツ・健康の世界に関わる話をさせていただき、松原と受講生と一緒に勉強していくという形式で進めていきます。ゲストの先輩方はそれぞれ色々な経験をされてきていますので、初めて聞く話もあれば、同じ事柄に対してもわれわれ(松原と受講生)が思いもよらなかった解釈や示唆が飛び出す事でしょう。そういったものを引き出すのは聴衆の力ですので、受講生もまた主役のひとりです。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>良く聞き、良く考え、反芻した結果を言葉にし、文字にすることを心がける。自己の経験に左右されない自由な頭をもって出席する。</p>	授業計画	1 松原裕	授業ガイダンス 講師紹介 骨盤調整法の紹介
		2 吉田茂樹	取材の現場から1
		3 吉田茂樹	取材の現場から2
		4 音海紀一郎	誰でも出来る応急処置(理論)
		5 音海紀一郎	誰でも出来る応急処置(実技)
		6 今野廣隆	健康生活の実践
		7 中塚義実	社会学的なスポーツの考え方・見方
		8 田口禎則	競技選手から議員まで
		9 仲西駿策	埼玉県のスポーツ
		10 永嶋正俊	競技のルール・審判の心1
		11 永嶋正俊	競技のルール・審判の心2
		12 本田稔祐	獨協で学ぶ人へ1
		13 本田稔祐	獨協で学ぶ人へ2
<p>評価方法</p> <p>授業の各項目に即して何回かレポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。状況により、これに出席点を加味します。この授業では定期試験は実施せず、いわゆる平常点によって評価します。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特定のテキストは用いません。必要に応じて資料を配布します。</p>			
<p>参考文献</p>			

全学共通授業科目	全学総合講座(スポーツ・健康の世界)秋学期	担当者	松原裕
<p>[講義目標]</p> <p>大学の起源を調べてみると、賢者の話を聞く所、という説があります。「スポーツ」も「健康」も耳慣れた言葉ですが、一人一人どんな人にも関係の深い世界です。今も持つてはいるでしょうが、学校生活が終わると貴重な体育関係の時間もなくなり、全員がそれぞれの「スポーツの世界」「健康の世界」を持つて生活することになります。縁あって獨協の一員となった皆さんが、生涯にわたって、スポーツ・健康を考える参考になる情報を提供するがこの講義の目標です。</p> <p>[講義概要]</p> <p>講義は、松原(言語文化学科)がコーディネーターとなり、スポーツ・健康の世界でさまざまな経験を積んで来られた先輩の方々をゲストとしてお招きし、それぞれの角度からスポーツ・健康の世界に関わる話をさせていただき、松原と受講生と一緒に勉強していくという形式で進めていきます。ゲストの先輩方はそれぞれ色々な経験をされてきていますので、初めて聞く話もあれば、同じ事柄に対してもわれわれ(松原と受講生)が思いもよらなかった解釈や示唆が飛び出す事でしょう。そういったものを引き出すのは聴衆の力ですので、受講生もまた主役のひとりです。</p> <p>[受講生への要望]</p> <p>良く聞き、良く考え、反芻した結果を言葉にし、文字にすることを心がける。自己の経験に左右されない自由な頭をもって出席する。</p>	<p>授業計画</p>	1 松原裕	授業ガイダンス 講師紹介 骨盤調整法の紹介
		2 吉田茂樹	取材の現場から1
		3 吉田茂樹	取材の現場から2
		4 音海紀一郎	誰でも出来る応急処置(理論)
		5 音海紀一郎	誰でも出来る応急処置(実技)
		6 今野廣隆	健康生活の実践
		7 中塚義実	社会学的なスポーツの考え方・見方
		8 田口禎則	競技選手から議員まで
		9 仲西駿策	埼玉県のスポーツ
		10 永嶋正俊	競技のルール・審判の心
		11 本田稔祐	獨協で学ぶ人へ1
		12 本田稔祐	獨協で学ぶ人へ2
<p>評価方法</p> <p>授業の各項目に即して何回かレポートを書いてもらい、その合計点をもって成績評価をおこないます。レポートの課題・要領等については、その都度教室で指示します。状況により、これに出席点を加味します。この授業では定期試験は実施せず、いわゆる平常点によって評価します。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特定のテキストは用いません。必要に応じて資料を配布します。</p>			
<p>参考文献</p>			

全学共通授業科目	全学総合講座(メルヒェンの可能性をめぐって) 春学期	担当者	矢羽々崇		
<p>講義 目標 および 講義 概要</p> <p>皆さんにとって、メルヒェン・民話とはどういうものでしょうか？ 子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものなのでしょうか？ これらの物語の形式は、その単純さのせいで軽視されたりもしますが、実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく、テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に、私たちの生活をも(私たちは意識していなくても)規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり、男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。</p> <p>この講座が目標とするのは、皆さんに自分たちの中のメルヒェン、そして文学を意識し、できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である19世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた20世紀の様相。さらに今の私たちが生きる21世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら、21世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば、この講座はその役割を果たすこととなります。講座は基本的に約1時間の講師による講義、残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。</p>		<p>授 業 計 画</p>	<p>1 矢羽々崇 導入(講義の概要, 進め方, 評価方法など)</p> <p>2 矢羽々崇 メルヒェンと私たちの具体的なつながりを、「現代の民話」に求めつつ、私たちの中に生きているメルヒェン(民話)を考えていきます。</p> <p>3 小澤俊夫 昔話は口伝えされてきたために、耳で聞いてわかりやすい語り口を獲得してきた。昔話について考えるとき、この独特な語り口の理解が大前提なので、まず昔話を語り、それを材料にして語り口を解説する。</p> <p>4 小澤俊夫 昔話は道徳的教訓の話と思われているが、子どもや若者が主人公の場合には、その主人公がさまざまな経験をしながら成長していく姿を語っている。子どもが育つとはどういうことか、生命とは何か、という問題についてのメッセージについて考察する。</p> <p>5 沖島博美 グリム兄弟が民話を収拾した場所はどんな所なのか、現在『メルヒェン街道』と呼ばれている観光名所を簡単に紹介。そして民話が生まれた頃の町や村はどうなっていたのか、グリム童話を読む上で役に立つ基礎知識、時代背景などを探っていく。</p> <p>6 渡部重美 19世紀は、ある意味でメルヒェンの機能転換の時代だったと言えるでしょう。いわゆるアンチ・メルヒェン、アンデルセンのメルヒェンなどについて、当時の社会的状況の変化と関連させながらお話したいと思います。</p> <p>7 渡部重美 8 渡部重美 二度の世界大戦を経験した20世紀前半、政治的な激動期におけるグリム童話の受容、利用のされ方について今回と次回二度に渡ってお話します。ヘッセの『メルヒェン』、ディズニーの『白雪姫』にも触れるつもりです。</p> <p>9 矢羽々崇 明治期以降に日本において、グリムをはじめとするメルヒェンがどのように紹介され、読まれていったのかを、子ども向けの翻訳・改編のあり方を中心に見ていきます。「残酷な」結末がどう変えられたのか、何を「教訓」としようとしたのか、時代の鏡であるメルヒェンを確認します。</p> <p>10 宮谷尚美 グリム童話解釈のうち、現代においてポピュラーともいえる精神分析的解釈を紹介し、これを反映させて日本で「衝撃のベストセラー」となった、桐生操『本当は恐ろしいグリム童話』(KKベストセラーズ、1998年)を検証する。特に「カエルの王さま」(KHM 1)と「白雪姫」(KHM 53)をテキストとして取り扱う。</p> <p>11 宮谷尚美 「白雪姫」を映画化した最近の作品に、マイケル・コーン監督「スノーホワイト」(1997年アメリカ)がある。実際に映画を観ながら、グリム童話のテキストと比較する。登場人物の描写、行動の動機、強調されている点が現代社会の諸問題を反映していることに気づかされるだろう。</p> <p>12 矢羽々崇 全体をまとめた上で、学生とのパネルディカッションを行います。詳しくは講義の途中回で告知します。</p>		
	<p>評価 方法</p> <p>出席および学期末に行う試験によって決定します。欠席が4回以上は評価の対象としません。また試験では、講義内容を理解したかを確認する問題、そして特定のテーマに関する論述問題を出題する予定です。くわしくは第1回の講義にて説明します。</p>				
	<p>テキ スト</p> <p>授業中に必要に応じて指示します。(プリント配布)</p>				
	<p>参 考 文 献</p> <p>第1回授業で案内します。</p>				

全学総合講座(メルヒェンの可能性をめぐって)		担当者	矢羽々崇
全学共通授業科目		秋学期	
講義目標 および 講義概要	皆さんにとって、メルヒェン・民話とはどのようなものでしょうか？ 子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？ これらの物語の形式は、その単純さのせいで軽視されたりもしますが、実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく、テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に、私たちの生活をも(私たちは意識していなくても)規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり、男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。	1 矢羽々崇 導入(講義の概要, 進め方, 評価方法など)	
		2 矢羽々崇 メルヒェンと私たちの具体的なつながりを、「現代の民話」に求めつつ、私たちの中に生きているメルヒェン(民話)を考えていきます。	
		3 小澤俊夫(予定) 昔話は口伝えされてきたために、耳で聞いてわかりやすい語り口を獲得してきた。昔話について考えるとき、この独特な語り口の理解が大前提なので、まず昔話を語り、それを材料にして語り口を解説する。	
		4 小澤俊夫(予定) 昔話は道徳的教訓の話とされているが、子どもや若者が主人公の場合には、その主人公がさまざまな経験をしながら成長していく姿を語っている。子どもが育つとはどういうことか、生命とは何か、という問題についてのメッセージについて考察する。	
		5 沖島博美(予定) グリム兄弟が民話を収拾した場所はどんな所なのか、現在『メルヒェン街道』と呼ばれている観光名所を簡単に紹介。そして民話が生まれた頃の町や村はどうなっていたのか、グリム童話を読む上で役に立つ基礎知識、時代背景などを探っていく。	
		6 渡部重美 19世紀は、ある意味でメルヒェンの機能転換の時代だったと言えるでしょう。いわゆるアンチ・メルヒェン、アンデルセンのメルヒェンなどについて、当時の社会的状況の変化と関連させながらお話ししたいと思います。	
		7 渡部重美 8 渡部重美 二度の世界大戦を経験した20世紀前半、政治的な激動期におけるグリム童話の受容、利用のされ方について今回と次回二度に渡ってお話しします。ヘッセの『メルヒェン』、ディズニーの『白雪姫』にも触れるつもりです。	
		9 矢羽々崇 明治期以降に日本において、グリムをはじめとするメルヒェンがどのように紹介され、読まれていったのかを、子ども向けの翻訳・改編のあり方を中心に見ていきます。「残酷な」結末がどう変えられたのか、何を「教訓」としようとしたのか、時代の鏡であるメルヒェンを確認します。	
		10 宮谷尚美 グリム童話解釈のうち、現代においてポピュラーともいえる精神的分析的解釈を紹介し、これを反映させて日本で「衝撃のベストセラー」となった、桐生操『本当は恐ろしいグリム童話』(KKベストセラーズ、1998年)を検証する。特に「カエルの王さま」(KHM 1)と「白雪姫」(KHM 53)をテキストとして取り扱う。	
		11 宮谷尚美 「白雪姫」を映画化した最近の作品に、マイケル・コーン監督「スノーホワイト」(1997年アメリカ)がある。実際に映画を観ながら、グリム童話のテキストと比較する。登場人物の描写、行動の動機、強調されている点が現代社会の諸問題を反映していることに気づかされるだろう。	
		12 矢羽々崇 全体をまとめた上で、学生とのパネルディスカッションを行います。詳しくは講義の途中回で告知します。	
	評価方法	出席および学期末に行う試験によって決定します。欠席が4回以上は評価の対象としません。また試験では、講義内容を理解したかを確認する問題、そして特定のテーマに関する論述問題を出题する予定です。くわしくは第1回の講義にて説明します。	
テキスト	授業中に必要に応じて指示します。(プリント配布)		
参考文献	第1回授業で案内します。		

外国語学部共通科目	哲学	担当者	谷口 郁夫
-----------	----	-----	-------

全校共通授業科目	哲学 a (近現代西欧個人主義の誕生)	担当者	谷口 郁夫
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>前後期を通じてのこの講義の課題ですが、まず自分の頭で考えることを要請します。哲学は知識の集成ではありません。知識はもちろん必要ですが、いわゆる哲学者の思想を覚えることに大した意味はありません。まず、ひとりひとりがどう考えるかが重要です。講義では、多くの思想家の思想を取り上げますが、それはあくまでも考えるための契機に過ぎません。</p> <p>前期は、欧米人の最も基本的な考え方がどのようなものであるのか、それはどこから来ているのか、について考えます。古代ギリシャ・キリスト教から現代まで、駆け抜けますが、テーマは一貫して、『自己』についてです。</p>	授業計画	1 『ソクラテスの弁明』『パイドン』『クリトン』を通じて表明される、ソクラテスの死の思想。	
	評価方法		各学期終了時に試験を行いません。	2 前回に引き続き、ソクラテスが自らの死に対して、いかに振舞ったかを考えます。
				3 『新約聖書』において物語られるキリストの使命感について考察します。
テキスト参考文献	プリントは講義担当者が準備します。HP を開設し、参考文献はそちらから配布します。		4 ギリシャ思想・キリスト教がどのようにして西洋の個人主義の源流となっているかを考察します。	
			5 デカルト『方法叙説』を取り上げます。	
			6 パスカル『パンセ』を取り上げます。	
			7 カントの道徳思想を取り上げ、併せて、西洋哲学とキリスト教との関係を考察します。	
			8 ルターとキルケゴールを取り上げ、さらに個人主義と「孤独」について考えます。	
			9 フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます。	
			10 サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、現代人の孤独、不安、人間の本質の考察。	
			11 前回の続き。	
			12 予備、もしくは試験を行いません。	

全校共通授業科目	哲学 b (歴史を哲学する)	担当者	谷口 郁夫
----------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>手法は前期と変わりませんし、テーマも『自己』であることに変わりはありません。ただし、視点が変わります。歴史的状況のなかで考える、という視点になります。</p> <p>まず問わなければならないのは、歴史哲学は可能か、ということになります。つまり、歴史のなかに何らかの必然性なり、論理なりを見出すことは可能だろうか、ということです。「人類の歴史」といってみたとこで、文字に書かれた歴史という意味では、たかだか3000年に過ぎません。いわば我々はその3000年目に置かれているのです。もし我々が歴史のなかに必然性を読み取ることが可能だという立場に立つなら、未来は予見可能になります。不可能だという立場に立つなら、我々は混沌の只中に立つことになります。</p>	授業計画	1 仏教・キリスト教・イスラム教の歴史観
			2 アウグスティヌス『神の国』に見られるキリスト教的歴史観について
			3 ルソーの『人間不平等起源論』を取り上げます。
			4 ヘーゲルの『歴史哲学講義』歴史哲学の可能性について
			5 前回の続き
			6 マルクスの唯物史観
			7 前回の続き
			8 ショーペンハウアーの悲観論的哲学について
			9 ニーチェの超人論とその時代背景・および影響について
			10 19世紀後半から20世紀前半の歴史的事象の考察
			11 20世紀後半の歴史的事象の考察を通じて、歴史哲学の可能性を探ります。
			12 予備、もしくは試験を行いません。

外国語学部共通科目	哲学	担当者	松丸 壽雄
-----------	----	-----	-------

全校共通授業科目	哲学 a (愛について)	担当者	松丸 壽雄
----------	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。</p> <p>前期は愛が中心テーマになるが、恋愛だけでなく幅広く考えよう。</p> <p>ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味ばかりでなく迷惑である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。</p>	授業計画	1 概要説明と人数調整
			2 グループ分け
			3 愛についての諸見解の説明
			4 小グループディスカッション
			5 全体ディスカッション
			6 愛にかかわるビデオ(1)と説明
			7 小グループディスカッション
			8 全体ディスカッション
			9 愛にかかわるビデオ(2)と説明
			10 小グループディスカッション
評価方法	討議への参加回数と試験評価 (最低2回のディスカッション出席が単位取得必要条件)		11 全体ディスカッション
テキスト参考文献	講義中に指示することもある		12 調整日

全校共通授業科目	哲学 b (生きる意味)	担当者	松丸 壽雄
----------	--------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。</p> <p>後期はさまざまな角度から、生死の問題を扱う。</p> <p>ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。</p>	授業計画	1 概要説明
			2 グループ分け
			3 「生きる」についてのビデオ(1)と説明
			4 小グループディスカッション
			5 全体ディスカッション
			6 「生きる」についてのビデオ(1)と説明
			7 小グループディスカッション
			8 全体ディスカッション
			9 「生きる」についてのビデオ(1)と説明
			10 小グループディスカッション
評価方法	討議への参加回数と試験評価 (最低2回のディスカッション出席が単位取得必要条件)		11 全体ディスカッション
テキスト参考文献	講義中に指示することもある		12 調整日

外国語学部共通科目	倫理学	担当者	市川 達人
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	倫理学 a (倫理の基本について考える)	担当者	市川 達人
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。講義では、倫理についての「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。その上で、倫理思想の歴史を簡単にたどり、現代倫理を代表する自由主義と功利主義の思想をとりあげる。	授業計画	1 非倫理の時代	
	評価方法		学期末の試験による	2 倫理の概念
			テキスト参考文献	なし
			4 規範としての倫理(2) 習俗と法と倫理	
			5 価値としての倫理(1) 事実と価値	
			6 価値としての倫理(2) 倫理的価値とは。	
			7 価値としての倫理(3) 人間性価値。	
			8 倫理思想の歴史(1) 古代	
			9 倫理思想の歴史(2) 近代	
			10 功利主義の倫理	
			11 自由主義の倫理	
			12 まとめ	

全学共通授業科目	倫理学 b (環境と生命の倫理)	担当者	市川 達人
----------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方で人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や倫理観を考え直していくことが講義の課題である。生命倫理学や環境倫理学とよばれる学問があるが、そこでの議論を紹介しながら、問題を深めてみたい。	授業計画	1 地球・自然・生命の時代	
	評価方法		学期末の試験による	2 生命倫理(1) 医療倫理から生命倫理
			テキスト参考文献	なし
			4 生命倫理(3) 安楽死の問題	
			5 生命倫理(4) 臓器移植の問題	
			6 HIPAの倫理	
			7 環境と人間	
			8 土地倫理とティープ・エコロジー	
			9 動物の権利、樹木の権利	
			10 マルサス主義と環境的公正の倫理	
			11 風土理論と環境倫理	
			12 まとめ	

外国語学部共通科目	社会思想史	担当者	市川 達人
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	社会思想史 a (市民的社會像の黎明期)	担当者	市川 達人
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社會観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期 (a) では、最近リアリティを失ってきたかみえる「社会」という觀念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗、またその変革のなかで社会認識の新しい軸が形成される時期である。	授業計画	1 「社会」という觀念と概念
			2 近代市民社会について
			3 ルネッサンスと都市
			4 マキャヴェリと君主論。
			5 ユートピア思想とは。
			6 トマス・モアと「ユートピア」。
			7 中世の教会改革運動とその思想
			8 ルターの神学
			9 ルターの経済思想
			10 カルビニズムの宗教思想
評価方法	学期末の試験による		11 カルビニズムと近代的エートス
テキスト参考文献	荒谷一郎編「社会思想の歴史」ハク代出版		12 まとめ

全学共通授業科目	社会思想史 b (市民的社會像の確立期)	担当者	市川 達人
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社會観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。後期 (b) では、17 世紀から 19 世紀の西欧社会思想をたどる。自然法思想の伝統を背景に、社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置となる。同時に、その自然な人間の活動が経済というレベルで把握され、国家とは区別される市民社会という觀念が生まれる。このあたりの展開を、ロックから始めてマルクスまでたどってみる。	授業計画	1 自然法思想の歴史
			2 ホッブズ、自然権思想
			3 ホッブズ、国家論
			4 ロックの市民社会論
			5 ロックの所有理論とリベラリズム
			6 フランス啓蒙思想 (ヴォルテール、テンドロ)
			7 ルソーの啓蒙批判と社会批判
			8 アダム・スミスの経済的自由主義
			9 社会主義思想の諸潮流
			10 マルクスの思想 (1)
評価方法	学期末の試験による		11 マルクスの思想 (2)
テキスト参考文献	荒谷一郎編「社会思想の歴史」ハク代出版		12 まとめ

外国語学部共通科目	社会思想史	担当者	松丸 壽雄
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	社会思想史 a (魔女裁判と現代)	担当者	松丸 壽雄
----------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近代にかけての魔女裁判において分析する。	授業計画	1 講義の概要説明
			2 異端審問成立以前のヨーロッパ社会。
			3 異端審問制度の成立。
			4 異端審問制度の変質。
			5 異端審問から魔女裁判へ。
			6 異端者と魔女。
			7 映画「バラの名前」の鑑賞1。
			8 映画「バラの名前」の鑑賞2。
			9 ヨーロッパの中世の精神的・社会的状況と魔女裁判の位置づけ。
			10 魔女裁判の終焉とヨーロッパにおける自我意識の変遷。
評価方法	試験と授業貢献度		11 現代と魔女裁判。
テキスト参考文献	講義中に適宜指示		12 できれば、ディスカッション

全学共通授業科目	社会思想史 b (錬金術と現代)	担当者	松丸 壽雄
----------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近世の錬金術思想において分析する。さらに、これを日本の江戸時代から明治にかけての絵画と西洋の絵画等との比較を通して、日本人の社会思想と自我意識を検討する。	授業計画	1 講義の概要
			2 錬金術思想と哲学。
			3 ヨーロッパ中世における錬金術思想。
			4 錬金術と近代科学・医学。
			5 錬金術思想とキリスト教思想
			6 錬金術と遠近法。
			7 錬金術と絵画から見られたと社会観。
			8 日本と遠近法。
			9 ルネッサンス期以降の遠近法と近代科学。
			10 芸術作品に見られる世界観と自我意識 (1)
評価方法	試験と授業貢献度		11 芸術作品に見られる世界観と自我意識 (2)
テキスト参考文献	講義中に適宜指示		12 できれば、自我意識についてのディスカッション。

外国語学部共通科目	心理学	担当者	杉山 憲司
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	心理学 a (人間の個性・多様性理解)	担当者	杉山 憲司
----------	---------------------	-----	-------

講義目的 この授業では、行動、認知、動機づけと情緒、社会心理学の諸領域から、心理学のキー概念や諸理論について紹介する。例えば、「大学における学習モデル、学習環境デザインとは」、「状況をいかに把握し判断するか」、「文化の共生とは?」、「自発的学びや、学習性無力感とは?」など、日常的な諸課題を捉えて、学生と共に、対処法を考えることが講義の目的である。 講義概要 心理学の研究内容は、道徳性や能力など、日常的で身近な現象が多い。従って、学生は取り上げる現象に対して、既に、一定の意見を持っていることが多い。そこで、科学的な心理学の研究成果と理論を講述することになる。また、心理学は自分自身が探究者であり、且つ、研究対象でもあるという特徴がある。従って、自己理解は重要な課題である。	授業計画	1 序章：心理学の体系と研究方法、心理学と他の学問との比較。人間に共通な一般法則の意味。
		2 行動 (1)：行動の獲得・形成としての学習、学習とは何か、自発的な学びとは 3 行動 (2)：オペラント条件づけと強化随伴性 (の認知)、学習性無力感、プログラム学習 4 行動 (3)：観察学習とモデリング、攻撃性や愛他行動はいかに学習されるか? 5 社会的行動、同調と服従、リーダーシップ、変革期のリーダーは何がを求められているか? 6 認知 (1)：感覚・知覚・認知、認知とは、感覚受容器、絶対閾、錯視、知覚の恒常性 7 認知 (2)：認知のプロセス、原因帰属、帰属のエラー、達成動機の原因帰属による再解釈。 8 認知 (3)：認知過程の情報処理モデル、短期記憶と長期記憶、意味記憶とエピソード記憶 9 動機づけと情緒 (1)：学習動機を中心とした動機づけの理解。摂食障害、ホメオステシス 10 動機づけと情緒 (2)：内発的動機づけ、知的好奇心、自己決定と最適不適合 (適度のズレ理論) 11 動機づけと情緒 (3)：対人社会動機、共感性愛他動機、コンフリクト、フラストレーション 12 まとめ：行動の一般法則を理解することの意義。現代の問題にどれだけ答えられたか
評価方法	試験で評価する (追試は教務課を通すこと)。	
テキスト参考文献	青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介 (編著)「こころのサイエンス」¥1,900 円、「トピックスこころのサイエンス」¥1,900 円福村出版	

全学共通授業科目	心理学 b (人間の行動・認知・感情の共通法則)	担当者	杉山 憲司
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的 この授業では、性格、知能、発達の諸領域から、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の研究や研究方法について紹介する。例えば、「性格は変わるのか?」、「自己とは何か?」、「ストレスと精神的健康」、「高齢者と若者の認知 (考え方) のズレ」などを例にして、日常的な課題と対処法を考える。また、心理学は自分自身が探究者であり、且つ、研究対象でもあるという特徴がある。従って、自己理解は重要な学習目標である。 講義概要 心理学の研究内容は日常的で身近な現象が多いが、ここでは、①性格や能力、発達過程のように、一人一人の個性・個人差の理解について講義する予定である。多様な科学的人間性のモデルを理解することが講義の最終的な目標である。	授業計画	1 序章：心理学の体系と研究方法、一人一人の個性や個人差を理解することの意味。
		2 パーソナリティ (1)：多様なパーソナリティ理論を知る。例えば、エゴグラム性格検査 3 パーソナリティ (2)：人間学的モデルとクライエント中心療法、パーソナリティの特性論 4 パーソナリティ (3)：標準心理検査が備えるべき4条件、パーソナリティの形成と病理 5 知能と創造性 (1)：あなたの能力観とは、知能検査で測られていない能力。創造性 6 知能と創造性 (2)：知能構造モデルと拡散的思考、創造性の活性化 (状況要因という考え方) 7 知能と創造性 (3)：情緒指数 (EQ)、ピグマリオン効果、対人関係に必要な社会的スキル 8 生涯発達 (1)：高齢者も発達する。発達観の変遷、横断的研究・縦断的研究法 9 生涯発達 (2)：生育初期の重要性、乳児の気質は変わる。親子のアタッチメント (愛着) 10 生涯発達 (3)：青年期の自己意識、アイデンティティ (同一性) とモラトリアム 11 生涯発達 (4)：シルバーエイジと生きがい、統制感・自己効力感の減退。世代間伝達 12 まとめ：各人の違いを認めたくうえで、一人ひとりの幸福に資するような研究の大切さ
評価方法	試験で評価する (追試は教務課を通すこと)。	
テキスト参考文献	青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介 (編著)「こころのサイエンス」¥1,900 円、「トピックスこころのサイエンス」¥1,900 円福村出版	

外国語学部通科目	心理学	担当者	増田 直衛
----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	心理学 a (知覚・認知)	担当者	増田 直衛
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。</p> <p>ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義をします。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学a(知覚・認知)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学b(行動・個性)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>	授業計画	1 心理学では心をどのように理解しようとしたか
			2 個体と環境 心理学のもののとらえ方
			3 物理的世界と心理学的環境
			4 感覚の世界
			5 主観のものさし
			6 まとまりのある知覚世界(1)
			7 まとまりのある知覚世界(2)
			8 認知的判断
			9 判断と意志決定
			10 態度の形成とダイナミクス
			11 社会的現実の構築
			12 まとめ
評価方法	定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。		
テキスト参考文献	テキストは特に指定しません。講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。		

全学共通授業科目	心理学 b (行動・個性)	担当者	増田 直衛
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。</p> <p>ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか考えます。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学b(行動・個性)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学a(知覚・認知)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>	授業計画	1 行動を理解するために
			2 環境への適応様式
			3 生得的行動・獲得的行動
			4 遺伝的に規定された行動
			5 行動の変容(1)レスポナント行動
			6 行動の変容(2)オペラント行動
			7 行動分析学とその応用
			8 個性をどのように理解するか
			9 個性をいかに測定するか
			10 パーソナリティのダイナミクス
			11 個性はどのように発達するのか
			12 まとめ
評価方法	定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。		
テキスト参考文献	テキストは特に指定しません。講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。		

外国語学部共通科目	言語学	担当者	浅山佳郎
-----------	-----	-----	------

全学共通授業科目	言語学 a (一般言語学)	担当者	浅山佳郎
----------	---------------	-----	------

講義目的 および 講義概要	講義目的 言語についてかんがえるための視点と方法を理解し、さまざまな言語事象をかんがえる。	授業計画	1 「事物へのアプローチ」～ことばは何をあらわせるか、またはあらわせないか
	講義概要 生活のなかにある「ことば」を認識し、日常的には世界をおおう透明な膜でしかない「ことば」を対象としてとりあげ、それについてかんがえるトレーニングをおこなう。専門的に言語の学をまなぼうとする学生にとっては、言語を対象化する基礎訓練であり、そうでない学生にとっては、「ことば」で生きることを認識するためのヒントをつくりたいとかんがえる。教科書は、経験のなかの「ことば」を認識する訓練を目標とするものである。授業では、教科書にとりあげられる具体的な「問い」や「課題」を、自分の周囲の「ことば」の問題としてかんがえ、それに解答することをもとめる。よって履修者は、授業前の予習と授業中での発言が要求される。		2 「レトリックによるアプローチ」～ことばはどのように工夫されるか
			3 「恋文のすすめ」～ことばはどうやってきもちを伝達するか
			4 「意味へのアクセス」～ことばの意味というものはどういう意味か
評価方法	試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめる。		5 「テキストのいろいろ」～説明文というのはどういう文か
			6 「広告のことば」～ことばは何ができるか
テキスト	青木三郎(2002)『ことばのエクササイズ』ひつじ書房		7 「毎日のことば」～ことばでわれわれはどのようにコミュニケーションをとっているか
			8 「数量のとらえ方」～ことばと思考はどのようにかわるか
			9 「出来事の見方・とらえ方」～ことばと視点はどのようにかわるか
			10 「判断の仕方」～ことばと主観はどのようにかわるか
			11 「言い換える・引用する」～はなしはどのようにつくられるか
			12 まとめ

全学共通授業科目	言語学 b (一般言語学)	担当者	浅山佳郎
----------	---------------	-----	------

講義目的 および 講義概要	講義目的 言語学の基本的でかつ一般的な知識と方法論とを理解することを目的とする。	授業計画	1 言語調査
	講義概要 この授業のテキストは、言語学の読書案内ともよべるものである。そこでは言語にかかわるさまざまな分野にわたって、入門として最適な書物がとりあげられるとともに、そこからそれぞれの分野の興味ぶかいトピックにかんする議論が紹介される。授業ではその議論およびとりあげられた書物で論じられる他の問題などをあつかうことによって、言語にかかわるさまざまな分野を概観する。履修者には、毎回、質問をふくむリアクションパーパーを書くことをもとめる。授業は、テキストに示されるトピックにかんする解説とともに、履修者からの質問への解答によってくみだてられる。		2 音声学・音韻論
			3 比較言語学・ピジンクレオール諸語
			4 解読・文字論
評価方法	試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめる。		5 社会言語学・方言学
			6 ユニバーサル・言語類型論
テキスト	千野栄一(2002)『言語学 私のラブストーリー』三省堂		7 日本語の構造
			8 対照言語学・世界の言語
			9 意味論・語用論
			10 談話
			11 認知と言語
			12 まとめ

外国語学部共通科目	国語学	担当者	桂 千佳子
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	言語学 a (母語の修得と日本人)	担当者	桂 千佳子
----------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>自分と向き合い、見つめることで、自分自身にとって母語がどういうものであるのか、についてじっくり考える。</p> <p>その上で、自分がコトバに対してどういう意識を持っているのかを客観的に捉えられるようにする。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、赤ちゃんがコトバをどのように習得していくのか、などを通じ、コトバについての本能がどんなものかを知る。</p> <p>自分の意識を確認した上で、コトバを通して見えてくる日本の文化、文字の歴史を学ぶ。</p>	授業計画	1. コトバはなぜ通じるのか
			2. コトバはなぜ通じるのか —表現と理解
			3. コトバが通じるのは本能か —本能だ!
			4. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション①
			5. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション②
			6. 自分のコトバを見つめる —「母語」と「母国語」
			7. 自分のコトバを見つめる —日本人の母語意識
			8. 日本の文化 —世界観とコトバ
			9. 日本の文化 —以心伝心の文化
			10. 日本語の文字 —漢字との出会い
評価方法	学期末のテストおよび出席状況		11. 日本語の文字 —仮名
テキスト 参考 文献	テーマごとに指示		12. 日本語の文字 —漢字仮名交じり文は不便か

全学共通授業科目	言語学 b (コトバの構造と文法観)	担当者	桂 千佳子
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>当たり前だと思っていることは、本当に当たり前なのだろうか。</p> <p>日本語のルールにを見つけながら、自問自答しつつ自分の考えを構築していくことを学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>いくつかの方法論について、実際に例文を作って自分で検証していく。</p> <p>一つ一つについて、文の意味、用いているルール、その文が発話された意図について考えられるようにする。</p>	授業計画	1. 頭の中の文法 —日本語学習者の誤用例から
			2. コトバの構造と文法観
			3. ソシユールの文法理論①
			4. ソシユールの文法理論②
			5. 文とは何か —コトの分類
			6. 文とは何か —文末の表現
			7. 文とは何か —「桜が咲く」は文か
			8. 日本語の時の表現 —絶対テンス
			9. 日本語の時の表現 —相対テンス
			10. 日本語の文の階層構造 —南不二男による4つの分類
評価方法	学期末のテストおよび出席状況		11. 日本語の文の階層構造 —文の構造のまとめ
テキスト 参考 文献	テーマごとに指示		12. まとめと質疑応答

外国語学部共通科目	国語学	担当者	小島 幸枝
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	言語学 a (日本語とはどのような言語か)	担当者	小島 幸枝
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根差す日本語に関する基本的知識の修得を目的とする。</p> <p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか。国語学の分野を音声・音韻、文字、文法の領域に分けて講述する。</p>	授業計画	1 日本語の特徴
			2 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学問について
			3 国語の音韻—音声と音韻
			4 古代語と現代語のちがい
			5 アクセント
			6 文字、表記—漢字、国字
			7 かな—万葉仮名、カタカナ、ひらがな、反切
			8 かなづかい—定家仮名遣、契沖仮名遣
			9 ローマ字—ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字
			10 文法—単語と品詞分類
			11 文の構造と文の種類
			12 文体—文章と文体
評価方法	レポート		
テキスト参考文献	福島邦道：国語学要論（笠間書院）		

全学共通授業科目	言語学 b (辞書を読む)	担当者	小島 幸枝
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>日本語の辞書には、いわゆる国語辞書、対訳辞書（漢和辞典、英和辞典など）、のほかに古語辞典、時代別国語辞典、類語辞典、平仄辞典、隠語辞典、外来語辞典、逆引辞典等々、必要に応じて幾種もの辞書が作られてきた。これらの辞書の特徴を知り、実際に利用して、その背景にどのような切り方で、日本語を説いているかを学び、日本語の基本語、位相語から日本語の特徴、及び日本人の考え方を読み取ってみたい。</p> <p>日本語の系統論についても言及したい。</p>	授業計画	1 国語辞書の歴史—日本語の辞書には意味がかかれていなかった。
			2 辞書の種類 (3)
			3
			4 日ポ辞書—外国人の作った日本語辞書
			5 節用集—日本人の生活が見える。(7)
			6
			7
			8 下学集を読む
			9 和玉篇—漢和辞書の面白さ (10)
			10 和英語林集成—ヘボンの辞書
			11 言海—初めての日本語普通辞書
			12 日本語のルーツ
評価方法	レポート		
テキスト参考文献	適宜、コピーを用意します。		

外国語学部共通科目	日本文学	担当者	肥田野 昌之
-----------	------	-----	--------

全校共通授業科目	文学 a (日本の神話・説話)	担当者	肥田野 昌之
----------	-----------------	-----	--------

講義目的および講義概要	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』などの古文獻を読みながら、古代の神話や 説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話からさらにギリシア神話など世界各地の神話との類似性や世界大拡布の 説話との関連性についても言及したい。	授 業 計 画	1 天地創造の神話——記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する。
	主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭式や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。		2 黄泉国訪問——オルベウス型との比較や呪的逃亡譚について
	また、昔話「蛇婿入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など、いわゆる異類婚姻譚といわれるものを中心にして広く伝説や仏教説話について考察してみたい。		3 天の石屋戸神話——特に鎮魂祭儀礼との関連について
			4 八俣大蛇退治——ベルセウス・アンドロメダ型との比較や生贖伝説について
評価方法	授業への出席および試験によって決定する。		5 大國主神の神話——通過儀礼および死と復活・ジェソン型についても考える。
テキスト参考文献	プリントを配布 西郷信綱『古事記の世界』(岩波新書)		6 国譲りと天孫降臨——神々と神社について述べ、大嘗祭儀礼との関連
			7 木花之佐久夜毘売——世界各地の死の起源譚についても考える。
			8 海佐知毘古と山佐知毘古そのⅠ——失われた釣針型との比較や隼人舞の起源
			9 海佐知毘古と山佐知毘古そのⅡ——蛇女房・竜女説話との関連
			10 異類婚姻譚について、そのⅠ——三輪山型と昔話「蛇婿入」について
			11 異類婚姻譚について、そのⅡ——丹塗矢型(賀茂社縁起)および蟹養寺縁起
			12 異類婚姻譚について、そのⅢ——羽衣説話(白鳥処女説話)と天人女房

全校共通授業科目	文学 b (万葉集)	担当者	肥田野 昌之
----------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。	授 業 計 画	1 卷一国歌大鑑番号1番・雄略天皇の歌について考える。
	初期万葉の歴史的な事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。また、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。		2 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
			3 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
			4 穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
評価方法	授業への出席と試験によって決定する。		5 有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
テキスト参考文献	授業時プリント: 斎藤茂吉『万葉秀歌』上下(岩波新書)		6 柿本人麿とその長歌を中心に読む。
			7 山部赤人「不尽山を望める歌」を中心に読む。
			8 山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
			9 高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
			10 万葉集の用字法——特に義訓・戯訓など。
			11 東歌についての説明と歌。防人歌についての説明と歌。
			12 大伴家持とその歌について講読する。

外国語学部共通科目	日本文学	担当者	福沢 健
-----------	------	-----	------

全学共通授業科目	文学 a (日本文学－上代から中古前期)	担当者	福沢 健
----------	----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義目的 日本文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)・近代(明治・大正・昭和)に区分される。この講義では上代から中古前期までの代表的な作品を取り上げ、その作品の魅力と時代背景について話す。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生が多数にわたる場合、履修者を抽選で定めることがある。 講義概要 受講生が日本古典文学に触れる機会は、高等学校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高等学校の古文の評価はよくないのが実情である。しかし、古典を教材ではなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力をあらためて見いだすことができるだろう。講義の形態は、1時間に1作品を取り上げ、その抜粋を読んで解説を行なうというかたちとなる。	授業計画	1 はじめに
			2 【上代①】 大王の歌－雄略天皇 (万葉集)
			3 【上代②】 神としての天皇－柿本人麻呂 (万葉集)
			4 【上代③】 天皇家の神話－日子番能迹々芸命 (古事記)
			5 【上代④】 春の愁い－大伴家持 (万葉集)
			6 【中古①】 四海朝宗帰聖王－小野峯守 (文華秀麗集)
			7 【中古②】 王朝の美－紀貫之他 (古今和歌集)
			8 【中古③】 いちはやきみやび－在原業平 (伊勢物語)
			9 【中古④】 幸福な記憶－清少納言 (枕草子)
			10 【中古⑤】 地上世界の天女－桐壺帝・桐壺更衣 (源氏物語)
			11 【中古⑥】 貴種流離の物語－光源氏 (源氏物語)
			12 おわりに
評価方法	期末試験		
テキスト	特に定めない。プリント配布。		

全学共通授業科目	文学 b (日本文学－中古後期から現代)	担当者	福沢 健
----------	----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義目的 日本文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)・近代(明治・大正・昭和)に区分される。この講義では中古前期から近世までの代表的な作品を取り上げ、その作品の魅力と時代背景について話す。文学 a と文学 b は内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生が多数にわたる場合、履修者を抽選で定めることがある。 講義概要 前期の文学 a に引き続き、日本文学の代表的なテキストを1時間に1つ取り上げ、その抜粋を読んで解説を行なう。	授業計画	1 はじめに
			2 【中古①】 苦悩の王権－光源氏 (源氏物語)
			3 【中古②】 都の崩壊－藤原常行 (今昔物語集)
			4 【中世①】 おごれる心－平清盛 (平家物語)
			5 【中世②】 華麗なる滅亡－平教経 (平家物語)
			6 【中世③】 乱世と芸術至上主義－藤原定家 (新古今和歌集)
			7 【中世④】 合理主義の誕生－兼好 (徒然草)
			8 【中世⑤】 花の舞－世阿弥 (井筒)
			9 【近世①】 欲望の肯定－井原西鶴 (日本永代蔵)
			10 【近世②】 伝統と革新－松尾芭蕉 (奥の細道)
			11 【近世③】 江戸の華－助六 (助六由縁江戸桜)
			12 おわりに
評価方法	期末試験		
テキスト	特に定めない。プリント配布。		

外国語学部共通科目	外国文学	担当者	野々山 ミチコ
-----------	------	-----	---------

全学共通授業科目	文学 a (スペイン文学)	担当者	野々山 ミチコ
----------	---------------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>スペインの古典の名作ドン・キホーテを読み、名場面やビデオを見ながら解説する。</p> <p>現代スペイン文学から「ガルシア・ロルカ」の劇「血の婚礼」、「ベルナルド・アルバの家」を取りあげ、ビデオを見ながら解説する。</p> <p>最後に「スペイン内戦」から「文学」に与えた影響について考察する。</p> <p>作品の主要部分は、200-120 配分する。</p>	授業計画	1	ドン・キホーテ
			2	"
			3	"
			4	"
			5	"
			6	"
			7	ロルカ 「血の婚礼」
			8	
			9	ロルカ 「ベルナルド・アルバの家」
			10	
			11	スペイン内戦と文学
			12	スペイン内戦と文学
評価方法	出席とレポート。			
テキスト参考文献	野々山 真輝帆 著「スペイン内戦と文学」(彰流社)			

全学共通授業科目	文学 b (ラテンアメリカ文学)	担当者	野々山 ミチコ
----------	------------------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>現代ラテンアメリカ文学の主要な流れ、マジックリアリズムの作品を取りあがる。</p> <p>作品名と順序は未定。</p> <p>同時に評判に与った映画の鑑賞も行う。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	出席とレポート			
テキスト参考文献	野々山 真輝帆 著「ラテンアメリカ短編集」(彰流社)			

外国語学部共通科目	外国文学	担当者	宮谷 尚実
-----------	------	-----	-------

全学共通授業科目	文学 a (メディアとしてのテキスト)	担当者	宮谷 尚実
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 この講義の目的は、参加する皆さんが「テキストとつきあうことの楽しさ」を味わうことです。 皆さんは「文学」にどんなイメージを持っているでしょう？本屋や図書館に溢れかえって愛や死をながながと綴る小説や詩でしょうか？これまで「文学」を敬遠していた人にも、文学をとっても愛している人にも、この講義をとおして新しい「テキスト体験」をしてもらいたいと思います。</p> <p>講義概要 折に触れて幅広く文学案内もしますが、中心的に扱うのは19世紀ドイツで編纂された「グリム童話」です。細かく丁寧に読めば読むほど、「テキスト」とは何か、それがメディアとして歴史や社会の中でどのように機能しているかに気付くことでしょう。 文学ジャンルとしてのメルヒェンを概説することからはじめ、文学史や文学方法論とも知り合いつつ、グリム童話を素材としてテキストを読み解きます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 「むかしむかしあるところに」
	2 文学ジャンルとしてのメルヒェンと「グリム童話」 — 諸学の交差点		
	3 文学を読む方法 (1) KHM 1 「カエルの王さま」		
4 文学を読む方法 (2)			
5 テキストの形成と伝承 (1) KHM 11 「兄と妹」			
6 テキストの形成と伝承 (2) KHM 45 「親指小僧」			
7 テキストの形成と伝承 (3) KHM 50 「いばら姫」			
8 文学テキストの映像化 (1) ディズニー映画「眠れる森の美女」			
9 文学テキストの映像化 (2) ディズニー映画「白雪姫」			
10 テキストの形成と伝承 (4) KHM 53 「白雪姫」			
11 文学テキストの映像化 (3) 「スノー・ホワイト」			
12 まとめ			
評価方法	期末レポート、および出席、授業参加度、授業時間内の感想文を総合して評価します。		
テキスト参考文献	特に定めません。適宜プリントを配布します。		

全学共通授業科目	文学 b (現代日本でメルヒェンを「読む」)	担当者	宮谷 尚実
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目的 「文学を読む」とは何を意味するでしょう？ひとつのテキストから、「翻訳」をすることも、「映画化」することも「読み」の行為です。それを受け取る私たちが生きる現代日本の視点から、グリム童話をもういちど積極的に「読んで」みましょう。そこで新しいテキストと自分とに出会うはずです。</p> <p>講義概要 まず「オリジナル」テキストを丁寧に読み、それらを翻訳や映像と比較します。その中で、気が付いたことや考えたことを発表形式で担当者に報告してもらいます。メルヒェンが現代日本に生きる私たちにとってどのような意味を持つか、ひとりひとりの参加者が自分の頭と心で自分の視点から積極的に「読む」ことを大切にします。</p> <p>前期科目「文学 a」からの継続で履修すると、文学、特にグリム童話について予備知識が得られ、より大きな流れで理解することができますが、半期だけの履修でも構いません。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
	2 現代日本の視点から「白雪姫」を読む		
	3 明治期日本におけるメルヒェンの翻訳を読む (1) KHM 5 「狼と7匹の子やぎ」		
4 明治期日本におけるメルヒェンの翻訳を読む (2)			
5 現代ドイツにおけるメルヒェンの再話を読む KHM 1 「カエルの王さま」			
6 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む (1) ディズニー映画「シンデレラ」			
7 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む (2) KHM 21 「灰かぶり」			
8 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む (3) 映画「エヴァー・アフター」			
9 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む (4) ディズニー映画「シンデレラ II」			
10 現代日本の視点から「ヘンゼルとグレーテル」を読む (1) KHM 15 「ヘンゼルとグレーテル」			
11 現代日本の視点から「ヘンゼルとグレーテル」を読む (2) 映画「ヘンゼルとグレーテル」			
12 まとめ			
評価方法	期末レポート、および出席、授業参加度、授業時間内の感想文を総合して評価します。		
テキスト参考文献	特に定めません。適宜プリントを配布します。		

外国語学部共通科目	歴史学(日本史)	担当者	新宮 譲治
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	歴史学 a (維新の変革)	担当者	新宮 譲治
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>〔講義目的〕</p> <p>幕藩体制の崩壊過程から明治維新を経て、自由民権運動の高揚と政府の対応までの歴史を追って、その後の日本社会を長く(かなりの程度、現代まで)しばった「維新の変革」とは何であったかを考える。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>①徳川幕藩体制を支える村の生活。 ②百姓一揆とその変質。 ③明治維新政権の成立と中央集権体制への歩み。とりわけ「地租改正」の意義。 ④自由民権運動とその変質。 ⑤明治維新と日本の近代。</p>	授業計画	1 徳川幕藩体制下の農村。
			2 本百姓体制の変質。
			3 百姓一揆とその変質。
			4 世直し騒動(武州一揆など)。
			5 日本近代の特質と現代。
			6 地租改正の経過。
			7 地租改正と日本の近代。
			8 自由民権運動のはじまり。
			9 私擬憲法を中心にみた自由民権。
			10 独逸学協会結成前後。
評価方法	論述テストによる。		11 大日本帝国憲法制定への動向。
テキスト参考文献	『日本史概説講義案』(1)。新宮譲治『戦争碑を読む』光陽出版社。齊藤博『民衆史の構造』新評論社。		12 「明治維新」と日本の近代化。

全学共通授業科目	歴史学 b (帝国憲法体制と資本主義)	担当者	新宮 譲治
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>〔講義目的〕</p> <p>明治維新によって開かれた日本の近代は、自由民権という近代市民革命の様相を呈したデモクラシー要求実現を目指す民衆運動がみられたにもかかわらず、欧米とも、アジアとも違う歴史発展の途を歩んだ。日本の近代とはいかなる特殊性をもつか、またその現代的意味を考える。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>①幕末徳川封建体制の動揺、明治維新への胎動。 ②新政権の中央集権化への取り組み、特に地租改正がその後の日本の資本主義経済発展に与えた影響。 ③自由民権運動と政府の憲法制定への動向。 ④明治憲法体制下の日本。 ⑤日本近代の特質と現代。</p>	授業計画	1 明治維新について。
			2 地租改正の意義。
			3 文明開化と福沢諭吉。
			4 自由民権運動と大日本帝国憲法。
			5 国民国家としての明治憲法体制。
			6 日清戦争と三国干渉。
			7 資本主義経済の発展。
			8 日英同盟と国際的地位の向上。
			9 日露戦争。
			10 韓国併合(日本の植民地支配)。
評価方法	論述テストによる。		11 日本資本主義発達史論争。
テキスト参考文献	『日本史概説講義案』(2)。新宮譲治『戦争碑を読む』光陽出版社。齊藤博『民衆史の構造』新評論社。		12 日本近代化の特質。

外国語学部共通科目	歴史学(日本史)	担当者	櫻井 彦
-----------	----------	-----	------

全学共通授業科目	歴史学 a (日本中世社会における「悪党」)	担当者	櫻井 彦
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	鎌倉時代末期，西国を中心に行動を活発化させた「悪党」は，当時の政治・社会・経済といった諸側面の矛盾が表面化したものとして，早くから研究対象とされてきた。しかしそこに内在する諸問題が極めて広範であるために，各研究者によって切り口は様々である。そこで本講座では，多彩な「悪党」研究の蓄積を，近年の研究者を中心に，研究者ごとに整理して概観することにより，当該期「悪党」の姿を浮き彫りにする。	授 業 計 画	1 戦前の「悪党」研究①	_____
			2 戦前の「悪党」研究②	_____
			3 戦前の「悪党」研究③	_____
			4 黒田俊雄	_____
			5 網野善彦	_____
			6 小泉宜右	_____
			7 佐藤和彦	_____
			8 新井孝重	_____
			9 渡邊浩史	_____
			10 海津一朗	_____
評価方法	講座内容に則した試験の結果に，出席状況を加味して評価する。		11 小林一岳	_____
テキスト参考文献	講座中に随時指示，もしくは配布する。		12 「悪党」研究の現在	_____

全学共通授業科目	歴史学 b (中世「悪党」の諸相)	担当者	櫻井 彦
----------	-------------------	-----	------

講義目的および講義概要	鎌倉時代末期，西国を中心に行動を活発化させた「悪党」は，当時の政治・社会・経済といった諸側面の矛盾が表面化したものとして，早くから研究対象とされてきた。しかしその姿は一様ではなく，各地の「悪党」ごとに様々な側面を見せている。そこで本講座では，具体的な「悪党」事件を史料に基づいて掘り下げることにより，当該期「悪党」が直面した諸問題について考える。素材としては，近衛家領丹波国宮田荘を取り上げる。	授 業 計 画	1 宮田荘の研究史	_____
			2 近衛家領荘園について	_____
			3 宮田荘の悪党①	_____
			4 宮田荘の悪党②	_____
			5 宮田荘の悪党③	_____
			6 宮田荘の悪党④	_____
			7 宮田荘の悪党⑤	_____
			8 宮田荘の悪党⑥	_____
			9 宮田荘の悪党⑦	_____
			10 宮田荘の悪党⑧	_____
評価方法	講座内容に則した試験の結果に，出席状況を加味して評価する。		11 宮田荘の悪党⑨	_____
テキスト参考文献	講座中に随時指示，もしくは配布する。		12 宮田荘の悪党⑩	_____

外国語学部共通科目	歴史学(東洋史)	担当者	熊谷 哲也
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	授業計画	1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
			2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。
			3 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。
			4 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。
			5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
			6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。
			7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。
			8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。
			9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。
			10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。
評価方法	毎回出席をとる。期末に筆記試験。		11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。
テキスト参考文献	とくにさだめない。		12 同 その2

全学共通授業科目	歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 (講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。	授業計画	1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。
			2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。
			3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。
			4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。
			5 エジプトの近代化とその過程について考える。
			6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。
			7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえんについて考察する。
			8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。
			9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。
			10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。
評価方法	毎回出席をとる。期末に筆記試験。		11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。
テキスト参考文献	とくにさだめない。		12 まとめをおこなう

外国語学部共通科目	歴史学(西洋史)	担当者	佐藤 唯行
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	歴史学 a (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>世界で最も典型的な多民族・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。</p>	授業計画	1 アメリカ経済のユダヤ・パワー、大物たちの人脈、人使い、資金力
			2 情報・通信産業・メディア産業のユダヤ人
			3 小売業・不動産業のユダヤ人
			4 伝統的ユダヤ・ビジネスとけ
			5 金融ビジネスのユダヤ人
			6 アメリカにおける反ユダヤ主義の特色
			7 レオ・フランク事件 - 南部における反ユダヤ主義 -
			8 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト
			9 自動車王、ハリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン
			10 高等教育機関におけるユダヤ人排斥
			11 公民権運動期におけるユダヤ教会堂爆破事件
			12 黒人たちはなぜユダヤ人憎悪をふくらませたのか
評価方法	<p>評価は前後期各 1 回の筆記試験によって決定する。</p> <p>出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。</p>		
テキスト参考文献	<p>『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行 (2000 年 集英社新書 680 円)</p> <p>『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行 (2001 年 ダイアモンド社 1700 円)</p>		

全学共通授業科目	歴史学 b (アメリカのエスニック・ヒストリー)	担当者	佐藤 唯行
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>世界で最も典型的な多民族・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>黒人、ヒスパニック、アジア系、ネイティブ・アメリカン(インディアン)のエスニック・ヒストリーを中心に毎回、完全に文章化されたレジメを配る。</p>	授業計画	1 黒人奴隷の意識の世界
			2 差別体制下の黒人指導者
			3 公民権運動とブラック・ナショナリズムの台頭
			4 ヒスパニック・アメリカンの歴史
			5 ヒスパニック・アメリカンの現状
			6 中国系アメリカ人の歴史と現状
			7 ハワイにおける多民族・多民族社会の形成
			8 日系アメリカ人の歴史
			9 日系アメリカ人の現状
			10 インディアンと白人の関係史 ①
			11 ②
			12 黒人女性の歴史
評価方法	前期と同じ		
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	歴史学(西洋史)	担当者	高橋 正男
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	歴史学 a (西洋史概説-中東を基点に)	担当者	高橋 正男
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>近年われわれはユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東・アフリカ、米中枢で起こった政治情勢の変転に際し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。歴史学の基点は現代史である。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点を置いた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とする。受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係史から見直し、あわせて現代社会の根底を理解する素材を提供し、21世紀を展望してみたい。</p> <p>講義概要</p> <p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。必要に応じ VIDEO 教材を使用する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p> <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の筆記試験による。 ・講義資料(年間約40枚)等は出席者のみに配布する。 	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史とは何か、史学研究法 2. 先史時代と歴史時代とのメルクマール 3. 現代国際関係史の諸問題-米中枢同時多発テロ事件とアフガニスタン- 4. 古代オリエントの地理的範囲、文明の発生-前第四千年紀末- 5. 古代オリエント史の推移 VIDEO 6. 族長時代からイスラエル王国成立まで(1)-前19世紀~前11世紀- 7. 族長時代からイスラエル王国成立まで(2) 8. 第一神殿時代(1)-前10世紀~前586年- 9. 第一神殿時代(2) 10. バビロニア捕囚時代-前6世紀- <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D=ヘバト著(高橋正男訳)『図説 エルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年。 ・高橋正男著『エルサレム』(世界の都市の物語14)文藝春秋、1996年。 ・塩生七生著『ローマ人への20の質問』(文春新書082)文藝春秋、2000年。 ・J.ロジャーソン著(高橋正男監修)『旧約聖書の王歴代誌』創元社、2000年。 ・池上彰著『現代史』集英社、2000年。 ・高橋和夫著『アラブとイスラエル-パレスチナ問題の構図-』(講談社現代新書1085)講談社、2001年。 ・藤原和彦著『イスラム過激原理主義-なぜテロに走るのか-』(中公新書1612)中央公論新社、2001年10月。
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(改訂版)時事通信社、2000年。 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第5刷)時事通信社、2000年。
	テキスト参考文献		

全学共通授業科目	歴史学 b (西洋史概説-中東を基点に)	担当者	高橋 正男
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>近年われわれはユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東・アフリカ、米中枢で起こった政治情勢の変転に際し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。歴史学の基点は現代史である。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点を置いた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とする。受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係史から見直し、あわせて現代社会の根底を理解する素材を提供し、21世紀を展望してみたい。</p> <p>講義概要</p> <p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。必要に応じ VIDEO 教材を使用する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p> <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の筆記試験による。 ・講義資料(年間約40枚)等は出席者のみに配布する。 	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 11. 第二神殿時代(1)-前538年~後70年- 12. 第二神殿時代(2)まとめ・VIDEO 13. ローマ時代 -70~330年- 14. ビザンツ時代 -330~638年- 15. 初期ムスリム時代 -638~1099年- 16. 十字軍時代 -1099~1187年- 17. アイユーブ朝およびマムルーク時代 -1187~1517年- 18. オスマン帝国時代 -1517~1917年- 19. イギリスの委任統治時代 -1917~1948年- 20. エルサレムの東西分断 -1948~1967年- 21. エルサレム再統合 -1967年以降 22. 第二次世界大戦後の中東情勢 23. 現代歴史学の諸問題、暦法の変遷 24. 後期のまとめ・VIDEO
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(改訂版)時事通信社、2000年。 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第5刷)時事通信社、2000年。
	テキスト参考文献		

外国語学部共通科目	歴史学(西洋史)	担当者	古川 堅治
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	歴史学 a (ヨーロッパの歴史－統合と分裂の視点から)	担当者	古川 堅治
----------	-----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目標>21世紀の人間社会は一体どのような道を歩もうとしているのか。また、国家という枠組はどうなっていくのか？本講座は、そのような問題意識のもとに、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、春学期はその分裂と統合の視点から通観し、今日のヨーロッパ連合(EU)がどのような思想的系譜から生み出され、かつまたいかなる発展の可能性をもっているのかを考えることを考えることを目標とする。</p> <p><講義概要>講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画・LDなどでもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることを期待されている。なお、春学期に少なくとも1回の討論会を催す予定にしている。</p>	授業計画	1 はじめに 歴史を学ぶことの意味、今なぜヨーロッパか？
			2 ヨーロッパとは何か？ 「エウロパ神話」、「ヨーロッパ」の概念規定
			3 古代地中海世界とヨーロッパ(1) ギリシア古典文明とヨーロッパ人の意識
			4 古代地中海世界とヨーロッパ(2) 民主主義理念の系譜
			5 古代地中海世界とヨーロッパ(3) ヨーロッパにおける古代ローマの遺産
			6 統一ヨーロッパ構想の起點 「ヨーロッパ合衆国」の原型とフランク王国
			7 最初のヨーロッパ統合 中世ヨーロッパをとらえる視点
			8 討論会 テーマや開催の仕方は授業中に指示する。
			9 第二のヨーロッパ統合 ヨーロッパ統合の思想的系譜(1)
			10 第二のヨーロッパ統合 ヨーロッパ統合の思想的系譜(2)
評価方法	学期末の定期レポートと1～2回の小レポート、さらに討論会での参加度、出席点を加味して総合評価をする。		11 ヨーロッパ統合の歴史的意義 人間の共存の新しい枠組み？
テキスト参考文献	テキストは使用せず、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。		12 まとめ ヨーロッパ統合と日本

全学共通授業科目	歴史学 b (バルカン情勢の現在－地域・国家・民族の視点から)	担当者	古川 堅治
----------	---------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義概要>21世紀になって、人間社会はどのような道を歩もうとしているのか。また、国家という枠組みはどうなっていくのか。本講座はそのような問題関心から、副題に「バルカン情勢の現在」と銘打ち、ヨーロッパの不安定要因の一つであるバルカン地域を取り上げ、そこにおける諸国家、諸民族、地域協力のあり方を考えることにより、新しい共存の可能性を探ることを目標とする。</p> <p><講義概要>講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、LDなどでもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマ毎に問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることを期待されている。なお、秋学期に少なくとも1回の討論会を催す予定にしている。</p>	授業計画	1 はじめに 地域研究の意義と方法
			2 オスマン帝国の支配と民族問題(1) バルカン前史とオスマン帝国の進出
			3 オスマン帝国の支配と民族の問題(2) フランス革命思想とバルカン民族意識の形成
			4 バルカン地域における民族運動の展開(1) 民族的統合の諸契機
			5 バルカン地域における民族運動の展開(2) バルカン諸民族の独立と対立
			6 討論会 テーマや開催の仕方については授業中に指示
			7 バルカン地域の民族問題の諸類型 国内民族対立、分割の再統合、少数民族
			8 バルカン地域の諸問題の現状(1) 旧ユーゴ・マケドニア共和国をめぐる問題
			9 バルカン地域の諸問題の現状(2) 新ユーゴ・セルビア共和国とコソボ問題
			10 バルカン地域の諸問題の現状(3) キプロス島の「再統合」問題
評価方法	同上		11 バルカン諸国の将来 バルカン連邦構想の系譜と地域協力の動き
テキスト参考文献	同上		12 まとめ 現代世界の課題(世界の地域協力・統合構想)

外国語学部共通科目	文化人類学	担当者	井上 兼行
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	文化人類学 a (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	文化人類学は、現在急速に消えつつある、'未開'と呼ばれてきた社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。a.においてはこの学問の形成の歴史、対象、方法などを概括的に学ぶ。	授業計画	1 どんな学問か
			2 本の紹介
			3 前史 (1)
評価方法	定期試験期間中の試験により評価。	授業計画	4 前史 (2)
			5 前史 (3)
			6 文化人類学の誕生へ
テキスト参考文献	テキストはなし。参考文献は随時紹介可	授業計画	7 対象としての'文化'の概念 (1)
			8 対象としての'文化'の概念 (2)
			9 初期の視点 — 歴史的視点
評価方法	定期試験期間中の試験により評価。	授業計画	10 視点の変化 — 現在の視点へ
			11 方法としての実地調査 (1)
			12 方法としての実地調査 (2)

全学共通授業科目	文化人類学 b (未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	a. で学んだ事柄を基礎に、'未開'文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学ぶ。またそれを通してわれわれの文化にも検討を加えようことを学ぶ。事例としては'婚姻・家族・親族' '儀礼' '時間認識' などを取り上げようと考えている。	授業計画	1
			2
			3
評価方法	定期試験期間中の試験により評価。	授業計画	4
			5
			6
テキスト参考文献	テキストはなし。参考文献は随時紹介可。	授業計画	7
			8
			9
評価方法	定期試験期間中の試験により評価。	授業計画	10
			11
			12

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義A（現代文化論）	担当者	柴崎 信三
-----------	------------------	-----	-------

全学共通授業科目	現代文化論 a（グローバリゼーションを巡って）	担当者	柴崎 信三
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>「文化」がかかわる領域はきわめて多様で多彩な広がりをもっている。言葉や習慣、衣食住といった個人の暮らしに直接かかわるものから、芸術や思想・宗教といった人間の内面を動かす抽象的な価値にとどまらず、例えば企業や社会を支えるルールや価値観などもそれぞれの地域や民族、歴史といった空間的、時間的な制約の下で異なった表情をのぞかせる。現代は異なった文化を統合する大きな文明のうねりが広がる一方で、その対立や葛藤が広がる時代だろう。</p> <p>この前期の授業ではいま世界秩序を支配する「新しい帝国」として登場した米国が広げるグローバル化の大きな波を巡って、その文化的な統合と反発のかたちをさまざまな領域に探り、日本を含めた世界が直面する問題を考える。政治、経済、ビジネスを含めた社会システムやモラルのあり方などにも踏み込んで考察をすすめたい。</p>	授業計画	1 はじめに 「9/11」以降の世界をどうみるか
			2 米国という鏡 その成り立ち
			3 米国という鏡 大量生産
			4 米国という鏡 民主主義
			5 米国という鏡 覇権と市場
			6 冷戦後の世界 国際関係
			7 冷戦後の世界 ビジネス
			8 冷戦後の世界 国家
			9 冷戦後の世界 消費
			10 冷戦後の世界 民族
評価方法	期末の定時試験の成績に、講義の中で求めるレポートの実績を加味して評価する。		11 冷戦後の世界 大衆文化
テキスト参考文献	特に指定しない。参考文献を各回講義で紹介し、資料を配布する。		12 まとめ

全学共通授業科目	現代文化論 b（日本の表象と世界）	担当者	柴崎 信三
----------	-------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>社会制度や人々の価値観の変容と、ビジネスモデルから大衆文化にいたる表象を通して日本型システムと日本が発信する情報が世界にどんな影響をもたらしたかを考える。</p> <p>近代の日本は「脱亜入欧」をスローガンに欧米モデルの近代化を急いできたが、その結果として敗戦という国家の破綻と経済大国としての成功を経験した。そこでは日本型システムとよばれる固有の社会のしくみや人々の価値観が、時に高いパフォーマンスをもたらし、時に手痛いダメージにつながった。</p> <p>後期の授業ではこの「日本」というモデルを政策決定や競争システム、共通の価値観や芸術表現の推移など、異なった角度からとらえ、構造改革などで現在直面する問題のありかを探りながら、世界における文化の特殊性と普遍性という二重化された構造を学んでいきたい。</p>	授業計画	1 はじめに 日本問題への視点
			2 日本システム 起源
			3 日本システム 展開
			4 日本システム 再構造化
			5 日本システム 成功
			6 日本システム 破綻と再生
			7 日本の表象と世界（脱亜入欧）
			8 日本の表象と世界（集団主義・天皇制）
			9 日本の表象と世界（トヨタとSONY）
			10 日本の表象と世界（礼賛とバッシング）
評価方法	期末の定時試験の成績に、講義の中で求めるレポートの実績を加味して評価する。		11 日本の表象と世界（消費・家族・表現）
テキスト参考文献	特に指定しない。参考文献を各回講義で紹介し、資料を配布する。		12 まとめ

外国語学部共通科目	経済学	担当者	片岡 晴雄
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	経済学 a (理論経済学の基礎的理解)	担当者	片岡 晴雄
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。	授業計画	1 経済学の目的と役割
			2 近代経済学誕生までの経済学の流れ
			3 市場と価格
			4 需要と供給の基礎理論
			5 家計の行動
			6 企業行動の理論
			7 完全競争市場と経済効率
			8 所得分配
			9 市場機構の限界
			10 不完全競争の理論 I
評価方法	出席とテストの結果を見て総合的に判断する		11 不完全競争の理論 II
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		12 ミクロ経済学の応用

全学共通授業科目	経済学 b (理論経済学の基礎的理解)	担当者	片岡 晴雄
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価利子率、国際収支、雇用量等々である。	授業計画	1 マクロ経済循環
			2 経済学の危機とケインズ革命
			3 国民所得の決定
			4 投資乗数の理論
			5 投資の決定
			6 政治活動と国民所得
			7 貨幣市場
			8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
			9 経済のマクロ的一般均衡体系
			10 インフレーション
評価方法	出席とテストの結果をみて総合的に判断する		11 経済の変動と成長
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		12 開放体系のマクロ経済学

外国語学部共通科目	経済学	担当者	浜本 光紹
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	経済学 a (国民所得の概念と決定メカニズム)	担当者	浜本 光紹
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の関係について解説する。</p>	授業計画	1 経済学という学問について
			2 マクロ経済学の課題について
			3 家計の消費・貯蓄行動
			4 企業の投資行動
			5 企業の資金調達と株価市場
			6 貨幣と経済活動
			7 マクロ経済モデル
評価方法	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。		
テキスト参考文献	福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		

全学共通授業科目	経済学 b (経済政策の基礎理論と課題)	担当者	浜本 光紹
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果について解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和・公共政策・環境政策の効果について講義を行なう。</p> <p>学生は、経済学 a を既習のうえで受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 マクロ経済政策
			2 労働市場と失業
			3 為替レートと経常収支
			4 ミクロ経済学の課題について
			5 需要曲線と供給曲線
			6 社会的余剰の考え方
			7 競争市場と独占
			8 市場の失敗と公共政策
			9 環境政策の理論と実際
評価方法	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。		
テキスト参考文献	経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学については適宜指示する。		

--	--	--	--

--	--	--	--

全学共通授業科目	日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤 一彦
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>憲法学の内、人権分野を中心に講義する。 毎回事例を紹介し、学説・判例の習得を目指す。 なお、六法は必携。出席は一切とらない。</p>	授 業 計 画	<p>1. 講義の説明</p> <p>2. 憲法概念</p> <p>3. 人権の効力範囲</p> <p>4. 法の下での平等</p> <p>5. 宗教の自由</p> <p>6. 学問の自由</p> <p>7. プライバシーの権利</p> <p>8. 報道の自由</p> <p>9. 経済活動の自由（1）</p> <p>10. 経済活動の自由（2）</p> <p>11. 社会権</p> <p>12. 選挙権</p>
	<p>評価方法</p> <p>学期末テストによる。</p>		
	<p>テキスト参考文献</p> <p>加藤・植村編著『現代憲法入門講義』（北樹出版）</p>		

--	--	--	--

全学共通授業科目	日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	古関 彰一
----------	---------------	-----	-------

春学期授業計画

<p><講義目的および講義概要> 日本国憲法の概要を講義することを目的とする。12回の講義であるため、内容的にかなり限られたものとなるが、人権と統治機構の基本的かつ重要と思われる点につき講義する。</p> <p><評価方法> 試験期間中に1回、論述試験を行い、その結果により評価する。</p> <p><テキスト・参考文献> 芦部信喜『憲法・新版・補訂版』 （岩波書店、2001年）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開講にあたって（近代憲法と日本国憲法） 2 日本国憲法の制定過程 3 戦争の違法化の歴史と平和主義 4 基本的人権の歴史 5 人権適用の限界と外国人の人権 6 平等権の概念と男女の平等 7 信教の自由と政教の分離 8 表現の自由の意義と名誉・プライバシー 9 生存権の意義と判例 10 立法機関の法的性格と国政調査 11 司法の独立と違憲法令審査 12 地方自治の性格と条例制定権
--	--

--	--	--	--

--	--	--	--

全学共通授業科目	日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	高佐 智美
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目的および講義概要></p> <p>一見自分たちの生活とは無縁と思われる憲法が、いかに我々の日常生活に密接しているかを、具体的な事例を通して見ていくことにより、憲法の基本的な問題について考察する。</p>	授業計画	1. 第1章 私たちはどこまで自由か
			2. 第2章 対等でありつつ個性的で生きたい
			3. 第3章 心の中は誰にも支配されない
			4. 第4章 伝えたいことがあるんだ
			5. 第6章 セーフティ・ネットのある社会
			6. 第7章 罪と罰の狭間で
			7. 第8章 子どもの権利
			8. 第9章 共に生きる社会をめざして
			9. 第10章 私たちが真の主権者であるために
			10. 第11章 国会と内閣の適切な関係を求めて
			11. 第12章 最後の拠り所は裁判所
			12. 第15章 世界の誰もが平和に生きる権利をもつ
			評価方法
テキスト参考文献	大津他『憲法四重奏』（有斐閣、2002年）		

--	--	--	--

外国語学部共通科目	国際法	担当者	廣部 和也
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	国際法 a (国際社会と私たち)	担当者	廣部 和也
----------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>国際社会の法である国際法の基礎的知識、及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>国際法 a 及び b で国際法の全般を学ぶ予定であるが、1 年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、及び現在、国際関係法で実際に問題になっているようなことが中心となる。</p> <p>テキスト</p> <p>(1) 導入対話による国際法講義 (広部和也・荒木教夫著) 不磨書房</p> <p>(2) 解説条約集・第 10 版 (石本泰雄・小田滋編) 三省堂</p> <p>評価方法</p> <p>試験による。出席等、平常点も考慮する。</p>	授 業 計 画	1	
	2		1. 講義全般に関する注意。 ・国際法の意義・国際法主体 (国家、国際組織、個人)	
	3		2. 国際法の歴史 (国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。)	
	4		3. 国際法の法源 (国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。)	
5	4. 国際法と国内法 (両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。)			
6	5. 国家の成立 (国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。)			
7	6. 国家の基本権 (国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。)			
8	7. 外交使節 (国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除)			
9	8. 国家責任 (国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除)			
10	9. 国際社会の組織化 1 (国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。)			
11	10. 国際社会の組織化 2 (国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。)			
12	11. 個人の地位 (国籍、外交保護権、など)			
	12. 人権の国際的保護 (世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置)			
評価方法				
テキスト参考文献				

全学共通授業科目	国際法 b (国際紛争を考える)	担当者	廣部 和也
----------	------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>国際社会の法である国際法の基礎的知識、及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>講義概要</p> <p>国際法 a 及び b で国際法の全般を学ぶ予定であるが、1 年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、及び現在、国際関係法で実際に問題になっているようなことが中心となる。</p> <p>テキスト</p> <p>(3) 導入対話による国際法講義 (広部和也・荒木教夫著) 不磨書房</p> <p>(4) 解説条約集・第 10 版 (石本泰雄・小田滋編) 三省堂</p> <p>評価方法</p> <p>試験による。出席等、平常点も考慮する。</p>	授 業 計 画	1	1. 国際犯罪 (個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度)
	2		2. 国家領域 1 (国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。)	
	3		3. 国家領域 2 (領海制度と無害通航権)	
	4		4. 公海制度と船舶の通航 (公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り)	
5	5. 大陸棚、排他的経済水域 (大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。)			
6	6. 深海底 (深海底とその資源の法的地位及び開発)			
7	7. 航空機の地位 (航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。)			
8	8. 宇宙法 (宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位)			
9	9. 国際環境の保護 (人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面)			
10	10. 国際紛争の平和的解決 (国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか)			
11	11. 国際裁判 (国際仲裁裁判と国際司法裁判)			
12	12. 安全保障制度 (国連による集団安全保障体制)			
評価方法				
テキスト参考文献				

外国語学部共通科目	政治学	担当者	志摩 園子
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	政治学 a (身近な政治学)	担当者	志摩 園子
----------	----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>複雑多岐な様相を見せる現代社会に生きるわれわれは、そこでおきている混沌とした政治の動きや政治現象を理解し、自分なりの判断を下すことが必要となってくる。そのためには、政治とは何かを考えられるような手がかりを知ることが重要である。</p> <p>本講義は、身近なことから政治の話題を取り上げることとする。新聞やテレビで取り上げられるようなニュースを題材に、政治学の理解へと進めることを目指す。身近な題材から、政治学の専門用語や基本的概念の整理、確認をし、「なぜ」という自分自身の考察の土台作りを促したい。学生の発言、そこから発展した議論などできるだけ学生参加型の授業としたい。</p>	授業計画	1 政治と経済 (組織された集団)
			2 政治と経済 (官と民の関係)
			3 政治と経済 (企業と政治: 陰の支配者を捜せ)
			4 政治と社会 (選挙と政治)
			5 政治と社会 (地方分権)
			6 政治と社会 (マスコミと政治)
			7 政治のしくみ (国会)
			8 政治のしくみ (内閣と総理大臣)
			9 政治のしくみ (官僚)
			10 政治と世界 (冷戦の終わり)
			11 政治と世界 (経済交渉)
			12 政治と世界 (国境を越える政治)
評価方法	出席点、平常点、レポートの総合点		
テキスト参考文献	テキスト: 真淵勝、久米郁男、北山俊哉『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		

全学共通授業科目	政治学 b (参加する政治学)	担当者	志摩 園子
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>われわれ一人一人がその一員である現代社会で、そこに参加していることを自覚することは大事である。学生自らの関心や疑問を政治学への手がかりとして、各自「なぜ」を出発点にそれぞれの関心テーマを見つけ出すことから授業を進めたい。各自の発表の機会を設け、参加学生による議論を促したい。そのためにも、政治学に対するある程度の知識の共有を前提としたいので、前期の政治学(身近な政治学)を受講していることができれば望ましい。ただし、参加する学生の数によって、授業の進行方法は流動的なものとなる。</p>	授業計画	1 身近な政治学
			2 テーマを見つけよう
			3 テーマを見つけよう
			4 テーマの決定
			5 中間発表と議論
			6 中間発表と議論
			7 中間発表と議論
			8 小論への導入
			9 小論への導入
			10 最終発表と討論
			11 最終発表と討論
			12 最終発表と討論
評価方法	出席点、平常点、レポート(小論)の総合点		
テキスト参考文献	なし		

外国語学部共通科目	社会学	担当者	有吉 広介
-----------	-----	-----	-------

全学共通授業科目	社会学 a (産業社会およびグローバル社会)	担当者	有吉 広介
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義目標</p> <p>現代社会の問題は、18世紀後半に起こった産業革命に端を発し、現在も進行する産業化、そして20世紀後半に生れた脱工業化やグローバル化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化と大いに関係がある。講義では、このような諸点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、それに起こる様々な社会問題とを考える。</p> <p>講義概要</p> <p>豊かでゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、職場では能力主義的管理体制の下にサービス残業が行われ、過労死までもがみられる。そこには、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変えてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動化社会、学歴社会、高齢化と少子化、そしてグローバル化などもそうした社会変化の流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業上の問題を含めて、多くの社会問題をどのように作りだしていくのかを説明する。</p> <p>単位を落とした者も継続履修、あるいは次年度再履修してもよい。</p>	授業計画	1 産業社会の出現と社会学の関心
	2 世俗化と合理化		
	3 都市化とコミュニティの衰退		
	4 近代産業社会における工場制生産の仕組み		
5 中央集権化と民主化			
6 組織の官僚制化			
7 産業社会の基本構造			
8 脱工業社会の到来			
9 職業の社会構造 (その1)			
10 同 (その2)			
11 社会のグローバル化			
12 前期講義のまとめ			
評価方法	期末に行う定期試験の結果による。		
テキスト参考文献	講義では毎回、要点をまとめたプリントを配る。参考文献は都度紹介する		

全学共通授業科目	社会学 b (現代社会の構造)	担当者	有吉 広介
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標および概要</p> <p>社会学 (前期) および社会学 a と同じであるが、より具体的な問題を取りあげる。</p> <p>単位を落とした者は次年度再度履修してもよい</p>	授業計画	1 産業社会における教育の構造
	2 日本の近代化と教育の構造		
	3 社会階層：不平等の構造		
	4 その続き		
5 流動化社会の現実			
6 日本の階層構造			
7 少子・高齢化社会			
8 高齢化社会の諸問題			
9 少子社会の諸問題			
10 グローバルな不平等構造			
11 その他グローバル化に伴う社会的現象			
12 まとめ			
評価方法	期末に行う定期試験の結果による。		
テキスト参考文献	講義では毎回、要点をまとめたプリントを配る。参考文献は都度紹介する		

外国語学部共通科目	自然科学特殊講義 A (自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
-----------	----------------------	-----	-------

全学共通授業科目	地理学 a (自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション、地理学とはどのような学問か
			2 自然と人間とのかかわり
			3 環境の諸要素 (1)
			4 環境の諸要素 (2)
			5 環境の諸要素 (3)
			6 熱帯地域 (1) - 自然的特質と伝統的農業
			7 熱帯地域 (2) - アジアの稲作
			8 熱帯地域 (3) - 熱帯の開発と問題 (1)
			9 熱帯地域 (4) - 熱帯の開発と問題 (2)
			10 砂漠地域 (1) - 自然的特質とイスラム
			11 砂漠地域 (2) - 石油資源と近代化
			12 前期のまとめ
評価方法	定期試験および出席状況		
テキスト参考文献	山本正三 (他) 著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		

全学共通授業科目	地理学 b (自然環境と文化)	担当者	秋本 弘章
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>	授業計画	1 温帯地域 (1) 自然的特質
			2 温帯地域 (2) 地中海森林地域
			3 温帯地域 (3) 温帯混交林地帯 (ヨーロッパ)
			4 温帯地域 (4) 温帯混交林地帯 (アジア)
			5 温帯地域 (5) 新大陸
			6 冷帯地域
			7 冷帯地域・寒帯地域
			8 山地地域
			9 世界の環境問題 (1) 人口
			10 世界の環境問題 (2) 食料
			11 世界の環境問題 (3) 温暖化と砂漠化
			12 まとめ
評価方法	定期試験および出席状況		
テキスト参考文献	山本正三 (他) 著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		

--	--	--	--

全学共通授業科目	地理学 a (世界の自然環境と文化)	担当者	犬井 正
----------	--------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、日常生活している環境とは大きく異なる地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション-地理学とはどのような学問か
			2 環境の諸要素(1)地形環境
			3 環境の諸要素(2)気候環境
			4 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式
			5 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題
			6 沙漠地域(1) 自然的特色と伝統的経済活動、沙漠と世界宗教の起源地
			7 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発
			8 亜寒帯森林地域、タイガの中の生活
			9 ツンドラ地域と氷雪地域
			10 山地地域の自然環境
評価方法	定期試験による		11 山地地域の生活様式
テキスト参考文献	山本正三他著『自然環境と文化』		12 自然環境と文化のまとめ

全学共通授業科目	地理学 b (里山と二次林文化)	担当者	犬井 正
----------	------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>近年、全国で「里山保全運動」が広がっている。里山は高度経済成長期前まで、農業や農村生活の再生産を維持し、人と自然の共生関係を育んできた。身近な自然である全国の里山に目を注ぎながら、そのかかわりの履歴を読み解いていく。各地の里山で展開してきた二次林文化を明らかにし、里山の豊かさが時空を超えて存在してきたことを明らかにし、「身近な自然を守る」ということはどのような意味をもつのか、里山での文化を、持続可能な社会システムを作る原理として現代の人々が何を学び取るべきかなどを考えていく。</p>	授業計画	1 里山とは何か
			2 里山と雑木林
			3 里山の自然史-氷期以降の自然
			4 里山と生物の多様性(1)
			5 里山と生物の多様性(2)
			6 里山と農村生活
			7 里山と農業
			8 里山の諸相
			9 里山と二次林文化-循環型社会の原像
評価方法	定期試験による		10 里山の開発-東洋のアルカディアの崩壊
			11 里山保全-身近な自然を守るとは
テキスト参考文献	テキスト: 犬井 正『里山と人の履歴』(新思索社)		12 まとめ-市民による里山保全活動

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A (女性学)	担当者	井上 たかこ
-----------	-----------------	-----	--------

全学共通授業科目	女性学 a (女性学と女性の歴史)	担当者	井上 たかこ
----------	-------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>日本で女性学が市民権を得たのは四半世紀前の1978年である。女性学はどのようにして誕生したのだろうか。また、その前後で女性の状況はどのように変化したのだろうか、その歴史をたどる。</p> <p>女性学とは、簡単に言えば、社会が女性について形作っているイメージや社会のなかで女性の占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていく助けになっているものを明らかにして、社会を変革しようとするものである。</p> <p>したがって、女性学は机上の空論ではなく、個人の生き方に関係する学問であり、ひとり一人が自分で自分の生き方や男女の関係について考えなければ意味がない。</p> <p>登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを公表してもらいながら、進めたい。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	毎回提出してもらう短い感想と学期末のレポートによる。		11
テキスト参考文献	適宜資料を配布する。		12

全学共通授業科目	女性学 b (女性学と女性の現状)	担当者	井上 たかこ
----------	-------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>女性学とは、簡単に言えば、社会が女性について形作っているイメージや社会のなかで女性の占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていく助けになっているものを明らかにして、社会を変革しようとするものである。</p> <p>その意味で、女性の現状を知ることは重要である。家庭生活・教育・職業・政治参加などさまざまな分野での女性の状況と問題点を検討し、女性が自分らしく生きていくために、これからの社会はどう変わっていくべきかを考える。</p> <p>女性と社会の関係が変わるということは、必然的に男性と社会の関係も変わるから、男性にとっても無関係ではあり得ない。</p> <p>登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを公表してもらいながら、進めたい。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	毎回提出してもらう短い感想と学期末のレポートによる。		11
テキスト参考文献	適宜資料を配布する。		12

外国語学部共通科目	数学	担当者	福井 尚生
-----------	----	-----	-------

全学共通授業科目	数学 a (微分学)	担当者	福井 尚生
----------	------------	-----	-------

講義の目的	<p>① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。</p> <p>② 『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する微分学を扱います。「微分学」は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底を扱うのが得意です。</p> <p>③ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から身近な現象の変化の様子を逆に探ります。</p>	講義の概要	<pre> graph TD A[微分学] --> B[関数・逆関数] A --> C[極限] A --> D[微分] B --> E["有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数"] C --> F["極限值 Achilles と亀 0.9 = 1"] D --> G["常微分・偏微分 最小二乗法"] </pre>	
	評価方法			① 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらおう、課題用紙の中身です。
	参考文献			① 『数学読本』 松坂 和夫 著・岩波書店

全学共通授業科目	数学 b (積分学)	担当者	福井 尚生
----------	------------	-----	-------

講義の目的	<p>① 『数学 b』は『数学 a』の単位を修得した学生だけが履修出来ます。</p> <p>② 『数学 b』では、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分・微分方程式」を扱います。</p> <p>③ 身近な現象の数学モデルに現れる変数の発展を辿り、具体的な行動・未来予測などに挑戦します。</p>	講義の概要	<pre> graph TD A[積分学] --> B[積分] A --> C[微分方程式] B --> D["∫ f(x)dx"] C --> E["f(x, y', y'') = 0"] D --> F["不定積分 初期条件 部分積分法"] E --> G["変数分離形 (人口問題) 1階線形 (美術品の贋作) 2階線形 (ロケットの飛行)"] </pre>	
	評価方法			① 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらおう、課題用紙の中身です。
	参考文献			① 『微分方程式で数学モデルを作ろう』 垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論者

外国語学部共通科目	物理学	担当者	東 孝博
-----------	-----	-----	------

全学共通授業科目	物理学 a (特殊相対論の世界)	担当者	東 孝博
----------	------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>物理学 a (前期) では、特殊相対論の内容、光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等を取りあげる。</p> <p>注意 1 限の授業ですが、遅刻は他の人の迷惑となりますので厳禁です。 「講義支援システム」を利用して、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加してください。</p>	授業計画	1 はじめに
			2 相対性原理
			3 電磁気と光速度
			4 光速一定の原理
			5 「光とアインシュタイン」
			6 同時概念の相対性
			7 時間概念の相対性
			8 空間概念の相対性
			9 「時を刻む」
			10 「浦島効果」と「双子のパラドックス」
評価方法	日常の授業への参加態度、毎回かまたは 3～4 回の授業レポートで評価をつける予定。		11 ローレンツ変換
テキスト参考文献	テキストはとくになし。 参考書は適宜紹介する。		12 4次元不変量

全学共通授業科目	物理学 b (一般相対論の世界)	担当者	東 孝博
----------	------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>物理学 b (後期) では、一般相対論の内容、等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等を取りあげる。</p> <p>注意 1 限の授業ですが、遅刻は他の人の迷惑となりますので厳禁です。 「講義支援システム」を利用して、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加してください。</p> <p>物理学 a (前期) 成績不可の者は登録不可。</p>	授業計画	1 等価原理
			2 一般相対性原理
			3 重力の幾何学化
			4 Einstein 方程式
			5 時空の歪み
			6 Schwarzschild 解
			7 「ブラックホールを探る」
			8 Friedmann 解
			9 宇宙の空間的・時間的広がり
			10 ビッグバン宇宙
評価方法	日常の授業への参加態度、毎回かまたは 3～4 回の授業レポートで評価をつける予定。		11 宇宙論上の諸問題
テキスト参考文献	テキストはとくになし。 参考書は適宜紹介する。		12 地球外文明

外国語学部共通科目	自然科学特殊講義 A (化学)	担当者	和田 浩志
-----------	-----------------	-----	-------

全校共通授業科目	化学 a (自然と環境の化学)	担当者	和田 浩志
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>【目的】 自然界の仕組みや人間活動を見渡しなが ら、自然保護や環境問題などを化学の面 から理解し、解決する方法を探る。</p> <p>【講義概要】 我々の身近にあるさまざまな化学物質 について、時には簡単な実験を行いなが ら、構造式を含めた特徴や共通性、特殊 性などを講義する。 また、新聞や雑誌などで話題になって いる物質についても適宜取り上げる。</p> <p>化学 b とはお互い補う部分もあるので、 化学 b も受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 講義内容と受講上の注意
			2 水の特性と生命との関係
			3 水溶液とその性質
			4 洗剤の歴史と特性
			5 界面活性剤について
			6 大気汚染と酸性雨
			7 地球温暖化とオゾン層破壊
			8 内分泌かく乱化学物質 (環境ホルモン)
			9 農薬と身近な毒物
			10 花と紅葉の色素
評価方法	出席回数、各種レポート、受講態度、定期試験の結果を総合して判断する。		11 物質を介した生物間の相互作用
テキスト参考文献	テキスト：プリントを適宜配付する。 参考書：渡辺 啓著『日常の化学』サイエンス社		12 まとめ

全校共通授業科目	化学 b (生命と健康の化学)	担当者	和田 浩志
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>【目的】 人間の体に直接関係するさまざまな物質 について、その役割や有用性、有害性を正 しく理解するとともに、日常生活に役立 てる方法を探る。</p> <p>【講義概要】 栄養物、味や香り・色に関係する物質、 健康に関係する物質、医薬品や毒物につ いて、時には味わうなどしながら、構 造式を含めた特徴と共通性、特殊性な どを講義する。 また、新聞や雑誌などで話題になって いる物質についても適宜取り上げる。</p> <p>化学 a とはお互い補う部分もあるので、 化学 a も受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 講義内容と受講上の注意
			2 栄養の化学 (1)：炭水化物
			3 栄養の化学 (2)：脂質とタンパク質
			4 味の化学 (1)：天然甘味物質
			5 味の化学 (2)：人工甘味料、味覚変革物質、 苦味物質など
			6 香辛料の化学
			7 お茶とポリフェノールの化学
			8 着色料の化学
			9 毒と薬の化学 (1)：天然毒と人工毒
			10 毒と薬の化学 (2)：麻薬、覚せい剤、幻覚 剤など
評価方法	出席回数、各種レポート、受講態度、定期試験の結果を総合して判断する。		11 毒と薬の化学 (3)：漢方薬と合成薬
テキスト参考文献	テキスト：プリントを適宜配付する。 参考書：渡辺 啓著『日常の化学』サイエンス社		12 まとめ

外国語学部共通科目	生物学 A	担当者	加藤 僖重
-----------	-------	-----	-------

全校共通授業科目	生物学 a (植物を分類する)	担当者	加藤 僖重
----------	-----------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>登録先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学には A と B があるが、同年度は勿論、年度を異にしてもどちらか一方しか履修できない。 生物学 a, b の両方を履修するのが望ましい。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学の基礎は材料となる種の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物の進化を知ること为目标とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物名に関心があること。 身近な 100 種の植物を認識できない学生は履修を認めない。 	授業計画	1 はじめに：簡単な植物テストと講義の説明
			2 種名：植物の地方名と学名
			3 人為分類 1：名前の付け方
			4 人為分類 2：分類の仕方
			5 二命名法：学名とは（ラテン語の基礎）
			6 科とは何か
			7 Taxon(Taxa)の認識
			8 自然分類 1：植物の進化 1 パラ科
			9 自然分類 2：植物の進化 2 ユリ科
			10 進化と系統 1：生活史を考ええる
			11 進化と系統 2：節型の進化
			12 まとめ
評価方法	授業中のテスト、レポート、定期試験など		
テキスト参考文献	授業中に説明する		

全校共通授業科目	生物学 b (植物の分布)	担当者	加藤 僖重
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学には A と B があるが、同年度は勿論、年度を異にしてもどちらか一方しか履修できない。 生物学 a, b の両方を履修するのが望ましい。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること为目标とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、地理が好きであること。 身近な 100 種の植物を認識できない学生は履修を認めない。 	授業計画	1 はじめに：産業革命の影響 リンネの弟子がヨーロッパにもたらしたもの
			2 ヨーロッパと日本の植生：氷河下の化石の森
			2 北米と日本の植生：ペリー艦隊が植物地理学にどんな影響をあたえたか
			4 プラントハンターの役割
			5 固有種の紹介
			6 温量指数と乾湿指数
			7 古赤道分布説と植物の進化 1
			8 古赤道分布説と植物の進化 2
			9 日本の植物 1 北方系・南方系の植物
			10 日本の植物 2 日本海側・太平洋側の植物
			11 カンアオイとギフチョウの平行進化
			12 まとめ
評価方法	授業中のテスト、レポート、定期試験など		
テキスト参考文献	授業中に説明する		

外国語学部共通科目	地学	担当者	福井 尚生
-----------	----	-----	-------

全学共通授業科目	地球科学 a (太陽系天文学)	担当者	福井 尚生
----------	-----------------	-----	-------

<p>講義の目的</p> <p>☀ 『天文』とは「天」から届く「文」のことです。『天文学』とは宇宙から届く手紙を解読する学問です。</p> <p>☀ 『地球科学 a』は「太陽系」についての『天文学』です。天文屋は地球上の自然法則が「太陽系」をも司っていることを知りました。</p> <p>☀ 地球も「太陽系」の一員であることの自覚が生まれればと思います。</p>	<p>講義の概要</p>
評価方法	☀ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、課題用紙の中身です。
参考文献	☀ 『天文学への招待』 岡村 定矩 編集・朝倉書店

全学共通授業科目	地球科学 b (銀河系天文学)	担当者	福井 尚生
----------	-----------------	-----	-------

<p>講義の目的</p> <p>★ 『地球科学 b』は『地球科学 a』の単位を修得した学生だけが履修出来ます。</p> <p>★ 『地球科学 b』は「銀河系」についての『天文学』です。天文屋は「太陽系」までの自然法を用いて恒星や天の川にまで考察を広げ、自然法則の統一・普遍化に努めています。</p> <p>★ 現有知識で未知の世界を探り、独自の世界が未来に開かれればと思います。</p>	<p>講義の概要</p>
評価方法	★ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、課題用紙の中身です。
参考文献	★ 『教養のための天文学講義』 米山 忠興 著・丸善

外国語学部共通科目	保健体育講義	担当者	青柳 多恵子
-----------	--------	-----	--------

全学共通授業科目	健康科学 a (東洋の健康哲学)	担当者	青柳 多恵子
----------	------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>少子高齢化の急激な進展の中で、生物（人間）が健やかに生きる事の意味と、自己の生涯健康計画の基軸となるよう、自然・環境・身体を古代の人々の文献から検索し、現代の科学との接点に注目していく。また「健康」そのものが時代の流れと、背景による大きな変化に左右されやすいことを理解する</p> <p>講義概要</p> <p>現代生活での不健康と健康の意識的違い、文明の発達と健康のあり方、地球環境の見えない変化と生物・社会構造とストレス・疾病との関連。21世紀に社会的に考察していかななくては行けない事、個人で確保し考察・実施しなくては行けない意識的変革を「健康」をもとに分析・考察・実施計画する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1、健康と疾病にみる歴史と世界事情 2、時代と健康意識の変遷 3、不健康の定義と社会構造 4、精神構造と健康 5、環境と健康 6、生物の自然治癒能力と人間の知識（知恵） 7、生・老・死の捉え方（時代・国・性） 8、健康に関する文献を検証してみる 9、日本人の古来の健康感と現代生活 10、近代の疾病推移と生活 11、寿命と健康 12、情報・教育の必要性 	
	評価方法		・出席を重視しテスト・レポート提出	
	テキスト参考文献			

全学共通授業科目	健康科学 b (東洋の健康哲学)	担当者	青柳 多恵子
----------	------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>少子高齢化の急激な進展の中で、生物（人間）が健やかに生きる事の意味と、自己の生涯健康計画の基軸となるよう、自然・環境・身体を古代の人々の文献から検索し現代の科学との接点に注目していく。また「健康」そのものが時代の流れと、背景による大きな変化に左右されやすいことを理解する</p> <p>講義概要</p> <p>現代生活での不健康と健康の意識的違い、文明の発達と健康のあり方、地球環境の見えない変化と生物・社会構造とストレス・疾病との関連。21世紀に社会的に考察していかななくては行けない事、個人で確保し考察・実施しなくては行けない意識的変革を「健康」をもとに分析・考察・実施計画する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1、健康と疾病にみる歴史と世界事情 2、時代と健康意識の変遷 3、不健康の定義と社会構造 4、精神構造と健康 5、環境と健康 6、生物の自然治癒能力と人間の知識（知恵） 7、生・老・死の捉え方（時代・国・性） 8、健康に関する文献を検証してみる 9、日本人の古来の健康感と現代生活 10、近代の疾病推移と生活 11、寿命と健康 12、情報・教育の必要性 	
	評価方法		・出席を重視しテスト・レポート提出	
	テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	保健体育講義	担当者	梶野克之
-----------	--------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション学 a (身体運動と生体の生理的変化)	担当者	梶野克之
----------	----------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目標 生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。この課題のために、スポーツ・レクリエーションに関する情報を理解する。	授業計画	1. 講義概要の全般的な説明と、運動と換気量・酸素摂取量について理解する。
	講義概要 スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。		2. 運動と呼吸について、酸素負債量、トレーニングと呼吸機能について考える。
	評価方法 授業への出席回数、参加態度、提出物の内容を加味して決定する。		3. 運動と循環のうち、心拍数・拍出量、およびスポーツ心臓について考える。
テキスト参考文献	参考文献 大学保健体育研究会編『大学生の保健と体育』道と書院		4. 運動と循環のうち、心肺持久性の発達と、運動不足と心臓について理解する。
			5. 運動と筋肉について、その種類と構造や、筋収縮のエネルギー源について考える。
			6. 運動と筋肉のうち、筋の機能と筋力トレーニングについて理解する。
			7. 運動と神経系について考え、伝導路についても理解を深める。
			8. 運動と疲労について、その概念や原因について考える。
			9. 体力の概念について理解し、また体力の意味や内容について理解する。
			10. 体力とトレーニングについて理解する。ウエイト・トレーニングを理解する。
			11. トレーニングのうち、サーキット・トレーニングについて考える。
			12. トレーニングのうち、インタバル・トレーニングについて理解を深める。

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション学 b (トレーニングの科学的基礎)	担当者	梶野克之
----------	---------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目標 生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。この課題のために、スポーツ・レクリエーションに関する情報を理解する。	授業計画	1. 講義概要の全般的な説明と、トレーニングの定義・効果を決定する因子を考える。
	講義概要 スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。		2. トレーニング効果が生じる運動の条件や競技成績とトレーニングについて解説する。
	評価方法 授業への出席回数、参加態度、提出物の内容を加味して決定する。		3. 成長段階に応じたトレーニングと基本の動作を身に付ける必要性について考える。
テキスト参考文献	参考文献 宮下充正著 ブックハウス HD『トレーニングの科学的基礎』		4. 最大酸素摂取量の発達について考え、年齢に応じたトレーニングについて理解する。
			5. 筋肉の構造と活動のメカニズムおよび運動を引き起こす力について考える。
			6. 筋活動の様式と力の大きさ、関節角度と発揮される力について理解を深める。
			7. 筋肉の活動をもたらす興奮・収縮関連と運動神経の筋線維支配について考える。
			8. 運動神経を興奮させる脳と、筋肉の活動のためのエネルギーについて理解する。
			9. 筋線維の種類と筋線維組成について理解し、筋繊維組成とスポーツ種目について考える。
			10. 速筋線維の動員について考え、運動の種類と筋線維の動員について理解する。
			11. 筋線維の代謝について理解し、運動強度と酸素摂取量について考える。
			12. 最大酸素摂取量と呼吸機能について考え、循環機能の影響を理解する。

外国語学部共通科目	保健体育講義	担当者	和田智
-----------	--------	-----	-----

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション学 a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田智
----------	---	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>[講義目的] 健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践のしかたを考える。</p> <p>[講義概要] 前期には、我々を取り巻く、自由時間、健康、スポーツなどの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりや楽しみのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。 5名程度のグループにわけ、それぞれのグループでグループレポートをまとめてもらいます。また、いくつかのグループにはプレゼンテーションをしてもらう。 積極的にインターネットを利用するので、ブラウザを操作する・Eメールを送る等の知識はつけておいてください。</p>	授業計画	1オリエンテーション
			2あなたの自由時間の現状
			3レジャーとレクリエーション
			4古典的解釈から知るレジャー
			5人生80年時代のレジャー
			6クオリティオブライフとレジャー
			7自由時間に関わるトピック1
			8自由時間に関わるトピック2
			9自由時間に関わるトピック3
			10学生プレゼンテーション
評価方法	出席状況(40%)、テストの結果(40%)、レポート・プレゼンテーション(20%)で評価する。		11学生プレゼンテーション
テキスト参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。 中野孝次、「清貧の思想」、草思社。 ミヒヤエル・エンデ(大島かおり訳)、「モモ」、岩波書店。		12学生プレゼンテーション まとめ

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション学 b (最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	担当者	和田智
----------	--	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>[講義の目的] 健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践のしかたを考える。</p> <p>[講義概要] 前期には、我々を取り巻く、自由時間、健康、スポーツなどの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりや楽しみのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。 5名程度のグループにわけ、それぞれのグループでグループレポートをまとめてもらいます。また、いくつかのグループにはプレゼンテーションをしてもらう。 積極的にインターネットを利用するので、ブラウザを操作する・Eメールを送る等の知識はつけておいてください。</p>	授業計画	1自分の体について知ろう： 身体計測、体力測定についてのガイダンス
			2計測結果をどのように見るか：
			3肥満について
			4運動しないとどのようなになってしまうか
			5運動と栄養について
			6トレーニングについて
			7筋力トレーニングについて
			8エアロビクストレーニング
			9健康・スポーツに関するトピック
			10学生プレゼンテーション
評価方法	出席状況(40%)、テストの結果(40%)、レポート・プレゼンテーション(20%)で評価する。		11学生プレゼンテーション
テキスト参考文献	特になし。		12学生プレゼンテーション

外国語学部共通科目	言語学	担当者	伊豆山 敦子
-----------	-----	-----	--------

全学共通授業科目	ことばと思想 (I I I) (言語音の構造 a)	担当者	伊豆山 敦子
----------	-----------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	人間の思考を形成する言語の、音声面に関する講義である。 人間の言語音にはどのようなものがあるか。それらは、どのような構造をなしているのか。その調音機構を考察し、調音・聴取の訓練をする。そしてその表記方法を習得する。 人間の音声認識の仕組みを考えることは、言語による思考形成を考える基礎である。 無意識に習得した各自の第一言語の、音声面に対する客観的な認識を得て、その上で、第二言語の習得や、言語の研究・教育などに役立てることを目標とする。 国際音声字母表を用いながら説明する。それを理解し、使用できるようになることが求められる。 受講者の人数にもよるが、音声学的訓練を主としたい。	授業計画	1 音声学とは。
			2 調音器官
			3 有声・無声。鼻腔。口腔。
			4 母音
			5 摩擦音と閉鎖音
			6 両唇閉鎖音
			7 両唇摩擦音
			8 唇歯音
			9 歯・歯茎閉鎖音
			10 歯・歯茎摩擦音
			11 破擦音
評価方法	授業への参加、授業中随時行なう聴取テスト、期末筆記テスト、これらの総合による。		12 テスト 聴取テストと筆記テスト
テキスト 参考文献	小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林 参考文献:川上泰「日本語音声概説」(1977)		

全学共通授業科目	ことばと思想 (I I I) (言語音の構造 b)	担当者	伊豆山 敦子
----------	-----------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	特別の事情がある場合を除き、春学期の講義(言語音の構造 a)の受講を前提とする。 言語音の体系を学ぶ。人間の言語音にはどのようなものがあるのか。その調音機構を考察し調音聴取の訓練をし、その表記方法を習得する。 言語音の単位がどのような体系で、どんな構造をもっているかを理解する。 国際音声字母表を理解し、大学で習得する外国語の音声面に関する理解を深める。 更に、音声単位が各言語で果たしている機能にも触れる。	授業計画	1 前期講義内容の概要
			2 硬口蓋音
			3 軟口蓋音
			4 口蓋垂音
			5 側面音
			6 ふるえ音・はじき音
			7 接近音
			8 副次調音
			9 鼻母音
			10 日本語の音素
			11 日本語の音素
評価方法	授業内容への積極的参加、随時行なう聴取テスト、期末筆記テスト、これらの総合による。		12 テスト 聴取テストと筆記テスト
テキスト 参考文献	小泉保「音声学入門」(1996) 大学書林 風間喜代三 et al. 「言語学」(1993) 東大出版会		

外国語学部共通科目	日本語学概論	担当者	金田一 秀穂
-----------	--------	-----	--------

全学共通授業科目	ことばと思想 (III) (思想を形づくるもの)	担当者	金田一 秀穂
----------	--------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>私たちの考えは、多く、日本語に依っている。 日本語の形を知ること、思想の形にせまりたい。</p>	授業計画	1. 日本語句の領域
			2. 音声から見た日本語
			3. 音声から見た日本語
評価方法	試験		4. 音声と語彙
			5. 語彙論の方法
			6. 語彙の分類
テキスト参考文献			7. 借用語
			8. 語彙の構成
			9. 語彙の生成
			10. 語彙と文法
			11. 文の形
			12. 文の分類

全学共通授業科目	ことばと思想 (III) (思想を伝えるもの)	担当者	金田一 秀穂
----------	-------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>思想を伝えるときの言葉は、どのようなものがあるのか。意味は、どのように伝えられているのか。 言葉から考えを作るとして、その限界と可能性を探りたい。</p>	授業計画	1. 意味の種類
			2. 音声と意味
			3. 表記と意味
評価方法	試験		4. 文体的意味
			5. 状況的意味
			6. 辞書的意味
テキスト参考文献			7. 認知的意味,分類
			8. 認知的意味,比喩
			9. 発話の意味
			10. 思考と言葉
			11. 言語行動へ
			12. まとめ

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義 B (西洋哲学史)	担当者	谷口 郁夫
-----------	--------------------	-----	-------

全学共通授業科目	ことばと思想 (I I I) (悪の思想史)	担当者	谷口 郁夫
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>これを書いている時点で、今月から来月中にもアメリカはイラクを攻撃しようとしています。ブッシュ大統領によれば、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、イラクの三カ国が「悪の枢軸国」だそうです。イラクの次はイスラム世界唯一の核保有国であるパキスタンが攻撃目標とされる可能性も出てきました。</p> <p>欧米人の欠点と言えるでしょうが、彼らは物事を単純に善と悪に分類する傾向があります。いわゆるグローバル化によって、価値観の単一化が進んではいますが、実際にはそれほど単純なものではないことは明らかです。文化によって「悪」と判断される物事が違っていることは誰もが知っています。にもかかわらず、善と悪という判断そのものは必ず存在します。つまり、具体的内容は違っても、概念としての善悪はすべての文化に存在するのです。このような観点から、「悪」の概念に迫ることがこの講義の目的です。</p>	授業計画	1 「悪」の思想全般に関する問題点
			2 古代ギリシャにおける人間観
			3 ユダヤ・キリスト教的「悪」の思想
			4 西洋思想における性善説と性悪説
			5 アダム・スミスの『道徳感情論』
			6 フロム『悪について』1
			7 フロム『悪について』2
			8 関係性としての人間、関係性の破壊としての悪について
			9 キルケゴール『死にいたる病』
			10 関係性としての人間、閉鎖性としての悪について
			11 これまで展開してきた議論が現実に対して適用可能であるかどうかについて考察します
			12 予備、もしくは試験を行ないます
評価方法	受講者が多い場合には試験、少ない場合にはレポートによる評価		
テキスト参考文献	プリントは講義担当者が準備します。HP を開設し、参考文献はそちらから配布します。		

--	--	--	--

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義 B (哲学思想史)	担当者	谷口 郁夫
-----------	--------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	
評価方法			
テキスト参考文献			

全学共通授業科目	ことばと思想 (III) (ニヒリズムの克服と生きる意味)	担当者	谷口 郁夫
----------	-------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>生きることに意味はあるのか、これは時としてわれわれが突きつけられる問いです。ニーチェは「神の死」とともに、20世紀はニヒリズムの世紀になると予言しました。その予言は的中したと言わざるをえないでしょう。また、ご存知のように、日本は自殺大国です。最近では、毎年、三万人以上の人々が自殺します。前期同様、文学者、心理学者、思想家などの著作を取り上げながら考察を進めますが、その過程のなかで、受講者に自分自身について考えていただくことが、この講義の目的です。資料を多く準備していますが、まず自分で考えるという姿勢で臨んでください。</p>	授業計画	1 生きることの意味について一般論として論じます
			2 ニーチェにおける「ニヒリズム」という言葉の意味を時代背景とともに考察します
			3 カミュ『シーシュポスの神話』を取り上げます
			4 ドストエフスキーの『悪霊』の登場人物、特にキリーロフの思想を取り上げます
			5 前回の続き。
			6 フロム「自由からの逃走」を手がかりに、現代社会について考えます
			7 ニーチェにおける「神の死」の宣告
			8 ニーチェにおける超人思想、永劫回帰思想などについて
			9 ニーチェにおける「運命愛」の思想
			10 フランクルの「夜と霧」を取り上げます
			11 フランクルの生きる意味、ニヒリズムの克服などについて考察します
			12 予備、もしくは試験を行ないます
			評価方法
テキスト参考文献	プリントは講義担当者が準備します。HP を開設し、参考文献はそちらから配布します。		

外国語学部共通科目	心理学	担当者	玉井 寛
-----------	-----	-----	------

全学共通授業科目	ことばと思想（III）（心理社会的能力の向上と課題）	担当者	玉井 寛
----------	----------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>本講義では心理学の基礎から発展させて個人の社会的場面での行動や特徴を考える。個人の誕生から成長の過程で変化する様子を様々な角度からみていく。能力や情緒、身体的発達、社会的場面における人間関係などで形成される心身の向上などを考察する。個人の成長や発達はいろいろな集団場面で影響しあう中で獲得していくものであり、具体的なケースの紹介を進めてみたい。</p> <p>履修条件：秋学期と連動した内容で講義を進めます。本学では個人の発達、向上を視点に講義を進めますが、それらは秋学期における授業とも関連性を持たせます。合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 心理社会的能力
			2 人間行動
			3 性格と知能—1
			4 性格と知能—2
			5 感情的世界—1
			6 感情的世界—2
			7 人間発達—1
			8 人間発達—2
			9 社会的役割と行動—1
			10 社会的役割と行動—2
評価方法	試験結果、レポートに出席回数を加味します		11 集団と個人—1
テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します		12 集団と個人—2

全学共通授業科目	ことばと思想（IV）（心理検査—調査法と社会的適応）	担当者	玉井 寛
----------	----------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>本講義では心理検査の具体的使用を想定しながら進める。自分と他人をよりよく理解するプロセスを検査という道具で行う。各種の検査と利用場面を様々な角度からみていく。能力や性格、社会的場面における人間関係などを受講者自身が受けた検査を介して考察する。また個人のこころの健康や集団場面で影響される具体的な内容を紹介する。</p> <p>履修条件：春学期と連動した内容で講義を進めます。本学では心理検査の使用法を通して個人や社会集団の理解につなげる。それらは春学期における授業とも関連性を持たせます。合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 心理調査
			2 性格検査—1
			3 性格検査—2
			4 性格検査—3
			5 知能検査
			6 集団意識調査
			7 こころの健康
			8 ストレスチェック
			9 家族関係調査
			10 進路適性
評価方法	試験結果、レポートに出席回数を加味します		11 キャリア開発
テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します		12 社会的適応

外国語学部共通科目	日本語教育概論	担当者	中西家栄子
-----------	---------	-----	-------

全学共通授業科目	ことばと思想（III）（外国語としての日本語教育）	担当者	中西家栄子
----------	---------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、語学教育や日本語を教えることに興味のある学生に広く受講してもらいたい。	授 業 計 画	1 オリエンテーション・日本語授業の実際（ビデオ）
	1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。		2 日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育
	2. 外国人に日本語を教えるということはどういうことかを知る。		3 外国語教授法の紹介と基礎理論
評価方法	(1) 試験 (2) レポート (3) 出席率 (欠席4回以上はF評価とする)		4 続き
テキスト参考文献	高見沢孟『はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』（アルク）、プリント		5 日本語教育の歴史・世界の中の日本語
			6 外国語としての日本語（1）
			7 外国語としての日本語（2）
			8 外国語としての日本語（3）
			9 外国人の日本語
			10 外国人の日本語
			11 海外における日本語教育
			12 まとめ

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
	評価方法			11
	テキスト参考文献			12

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義 B (通訳文化論)	担当者	永田 小絵
-----------	--------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	ことばと思想 (III) (通訳論)	担当者	永田 小絵
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	通訳の原理、目的、種類、役割について理解を深めることを目標とします。	授業計画	1 授業ガイダンス
			2 通訳の原理 (1)
			3 通訳の原理 (2)
			4 通訳の種類と目的 (1)
			5 通訳の種類と目的 (2)
			6 通訳の課題
			7 世界の通訳教育
			8 通訳の歴史 (1)
			9 通訳の歴史 (2)
			10 職業としての通訳 (1)
			11 職業としての通訳 (2)
			12 通訳の実例研究
評価方法	期末テストにより評価する。		
テキスト 参考 文献	最初の授業で講義資料をダウンロードするサイトのアドレスを知らせますので、各自ダウンロードしてください。		

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義 B (イタリア音楽史)	担当者	園田 みどり
-----------	----------------------	-----	--------

全学共通授業科目	歴史と文化 (III) (イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり
----------	------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	イタリアの音楽史を概観します。同時に、西洋音楽史についての基本的な知識を習得することも目指します。	授業計画	1 西洋音楽史入門：グレゴリオ聖歌と中世の音楽
			2 「イタリア音楽史」の始まり：14世紀の音楽
			3 15世紀フィレンツェの祝祭音楽について：メディチ家の芸術保護活動
			4 ルネサンス音楽とバロック音楽の違い：モンテヴェルディを例として
			5 ヴァイオリンの誕生と器楽の発展
			6 ヴィヴァルディの協奏曲：《四季》を中心に
			7 オペラ序曲から交響曲へ：サンマルティーニの初期交響曲
			8 パガニーニとロマン派の音楽
			9 ヴェルディとイタリア国家統一運動
			10 プッチーニとオリエンタリズム
			11 プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
			12 イタリアの映画音楽

評価方法	出席と学期末試験の結果によって評価します。
------	-----------------------

テキスト等	初回の授業で指示します。
-------	--------------

--	--	--	--

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義 B (イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
-----------	-----------------------	-----	--------

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

全学共通授業科目	歴史と文化 (III) (イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり
----------	------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観します。	授業計画	1 オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜
			2 オペラ誕生：初期の試み
			3 バロック・オペラの台本
			4 バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力
			5 バロック・オペラと劇場
			6 ロッシーニの世界
			7 ロマン派のイタリア・オペラ：ベッリーニとドニゼッティ
			8 ロマン派のイタリア・オペラ：ヴェルディ登場
			9 イタリア・オペラの形式：独唱と二重唱の場合
			10 イタリア・オペラの形式：フィナーレの場合
			11 新しい形式：ヴェルディ晩年のオペラ
			12 ヴェリズモ・オペラとプッチーニ

評価方法	出席と学期末試験の結果によって評価します。
------	-----------------------

テキスト等参考文献	初回の授業で指示します。
-----------	--------------

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義A (日本近代史)	担当者	中村 粂
-----------	-------------------	-----	------

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (近代日本の戦争-その歴史と遺産 a)	担当者	中村 粂
----------	-----------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義概要 歴史教科書や靖國神社参拝で事毎に内政干渉してくる国があるが、国が違えば歴史観が異なるのは当然で、それを不快とするのは自らの独善偏狭を告白するに等しい。これに対して我国がひたすら弁解・謝罪に終始してきたのは独自の歴史観なきが故である。本講は日本人としての立場と論理で近代日本の対外行動、特に大東亜戦争の深い歴史的背景と諸原因並びにその歴史的意味、更にはそれがアジアに残した正負の遺産について講述する。学生諸君の歴史観形成に寄与する所あらば幸いである。但し一部の外国人学生にとっては相当聞きづらい講義であることを予め承知されたい。a(前期)は日清・日露戦争から満州事変までを扱う。</p> <p>受講者への希望 始業時には大きな声で挨拶すること。真剣に授業に臨み、授業中の私語飲食等厳禁。茶髪・金髪は感心しない。</p>	授業計画	1 序論 歴史と戦争 平和の条件 東京裁判の錯誤
	2 日清戦争 近代 vs 古代遺制 三国干渉の愚策		
	3 列強の支那蚕食 義和団事変 江東六十四屯事件		
評価方法	平素の勤怠、受講態度、レポート、定期試験。		4 露国の満洲占領 日英同盟 対露交渉
テキスト参考文献	中村 粂『大東亜戦争への道』(展転社)及び『「韓国併合」とは何だったのか』(日本政策研究センター)		5 日露戦争 日本の武士道 ポーツマス条約
			6 日本の勝利に歓呼したアジア 「支那」「中国」の呼称について
			7 日米抗争の源流 満洲の鉄道争覇戦
			8 韓国 保護から併合へ 併合正当不当論
			9 第一次大戦と日本 「二十一ヶ条」問題 シベリア出兵 尼港事件
			10 ワシントン会議 九国条約 日英同盟廃棄
			11 我国の国際協調努力
			12 国際協調の幻想 排日移民法 支那の赤化と革命外交

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (近代日本の戦争-その歴史と遺産 b)	担当者	中村 粂
----------	-----------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義概要 本講義は a (前期) を履修 (単位習得) した者にのみ受講を認める。講義の目的と趣旨は a を参照のこと。</p> <p>今期は前期に引続いて、満洲建国から蘆溝橋事件、支那事変を経て大東亜戦争に至る歴史の歩みを辿りつつ、我国の和平努力が不調に終わった原因を考究し、戦争と平和の分岐点の所在を明らかにしたい。時間が許せば南京事件、慰安婦問題、朝鮮統治にも触れ、大東亜戦争を含む近代日本の対外政策がアジアに残した遺産について考えてゆく。</p>	授業計画	1 満洲事変の背景と原因 鉄道政戦 土地商租権問題
	2 満洲建国 満蒙の独立志向 東陵破壊陵辱事件		
	3 満洲は誰のものか (歴史的に。近代中国指導者の意識に於て)		
評価方法	前期に同じ。		4 熱河作戦 塘沽停戦協定 動揺する北支 冀東・冀察両政權
テキスト参考文献	前期に同じ。		5 コミンテルンと中国共産党の謀略 西安事件の真相
			6 蘆溝橋事件 犯人は誰か 拡大を策した者我が不拡大方針 歴史の歪曲
			7 通州事件 天津事件 中国側資料の語るもの
			8 日本の和平努力 大山海軍中尉惨殺事件 トラウトマン工作 防共戦としての支那事変
			9 「国民政府を相手とせず」 汪精衛 日米関係の悪化
			10 日米交渉 譲歩に次ぐ譲歩 ハルノート 真珠湾は奇襲か
			11 大東亜戦争 東南アジアの独立 大東亜会議 敗因を衝く
			12 朝鮮統治の功罪 アジアに残した正負の遺産

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義A (西洋美術史)	担当者	前川 久美子
-----------	-------------------	-----	--------

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (西洋美術史 a)	担当者	前川 久美子
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から毎回一点ずつ、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、それを中心にさまざまな美術の見方を学びながら、中世から19世紀までの西洋美術史を概観します。</p> <p>授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係付けて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。</p> <p>講義概要や勉強の仕方などは、第一回の授業時間(イントロダクション)にお話します。</p>	授業計画	1 イントロダクション
			2 ルーヴルの歴史と現在
			3 ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』
			4 ヴァン・エイク『ロランの聖母』
			5 ダ・ヴィンチ『モナリザ』
			6 プッサン『四季図』
			7 ルーベンス『メディチ・サイクル』
			8 ボージャン『チェス盤のある静物』
			9 ワトー『シテール島への船出』
			10 アングル『ホメロス礼賛』
評価方法	テストによる。		11 ドラクロワ『民衆を率いる自由』
テキスト参考文献	参考文献は授業中に指示します。		12 (予備)

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (西洋美術史 b)	担当者	前川 久美子
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>15世紀のイタリアとフランドルの絵画について学びながら、さまざまな美術史上の問題について考えます。</p> <p>授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係付けて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。</p>	授業計画	1 イントロダクション
			2 15世紀の美術
			3 15世紀のフィレンツェ美術
			4 マザッチオ作サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂ブランカッチ礼拝堂壁画
			5 遠近法
			6 パトロンと芸術家
			7 パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾
			8 15世紀のフランドル美術
			9 ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画
			10 偽装のシンボリズム
評価方法	テストによる。		11 絵画に包含された鑑賞者
テキスト参考文献	参考文献は授業中に指示します。		12 (予備)

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義 A (異文化との触れ合い)	担当者	水口 章
-----------	------------------------	-----	------

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (中東・イスラム世界と欧米)	担当者	水口 章
----------	--------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	本講義では、グローバル化が進む国際社会にあって、13億の人口を有するイスラム世界がどのような文化的変容をむかえているのかを、歴史的過程を踏まえて考える。そのことで、日本社会とグローバル化を考える上での参考にしてもらいたい。	授業計画	1 異文化接触と文化変容	
			2 イスラム社会の誕生	
			3 イスラム社会の発展とギリシア思想	
	4 イスラム科学技術			
	5 ムスリムの西欧についての知識			
	6 イスラム世界から西欧への技術移転			
	7 西洋の衝撃と中東			
	8 民族主義の台頭			
	9 イスラム主義の台頭			
	10 民主主義とイスラム			
評価方法	出席とポートを2 : 8の割合で評価する			11 イスラムと女性社会
テキスト参考文献	参考文献：『アラビア文化の遺産』(みすず書房)、『ムスリムのヨーロッパ発見』(春風社)			12 人権とイスラム

全学共通授業科目	歴史と文化 (I I I) (移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口 章
----------	--------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	本講義では、交易や民族移動、移民等の人や物の移動を通し生じる異文化接触によって、相互にどのような文化変容が起き、現代的問題に関わっているのかを考えたい。	授業計画	1 異文化交易と文化変容	
			2 交易軸の変化—地中海交易	
			3 交易軸の変化—インド洋交易	
	4 イスラム商人と絹			
	5 香辛料交易とイスラム			
	6 メッカ巡礼と交易			
	7 歴史に見る民族移動—トルコ民族			
	8 歴史に見る民族移動—ユダヤ民族			
	9 イギリスのイスラム移民			
	10 フランスのイスラム移民			
評価方法	出席とポートを2 : 8の割合で評価する			11 ドイツのイスラム移民
テキスト参考文献	参考文献：『異文化間交易の世界史』(NTT出版)、『移民の一万年史』(新評論)			12 米国のイスラム移民

外国語学部共通科目	国際関係論	担当者	阿部 純一
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	現代社会（III）（東アジア国際関係の史的展開）	担当者	阿部 純一
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。	授業計画	1 東アジア国際関係の特質
			2 冷戦の起源と東アジア
			3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦
			4 中ソ対立とベトナム戦争
			5 米中和解の衝撃
			6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理
			7 新冷戦：日米中戦略提携の時代
			8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊
			9 ポスト冷戦の世界
			10 東アジアの台頭
評価方法	筆記試験		11 アメリカ単独覇権の時代
テキスト参考文献	未定		12 （予備日）

全学共通授業科目	現代社会（III）（東アジア国際関係の現状と展望）	担当者	阿部 純一
----------	---------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中という大国の利害が交錯し、かつASEANという地域協力体やAPECという多国間経済協力機構が存在するこの地域は、多国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。	授業計画	1 21世紀の超大国・中国：建国50年の紆余曲折
			2 21世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷
			3 21世紀の超大国・中国：将来への模索
			4 台湾：蒋介石・蔣経国の権威主義時代
			5 台湾：李登輝の民主化路線
			6 台湾海峡めぐる米中関係
			7 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展
			8 韓国：強権政治から民主体制への転換
			9 朝鮮半島を取り巻く国際関係
			10 東南アジア世界の統合：拡大ASEANの問題点
評価方法	筆記試験		11 総括：現代東アジア国際関係の課題
テキスト参考文献	未定		12 （予備日）

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義 A (現代英米社会研究)	担当者	有吉 広介
-----------	-----------------------	-----	-------

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (英国人は階級問題抜きで語れない)	担当者	有吉 広介
----------	-----------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目標 英国人の生活は常に階級絡みで語られる。現代英国人の社会生活および文化を、階級との関連させて社会学的な分析を通して理解する。	授 業 計 画	1 産業革命前の階級関係
	講義の概要 世界の工場といわれた近代英国の資本主義社会を築いた歴史的主体は、そのブルジョア階級であれ、ジェントルマン階級と結びつけた都市の金融資本家であれ、階級的性格を帯びていた。彼らは、この国の伝統と革新を独特な方法で調和させて、近代英国社会を作り出した。またこの国のダイナミックな発展は、それらの階級と労働階級との対立関係において起こった。19世紀末における経営者革命や官僚組織の発達に起源をおく経営者層、中間管理者層、専門・技術者層および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級は、現代英国の中心的な階級である。本講義の主眼は、階級、とくにミドルクラスと結びつけて英国人の生活と文化とを読み取ることを主眼とする。		2 産業革命後の階級関係
	再履修は認める		3 ジェントルマンの勤め
評価方法	期末に求めるレポートの評価による。		4 19世紀末から20世紀にかけての階級関係
テキスト参考文献	毎回、講義の要点に関するプリントを渡す。 参考文献は随時紹介		5 20世紀におけるミドルクラスの日常生活
			6 (5) の補足および20世紀の上流階級
			7 ホワイトカラー階級の発達
			8 下層ホワイトカラー
			9 管理者および専門職階層 : サービス階級と プチブ・ブルジョア階級
			10 英国の教育制度と階級再生産
			11 階級と家庭における子供教育
			12 階級と余暇

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (少子・高齢社会を生きる)	担当者	有吉 広介
----------	------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義目標 21世紀の半ばに、日本の人口が今よりも約2割減少し、国民の3人に1人が65歳以上になる。人口減少と高齢化が同時に進むと、いままでに経験したことのない時代を迎える。これは、個人や家族の在り方から、わが国の経済・政治の社会まで深刻な影響をおよぼす。世の中がどのように変化し、日本人はどんな問題をかかえることになるのか、こうした問題を考えたい。	授 業 計 画	1 少子化社会の到来
	講義概要 少子・高齢社会が起こる原因をまず明らかにし、次に少子化の社会的・経済的影響を調べ、ついで少子化を起こす要因にどのように対処すればよいかを考察するために、現代の家族の形態・機能および家族観の変化、現代の男女あるいは夫婦の関係、および家庭生活の現状をみる。さらに、少子化の問題の解決には地域や職場の環境の整備が必要であることにふれる。		2 少子化への対応
	21世紀に日本は世界一高齢化した社会にもなる。それはなぜかを問うことから始めて、高齢者が現在暮らしている家庭の特徴、老親の扶養問題、高齢者の介護問題、定年のあるサラリーマンにとっての高齢期の生活、高齢者にとっての社会参加の意義を論じる。		3 家族集団および家族観の変化
評価方法	学年末にレポートを書いてもらい、これを評価する。		4 結婚および夫婦生活の現実
テキスト参考文献	毎回、講義の要点および資料に関するプリントを配布する。 参考文献は随時紹介する。		5 地域生活の変化
			6 職場および企業の問題
			7 大衆長寿時代
			8 老親の扶養
			9 高齢者の介護
			10 サラリーマン老人の生活
			11 高齢者と社会参加
			12

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A (社会科学概論)	担当者	堅田 剛
-----------	--------------------	-----	------

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (社会科学概論 a)	担当者	堅田 剛
----------	---------------------------	-----	------

<p>【講義目標および講義概要】 社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。要するに、この世のあらゆる出来事が「社会科学」の対象となるのです。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましよう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。</p> <p>春学期は、テキストとして阿部謹也氏の『学問と「世間」』を用います。同氏は歴史学者ですが、近年、社会を「世間」、科学を「学問」と言い換えることで、西欧からの借り物ではない、日本の歴史に根ざした新しい社会科学を構築しようとしています。</p> <p>講義では、このテキストに即して、日本の社会科学の現状を、阿部氏独特の視点から批判的に捉え返してみます。</p> <p>【評価方法】 学期末に筆記試験をおこないます。さらに自由提出のレポートを受け付けます。 レポートは内容によって0点から20点の範囲で評価し、これを学期末試験の点数に加算します。</p> <p>【テキスト】 阿部謹也『学問と「世間」』岩波新書、2001年</p> <p>参考文献については、必要に応じて授業の中で紹介します。</p>	<p>春学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科学とは何か 2 日本の人文科学者たちはどのようにして養成されてきたか 3 西欧における個人の起源と人文諸科学の展開 4 日本の学問の形と教養概念 5 人文諸科学は他の学問とどのような関係をもっているか 6 大学や大学院では何が行われているか 7 研究と教育はどのようにして支えられているか 8 フッサール現象学における〈生活世界〉とは何か 9 〈生活世界〉の刑法学 10 〈生活世界〉としての学問 11 家政学の現在、〈生活世界〉の中の教養 12 合理的な近代のシステムと歴史的・伝統的システムの狭間で、学問の再編成に向けて
---	--

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (社会科学概論 b)	担当者	堅田 剛
----------	---------------------------	-----	------

<p>【講義目標および講義概要】 社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。要するに、この世のあらゆる出来事が「社会科学」の対象となるのです。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましよう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。</p> <p>秋学期は、テキストとして加藤尚武氏の『戦争倫理学』を用います。同氏は応用倫理学の視点から、戦争と平和についてまさに哲学的な、つまり真の意味で学際的な考察を試みています。</p> <p>講義では、このテキストに即して、戦争の論理と倫理につきタブーを恐れずに論じてみます。「平和」ではなく「戦争」を考えることは、はたして本当の平和につながるのでしょうか。</p> <p>【評価方法】 学期末に筆記試験をおこないます。さらに自由提出のレポートを受け付けます。 レポートは内容によって0点から20点の範囲で評価し、これを学期末試験の点数に加算します。</p> <p>【テキスト】 加藤尚武『戦争倫理学』ちくま新書、2003年</p> <p>参考文献については、必要に応じて授業の中で紹介します。</p>	<p>秋学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科学とは何か 2 戦争に関する正気とは何か、戦争の二種類のルール 3 連続テロに対する報復戦争は正当か 4 国家という猫には誰も鈴をつけられない、アメリカの良心は「ヒロシマ」に「ノー」と言った 5 ゲルニカを忘れないで 6 鈴の兵隊さんはどうして美しい制服を着ているのか 7 カントの「永久平和論」、人は共和国のために命を捧げる 8 戦争をした日本は有罪か 9 不戦条約のパラドックス、「集団的自衛権」は自己矛盾か 10 ガンマンの正義、日本国憲法九条の問題点 11 平和は消極的な状態か 12 予備
---	---

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論)	担当者	柴崎 信三
-----------	---------------------------	-----	-------

全学共通授業科目	現代社会 (III) (歴史の中のメディア)	担当者	柴崎 信三
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>農業社会から産業社会への歴史を経て高度情報社会へ進化する現代を米国の未来学者のアルヴィン・トフラーは「第三の波」としてとらえた。社会を動かす主要な要素がモノから情報へ変化する時代にあつて、その媒介者であるマスメディアと国家や企業、また個人との関係も大きな変化に洗われている。民主主義社会ではテクノロジーの発展とともに影響力を高めたマスメディアが、国家や社会の統治(ガバナンス)を巡って Mass (大衆) への代行機能を果たしてきたが、その役割もコミュニケーションの質と量の変化で形を変えつつある。</p> <p>前期のこの授業では活字印刷から通信、映像の広がり、放送、インターネットなど技術の進化に伴うメディアを介したコミュニケーションの歴史をたどりながら、「私」と「公」をつなぐその役割に変遷を考える。マスメディアの流れを通して、世界の歴史が情報によってどのように動いてきたかをあわせて学びたい。</p>	授業計画	1 はじめに
	2 活字印刷という革命		
	3 ピュリツァーと新聞		
4 ロイターの軌跡			
5 視覚の20世紀			
6 複製技術とアウラの喪失			
7 プロパガンダとメディア			
8 戦争報道と経済情報			
9 テレポリティックス			
10 メガメディアの時代			
11 ディズニーとコンテンツ支配			
12 まとめ			
評価方法	期末の定時試験の成績に、授業への出席状況やレポートの実績を加えて評価する。		
テキスト参考文献	ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』(柏書房)を参考文献とする。		

全学共通授業科目	現代社会 (III) (メディアと現代社会)	担当者	柴崎 信三
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>巨大化とネットという新たな情報技術の広がりやマスメディアとわれわれを取り巻く環境は揺れ動いている。かつてメディアがその機能のよりどころとした「公共圏」という領域は、新たに登場したメディアとの競争や情報産業化の流れの中で衰退を隠せない。メガメディア化はエンターテインメントの優位や政治的な大衆迎合をすすめる反面、言論性やジャーナリズム機能の相対的低下を現実として認めざるを得ない。</p> <p>後期の授業ではこうしたマスメディアの現状をふまえて、メディアを巡って内外で社会が直面している問題を通して、その新たな関係を考えたい。私たちが日頃接している政治や経済、生活や娯楽などの情報がどのような構造のもとでやりとりされているのか。またメディアを介して個人と国家や企業などの間の新たな問題を検証してゆく。</p>	授業計画	1 はじめに
	2 「公共圏」とメディア		
	3 通信と放送の融合		
4 「9/11」と米国メディア			
5 知的財産権とメディア			
6 政治の衰弱とメディア			
7 企業報道とメディア			
8 メディアの日本的構造			
9 客観報道とセンセーショナルリズム			
10 ハリウッド支配			
11 人権とメディア倫理			
12 まとめ			
評価方法	期末の定時試験の成績に、授業の出席状況やレポートの実績を加えて判断する。		
テキスト参考文献	各回授業で資料を提供する。参考文献は随時紹介する。		

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A (現代中国論)	担当者	辻 康吾
-----------	-------------------	-----	------

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (中国を考える a)	担当者	辻 康吾
----------	---------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>「岩手県人は辛抱強い」、「江戸っ子は正義感が強い」など。さらには「中国人は商売がうまい」、「アメリカ人は陽気だ」、「フランス人はお洒落だ」など、日常会話でもこうした話がよくでるし、一つの国や地域、民族を理解するために「便利」な考え方である。だがこれを「民族性論」という客観的事実として論じようとする、民族とはなにか、その特性は本当に存在しているのか、例外はどのくらいあるのか、などなど多くの疑問がわいている。世間話としてなら好いのだが、学術的に「民族性」と追求しようとする、すぐに様々な難問に直面する。</p> <p>にもかかわらず「民族性」らしきものは存在しているし、国際化の中で話題にされることが多い。この「民族性論」について中国を中心に考えてみたい。</p>	授業計画	1 民族とは
			2 民族性とは
			3 漢民族の形成
4 私の中国スケッチ (I)			
5 私の中国スケッチ (II)			
6 各種の中国民族性論			
7 林悟堂の中国論 (I)			
8 林悟堂の中国論 (II)			
9 林悟堂の中国論 (III)			
10 林悟堂の中国論 (IV)			
11 林悟堂の中国論 (v)			
12 前期総論			
評価方法	期末テスト		
テキスト参考文献	参考文献：魯迅「阿Q正伝」、林悟堂「我国土、我国民」、柏楊「醜い中国人」、蘇曉康「河殤」、岡倉天心「アジアの心」など		

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (中国を考える b)	担当者	辻 康吾
----------	---------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	同	授業計画	1 近代化と民族性
			2 魯迅「阿Q正伝」(I)
			3 魯迅「阿Q正伝」(II)
4 魯迅「阿Q正伝」(III)			
5 蘇曉康「河殤」(I)			
6 蘇曉康「河殤」(II)			
7 蘇曉康「河殤」(III)			
8 「日本人論」各種 (I)			
9 「日本人論」各種 (II)			
10 各国「民族性論」(I)			
11 各国「民族性論」(II)			
12 「民族性論」批判			
評価方法	同		
テキスト参考文献	同		

外国語学部共通科目	民法	担当者	橋本 恭宏
-----------	----	-----	-------

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (民法 a)	担当者	橋本 恭宏
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	本講座では、われわれの消費生活にかかわるさまざまな法律を話すことにより、かしい消費者となるための一助になることを目的とする。消費生活は多様であり、複雑でもある。したがって、消費生活にかかわる法律を個々に眺めると、「木を見て森を見ない」ことにもなりかねず、全体の姿を見失うことになる。また、他方、単に法律の問題であるとして、これを理論的に考えると、「畳の上の水練」となってしまう。そこで、消費者法の基礎としての民法を前半に、消費者に特化した法律を後半に述べる。すなわち、われわれの日々は、種々の物資を消費することにより成り立っている。そのような消費物資は、他の人との取引により調達する(民法)。他方、そうした取引の基礎には「自由競争」という原理によから、当然、そこには、だまし、だまされるという状況が生ずる。そこで、そうした「だまし」の状況を阻止するための法律を必要とすることになる(特定商取引法等)からである。また、新しい取引としてのEC取引も問題となる。以上のことから、民法取引のルール、そして、ある特定分野における個別法を説明するのが「テーマ」となる。	授業計画	1 これからの勉強のための1つの裁判例(概要プリント配布)	
	評価方法		定期試験とレポート	2 民法条文とその読み方・基本となる用語
				3 民法とはどのような法か・民法の基本原則 自由主義社会の取引原則
テキスト参考文献	石田喜久夫「消費者民法のすすめ」(法律文化社) 参考文献：レクチャー消費者法(第2版)(法律文化社)		4 権利・義務の主役とその資格 制限能力者制度	
			5 民法における法律関係(権利と義務の関係)の発生原因；法律行為(意思表示による権利変動原因)	
			6 欠陥ある意思表示とその効力 意思表示の構造、欠陥ある意思表示	
			7 契約の成立とその効力 申込と承諾、特殊な契約の成立、契約の拘束力	
			8 損害の賠償 損害の意義とその種類、発生原因、慰謝料	
			9 製造物責任 民法と製造物責任法の違いはどこにあるか	
			10 金銭の貸借・利息の制限 闇金融とは？(なにわ金融道は本当か)	
			11 保証人の責任 保証人になるとこれだけの責任が出てくる	
			12 普通取引約款による規制 大量取引の実際、	

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (民法 b)	担当者	橋本 恭宏
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	本講座では、われわれの消費生活にかかわるさまざまな法律を話すことにより、「かしい消費者」となるための一助になることを目的とする。消費生活は多様であり、複雑でもある。したがって、消費生活にかかわる法律を個々に眺めると、「木を見て森を見ない」ことにもなりかねず、全体の姿を見失うことになる。また、他方、単に法律の問題であるとして、これを理論的に考えると、「畳の上の水練」となってしまう。そこで、消費者法の基礎としての民法ならびに消費者に特化した法律を述べる。すなわち、われわれの日々は、種々の物資を消費することにより成り立っている。そのような消費物資は、他の人との取引により調達する(民法)。他方、そうした取引の基礎には「自由競争」という原理によから、当然、そこには、だまし、だまされるという状況が生ずる。そこで、そうした「だまし」の状況を阻止するための法律を必要とすることになる(特定商取引法等)からである。また、新しい取引としてのEC取引も問題となる。以上のことから、民法取引のルール、そして、ある特定分野における個別法を説明するのが「テーマ」となる。	授業計画	1 不動産の売買と登記(売買契約) 登記制度で不動産の権利は安心か
			2 不動産(土地、建物)・動産(パソコン)の売買契約 売主はどのような責任があるか？
			3 賃貸借契約と借地借家法 借地借家法で庶民は守られるのか？
			4 雇傭・請負・委任(労務提供による契約) アルバイト代金は保障されているのか？
			5 団体設立の契約 組合・法人・ネズミ講 ネズミ講はあなたをねらっている？
			6 割賦販売契約 割賦販売契約後に買った商品に欠陥があったら、その後の割賦金はどうなるか？
			7 特定商取引法 訪問販売、通信販売の落とし穴
			8 消費者取引法 消費者取引法と民法の差異は？
			9 民法秩序の実現
			10 紛争の予防・解決・権利の実現手段 話し合いによる 解決(和解・調停・仲裁) 裁判による解決
			11 消費者と家族
			12 現代社会における消費者の権利と義務 消費者よ賢くあれ！

評価方法	定期試験とレポート (なお、民法 a を聞いておくことが望ましい)
テキスト参考文献	テキスト：石田喜久夫「消費者民法のすすめ」参考文献：レクチャー消費者法(第2版)、以上、法律文化社刊

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想)	担当者	藤原 和彦
-----------	-------------------------------	-----	-------

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (中東政治思想 a)	担当者	藤原 和彦
----------	---------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のオサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アル・カーイダは、2001年9月、反米ジハード「9・11テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は同年10月から史上初の「対テロ戦争」を開始し、アフガニスタンを中心とするアル・カーイダと同組織を庇護するアフガニスタンの原理主義タリバン政権の殲滅を図った。</p> <p>講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。</p> <p>また、毎時限の講義は(1)テキスト(下記)の解説(2)原理主義運動を中心とした中東・中央アジアの政治情勢の時事解説(3)イスラム信仰を中心とした中東・中央アジア事情のビデオ鑑賞——の3部構成とする。</p>	授業計画	1 (イントロダクション) セム族一神教の系譜。預言者ムハンマドの生涯など
	2 イスラム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係など		
	3 イスラム教戒律シャリーア(イスラム律法)とメッカ巡礼、利息の禁止など		
評価方法	出席率と後期のテストによる		4 エジプトの過激原理主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」
テキスト参考文献	藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』(中公新書)(2001年)		5 エジプトの過激原理主義運動と1981年のサダト・エジプト大統領暗殺
			6 エジプトの過激原理主義革命家サイイド・クトゥブの革命理論「ジャーヒリーヤ論」
			7 過激原理主義組織の原型、エジプトの「タクフィール・ワ・ヒジュラ(断罪と逃亡)団」
			8 イスラム共同体(ウンマ)内部のジハード
			9 アフガニスタンの原理主義政権タリバンによるカリフ制の復活
			10 「イスラム集団」を生んだ上エジプト(エジプト中・南部)の社会風土
			11 「イスラム集団」の反コプト(キリスト教)主義
			12 「イスラム集団」の外国人観光客襲撃戦術と1997年のルクソール事件

全学共通授業科目	現代社会 (I I I) (中東政治思想 b)	担当者	藤原 和彦
----------	---------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 原理主義運動一般の反ユダヤ主義(アンタイ・セミティズム)
			2 西欧民主主義とイスラム民主主義「シューラー」
			3 1979年末の旧ソ連のアフガニスタン侵攻とアフガニスタン戦争の勃発
評価方法	出席率と後期のテストによる		4 アフガニスタン戦争とアラブ・アフガンズ(イスラム義勇兵)の誕生
テキスト参考文献	藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』(中公新書)(2001年)		5 アラブ・アフガンズの初期の精神指導者、パレスチナ人のアブダッラー・アッザーム
			6 ビンラーディンによる、アラブ・アフガンズの互助組織アル・カーイダの結成
			7 原理主義運動国際派ビンラーディンの反米テロと1996年の「ジハード宣言」
			8 ビンラーディンによる初の原理主義国際連帯組織「世界イスラム戦線」の結成
			9 アル・カーイダにおける、アイマン・ザワヒリらエジプト人勢力の台頭
			10 過激原理主義運動の天国観と殉教テロ
			11 1999年の「イスラム集団」の武闘停止
			12 「イスラム集団」のアル・カーイダ批判 9.11テロ批判

外国語学部共通科目	自然科学特殊講義A（地球環境論）	担当者	鈴木 滋
-----------	------------------	-----	------

全学共通授業科目	自然・環境・人間（I I I）（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木 滋
----------	-------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。本講義では地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養う。</p> <p>講義概要</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。</p> <p>講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として資源と環境がどのような因果関係にあるのか考察する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション：授業概要等の説明
	<p>評価方法</p> <p>基本的には定期試験による。</p> <p>テキスト参考文献</p> <p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		2 地球環境とは何か？ 今何が起っているのか？
			3 地球環境の歴史
			4 地球環境の構造等：地球という惑星について
			5 地球環境と地球システム
			6 地球環境と資源（I）：資源の特性
			7 地球環境と資源（II）：エネルギー
			8 地球環境と材料：地球材料学とは
			9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？
			10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較
			11 地球環境問題概論
			12 まとめ
			備考：授業の進度により若干の変更がある

全学共通授業科目	自然・環境・人間（I I I）（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木 滋
----------	------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。本講義では地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養う。</p> <p>講義概要</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。</p> <p>講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について資源論・環境論を交えて検討する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション：授業概要等の説明
	<p>評価方法</p> <p>基本的には定期試験による。</p> <p>テキスト参考文献</p> <p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		2 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a)
			3 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b)
			4 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a)
			5 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b)
			6 地球環境問題各論（I）：酸性雨
			7 地球環境問題各論（II）：海洋汚染
			8 地球環境問題各論（II）：有害廃棄物越境移動
			9 地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少
			10 地球環境問題各論（III）：野生生物減少、開発途上国公害など
			11 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方
			12 まとめ
			備考：授業の進度により若干の変更がある

外国語学部共通科目	自然科学特殊講義A (宇宙論)	担当者	福井 尚生
-----------	-----------------	-----	-------

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I I I) (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
----------	----------------------------	-----	-------

講義の目的	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「相対性理論」を学びます。 ☆ Einstein が時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えることに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 従来の考え方を見直し、必要とあらば思い切った発想の転換、Paradigm 変換を試みたら如何でしょうか。 	講義の概要	<pre> graph TD A[相対性理論] --> B[時空] A --> C[特殊相対論] A --> D[一般相対論] B --> E[絶対・相対時空 Mach 原理] C --> F[特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み] D --> G[一般相対性原理 等価原理 宇宙モデル・Black Hole・重力波] </pre>	
	評価方法			☆ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらい、課題用紙の中身です。
	参考文献			☆ 『なっとくする相対性理論』 松田 卓也、二間瀬 敏史 著・講談社

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I I I) (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
----------	----------------------------	-----	-------

講義の目的	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 『宇宙論 b』は『宇宙論 a』の単位を修得した学生だけが履修出来ます。 ㊦ 『宇宙論 b』では「一般相対性理論」が対象とする重力現象を最新的话题を交えながら扱います。理論はその後の観測で確かめられなければなりません。 ㊦ 発想を転換し構築した独自の考えは、用心深く実践する必要があります。 	講義の概要	<pre> graph TD A[一般相対性理論の重力現象] --> B[宇宙モデル] A --> C[Black Hole] A --> D[重力波] B --> E[Friedmann 宇宙 宇宙項 高次元宇宙] C --> F[重力崩壊 Schwarzschild 半径 巨大 Black Hole] D --> G[重力波天文台] </pre>	
	評価方法			㊦ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらい、課題用紙の中身です。
	参考文献			㊦ 『なっとくする宇宙論』 二間瀬 敏史 著・講談社

外国語学部共通科目	自然科学概論	担当者	福井 尚生
-----------	--------	-----	-------

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I I I) (地球外文明論 a)	担当者	福井 尚生
----------	-------------------------------	-----	-------

講義の目的	<p>♣ 『地球外文明論 a』では「地球外文明の進化」を考えます。</p> <p>♣ 我々人類は、宇宙進化を司る宇宙方程式の現在の時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を進めれば文明の進化を考察出来ます。</p> <p>♣ 人類が今行う進化への営為が、この解の時間・空間発展に沿ったものかどうかのチェックポイントに「地球外文明の進化」がなればと思います。</p>	講義の概要	<pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[存在] A --> C[進化] B --> D[地球外文明論 唯一世界論 多数世界論] C --> E["I 型文明 “地球” (Drake 方程式) II 型文明 “Dyson 球” (赤外線源) III 型文明 “Kardashev 球” (銀河クラブ)"] </pre>	
	評価方法			♣ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらい、課題用紙の中身です。
	参考文献			♣ 『地球外文明の思想史』 横尾 広光 著・恒星社厚生閣

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I I I) (地球外文明論 b)	担当者	福井 尚生
----------	-------------------------------	-----	-------

講義の目的	<p>♣ 『地球外文明論 b』は『地球外文明論 a』の単位を修得した学生だけが履修出来ます。</p> <p>♣ 『地球外文明論 b』では多数世界論の立場で、「地球外文明の探査」の哲学と計画とを扱います。</p> <p>♣ 地球外文明の探査・発見 (への努力) は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。</p>	講義の概要	<pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[探査哲学] A --> C[探査計画] B --> D["平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理"] C --> E["Ozma 計画 SETI 計画 (SETI@home) SERENDIP 計画 BETA 計画"] </pre>	
	評価方法			♣ 主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらい、課題用紙の中身です。
	参考文献			♣ 『Are We Alone?』 P. Davies・Basic Books

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	飯島 一彦
-----------	------	-----	-------

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (日本語口頭表現のトレーニングーコミュニケーション篇)	担当者	飯島 一彦
----------	--	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>言語には「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていないければ言語を十分に獲得出来たとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という科目)をゆがませてきた。現在の国語の学習指導要領には明確に上記の4側面の学習が明記されているにもかかわらず、現実にはほとんどの教室で「話す」「聞く」については機能していない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現の訓練を基本からやりなおすことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得して行くことを目標とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な課題の提出・実践、長大なレポートが求められるので、心して履修すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>	授業計画	1 導入・オリエンテーション 「話す」「聞く」と「考える」
			2 コミュニケーションの基本① 「聞く」ことの実践
			3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル
			4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと
			5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ
			6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ
			7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ
			8 コミュニケーションの実践④ 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ
			9 コミュニケーションの実践⑤ 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ
			10 コミュニケーションの実践⑥ みずからのコミュニケーションの振り返り
			11 コミュニケーションの実践⑦ 再び「話す」「聞く」と「考える」
			12 まとめ
評価方法	毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート		
テキスト参考文献	なし		

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (日本語口頭表現のトレーニングー表現篇)	担当者	飯島 一彦
----------	-----------------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>上記科目(春学期開設)の単位を修得した学生のみ(02年度以前入学生の通年受講者はこの限りにあらず)の受講を許可する。</p> <p>コミュニケーションの基本を獲得すれば、あとはより深い表現力を身につけることが求められよう。</p> <p>ここでいう表現力とは豊かで多彩な言葉、人に伝えることの出来る強い言葉の力である。</p> <p>表現力は自然に身に付くものではない。意図的に獲得していかなければならない。特に「話す」「聞く」ことに関しては意図的なトレーニングを必要とするのである。この科目も様々な方法で表現力を実感し身につけるトレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な課題の提出・実践、長大なレポートが求められるので、心して履修すること。</p>	授業計画	1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと
			2 何を「伝える」のか?① 自分の言葉、他人の言葉
			3 何を「伝える」のか?② 他人の言葉を「理解」する
			4 何を「伝える」のか?③ 自分の言葉を「理解」してもらう
			5 何を「伝える」のか?④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫
			6 何を「伝える」のか?⑤ 「表現とは何か?」を考える
			7 「表現」の実践と評価①
			8 「表現」の実践と評価②
			9 「表現」の実践と評価③
			10 「表現」の実践と評価④
			11 何が「伝わる」のか?
			12 まとめ
評価方法	毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート		
テキスト参考文献	なし		

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	小島 幸枝
-----------	------	-----	-------

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (作品を読む)	担当者	小島 幸枝
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語利かけられるのは言葉の力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。</p> <p>今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。日本語力をつけることを目指したい。</p>	授業計画	1 表現者（送り手）と理解者（受けて）のことばにおけるメカニズムを概説
			2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識
			3 日本語の基礎知識—日本語の音韻
評価方法	平常点。(新聞社説要約、800字の作文、読書報告文の提出とともに、毎回、授業開始の前に漢字小テストを課す)		4 日本語の基礎知識—アクセントの特徴
			5 美しい言葉の条件—正確さと品位をどのように獲得するか
			6 スピーチ（演習）—互いのスピーチを聞いて評価、および自己採点する
テキスト参考文献	岡田啓助『国語表現法』（おうふう）		7 ディベート（ビデオ鑑賞）
			8 反省とまとめ
			9 敬語について（日本語の敬語の特徴と歴史—上代から中世）
			10 敬語について（同上—中世から現代）
			11 (1 2) 文学作品の朗読と批評
			12

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (作品を書く)	担当者	小島 幸枝
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>第2期は、文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互の交換、添削、手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。</p>	授業計画	1 日本語の文と文章
			2 文の構造
			3 文章の構造
評価方法	第1期に同じ		4 文章の種類
			5 文字言語—文章を書く手順
			6 主題と題材
テキスト参考文献	第1期に同じ		7 材料を集める—説明文、報告文を書く
			8 材料を並べる—アウトラインを作る（効率よく文章を書くために）
			9 文献、資料を用いて文章を補強する
			10 交換。批評しあう。
			11 推敲のポイントを学ぶ
			12 まとめ

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	千本 健一郎
-----------	------	-----	--------

全学共通授業科目	ことばと思想 (IV) (日本語文章の理論と実践 a)	担当者	千本 健一郎
----------	-----------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p><目的> 日本人なら日本語を読み書きできるのは当然、と思いこんでいるとしたら危うい。たとえば、自分のメモや日記をつけるだけのことなら問題はない。だが、いったん人に読ませるとなったら、自分勝手に書き散らし、ひとりで納得しているだけではすまなくなる。では、開かれた文章表現法を会得するには何が必要か。ここでは例文を読み、宿題を書くという行為を通して、日本語文章の表現力と読解力の向上をめざす。</p> <p><概要> 文章を書くうえで心すべきことは正確さ、簡潔さ、それに明快さ。骨組みはこれだけだ。問題は、それをどう実現するかにある。授業では読むべき本を講読、あるいは提示しつつ、自分の考えを過不足なく他者に伝えるための文章表現を追究する。履修者には宿題などの形で、理にかなった読み書きの実際に触れてもらう。本講座では、作文の基礎能力養成に主眼を置く。</p>	授業計画	1 ガイダンス。	
	評価方法		期末に課するレポートによって評価する。	2
			<p><テキスト> 随時、提示する。 <参考文献> 千本健一郎 『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎 『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>	3
6	実践的文章論とトレーニング (基礎編)			
7				
8				
9				
10				
11	まとめ。レポート出題。			
12	レポート提出。			

全学共通授業科目	ことばと思想 (IV) (日本語文章の理論と実践 b)	担当者	千本 健一郎
----------	-----------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p><目的> 書く力の源泉は読む力にある。第一、他人の書いたものに興味や関心をもてない人が、なぜ自分の書いたものに他人が目を向けてくれるなどと思えるのだろうか。というわけで、授業ではさまざまな文体、語り口をもった散文を読む。それによって文章の多様な型を知り、発想・表現・知識(情報)の面で学ぶべきものをさぐる。そのうえで書く力は、膨大な模倣の積み重ねから少しずつ得られる、という事実を体験する。</p> <p><概要> 自分に伝えたいものがなければ、書くということ自体が成り立たない。だがその一方で、伝える内容さえあれば文章は粗雑でもいい、ということにはならない。この二つを両立させてはじめて、文章の名に値するものが生まれるのだ。そのための訓練として毎回、宿題を出す。主題を決め、それについて考えぬき、調べあげ、一字一字刻んでいく集中力と持続力をみがく。この講座では、作文の応用力育成に主力を注ぐ。</p>	授業計画	1 ガイダンス。	
	評価方法		期末に課するレポートによって評価する。	2
			<p><テキスト> 随時、提示する。 <参考文献> 千本健一郎 『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎 『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>	3
6	実践的文章論とトレーニング (応用編)			
7				
8				
9				
10				
11	まとめ。レポート出題。			
12	レポート提出。			

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	肥田野 昌之
-----------	------	-----	--------

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (日本語とその表現 a)	担当者	肥田野 昌之
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊にしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して大学生としての教養を深めたいと思う。	授業計画	1 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。また、日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		2 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
			3 豊かな内容とは — 物の見方や読書などについて
評価方法	授業への出席と実作によって決定する。		4 作文を書く (添削と採点)
			5 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。
テキスト参考文献			6 教養として能・狂言の入門 — 熊野・附子など —
			7 教養としての歌舞伎入門 — 勸進帳 など —
			8 国語表記の問題 — 段落の分け方や送りなどが
			9 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
			10 文章を書く
			11 黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
			12 ことばと社会について — ことばの乱れや敬語法

全学共通授業科目	ことばと思想 (I V) (日本語とその表現 b)	担当者	肥田野 昌之
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊にしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して大学生としての教養を深めたいと思う。	授業計画	1 文章のさまざま — 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など —
	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する基本的知識についても言及したい。		2 国語表記の問題・原稿用紙の使い方
			3 課題作文を書く (添削と採点)
評価方法	授業への出席と実作によって決定する。		4 文章の目的・主題の選定・主題の限定など
			5 材料の意義・材料の源泉などについて
テキスト参考文献			6 材料の順序と構成やアウトラインについて
			7 文字について
			8 仮名づかいについて
			9 標準語と方言について
			10 手紙の書き方 — 手紙の形式を中心にして
			11 手紙を書く
			12 黒板に出て、四字句の完成などを行う。

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	福沢 健
-----------	------	-----	------

全学共通授業科目	ことばと思想（Ⅳ）（論文を書く）	担当者	福沢 健
----------	------------------	-----	------

講義目的 おおよび講義概要	<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、さまざまな問題演習を行ないつつ、大学生活において必須となるレポート・論文の書き方を学ぶ。</p> <p>講義概要 基本的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が主体となる。具体的には、作業を通して、最終的にレポート（400字詰め7枚以上）を完成させることを目標とする。作業が教室内で完了しない場合は、宿題となることもある。</p>	授業計画	1 前期講義の概要・予告
			2 問題意識
			3 資料検索
			4 序論①
			5 序論②
			6 引用・グラフ・表
			7 本論①
			8 本論②
			9 本論③
			10 結論
評価方法	レポート・平常点（出席・課題の提出状況）		11 注
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。		12 前期講義のまとめ

全学共通授業科目	ことばと思想（Ⅳ）（小論文を書く）	担当者	福沢 健
----------	-------------------	-----	------

講義目的 おおよび講義概要	<p>講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、さまざまな問題演習を行なう。</p> <p>講義概要 基本的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が主体となる。具体的には、小論文を書く練習を行ないつつ、日本語検定2級程度に対応できる文章表現能力を身につけることを目標とする。</p>	授業計画	1 後期授業の概要
			2 文章の組み立て①【部分を設けて書く】
			3 文章の組み立て②【文章の定型による構成】
			4 文章の組み立て③【文章構成の原理】
			5 文章の組み立て④【定型がない場合の文章構成】
			6 文章表現①【正しい表現】
			7 文章表現②【わかりやすく書く】
			8 文章表現③【短い文章を書く】
			9 文章を書く①【文章を読んで要旨を捉える】
			10 文章を書く②【論説・議論文を書く】
評価方法	平常点（出席・課題の提出状況）		11 文章を書く③【書簡文を書く】
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。		12 後期授業のまとめ

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A (教育の現場：教師と語る)	担当者	川村 肇
-----------	-------------------------	-----	------

全学共通授業科目	現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る a)	担当者	川村 肇
----------	---------------------------	-----	------

授業目的および講義概要	<p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあうことと、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかむ。そのなかで、特に生活指導についての理解を深める。</p> <p>2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会合宿への参加とで構成する。そのため、右記日程の合宿に必ず参加すること(参加費は1万円程度)。旧カリの学生(通年授業で登録する学生)は、夏と冬の両方の合宿に参加しなければならない。</p> <p>3. 合宿で6コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は6回程度とする。</p> <p>4. 教職課程に登録しているか否かは問わない。</p> <p>5. 履修登録の上限を30名とする。</p>	授業計画	1 4月11日 本講義の説明・自己紹介/宿題：「教育実践記録とは何か」を読んでくる
	<p>2 4月18日 実践記録についての説明・討論/宿題：テキスト第1章を読んでくる</p> <p>3 5月9日 生活指導についての説明/宿題：実践記録を読んでくる</p> <p>4 5月16日 実践記録に関する討論/宿題：実践記録を読んでくる</p> <p>5 5月23日 実践記録に関する討論/宿題：実践記録を読んでくる</p> <p>6 5月30日 実践記録に関する討論</p> <p>7 5月31日～6月1日 合宿/宿題：合宿で学んだことをレポートにする</p> <p>8 6月6日 レポートを持ち寄って討論/宿題：テキスト第2章を読んでくる</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p>		
評価方法	出席と最終レポートによる。合宿に参加しない場合には、不可とする。		
テキスト参考文献	高橋他編『生活指導論』(武蔵野美術大学出版局、1900円)		

全学共通授業科目	現代社会 (IV) (教育の現場：教師と語る b)	担当者	川村 肇
----------	---------------------------	-----	------

授業目的および講義概要	<p>履修条件：春学期の「教育の現場：教師と語る a」を履修していること。</p> <p>合宿の日程が1週間ほど前後する可能性があるため、前後の土日をあけておくこと。</p>	授業計画	1 9月26日 進路指導について、説明と討論/宿題：テキスト第3章を読んでくる
	<p>2 10月3日 異文化教育について、説明と討論/宿題：テキスト第4章を読んでくる</p> <p>3 10月10日 憲法と人権について、説明と討論/宿題：テキスト第5章を読んでくる</p> <p>4 10月17日 ジェンダーと教育について説明と討論/宿題：実践記録を読んでくる</p> <p>5 10月24日 実践記録に関する討論/宿題：実践記録を読んでくる</p> <p>6 12月5日 実践記録に関する討論</p> <p>7 12月6日～7日 合宿/宿題：合宿で学んだことをレポートにする</p> <p>8 12月12日 レポートを持ち寄って討論</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p>		
評価方法	春学期と同じ。		
テキスト参考文献	春学期と同じ。		

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A（生活に役立つ経理（A））	担当者	橋口 徹
-----------	------------------------	-----	------

全学共通授業科目	現代社会（IV）（生活に役立つ経理（A）a）	担当者	橋口 徹
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定4級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁で、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>	授業計画	1 簿記の基礎概念
			2 仕訳と勘定記入
			3 帳簿
			4 現金預金
			5 売掛金と買掛金
			6 その他の債権債務
			7 商品
			8 固定資産
			9 資本
			10 収益と費用
評価方法	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。		11 決算
テキスト	加古宜士・渡部裕亘編著『新検定・簿記講義／4級商業簿記（平成15年版）』中央経済社		12 まとめ

全学共通授業科目	現代社会（IV）（生活に役立つ経理（A）b）	担当者	橋口 徹
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定4級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁で、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>	授業計画	1 簿記の基礎概念
			2 仕訳と勘定記入
			3 帳簿
			4 現金預金
			5 売掛金と買掛金
			6 その他の債権債務
			7 商品
			8 固定資産
			9 資本
			10 収益と費用
評価方法	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。		11 決算
テキスト	加古宜士・渡部裕亘編著『新検定・簿記講義／4級商業簿記（平成15年版）』中央経済社		12 まとめ

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A（生活に役立つ経理（B））	担当者	橋口 徹
-----------	------------------------	-----	------

全学共通授業科目	現代社会（IV）（生活に役立つ経理（B）a）	担当者	橋口 徹
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきた。	授業計画	1 ガイダンス（英文会計とは）
	本講座では、日本商工会議所主催のBATIC（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。		2 資産・負債・資本
	また本講座では、日商簿記3級程度の学習を終えている方を受講対象としている。（但し、その合否は問わない。）		3 借方と貸方：複式簿記
なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。	4 仕訳と転記		
評価方法	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。		5 財務諸表
	授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		6 修正仕訳と決算仕訳
テキスト参考文献	授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		7 売上と仕入取引
			8 現金仕訳帳
			9 精算表1
			10 精算表2
			11 その他
			12 まとめ

全学共通授業科目	現代社会（IV）（生活に役立つ経理（B）b）	担当者	橋口 徹
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきた。	授業計画	1 ガイダンス（英文会計とは）
	本講座では、日本商工会議所主催のBATIC（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。		2 資産・負債・資本
	また本講座では、日商簿記3級程度の学習を終えている方を受講対象としている。（但し、その合否は問わない。）		3 借方と貸方：複式簿記
なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。	4 仕訳と転記		
評価方法	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。		5 財務諸表
	授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		6 修正仕訳と決算仕訳
テキスト参考文献	授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		7 売上と仕入取引
			8 現金仕訳帳
			9 精算表1
			10 精算表2
			11 その他
			12 まとめ

--	--	--	--

全学共通授業科目	現代社会 (IV) (コンピュータ入門 (アドヴァンス) a)	担当者	施 建明
----------	---------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義目的 (法学部学生対象) この講義では、4年間の学習、研究生生活を通して必要とされる情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習する。授業の予習、復習やレポートの作成、卒業論文製作などの際に、次のような手段を使うことができるようにする。①文章は、ワープロを使用して作成する。②必要な資料やデータを、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。③E-Mail を使って、情報交換、資料のやり取りをする。④報告用、発表用の資料を、以上のような手段を組み合わせる。⑤プレゼンテーションをパソコンを使って行なう。 講義概要 講義および実習を通して上記の目標を達成するために、ワープロソフトの使用法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、情報処理全般の基礎的なテーマを扱う。	授業計画	1. インタロダクション——ガイダンス、キーボード操作、マウス操作、フロッピーディスク、情報倫理
	2. 文字の入力、タイピング練習 (ソフト) メモ帳 (ソフト) による入力、ファイルを保存する		
	3. メール——説明と設定、メールの送受信と返信		
	4. インターネット——インターネットとは、URL を与えて開かせる、テーマを与えて探させる		
5. ペイント (ソフト) ——拡張子			
6. ワープロ——文書の入力、保存：メール——文書の添付			
7. ワープロ——文字の編集 (切り取り、イタリック、センタリングなど)			
8. ワープロ——文書の装飾 (網掛け、色など)			
9. ワープロ——表の作成			
10. ワープロとクリップアート、ワードアートの組み合わせ、印刷			
11. プレゼンテーション——文字情報の提示			
12. プレゼンテーション——画像、グラフの提示			
評価方法	レポート：30 %、定期試験：40 %、出席：30%		
テキスト参考文献	授業時に指示する。		

全学共通授業科目	現代社会 (IV) (コンピュータ入門 (アドヴァンス) b)	担当者	施 建明
----------	---------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	講義目的 この講義では、レポートの作成、卒業論文作成などの際に、次のようなソフトウェアを活用できるようにすることを目的とする。① 卒業論文はワープロや表計算、その他のソフトを統合して利用する。② 必要な資料やデータは、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。③ E-mail を使って、情報交換、資料のやり取りをする。④統計計算や会計計算を行ない、必要があればグラフを作成する。⑤有用な情報を自らホームページで発信する。 講義概要 講義および実習を通して、上記の目標を達成するために、メールソフト・web ブラウザ・ワープロソフト・表計算ソフト・画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトの使用法をはじめとして、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能やインターネットの理解も含め、情報処理全般のテーマを扱う。作成したものはすべてネットワーク上にあるエリアに保存し、さらにサーバーへの移行を行う。	授業計画	1. インタロダクション：講義と実習 ガイダンス、基礎の復習、メールの設定
	2. Word の活用：講義と実習 図の挿入とウィザード、数式の利用、HTML 形式		
	3. Excel の活用-1：講義と実習 表計算の概要——ワークシート、ブック、セル等		
	4. Excel の活用-2：講義と実習 データの取り扱い——関数、平均、標準偏差など		
5. Excel の活用-3：講義と実習 いろいろな関数の利用			
6. Excel の活用-3：講義と実習 棒グラフ、円グラフ、レーダーチャーター			
7. Excel の活用-4：講義と実習 セル色・罫線、グラフの色など			
8. ホームページ作成1—講義と実習 HTML による簡単なホームページ作成			
9. ホームページ作成2—講義と実習 ホームページの公開と更新			
10. ホームページ作成3—講義と実習 表・文字の飾り			
11. ホームページ作成4—講義と実習 フレームの設計と作成			
12. ホームページ作成5—講義と実習 総合練習			
評価方法	レポート：30 %、定期試験：40 %、出席：30%		
テキスト参考文献	授業時に指示する。		

外国語学部共通科目	生物学 B	担当者	加藤 僖重
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I V) (身近な自然観察 春)	担当者	加藤 僖重
----------	----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学には A と B があるが、同年度は勿論、年度を異にしても、どちらか一方しか履修できない。 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修すること。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費 (¥4,000-) を収めること。詳細は掲示する。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること目標とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。 	授業計画	1 はじめに 簡単なテストの後、席順の確認、年間講義内容の説明
			2 実験室内における心得・実験器具の扱い方を説明
			3 キャンパスウォッチング 1 種の識別
			4 身近な植物の観察 1 花の構造
			5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造
			6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用
			7 顕微鏡使用法 3 細胞の大きさと数
			8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす
			9 身近な植物の観察 2 果実の構造
			10 身近な植物の観察 3 葉の構造
評価方法	毎回のレポート、宿題、定期試験で判断		11 自然保護運動
テキスト参考文献	授業中に説明する		12 まとめ

全学共通授業科目	自然・環境・人間 (I V) (身近な自然観察 秋)	担当者	加藤 僖重
----------	----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修登録した学生に限る。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること目標とする。 	授業計画	1 種の多様性の観察
			2 光合成の色素の分析
			3 蛋白質の分析
			4 身近な植物の観察 4 秋の花の構造
			5 身近な植物の観察 5 生産量と生産構造
			6 キャンパスウォッチング 3 落葉と落枝
			7 身近な植物の観察 6 ブナ科果実の観察
			8 分類に重要な形質を見つける
			9 身近な植物の観察 7 デンドログラム作成
			10 顕微鏡使用法 4 胞子と前葉体
評価方法	毎回のレポート、宿題、定期試験で判断		11 キャンパスウォッチング 4 紅葉と黄葉
テキスト参考文献	講義中に説明する		12 まとめ

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	和田 智
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	和田 智
----------	------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標]レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>集中授業では、それぞれ独自の目標を達成するよう多様な活動を行います。</p> <p>[講義概要] 前期におこなう学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目にあてる時間数は異なります。</p> <p>集中授業は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページをご覧ください。日程・参加費は別に案内します。</p>	授業計画	1 授業の内容と計画についての説明
	2 仲間づくりの時間： グループゲーム		
	3.仲間づくりの時間： グループゲーム アウトドアクッキングの計画		
4.仲間づくりの時間：アウトドアクッキング			
5.講義： レジャーについて			
6.実技： アウトドアレクリエーション種目			
7.実技： アウトドアレクリエーション種目			
8.講義： レクリエーションと自然環境について			
9. 実技： アウトドアレクリエーション種目			
10. 実技： アウトドアレクリエーション種目			
11. 実技： アウトドアレクリエーション種目			
12 合宿についてのオリエンテーション			
評価方法	出席と受講態度、レポート。		
テキスト参考文献	[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	担当者	和田 智
----------	----------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[アウトドア海浜] 佐渡島赤泊の自然資源を生かしたレクリエーション活動の体験と地域の歴史、文化を学ぶ機会を提供します。皆さんは日常から離れた場所で、美しい自然、ゆったりとした時間の流れと温かい人の心に触れることができるでしょう。これらの経験をするのがこの授業の目的です。</p> <p>[講義概要] カヤック、釣り、スキндаイビング、蛍狩り、農作業、地域見学、イカのひもの作り、食事作り(自分たちがとった魚や貝を使う)、奉仕活動などを予定しています。</p> <p>[夏季集中授業] 実施時期：平成15年7月28日(月) ～8月1日(金) 4泊5日 実施場所：新潟県佐渡郡赤泊村蓮場 参加費：¥35,000(交通費別) 現地集合・現地解散</p>	<p>[ウィンドサーフィン] 浮力を持ったボードにセールを取り付け、舵の代わりにセールをさまざまな方向に動かし、風を利用して操作する水上の乗り物です。</p> <p>この授業では弱風域においてウィンドサーフィンを操作できるようになることを目標とします。また、安全にマリンスポーツを楽しむことができるよう、風、潮流、生物、人間関係についての学習してもらいます。</p> <p>[講義概要] 初心者を対象とした内容で進めます。用具の使い方、組み立て方、海の安全知識、基本技術などから始め、弱い風の中ではセーリングできる程度のレベルまで多くの人が達しています。また、合宿生活となりますので、係分担、食事づくりなどへの積極的参加を通じて意義ある人間関係をはぐくむことができます。毎年、この合宿生活も学生たちは楽しんでます。</p> <p>[夏季集中授業] 実施時期：平成15年9月8日(月)～ ～12日(金) 4泊5日 実施場所：千葉県館山市塩見 参加費：¥30,000(交通費別) 現地集合・現地解散</p>	
	評価方法		出席と受講態度、レポート。
	テキスト参考文献		必要に応じて印刷物を配布します。

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	松原 裕
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートレーニング）	担当者	松原 裕
----------	-------------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>注意：秋学期からの授業ですが春学期の第1週にオリエンテーション及びトレーニンググループの登録を実施します。他の授業を春学期に受講予定で授業時間に参加できない場合には授業担当者まで申し出て下さい。</p> <p>注意：成績提出の関係で4年生は受講が制限されますので授業担当者にご確認して下さい。</p>	授業計画	1	オリエンテーション トレーニンググループ登録
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法				
テキスト参考文献				

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	担当者	松原 裕
----------	------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] インラインスケートとスノースポーツを教材とする。滑走するスポーツ、用具を利用するスポーツの感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付け、スポーツを楽しむ能力を磨く。</p> <p>[集中講義としてスノースポーツを行う。] スキー・ファンスキー・スノーボードの3種類を体験する。秋田県田沢湖スキー場で2月下旬に4泊5日を実施予定。詳細はオリエンテーションで紹介。</p>	授業計画	1	トレーニンググループで体力測定
			2	インラインスケート靴合わせ 基本滑走・ストップ
			3	基本滑走 フォア滑走・バック滑走・ターン
			4	基本滑走 フォアクロス・バッククロス
			5	スラローム滑走
			6	スラローム滑走 制限滑走・パイロン
			7	スラローム滑走 制限滑走・可倒式ポール
			8	ストックワーク
			9	ストックワーク
			10	ジャンプに挑戦
			11	スノースポーツ紹介（教室）
			12	スノースポーツ授業オリエンテーション
評価方法				
テキスト参考文献				

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	和田 智
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートa）	担当者	和田 智
----------	---------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思えます。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。</p> <p>インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思えます。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション インラインスケートとは	
	評価方法		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方
				3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション
テキスト参考文獻	[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。		4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			7 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			8 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			9 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション	
			10 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション	
			11 実技テスト	
			12 実技テスト	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（インラインスケートb）	担当者	和田 智
----------	---------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思えます。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。</p> <p>インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で、日常の遊びの中に取り入れて欲しいと思えます。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p>	授業計画	1 久しぶりにインラインスケート	
	評価方法		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	2 自由な動き作り：ジャンプ
				3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン
テキスト参考文獻	[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。		4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン	
			5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン	
			6 自由な動き作り：フォアクロス	
			7 自由な動き作り：フォアクロス	
			8 自由な動き作り：バッククロス	
			9 自由な動き作り：バッククロス	
			10 実技テストの説明と練習	
			11 インラインホッケー・実技テスト	
			12 インラインホッケー・実技テスト まとめ	

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	松原 裕
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（インラインホッケー a）	担当者	松原 裕
----------	----------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートを教材とする。滑走するスポーツの一つとして、用具を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付け、インラインホッケーに挑戦する。インラインホッケーの試合のルールを充分に理解し、プレイヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
	2 受講の確認と個人票の写真添付 トレーニングルームの講習と登録		
	3 用具合わせ 基本滑走		
4 基本滑走 フォアスケータリング バックスケータリング			
5 基本滑走 ターン ストップ			
6 スティックを持って滑走 スティックコントロール バックコントロール			
7 スティックを持って滑走 ドリブル パス			
8 攻防（1対1、2対2）			
9 攻防（3対3、4対4）			
10 攻防（5対5、6対6）			
11 インラインホッケーゲーム			
12 インラインホッケーゲーム			
13 インラインホッケーゲーム			
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上などを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（インラインホッケー b）	担当者	松原 裕
----------	----------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 基本スケータリング
			3 スティックを持つての基本スケータリング
4 班分けと班別練習			
5 リーグ戦①			
6 リーグ戦②			
7 リーグ戦③			
8 リーグ戦④			
9 リーグ戦⑤			
10 リーグ戦⑥			
11 リーグ戦⑦			
12 リーグ戦⑧			
評価方法	同		
テキスト参考文献	同		

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	松原 裕
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスa）	担当者	松原 裕
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの2つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。ダブルスの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
	2 受講決定の確認と個人票の写真提出、トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認		
	3 基本トレーニング ラケットコントロール		
4 基本トレーニング ラケットコントロール			
5 基本戦術 個人戦術・チーム戦術			
6 基本戦術 個人戦術・チーム戦術			
7 試合に必要な準備 競技場の設営 審判の仕方 試合の進め方			
8 ミックスダブルスによる試合			
9 ミックスダブルスによる試合			
10 男子ダブルス・女子ダブルス			
11 男子ダブルス・女子ダブルス			
12 男子ダブルス・女子ダブルス			
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスb）	担当者	松原 裕
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 基本トレーニング ラケットコントロール サービス レシーブ
			3 基本戦術 プレーの組み合わせ ゲームプラン
4 4班に班分け 班別に練習 オーダー決定			
5 団体戦 リーグ戦（一巡目）			
6 団体戦 リーグ戦（一巡目）			
7 団体戦 リーグ戦（一巡目）			
8 団体戦 リーグ戦（二順目）			
9 団体戦 リーグ戦（二順目）			
10 団体戦 リーグ戦（二順目）			
11 トリプル 3対3のゲーム			
12 男子ダブルス・女子ダブルス			
評価方法	同		
テキスト参考文献	同		

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	山中 邦夫
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ゴルフa）	担当者	山中 邦夫
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ゴルフ競技の概要（VTRと講義）
			3 スイング、グリップ、スタンスについて（学内グラウンドで実習）
			4 スイング、グリップ、スタンスについて（学内グラウンドで実習）
			5 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			6 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			7 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			8（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に9番アイアン）
			9（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			10（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		11（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に7番アイアン）
テキスト参考文献	[テキスト] 特になし		12（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ゴルフb）	担当者	山中 邦夫
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に5番アイアン）
			2（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			3（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習（ドライバー、スプーン）。
			4（学外の練習場で） VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			5（学外の練習場で） VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			6（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習（9、7、5番アイアン）。
			7（学外の練習場で） VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			8（学外の練習場で） VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（＃）
			9 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
			10 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		11 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
テキスト参考文献	[テキスト] 特になし		12 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	吉田 卓司
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ゴルフa）	担当者	吉田 卓司
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>【講義概要】 ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>【受講者への要望】 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。	2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて
			テキスト参考文献	
			4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスイング（グリップ、スタンス、アドレス、スイングの方法を習得する）	
			5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習	
			6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スイングの方法）	
			7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スイングの方法）	
			8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスイングと打球）	
			9（反復練習）	
			10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）	
			11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）	
			12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ゴルフb）	担当者	吉田 卓司
----------	---------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>【講義概要】 クラブの握りかた、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアン、ロングアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p> <p>【受講者への要望】 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	授業計画	1 ゴルフ練習場にて実習	
	評価方法		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。	2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック）
			テキスト参考文献	
			4 ロングアイアン（3、4）ショット練習	
			5 ロングアイアン（3、4）ショット練習	
			6 個人個人のスイングをチェック指導	
			7 個人個人のスイングをチェック指導	
			8 個人個人のスイングをチェック指導	
			9 個人個人のスイングをチェック指導	
			10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習	
			11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習	
			12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習	

外国語学部共通科目	体育 I・II	担当者	田代 力也
-----------	---------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (サッカー a)	担当者	田代 力也
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] サッカーの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p>[講義概要] 年間授業計画の週毎の内容については、個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム形式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は、予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p>[受講者への要望] ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ビデオ教材を使用しての導入部
			3 "
			4 キックの基礎
			5 "
			6 キックの応用
			7 "
			8 コンビネーションプレイ
			9 "
			10 "
			11 ゲーム
			12 "
			13 予備
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		
テキスト参考文献			

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (サッカー b)	担当者	田代 力也
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 "
			評価方法
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	山中 邦夫
-----------	-------	-----	-------

全校共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカー a）	担当者	田中 茂宏
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 学生各自が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。ゲームを通して、進め方、ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>[講義概要] ゲームの中でプレーヤーが思い描くプレイを表現できるよう個人や、グループの戦術を学習する。ゲームでは主・副審をつけてリーグ戦を行う。出欠点呼は毎回実施する。雨天でも行いますが、グラウンドが使用不可能な時には3棟1階の体育掲示板で指示する。</p> <p>[受講者への要望] 遅刻、着替えを忘れた者は授業の参加を認めない。見学者も更衣の後に出席すること。出欠状況は各自が覚えておく。自主性、積極性のある意識の高い者を希望する。</p>	授業計画	1 授業登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成。
			2 準備体操と実施上の注意。用具の準備と片付けの指示。ゲームを行う。
			3 個人の戦術、2対1の攻守。
			4 個人の戦術、2対1の攻守。
			5 個人の戦術、4対4の攻守。
			6 個人の戦術、4対4の攻守。レポート提出。
			7 個人の戦術、4対4の攻守。
			8 個人の戦術、4対4の攻守。
			9 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			10 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			11 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			12 レポート提出。リーグ戦を行い記録をとる。
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価。レポートは2回提出。		
テキスト参考文献			

全校共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカー b）	担当者	田中 茂宏
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 体を慣らせるための練習ゲームをする。
			2 2対1の攻守。
			3 2対1の攻守。
			4 3対2の攻守。
			5 3対2の攻守。
			6 4対4の攻守。レポート提出。
			7 4対4の攻守。
			8 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			9 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			10 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			11 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			12 レポート提出。
評価方法	同		
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	檜山 康
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	檜山 康
----------	----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。【受講者への要望】1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。3. アクセサリー、ピアスは外すこと。</p>	授業計画	1 オリエンテーション。
			2 ボールに慣れること。試しのゲーム。
			3 3対3もしくは4対4のゲーム。パスとサポート。
評価方法	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。		4 4対4もしくは5対5のゲーム。パスとサポート。
テキスト参考文献			5 5対5もしくは6対6のゲーム。3人目の動き。
			6 7対7もしくは8対8のハーフコートゲーム。3人目の動き。攻撃のリズム。
			7 8対8もしくは9対9のハーフコートゲーム。プレッシャーのかけ方。
			8 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方。
			9 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方と全体の動き。
			10 フルコートでのゲーム。リーグ戦。
			11 フルコートでのゲーム。リーグ戦。
			12 フルコートでのゲーム。リーグ戦。

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	檜山 康
----------	----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ポストプレーについて①。
			2 ポストプレーについて②。
			3 ポストプレーからの展開について①。
評価方法	同		4 ポストプレーからの展開について②
			5 ポストプレーを使って攻撃のリズムを作ることにについて。
			6 攻撃のリズムを作りながら、展開を変えていくことについて。
テキスト参考文献			7 攻撃の幅について。
			8 ポジションとシステムについて。
			9 チームごとの課題練習。リーグ戦①。
			10 リーグ戦②
			11 リーグ戦③
			12 リーグ戦④

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	松本 光弘
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	松本 光弘
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム
			3 技術練習とハーフゲーム
			4 "
			5 "
			6 ルールの解説（雨天時に割り当てる）
			7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
			8 "
			9 "
			10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
			11 "
			12 サッカーの歴史（雨天時に割り当てる）
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。		
テキスト参考文献	「サッカースキル（技術と戦術）」松本光弘著 「サッカーのテクニク」 スピンドラー著		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	松本 光弘
----------	----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
			2 "
			3 "
			4 特殊戦術とフルゲーム
			5 "
			6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 フルゲーム、評価
評価方法	同		
テキスト参考文献	同		

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	梶野 克之
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズa）	担当者	梶野 克之
----------	----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向えている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、真に健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための諸条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>[講義概要] 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標に、生涯を通しての健康を意識してトレーニング・プログラムを作成する。スポーツ実践やトレーニング目標を設定して、体力の向上をはかり、定期的に行う。体力測定の意義を理解し、その経過の変化の意味を考え、全体的な体力について考える。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度等によって決定する。	2 トレーニングルームの使い方 体力測定・体力診断について
			テキスト参考文献	[参考文献]『トレーニングの科学的基礎』 宮下充正 ブックハウスHD
		4 トレーニングの理論と実践 筋力について(2)		
		5 トレーニングの理論と実践 筋力について(3)		
		6 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(1)		
		7 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(2)		
		8 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(3)		
		9 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(1)		
		10 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(2)		
		11 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(3)		
		12 体力測定及び評価		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズb）	担当者	梶野 克之
----------	----------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングの理論と実践 食事について(1)
			2 トレーニングの理論と実践 食事について(2)
			3 トレーニングの理論と実践 食事について(3)
評価方法	同	同	4 体力測定及び評価
			5 トレーニングの理論と実践 心拍数について(1)
テキスト参考文献	同	同	6 トレーニングの理論と実践 心拍数について(2)
			7 トレーニングの理論と実践 心拍数について(3)
			8 トレーニングの理論と実践 歩行について(1)
			9 トレーニングの理論と実践 歩行について(2)
			10 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(1)
			11 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(2)
			12 体力測定及び評価

外国語学部共通科目	体育 I・II	担当者	池垣 功一
-----------	---------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a)	担当者	池垣 功一
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>	授業計画	1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明	
	評価方法		評価は、出席点に技能点(態度・努力・服装等)を加味して行なう	2 キャッチボール(ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) ピッチング(スリングショット投法)
				3 ピッチング(スリングショット投法の復習およびウィンドミル投法) トスバッティング
テキスト参考文献			4 ピッチング(各種投法の復習) ハーフバッティング	
			5 守備練習(基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング	
			6 守備練習(各ポジションの守備方法) シートノック	
			7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習(内野手の連携プレー)	
			8 シートノックによる守備練習(ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習	
			9 審判の方法についての説明 チームの編成(1)(ポジション・打順を決める) 練習試合	
			10 チーム練習(試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D	
			11 チーム練習(トスバッティング) 試合 A~C、B~D	
			12 チーム練習(バント) 試合 A~D、B~C	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b)	担当者	池垣 功一
----------	--------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>	授業計画	1 総合的練習(1) 審判方法の復習	
	評価方法		評価は、出席点に技能点(態度・努力・服装等)を加味して行なう。	2 総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
				3 チーム編成(2)(以下、各々試合3回ごとに編成をかえる) 練習試合
テキスト参考文献			4 チーム練習(毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H	
			5 チーム練習 試合 E~G、F~H	
			6 チーム練習 試合 E~H、F~G	
			7 チーム編成(3) チーム練習 試合 I~J、K~L	
			8 チーム練習 試合 I~K、J~L	
			9 チーム練習 試合 I~L、J~K	
			10 チーム編成(4) チーム練習 試合 M~N、O~P	
			11 チーム練習 試合 M~O、N~P	
			12 チーム練習 試合 M~O、N~P	

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	太田 朝博
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	担当者	太田 朝博
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席点、授業態度、技能の進歩などを、総合的に評価。・欠席回数4回以上の者は、評価外。	2 個人的技能 基本技能 キャッチング
				3 スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング
テキスト参考文献			4 フリーバッティング キャッチングとスローイング、 バッティングをしっかり身につける	
			5 ピッチング	
			6 集団的技能 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン	
			7 タッチアッププレー 守備＝フォースプレー	
			8 ダブルプレー バントの処理と各野手の動き	
			9 カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション	
			10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)	
			11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。	
			12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	担当者	太田 朝博
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 個人技能 ゲーム・チーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
			2 キャッチボールトス、フリーバッティング、ピッチング・簡単なスコアをつけ個々の成績を集計する。
			3 "
評価方法			4 "
			5 "
テキスト参考文献			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 "

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	田代 力也
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (ソフトボールa)	担当者	田代 力也
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ソフトボールの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p>[講義概要] 年間授業計画の週毎の内容については個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム型式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は予備日(雨天等)を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p>[受講者への要望] ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ビデオ教材を使用しての導入部
			2 "
			3 投球、捕球の基礎
			4 投球、捕球の応用
			5 バッティングの基礎
			6 バッティングの応用
			7 チームプレイ
			8 "
			9 ゲーム
			10 "
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		11 予備
テキスト参考文献			12 "

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (ソフトボールb)	担当者	田代 力也
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してのゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		11 予備
テキスト参考文献			12 "

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	萩野 元祐
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールa）	担当者	萩野 元祐
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。
	2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的スキル練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習		
	3 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。		
	4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、などの練習。独自ルールでのゲーム実施。		
評価方法	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数4回以上の者は評価の対象としない。		5 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			6 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
テキスト参考文献			7 バンド練習。（グリップ、スタンス、セフティバンド） 独自ルールでのゲーム実施。
			8 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			9 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 独自ルールでのゲーム実施。
			10 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			11 投手のボールの握り方と投球練習。 ゲーム実施。
			12 前回の復習。 ゲーム実施。
			13 前回の復習。 ゲーム実施。

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールb）	担当者	萩野 元祐
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 復習。 4 チームによるリーグ戦（1）
			2 復習。 4 チームによるリーグ戦（2）
			3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 4 チームによるリーグ戦（3）
			4 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（4）
評価方法	同		5 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（1）
			6 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（2）
テキスト参考文献			7 ダブルプレイの練習。 4 チームによるリーグ戦（3）
			8 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（4）
			9 チームによるリーグ戦（1）
			10 チームによるリーグ戦（2）
			11 4 チームによるリーグ戦（3）
			12 4 チームによるリーグ戦（4）

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	奥野 忠枝
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（卓球a）	担当者	奥野 忠枝
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>	授業計画	1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
			2 競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
			3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合			
5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合			
6 サービスについて ボールの回転とラケットの動きを 練習 シングルス試合			
7 審判法について学ぶ			
8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合			
9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合			
10 上記に同じ			
11 シングルス試合			
12 まとめ シングルス試合			
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席は届け出ること。		
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（卓球b）	担当者	奥野 忠枝
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 復習 基本の動き シングルス試合。
			2 カットについて学ぶ シングルス試合
			3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて			
5 グループでダブルスの試合			
6 上に同じ			
7 上に同じ			
8 上に同じ			
9 シングルのトーナメント試合			
10 シングルス ダブルスにわかれて試合			
11 総復習			
12 総復習と反省			
評価方法	同		
テキスト 参考 文献			

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	本田 稔祐
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（卓球a）	担当者	本田 稔祐
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。ラケットはできれば個人で用意するように。</p>	授業計画	1 授業内容の説明と個人資料カード作成（写真を必ず用意すること）
			2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて
			3 能力別グループ編成と、構え、フットワークなどの基本練習
			4 フォアハンド・ロング、バックハンドショート・簡易ゲーム
			5 バックハンド・ロング、ショートカット簡易ゲーム
			6 サーブ・レシーブ、能力別グループ内でのシングルスゲーム
			7 カット・スマッシュ、シングルスゲーム
			8 ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲーム
			9 ダブルスゲーム
			10 ダブルスゲーム
評価方法	出席点、平常点、技能点の3つで行う。（出席点は無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、技能点は進歩の度合で行う）		11 シングルス・トーナメント戦
テキスト参考文献	[参考文献]『指導者のための卓球』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、 倉木常夫他著 不味堂出版 他		12 シングルス・トーナメント戦

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（卓球b）	担当者	本田 稔祐
----------	--------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを始め、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。ラケットはできれば個人で用意するように。</p>	授業計画	1 チーム編成とチーム内シングルス・リーグ戦
			2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルス・リーグ戦。
			3 チーム対抗戦1
			4 チーム対抗戦2
			5 チーム対抗戦3
			6 チーム対抗戦4
			7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦
			8 シングルス・予選リーグ戦
			9 決勝リーグ戦
			10 決勝リーグ戦
評価方法	同		11 ダブルス・トーナメント戦
テキスト参考文献	同		12 技能テスト

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	青柳 多恵子
-----------	-------	-----	--------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（トレーニング）	担当者	青柳 多恵子
----------	-----------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 高齢・少子化と社会的構造の大きな変化といった背景のなかで個人の生活様式や将来計画が大きく変化し、そのあり方や考え方と共に実践のありようが問われている。健康・余暇について、現代では産業として年々拡大し、情報産業でも大変大きなテーマとして取り上げられている。そのような状況にもかかわらず知識・経験の不足が指摘されている。</p> <p>【講義概要】 自然と人間の関係と健康との意味を研鑽し、自然環境と人間行動の及ぼす影響を理解する。その上で自然体験に必要な知識と技能を身につけ、基礎的な体力を養成し、自然体系を乱さない知識と配慮を研究し危険防止の観点から、事前実施計画の作成と楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ガイダンス 調査・班形成	
	評価方法		出席と課せられたレポート提出	2 基礎体力測定 ストレッチと個人の運動量
			テキスト参考文献	
			4 ゲームによる体力維持 室内での実施	
			5 自然（山）の楽しみ方 山野草・バードウォッチング	
			6 自然（山）の楽しみ方 釣・山登り・キャンプ	
			7 自然観察のルールと環境保全 地域観察（草加市）	
			8 家庭と遊び リーダーとしての必要知識	
			9 地域・組織の遊び 班ごとの調理実習（野外）	
			10 志賀高原について 地形・自然観察・夏の山として	
			11 自然環境の楽しみ方 写真・絵・収集・山歩き・星観察	
			12 事前実施計画の検討 ノート・役割分担・携帯品（団体・個人）	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	青柳 多恵子
----------	------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【夏季集中講義】 実施期間：夏期休暇中4泊5日（後日発表） 長野県志賀高原にて実施する。</p>	授業計画	1 要項を別途配布する。	
	評価方法		出席と課せられたレポート提出	2
			テキスト参考文献	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	田代 力也
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（トレーニング）	担当者	田代 力也
----------	-----------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 自己の体力運動能力の特性を知ることによって、バランスのとれたトレーニング効果を得る。学内から合宿へ展開するアウトドアレクリエーションの持つ親睦性を認識する。</p> <p>[講義概要] スポーツ種目より数例の代表的ストレッチングプログラムを実習し合わせて循環器系・筋力系トレーニングを行う。アウトドアレクリエーション種目を実習し夏期合宿へつなげる。</p> <p>[受講者への要望] 特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となるので注意すること。</p>	授業計画	1 ガイダンス
	2 体力測定		
	3 "		
	4 "		
5 一般トレーニング・ストレッチング			
6 "			
7 "			
8 "			
9 アウトドアレクリエーション			
10 "			
11 "			
12 "			
評価方法	出席状況、参加態度と体力、運動能力の向上度を総合的に評価する。		
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（アウトドア高原）	担当者	田代 力也
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 自己の体力運動能力の特性を知ることによって、バランスのとれたトレーニング効果を得る。学内から合宿へ展開するアウトドアレクリエーションの持つ親睦性を認識する。</p> <p>[夏期集中講義] 夏期休暇中（期間後日発表）3泊4日 長野県菅平高原にて実施する。</p> <p>[内容] 軽登山・クロスカントリー オリエンテーリング アウトドアレクリエーション等</p> <p>[受講者への要望] 特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となるので注意すること。</p>	授業計画	1 要項を別途配布する。
	2		
	3		
	4		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法	出席状況、参加態度と体力、運動能力の向上度を総合的に評価する。		
テキスト 参考 文献			

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	勝瀬 武
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（バスケットボールa）	担当者	勝瀬 武
----------	--------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	2 基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
			テキスト参考文献	
			4 セットオフェンス （ハーフコートにおける 3対2）	
			5 セットディフェンス （ハーフコートにおける 5対5）	
			6 オールコートにおける試合（班分けをする）	
			7 オールコートにおける試合（班分けをする）	
			8 リーグ戦開始（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）	
			9 リーグ戦開始（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）	
			10 リーグ戦開始（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）	
			11 リーグ戦開始（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）	
			12 リーグ戦開始（試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう）	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（バスケットボールb）	担当者	勝瀬 武
----------	--------------------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 リーグ戦前の予備試合（リーグのためにチームの再編成）
			2 リーグ戦前の予備試合（リーグのためにチームの再編成）
			3 リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
評価方法	同		4 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
			5 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
テキスト参考文献			6 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
			7 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
			8 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
			9 リーグ戦（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
			10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。
			11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。
			12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	太田 朝博
-----------	-------	-----	-------

全校共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (バドミントンa)	担当者	太田 朝博
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して身につける。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにし、審判法についても十分に理解を深める。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめる。</p>	授業計画	1 年間授業計画の説明と、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。	
	評価方法		評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	2 バドミントン競技の全般的な説明を行う。 ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
				3 基本的なストロークをハイクリヤーに発展させる。 ネット際に落とすドロップを練習する。
テキスト参考文献	[参考文献]・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』、ベースボールマガジン社		4 クリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くにコントロールするヘアピンの練習をする。	
			5 各種のストロークを復習する。アンダーハンドから打つサーブの基本を練習する。	
			6 縦半分で半面シングルスのカウントを取って実施し、前後の動きを学ぶ。	
			7 前回の半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行う。	
			8 ドライブの基本を学び、全面を使用した正規のシングルのゲームを実施する。	
			9 スマッシュの基本を学び、スピードのあるシャトルに慣れる。シングルスゲームを実施する。	
			10 各種ストロークを練習する。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。	
			11 ダブルスのルールを理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。	
			12 いくつかのグループによるリーグ戦を実施する。 試合及び審判が円滑に進行するようにする。	
			13 総あたりのリーグ戦。	

全校共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (バドミントンb)	担当者	太田 朝博
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 基本的なストロークを復習しダブルスの試合方法と、審判法を確認し、試合を実施する。
			2 ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。
			3 ダブルスの基本的なフォーメーションを確認し、ゲームの中で生かせるようにする。
評価方法	同		4 ゲーム結果を分析し問題点を整理する。 ダブルスゲームを実施する。
			5 ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
テキスト参考文献	同		6 ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で使えるように質を高める。
			7 ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
			8 試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
			9 ゲームの中で問題点を集中して練習する。進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
			10 ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。
			11 ゲームを進行し、ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
			12 ゲームの進行を確認し、勝敗・順位などについて整理する。この授業のまとめをする。

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	梶野 克之
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (バドミントンa)	担当者	梶野 克之
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>	授業計画	1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意、連絡事項の確認。
	2 バドミントンの全般的な説明。コート、ラケット、シャトル等の説明。グリップと、ストロークを学ぶ		
	3 基本的技術ストローク ・オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーハンド		
評価方法	出席点を評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価外。		4 基本的技術○フットワーク フライトの理解 ○ ラケットワークとフライト (クリアードライブ)
			5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス、ショートサービス、ショートサービス
テキスト参考文献			6 " "
			7 " "
			8 ○いろいろなフォーメーション○基本的技術の復習 簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得
			9 前回までの復習
			10 前回までの復習
			11 前回までの復習
			12 前回までの復習

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (バドミントンb)	担当者	梶野 克之
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習
			2 " "
			3 " "
評価方法	同		4 " "
			5 " "
テキスト参考文献			6 シングルの決勝リーグ戦
			7 " "
			8 " "
			9 ダブルスのリーグ戦
			10 " "
			11 " "
			12 " "

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	小川又八朗
-----------	-------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（バレーボールa）	担当者	小川又八朗
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。	
	評価方法		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数4回以上の者は、対象外。	2 基本技と動き（アンダー オーバー）、パスゲーム1。
				3 レシーブとトス（ボールのつなぎ）、パスゲーム2。
テキスト参考文献	『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏 弘文堂		4 レシーブとカバーリング（守りのフォーメーション）、パスゲーム3。 5 基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブレシーブ 基本技と動き攻撃の組立、ミニゲーム1。 6 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム2。 7 チーム編成 サブレシーブのフォーメーション サブレシーブからの攻撃、スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、6チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（バレーボールb）	担当者	小川又八朗
----------	------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション）。	
	評価方法		同	2 上記と同じ。
				3 サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。
テキスト参考文献	同		4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブ、スパイクを含んだゲーム。ゲーム記録、チーム（特に攻撃スパイク サーブ） 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ ブロック）。 9 上記と同じ。 10 ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ。 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー 審判法など知的理解度をテストする。	

外国語学部共通科目	体育 I・II	担当者	田代 力也
-----------	---------	-----	-------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (フットサル a)	担当者	田代 力也
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] フットサルの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p>[講義概要] 年間授業計画の週毎の内容については、個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム形式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は、予備日を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p>[受講者への要望] ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。	2 ビデオ教材を使用しての導入部
			テキスト参考文献	
			4 キックの基礎	
			5 "	
			6 キックの応用	
			7 "	
			8 コンビネーションプレイ	
			9 "	
			10 "	
			11 ゲーム	
			12 "	
			13 予備	

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション (フットサル b)	担当者	田代 力也
----------	-------------------------	-----	-------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
評価方法	同		4 "
			5 "
テキスト参考文献			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 予備
			12 "

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	松原 裕
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（フットサルa）	担当者	松原 裕
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>【講義概要】 フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
	2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングゲームの講習と登録 授業実施場所の確認		
	3 ボールコントロール		
	4 簡易のゲーム		
5 " "			
6 競技規則、審判法の理解			
7 正規のゲーム			
8 " "			
9 ポジションの理解			
10 正規のゲーム			
11 " "			
12 " "			
13 " "			
評価方法	毎時間の出席、受講態度、期間中の技術の向上などを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（フットサルb）	担当者	松原 裕
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 ボールコントロール
			3 簡易のゲーム
			4 班分け・班別練習
			5 リーグ戦①
			6 リーグ戦②
			7 リーグ戦③
			8 リーグ戦④
			9 リーグ戦⑤
			10 リーグ戦⑥
			11 リーグ戦⑦
			12 リーグ戦⑧
			評価方法
テキスト参考文献	同		

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	和田 智
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（フリスビーa）	担当者	和田 智
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの實力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>	授業計画	1 オリエンテーション フライングディスクとは
			2 バックハンドスローとサイドアームスロー
			3 バックハンドスローとサイドアームスロー
			4 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			5 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			6 ディスクゴルフ
			7 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			8 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
			9 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
			10 ガッツ
評価方法	出席と受講態度、技術の向上度。		11 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
テキスト参考文献	[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。		12 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（フリスビーb）	担当者	和田 智
----------	-----------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの實力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>	授業計画	1 後期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明
			2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			8 チーム編成とリーグ戦
			9 リーグ戦
			10 リーグ戦
評価方法	出席と受講態度、技術の向上度。		11 リーグ戦
テキスト参考文献			12 リーグ戦 まとめ

外国語学部共通科目	体育Ⅰ・Ⅱ	担当者	青柳 多恵子
-----------	-------	-----	--------

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンスa）	担当者	青柳 多恵子
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽によって歩く（二人で）ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽によって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言語で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要] ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ガイダンス ダンスのVTR・班分け
	2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップⅠ・スタンダード		
	3 ステップⅠ・スタンダード ワルツのステップ		
4 ステップⅡ・Sベーシック NT・RTと音楽			
5 ステップⅡ・Sベーシック ホールドの意味と必要性			
6 ステップⅢ・Rベーシック リズムとバランス			
7 ステップⅢ・Rベーシック CHA・CHAステップ			
8 ステップⅣ・Sベーシック クイックステップ			
9 ステップⅣ・Sベーシック Q・リズム遊び（ジルバ）			
10 ステップⅤ・R・S 表現する事			
11 ステップⅤ・R・S 楽しむ事			
12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて			
評価方法	出席		
テキスト参考文献	プリント配布		

全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション（ボールルームダンスb）	担当者	青柳 多恵子
----------	---------------------------	-----	--------

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ガイダンス ダンスのVTR・班分け
	2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップⅠ・スタンダード		
	3 ステップⅠ・スタンダード ワルツのステップ		
4 ステップⅡ・Sベーシック NT・RTと音楽			
5 ステップⅡ・Sベーシック ホールドの意味と必要性			
6 ステップⅢ・Rベーシック リズムとバランス			
7 ステップⅢ・Rベーシック ジャイブ・ステップ			
8 ステップⅣ・Sベーシック クイックステップ			
9 ステップⅣ・Sベーシック Q・リズム遊び（ルンバ・マンボ）			
10 ステップⅤ・R・S 表現する事			
11 ステップⅤ・R・S 楽しむ事			
12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて			
評価方法	出席		
テキスト参考文献	プリント配布		

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 110 a	担当者	日下正一
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	英語講読を中心とした総合英語講座。 ビデオ・音声テープ・テキスト・英字新聞などあらゆる教材を使用する。毎週、小テストをおこなう。	授業計画	1 Orientation
			2 Lesson 1
			3 Lesson 2
			4 Lesson 3
評価方法	(1) 出席点 (2) 小テスト (3) 前期・後期試験を総合的に評価。		5 Lesson 4
			6 Lesson 5
			7 Lesson 6
			8 Lesson 7
テキスト参考文献	『初めての海外旅行』成美堂 (その他、毎週プリントを配布)		9 Lesson 8
			10 Lesson 9
			11 Lesson 10
			12 Lesson 11

全学共通授業科目	English 110 b	担当者	日下正一
----------	---------------	-----	------

全学共通授業科目	English 110 b	担当者	日下正一
		担当者	
講義目的および講義概要	英語講読を中心とした総合英語講座。 ビデオ・音声テープ・テキスト・英字新聞などあらゆる教材を使用する。毎週、小テストをおこなう。	授業計画	1 Orientation
			2 Lesson 12
			3 Lesson 13
			4 Lesson 14
評価方法	(1) 出席点 (2) 小テスト (3) 前期・後期試験を総合的に評価。		5 Lesson 15
			6 Lesson 16
			7 Lesson 17
			8 Lesson 18
テキスト参考文献	『初めての海外旅行』成美堂 (その他、毎週プリントを配布)		9 Lesson 19
			10 Lesson 20
			11 Lesson 21
			12 Lesson 22

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 110 a	担当者	佐藤保
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	授業テーマ=以下の様な項目に及ぶ、 和英辞典では引けないキーワードの内、特に日本人の伝統的美意識をいかに英語で表現するかということ、若い学生諸君と共に研究しよう と思っています。	授業計画= (1) 日本人の自然観 _____ (2) 風流 _____ (3) 粋 (いき) _____ (4) 粋 (すい) _____ (5) 通 (つう) _____ (6) 間 (ま) _____ (7) もののあわれ _____
		6
		7
		8
評価方法	試験結果 90% 平常点 (出席等) 10% (平常点) ①教科書 5点 ②米口語表現 (自由 挙手) 2点	9
テキスト参考文献	英語で話す「日本の心」 (講談社インターナショナル)	10
		11
		12

全学共通授業科目	English 110 b	担当者	佐藤保
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	同上	(8) 無常 _____ (9) おかし _____ (10) さび _____ (11) 渋い _____ (12) 有心 (うしん) _____ (13) わび _____ (14) 情 _____
		5
		6
		7
評価方法	試験結果 90% 平常点 (出席等) 10% (平常点) ①教科書 5点 ②米口語表現 (自由 挙手) 2点	8
テキスト参考文献	同上	9
		10
		11
		12

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 110 a	担当者	藤田登久子
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	本講座は、高校時に英語を履修しなかった学生を対象とし、基礎的な英語を総合的に学ぶことを目的とする。平易な英語で書かれた文章の読解を通じて、関連するボキャブラリー、リスニング、スピーキング等も学んで行く予定である。時間があればライティングも練習するつもりである。ユニットを2回で完了するので予習は必ずするように。必ず授業時には辞書を持参すること。毎回小テストを実施する。	授業計画	1 ガイダンス
			2 Synchronicity 1
			3 Synchronicity 2
評価方法	前期・後期試験の他に、授業態度、出席状況、発表及びレポートの内容、小テストなどの平常点を加味して評価する。		4 Alternative Medicine 1
			5 Alternative Medicine 2
			6 Nightmares 1
テキスト参考文献	<i>Stranger than Fiction</i> , Charles M. Knudsen, 南雲堂		7 Nightmares 2
			8 Urban Myths 1
			9 Urban Myths 2
			10 Wedding Customs 1
			11 Wedding Customs 2
			12 Review of the 1 st Semester

全学共通授業科目	English 110 b	担当者	藤田登久子
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期に同じ。	授業計画	1 ガイダンス
			2 Lucid Dreams 1
			3 Lucid Dreams 2
評価方法	前期に同じ。		4 Startling Facts 1
			5 Startling Facts 2
			6 Bizarre Foods of the World 1
テキスト参考文献	前期に同じ。		7 Bizarre Foods of the World 2
			8 Cosmetic Surgery 1
			9 Cosmetic Surgery 2
			10 Artificial Intelligence 1
			11 Artificial Intelligence 2
			12 Review of the 2 nd Semester

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 110 a	担当者	宮廻和男
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>受講生の専攻語学(ドイツ語、フランス語)の知識を活用しながら、英語の基礎文法の習得を目指します。入門の授業ですので、高い英語力は必要としませんが、教科書の問題をできるかぎり調べて予習してくる努力は必要です。</p> <p>基本的には毎回教材の答えあわせと解説が中心となります。解説では、ドイツ語、フランス語の文法と英語の文法を比較対照し、受講生が専攻している語学の知識を利用しながら理解を深めることが出来るように担当教員も工夫をするように努めます。基礎文法の習得を第一目標としますが、簡単な作文、読解練習も行い、リスニングの補助教材も使用して、総合的に英語の初級レベルの知識が獲得できるような授業にします。</p> <p>具体的には、受講者の顔ぶれを見てから再度授業の進め方を検討します。どの程度まで英語の知識があるのか、専攻語学と英語をどのように学んでいきたいのか、などを確認してから、受講者のみなさんの希望を聞き入れた授業にしたいと思えます。</p>	授業計画	1	名詞、代名詞
			2	動詞
			3	文の構成、構文
			4	冠詞
			5	前置詞
			6	比較
			7	名詞的な働きをする要素
			8	形容詞的な働きをする要素
			9	副詞、副詞的な働きをする要素
			10	語順
			11	語の形
			12	語の選択と意味
			評価方法	平常点を重視します。とくに出席と授業への取り組み度が重要です。期末に試験かレポートを課します。
テキスト ト参考 文献	Milada Broukal『英文理解のための英文法入門』 成美堂			

全学共通授業科目	English 110 b	担当者	宮廻和男
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要		授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
			評価方法	
テキスト ト参考 文献				

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 111 a	担当者	栗原勝
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>国際人として世界的に活躍したいと考えている人は多いとだろう。そのためには、幅広い国際理解やビジネス知識が必要だが、それ以上に大切なのは実践的な英語の運用能力である。</p> <p>本講義はそうした知識と能力を身につけることを目指している。Readingは、国際ビジネスに関するタイムリーな話題を扱っているので興味深く読めると思う。</p> <p>各課のExerciseとVocabulary Studyあり。T-F形式のComprehension Questionsあり。またListening Practiceありと多彩である。あまりやみ内容となっている。</p> <p>授業は学生諸君の発表を中心に進められるので毎時間の予習は不可欠である。特に各Lessonの300語程度の文は読んでおくべき。</p> <p>(定期試験を受けない。授業時数の1/3以上の欠席の場合は単位を認めない。)</p>	1	イントロダクション - 授業計画, 授業の進め方などの説明
		2	Lesson 1 Globalization in Business and Culture
		3	Lesson 2 Business Manners: Body Language
		4	Lesson 3 Names, Titles, and Terms of Respect
		5	Lesson 4 Business Etiquette
		6	Lesson 5 Individualism and Group Spirit
		7	Lesson 6 Working Overseas
		8	Lesson 7 Coping with Language and Culture Shock
		9	Lesson 8 Hospitality and Friendship
		10	Lesson 9 Negotiations: Cultural Differences
		11	Lesson 10 Negotiating for "Win-Win" Solutions
		12	Lesson 1~10 まとめ
評価方法	定期試験(学期末試験), 授業中の発表, 授業の出席状況などを総合的に評価する。		
テキスト参考文献	Global Understanding Success in International Business (SEIBIDO)		

全学共通授業科目	English 111 b	担当者	栗原勝
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>国際人として世界的に活躍したいと考えている人は多いとだろう。そのためには、幅広い国際理解やビジネス知識が必要だが、それ以上に大切なのは実践的な英語の運用能力である。</p> <p>本講義はそうした知識と能力を身につけることを目指している。Readingは、国際ビジネスに関するタイムリーな話題を扱っているので興味深く読めると思う。</p> <p>各課のExerciseとVocabulary Studyあり。T-F形式のComprehension Questionsあり。またListening Practiceありと多彩である。あまりやみ内容となっている。</p> <p>授業は学生諸君の発表を中心に進められるので毎時間の予習は不可欠である。特に各Lessonの300語程度の文は読んでおくべき。</p> <p>(定期試験を受けない。授業時数の1/3以上の欠席の場合は単位を認めない。)</p>	1	イントロダクション - 授業計画, 授業の進め方などの説明
		2	Lesson 11 US and Japanese Business: A Case Study
		3	Lesson 12 Marketing, Advertising, and Distribution
		4	Lesson 13 Communication in the "Thumb Generation"
		5	Lesson 14 Women in the International Workplace
		6	Lesson 15 Changes in Employment Systems
		7	Lesson 16 Establishing Trust in International Business
		8	Lesson 17 International Business and the Internet
		9	Lesson 18 Business and the Law: Foreign Lawsuits
		10	Lesson 19 Questions about Globalization and Free Trade
		11	Lesson 20 What is Success in the Global Business World?
		12	Lesson 11~20 まとめ
評価方法	定期試験(学期末試験), 授業中の発表, 授業の出席状況などを総合的に評価する。		
テキスト参考文献	Global Understanding Success in International Business (SEIBIDO)		

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 111 a	担当者	田中公美子
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>一時間目の授業時に受講者のグループ分けをして、そのグループごとに着席してもらう。年間を通じてグループ単位で学習活動を行うからである。</p> <p>一回ごとの授業は、英語を聞くことと、読むことに重点を置いた活動で構成する。</p> <p>2種類のテキストを使用することになるが、授業が始まるまでに指定するので各自で購入すること。内容は、今日の文化的、時事的諸相を扱うテキストになる予定である。そのほかに適宜、プリント教材を使用する。</p> <p>クラス全体での一斉活動、グループ単位での発表、小課題、小テストを通じて受講者の英語運用能力の増進をはかり、次のステップにつなげることを目的とする。</p>	授 業 計 画	1	はじめにガイダンスを行い、すぐに授業に入る。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	毎回の授業は前回の授業の延長にあり、毎回テキストの内容に即して進む。
		7		
			8	
			9	
			10	
評価方法	定期試験(50%)と平常点(50%)を加算する。		11	
テキスト参考文献	指定されたテキスト、並びに各自の英和辞書など。		12	

全学共通授業科目	English 111 b	担当者	田中公美子
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	前期の方針に準じる。	授 業 計 画	1	前期の方針に準じる。
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
評価方法	前期の方針に準じる。		11	
テキスト参考文献	前期の方針に準じる。		12	

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 112 a	担当者	大田原眞澄
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	[講義目的] 現在の世界を知る親しみやすいトピックを Basic English で読み、基本的な読解力を身につける。多読速読に慣れ、英語で世界の情報を入手することの面白さを実感し、英語に対する抵抗感をなくす。	授 業 計 画	1. Cultural Differences Don't Matter (p12)
	[講義概要] <i>Mini World 2003</i> を読む。毎週ミニテストを実施。 10-12 回目の講義では PBS news の実際の放送を聞き、スクリプトを読む。		2. A Cross-Cultural Marriage (p13)
			3. Working in New York (p14)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		4. A Tom Cruise Report (p8)
			5. Rooting for the Hanshin Tigers in English (p6)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		6. Yoshi and Pompey F.C. (p7)
			7. TECABS—Lightweight Cars of the Future (p16)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		8. Kamikaze Pilots (p18)
			9. Challenge of the New Vietnam Leader (p20)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		10. International Marriage in New York (p15) および PBS news (プリント教材)
			11. PBS news (プリント教材)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		12. PBS news (プリント教材)

全学共通授業科目	English 112 b	担当者	大田原眞澄
----------	---------------	-----	-------

講義目的および講義概要	[講義目的] 現在の世界を知る親しみやすいトピックを Basic English で読み、基本的な読解力を身につける。多読速読に慣れ、英語で世界の情報を入手することの面白さを実感し、英語に対する抵抗感をなくす。	授 業 計 画	1. A Year to Remember (p25)
	[講義概要] <i>Mini World 2003</i> を読む。毎週ミニテストを実施。 10-12 回目の講義では PBS news の実際の放送を聞き、スクリプトを読む。		2. Helping New Americans with Their Lessons (p26)
			3. The Feng Shui Doctor: Paul Darby (p28)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		4. Sweden: Superpower from Yesterday (p29)
			5. Traveling in Asia's Religious Center (p30)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		6. Living the Difference: British and American English (p5)
			7. Domo Domo Paradise—"Noise Pollution" (p2)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		8. Bush Foods (p32)
			9. Girl Power: Young Women in Pop (p34)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		10. What Do You Say?: At a CD Shop (p24) および PBS news (プリント教材)
			11. Living in the 21 st Century: What a Wired World! (p5) および PBS news (プリント教材)
評価方法 定期試験を主に、ミニテスト・出席・発表も勘案する。	テキスト参考文献 <i>Mini World 2003</i> (MACMILLAN)		12. PBS news (プリント教材)

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 112 a	担当者	本田謙介
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	現代英語を正確に読む練習をする。学生は毎回、最近の英字新聞の記事を辞書を使いながら読み、その内容についてレポートする。続いてテキストの読解に入る。テキストはリーディングの他にリスニングの練習もあり英語の総合的な学習に役立つであろう。学生は予習復習を十分に行い、疑問点を質問して欲しい。毎回英和辞書を使うので忘れないように。	授業計画	1 この授業の目的、注意事項など
			2 My Heart Will Go On
			3 My Heart Will Go On の続き
			4 Open Arms
			5 Open Arms の続き
			6 Don't Back In Anger
			7 Don't Back In Anger の続き
			8 A Whole New World
			9 A Whole New World の続き
			10 Livin' La Vida Loca
評価方法	出席及び定期試験の成績により評価する。		11 Livin' La Vida Loca の続き
テキスト参考文献	<i>English with Hit Songs -Featuring the 'Max Best' CD Compilation-</i> Teruhiko Kadoyama, Simon Capper 著 成美堂		12 前期のまとめ、質問等

全学共通授業科目	English 112 b	担当者	本田謙介
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 前期の試験の解説、返却
			2 Kiss Of Life
			3 Kiss Of Life の続き
			4 I Don't Want To Miss A Thing
			5 I Don't Want To Miss A Thing の続き
			6 Every Time I Close My Eyes
			7 Every Time I Close My Eyes の続き
			8 Life
			9 Life の続き
			10 The Stranger
評価方法			11 The Stranger の続き
テキスト参考文献			12 後期のまとめ、質問等

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 121 a	担当者	Ch.Carpenter
----------	---------------	-----	--------------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	English 121 b	担当者	Ch.Carpenter
----------	---------------	-----	--------------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 121 a	担当者	工藤政司
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	日本語と英語の違いを明らかにするために文法の解説を行い、英作文を演習、添削指導をする。	授業計画	1 自然な英語を書くために
			2 簡単な受け答えと紹介の表現
			3 感謝・わび—教室などで使う表現
			4 感覚—健康・病気などの表現
			5 考え・選択—天候・季節に関する表現
			6 衣服・ファッションに関する表現
			7 食事について述べる表現
			8 同上
			9 交通・旅行に関する表現
			10 学生生活・勉強などに関する表現
			11 同上・復習
			12 スポーツ・趣味に関する表現

評価方法 平常の発表及び試験の成績に出席真正加味して評価する

テキスト参考文献 教科書名 Modern Japanese into Modern English
著者 長谷川 潔 成美堂

全学共通授業科目	English 121 b	担当者	工藤政司
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	121aに同じ	授業計画	1 計画・意志、食事について述べる表現
			2 交通、旅行に関する表現
			3 興味、関心などに関する表現
			4 助言、忠告、住みに関する表現
			5 命令、禁止、事故などを示す表現
			6 読書、音楽などに関する表現
			7 原因、理由、人物性格などの表現
			8 目的、郵便、電話などに関する表現
			9 結果、程度、時刻、曜日などの表現
			10 比較、比例などの表現
			11 日本と外国に関する表現
			12 文化、芸術、科学などに関する表現

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 121 a	担当者	栗原勝
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>一般に「書くこと」は「話すこと」と同様に難しい技能と考えられている。実際、その通りである。しかし本講義においては1歩1歩段階をふんで難なく「書く技能」が向上するよう指導を行く予定である。</p> <p>テキストも様々な工夫がなされており、身近な内容をとり上げ、多彩なExerciseもパズルあり、インタビューありと、楽しく学習できるようにしている。</p> <p>「書くこと」には、単語、文法などの知識が不可欠なとは言ってもないが、随所にみられる適切なアドバイスクに従って、大胆と恐れずに積極的に書いてほしい。</p> <p>2時間で1つのUnitをこなして行くので必ず学習をしまわしてほしい。尚、「英和辞書」を授業中使用することが多いので必ず持参してほしい。</p>	授 業 計 画	1	イントロダクション - 授業計画、授業の進め方などの説明
			2	Unit 1 One Step at a Time (1)
			3	" (2)
			4	Unit 2 May I Ask Some Questions? (1)
			5	" (2)
			6	Unit 3 From Picture to Paragraph (1)
			7	" (2)
			8	Unit 4 My Friend John (1)
			9	" (2)
			10	Unit 5 Extend It! (1)
			11	" (2)
			12	Unit 1~5 まとめ

評価方法	定期試験(学期末試験)、授業中のテスト、出席状況などを総合的に評価する。
------	--------------------------------------

テキスト参考文献	Write Here, Write Now (MacMillan)
----------	-----------------------------------

全学共通授業科目	English 121 b	担当者	栗原勝
----------	---------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>一般に「書くこと」は「話すこと」と同様に難しい技能と考えられている。実際、その通りである。しかし本講義では1歩1歩段階をふんで難なく「書く技能」が向上するよう指導を行く予定である。</p> <p>テキストも様々な工夫がなされており、内容も、特にExerciseは多彩でパズルあり、インタビューありと、楽しいものとなっている。</p> <p>「書くこと」には、単語、文法などの知識が不可欠とは言ってもないが、1つ1つのアドバイスクに従って練習を重ねて行くには必ず力はつかなければならぬ。大胆と恐れずに積極的に書いてほしい。</p> <p>2時間で1つのUnitをこなすので必ず学習をしまわしてほしい。また、「英和辞書」も授業中使用することが多いので必ず持参してほしい。</p>	授 業 計 画	1	イントロダクション - 授業計画、授業の進め方などの説明
			2	Unit 6 Dear Hiroko (1)
			3	" (2)
			4	Unit 7 Do It Yourself (1)
			5	" (2)
			6	Unit 8 I Believe in Yesterday (1)
			7	" (2)
			8	Unit 9 What Did Your Father Say? (1)
			9	" (2)
			10	Unit 10 I Didn't Know That (1)
			11	" (2)
			12	Unit 6~10 まとめ

評価方法	定期試験(学期末試験)、授業中のテスト、出席状況などを総合的に評価する。
------	--------------------------------------

テキスト参考文献	Write Here, Write Now (MacMillan)
----------	-----------------------------------

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 122 a	担当者	E.J.Naoumi
----------	---------------	-----	------------

講義目的および講義概要	The ability to write different types of paragraphs in English confidently and well is an important first step in learning how to write in a second language. This course is designed to introduce different types of paragraphs in English and to give students many opportunities to practice writing them both in class and at home. It is very important to develop good writing habits and students are encouraged to rewrite their assignments before they submit a final portfolio for grading at the end of each semester	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Good writing habits– pre-writing 3. Good writing habits – drafting 4. Good writing habits – revising/proof-reading 5. E-mail 6. Narratives 7. Description of a person 8. Description of a place 9. Classification 10. Contrast 11. Workshop –common writing errors 12. Free writing and submission of portfolio 	
	評価方法			Participation, assignments and final portfolio
	テキスト参考文献			Sakamoto M., Furuya N., and Hubenthal C. D., <i>Thoughts into Writing Sebido</i>

全学共通授業科目	English 122 b	担当者	E.J.Naoumi
----------	---------------	-----	------------

講義目的および講義概要	In this semester we will continue to write different kinds of paragraphs, but we will also try longer pieces of writing and time permitting a group or class project.	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Revision – Free writing 2. Problem solving 3. Cause and effect 4. Personal opinion 5. Workshop 6. Introduction to essay writing 7. Essay writing continued 8. Résumé writing 9. Writing reviews 10. Project 11. Project 12. Project and submission of portfolio 	
	評価方法			Participation, assignments and final portfolio
	テキスト参考文献			Sakamoto M., Furuya N., and Hubenthal C. D., <i>Thoughts into Writing Sebido</i>

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 122 a	担当者	福井星一
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>目的に合った自然な文章を書くことは母語でも容易ではない。ともかく、ミスを恐れずに大胆に生意気に書いてみることから始めないと、外国語での文章表現の訓練はできない。この授業は、trial and error による英作文の訓練を重ねる場にしたい。講師としては、作文の自己評価能力をつけるような訓練方法の紹介などの情報提供と、進歩につながる失敗を安心して繰り返せる環境づくりを心がけたい。</p> <p>授業では、テキストに沿って進めつつ右記のようなテーマを取り上げたい。</p> <p>次のような問題も考えながら学習しよう。「優れたノン・ネイティブ」として、どういう書き方を目指すべきなのか。自分の中に英語文化または英語的な考え方を取り入れることの効果と副作用。</p>	授業計画	1 自己紹介 初歩的な表現として 4 行詩
			2 生の情報を整理する過程
			3 伝達用のメモ 要点整理
			4 比較的に長いエッセイ
			5 自己添削と推敲
			6 他人の作品を校正、批評する
			7 文法ミス
			8 真剣な手紙
			9 頼みにくいことを頼む手紙
			10 「フォーマル」な書体とは
			11 優れた文章とは
			12

評価方法 積極的な授業参加（出席のほか質問や発表、毎回の小課題提出）を期末試験同様重視する。

テキスト参考文献 *Thoughts into Writing* 成美堂

全学共通授業科目	English 122 b	担当者	福井星一
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>122 a との連続受講を原則とするので、同様の基本姿勢を保ちつつ、122 a の状況と成果を見た上で調整する。</p> <p>目的や相手に合った表現や書体を選ぶことができるように、表現の幅を広げることを目標にしたい。公的な文書やフォーマルな手紙などを書く力もつけたい。</p>	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法 積極的な参加と提出物による自己表現を重視する。

テキスト参考文献 *Thoughts into Writing* 成美堂

--	--	--	--

全学共通授業科目 English 131 a	担当者 瀬戸千尋
---------------------------	-------------

講義目的および講義概要	【講義の目標】 本講義では、主に口頭によるコミュニケーション能力を育成することを目的とする。したがって、積極的に発話しようとする姿勢の養成と促進、英語を聴解する能力および自分の考えや意志を表現する能力の育成が中心的な課題である。 【講義概要】 授業は、テキストのコンセプトに従い、その内容を十分に習得できるような形で進められる。つまり、テキストに示された内容の反復や類似した表現の練習が中心的な内容となる。個人によるリピート練習、ペアワーク、グループワークなどが想定される。 本講義は、科目の特性上、受講者の受講態度に大きくその成果を左右される。したがって、受講生全員の積極的な姿勢が強く求められる。	授業計画	1 オリエンテーション
			2 テキストに従い、順次進行する。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	出席状況と通常の授業における評価による。		11
テキスト参考文献	McMahon, R. <i>Presenting Different Opinions</i> . Nan'un-Do.		12

全学共通授業科目 English 131 b	担当者 瀬戸千尋
---------------------------	-------------

講義目的および講義概要	【講義の目標】 本講義では、主に口頭によるコミュニケーション能力を育成することを目的とする。したがって、積極的に発話しようとする姿勢の養成と促進、英語を聴解する能力および自分の考えや意志を表現する能力の育成が中心的な課題である。 【講義概要】 授業は、テキストのコンセプトに従い、その内容を十分に習得できるような形で進められる。つまり、テキストに示された内容の反復や類似した表現の練習が中心的な内容となる。個人によるリピート練習、ペアワーク、グループワークなどが想定される。 本講義は、科目の特性上、受講者の受講態度に大きくその成果を左右される。したがって、受講生全員の積極的な姿勢が強く求められる。	授業計画	1 オリエンテーション
			2 テキストに従い、順次進行する。
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	出席状況と通常の授業における評価による。		11
テキスト参考文献	McMahon, R. <i>Presenting Different Opinions</i> . Nan'un-Do.		12

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 131 a	担当者	高松節子
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	英語でのコミュニケーションを行う能力を身に付けることを目標とします。ナチュラルスピードの英語を聞き、内容を理解し、基本的な日常会話を英語で行えるようになることを目指しています。 アメリカを舞台にしたビデオ教材を使用します。一つのエピソードが三幕（アクト）から成り、一回の授業で一幕ずつ進みます。 エピソード1~4を学習します。授業ではビデオの内容理解、文法・重要表現・発音の練習、およびペアワークや質疑応答などのコミュニケーション練習を行います。教材を基にした基礎自己表現訓練です。 毎回授業の最後にヒアリングクイズを行います。 受講者はテープを持参すること。	授業計画	1 "46 Linden Street" Act 1
			2 Act 2
			3 Act 3
			4 "The Blind Date" Act 1
			5 Act 2
			6 Act 3
			7 "Grandpa's Trunk" Act 1
			8 Act 2
			9 Act 3
			10 "A Piece of Cake" Act 1
評価方法	平常点によります。出席は特に重視されます。		11 Act 2
テキスト参考文献	<i>Family Album U.S.A.</i> NHK 出版 (1995)		12 Act 3

全学共通授業科目	English 131 b	担当者	高松節子
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	英語でのコミュニケーションを行う能力を身につけることを目標とします。ナチュラルスピードの英語を聞き、内容を理解し、基本的な日常会話を英語で行えるようになることを目指しています。 アメリカを舞台にしたビデオ教材を使用します。一つのエピソードが三幕（アクト）から成り、一回の授業で一幕ずつ進みます。 エピソード5~8を学習します。授業ではビデオの内容理解、文法・重要表現・発音の練習、およびペアワークや質疑応答などのコミュニケーション練習を行います。教材を基にした基礎自己表現訓練です。 毎回授業の最後にヒアリングクイズを行います。 受講者はテープを持参すること。	授業計画	1 "The Right Magi" Act 1
			2 Act 2
			3 Act 3
			4 "Thanksgiving" Act 1
			5 Act 2
			6 Act 3
			7 "Man's Best Friend" Act 1
			8 Act 2
			9 Act 3
			10 "You're Going to Be Fine" Act 1
評価方法	平常点によります。出席は特に重視されます。		11 Act 2
テキスト参考文献	<i>Family Album U.S.A.</i> NHK 出版 (1995)		12 Act 3

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 131 a	担当者	中上健二
----------	---------------	-----	------

講義目標および講義概要	<p><講義目標> 基本的な会話のストラテジーを身につけ、相手の話を理解し、自分の考えを的確に表現できるようになることをめざす。</p> <p><講義概要> テキストやプリントを使い、個人、ペア、グループにおいて「聞く」「話す」活動を中心に、英語コミュニケーション能力を高める。</p> <p><受講者への要望> とにかく積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が求められる。</p>	授 業 計 画	1 Course introduction Self introduction
			2 Communicating in English
			3 Different kinds of people
			4 Free time
			5 Weather and climate
			6 Money
			7 Food and drink
			8 Travel and tourism
			9 Entertainment
			10 Relationships
評価方法	試験（オーラル）、出席点、平常点		11 Games and sports
テキスト 参考 文献	Leo Jones "Let's Talk 1" (Cambridge University Press)		12 Aural-oral test

全学共通授業科目	English 131 b	担当者	中上健二
----------	---------------	-----	------

講義目標および講義概要		授 業 計 画	1 Health and fitness	
			2 Self-improvement	
			3 In the city	
			4 Foreign customs	
			5 Famous people	
			6 Home, sweet home	
			7 Then and now	
			8 The future	
			9 Modern inventions	
			10 News and current events	
	評価方法			11 Comedy and humor
	テキスト 参考 文献			12 Aural-oral test

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 131 a	担当者	八丁由比
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目標：</p> <p>英語によるコミュニケーション能力を高める。</p> <p>講義概要：</p> <p>英語でコミュニケーションを行うには、聞く・意見を持つ・話すの3点が重要である。したがって、この授業では映像や音声などの媒体を使用し、まず英語を聞くことに慣れ、そして自分の意見を表現する訓練を行う。これを繰り返し行うことによって、最終的に、より長く複雑な英語を理解し、まとまった意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	授業計画	<p>1. ガイダンス、アンケート</p> <p>2.～12. スピーキング・エクソサイズ</p> <p>* 講義の詳細については、ガイダンス時に詳しく説明する。受講する学生は、必ず初回に出席すること。</p> <p>* 会話の授業なので、出席と積極的な授業参加が求められる。</p>
	評価方法		出席重視・小テスト・期末テスト
	テキスト参考文献		VTR・コピー配布・適宜紹介する

全学共通授業科目	English 131 b	担当者	八丁由比
----------	---------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義目標：</p> <p>英語によるコミュニケーション能力を高める。</p> <p>講義概要：</p> <p>英語でコミュニケーションを行うには、聞く・意見を持つ・話すの3点が重要である。したがって、この授業では映像や音声などの媒体を使用しながら、まず英語を聞くことに慣れ、そして自分の意見を表現する訓練を行う。これを繰り返し行うことによって、最終的に、より長く複雑な英語を理解し、まとまった意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	授業計画	<p>1. ガイダンス、アンケート</p> <p>2.～12. スピーキング・エクソサイズ</p> <p>* 講義の詳細については、ガイダンス時に詳しく説明する。受講する学生は、必ず初回に出席すること。</p> <p>* 会話の授業なので、出席と積極的な授業参加が求められる。</p>
	評価方法		出席重視・小テスト・期末テスト
	テキスト参考文献		VTR・コピー配布・適宜紹介する

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 132 a	担当者	J.Waldman
----------	---------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.	授 業 計 画	1 Introductions with an explanation of the grading system and student requirements.
			2 In this session students will generate topics for discussions that will be used throughout the semester.
			3 The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States.
			4 The difference in life styles between students and their parents will be the topic of conversation in this class.
			5 This session will revolve around reading patterns and students' favorite books.
			6 The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class.
			7 This session will focus on travel experiences to broaden students' cultural understanding.
			8 Health topics affecting university students will be the topic of this class.
			9 High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class.
			10 Storytelling techniques will be used to generate conversations among students.
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework, and examinations.		11 The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans.
テキスト参考文献	No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussion.		12 Midterm examination.

全学共通授業科目	English 132 b	担当者	J.Waldman
----------	---------------	-----	-----------

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
			2 The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class.
			3 In this class students will learn to read and understand English newspapers.
			4 Students will continue to work with English newspapers to further proficiency.
			5 This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test.
			6 Test on previous three lessons using English newspapers.
			7 Students will give presentations explaining some aspect of Japanese culture.
			8 Problems of non- Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in this class.
			9 Storytelling techniques will be used to generate discussion in this class.
			10 The topic of this class will be environmental problems.
評価方法			11 Communication activities using music will be the focus of this class.
テキスト参考文献			12 Final examination.

--	--	--	--

全学共通授業科目	English 132 a	担当者	T.J.Fotos
----------	---------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	English 132 b	担当者	T.J.Fotos
----------	---------------	-----	-----------

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語 I (A会話)	担当者	A.Lipsky
-----------	----------------	-----	----------

全学共通授業科目	ドイツ語 I Aa(会話)	担当者	A.Lipsky
----------	---------------	-----	----------

講義目的および講義概要	ドイツ語 I A、BCあるいはIIを履修している学生を対象とした会話練習のためのコースです。この授業のみ単独で履修することはできません。	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト 参考 文献			

全学共通授業科目	ドイツ語 I Ab (会話)	担当者	A.Lipsky
----------	----------------	-----	----------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト 参考 文献			

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語 I (A)	担当者	各担当教員
-----------	--------------	-----	-------

全学共通授業科目	ドイツ語 I Aa	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目標：2年間でドイツ語検定4級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語の旅行会話を中心に、実践的なドイツ語の習得を目指します。テキストはビデオを中心に作られていますので、会話を通じてドイツ語の基礎を学びます。各課で必要な文法事項は副教材を利用して学びますので、読んだり書いたりする力の養成にもなります。</p> <p>春学期ははじめて学ぶドイツ語ですので、ドイツ語とドイツ語圏のイントロダクションを中心に比較的ゆっくりと授業を進めていきます。</p> <p>テキストは第1回目の授業でプリントを配布しますので、受講希望者はA4のファイルを各自必ず用意して下さい。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス	
	評価方法		期末統一試験、出席、平常点	2
	テキスト参考文献		Deutsch Plus (プリント配布) 副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社	3
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

全学共通授業科目	ドイツ語 I Ab	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
	評価方法		2
	テキスト参考文献		3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語 I (B)	担当者	各担当教員
-----------	--------------	-----	-------

全学共通授業科目	ドイツ語 I Ba	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目標：1年目でドイツ語検定4級、2年目で3級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語の旅行会話を中心に、1年目は現在中心の日常会話、2年目では過去や未来などより高度な会話を中心に実践的なドイツ語の習得を目指します。テキストはビデオを中心に作られていますので、会話を通じてドイツ語の基礎を学んでいきます。各課で必要な文法事項は副教材を利用して学びますので、読んだり書いたりする力の養成にもなります。</p> <p>ドイツ語 I C との履修となります。</p> <p>テキストは第1回目の授業でプリントを配布しますので、受講希望者は <u>A4 のファイル</u> を各自必ず用意して下さい。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	Deutsch Plus (プリント配布) 副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

全学共通授業科目	ドイツ語 I Bb	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語 I (C)	担当者	各担当教員
-----------	--------------	-----	-------

全学共通授業科目	ドイツ語 I Ca	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>目標：1年目でドイツ語検定4級、2年目で3級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語 I B で学んだ事柄をネイティブ教員との練習によってより実践的に身に付けていきます。特に会話力と聞き取り力の養成を目指します。</p> <p>ドイツ語 I B との履修となります。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	期末試験、出席、平常点		
テキスト参考文献	副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

全学共通授業科目	ドイツ語 I Cb	担当者	各担当教員
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	基礎フランス語 I (A)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全学共通授業科目	フランス語 I Aa	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした授業です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 教科書は MOSAIQUES という新しいタイプのものを使用します。 前期は ABC から始まって、leçon 5 まで進みます。 授業はビデオと MD を使って行います。 右におおよその進み方を示しますが、具体的な進度は担当の先生により異なります。	授業計画	1 発音とつづりの読み方 (1)	
			2 発音とつづりの読み方 (2)	
			3 第1課	
	4 第1課			
	5 第2課			
	6 第3課			
	7 第3課			
	8 第4課			
	9 第4課			
	10 第5課			
評価方法	担当の各先生により指示されます。			11 第5課
テキスト 参考 文献	MOSAIQUES 辞書等は授業の際指示します。			12 まとめ

全学共通授業科目	フランス語 I Ab	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした授業です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 教科書は MOSAIQUES という新しいタイプのものを使用します。 後期は leçon 6 から始まって、leçon 9 か 10 まで進みます。 授業はビデオと MD を使って行います。 右におおよその進み方を示しますが、具体的な進度は担当の先生により異なります。	授業計画	1 第6課	
			2 第6課	
			3 第6課	
	4 第7課			
	5 第7課			
	6 第7課			
	7 第8課			
	8 第8課			
	9 第8課			
	10 第9課			
評価方法	担当の各先生により指示されます			11 第9課
テキスト 参考 文献	MOSAIQUES			12 第9課

外国語学部共通科目	基礎フランス語 I (B)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全校共通授業科目	フランス語 I Ba	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法事項を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。1B は日本人、1C はフランス人講師が担当します。</p> <p>IB ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。具体的な授業の進行は担当の各先生が指示します。</p>	授業計画	1 発音とつづり字の読み方 (1)
			2 発音とつづり字の読み方 (2)
			3 Unité1 leçon1
			4 Unité1 leçon2
			5 Unité1 leçon3
			6 Unité1 leçon4
			7 Unité2 leçon5
			8 Unité2 leçon6
			9 Unité2 leçon7
			10 Unité2 leçon8
評価方法	担当の各先生が指示します。		11 Unité3 leçon9
テキスト参考文献	INITIALvol.1		12 Unité3 leçon10

全校共通授業科目	フランス語 I Bb	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法事項を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。1B は日本人、1C はフランス人講師が担当します。</p> <p>IB ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。具体的な授業の進行は担当の各先生が指示します。</p>	授業計画	1 Unité3 leçon11
			2 Unité3 leçon12
			3 Unité4 leçon13
			4 Unité 4 leçon14
			5 Unité4 leçon15
			6 Unité4 leçon16
			7 Unité5 leçon17
			8 Unité5 leçon18
			9 Unité5 leçon19
			10 Unité5 leçon20
評価方法	担当の各先生が指示します。		11 まとめ (1)
テキスト参考文献	INITIALvol.1		12 まとめ (2)

外国語学部共通科目	基礎フランス語 I (C)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全学共通授業科目	フランス語 I Ca	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。実際に使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右に進度を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p>	授業計画	1 発音 (1)
			2 発音 (2)
			3 Unité1 leçon1
4 Unité1 leçon2			
5 Unité1 leçon3			
6 Unité1 leçon4			
7 Unité2 leçon5			
8 Unité2 leçon6			
9 Unité2 leçon7			
10 Unité2 leçon8			
11 Unité3 leçon9			
12 Unité3 leçon10			
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト参考文献	INITIALvol.1		

全学共通授業科目	フランス語 I Cb	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。実際に使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右に進度を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p>	授業計画	1 Unité3 leçon11
			2 Unité3 leçon12
			3 Unité4 leçon13
4 Unité4 leçon14			
5 Unité4 leçon15			
6 Unité4 leçon16			
7 Unité5 leçon17			
8 Unité5 leçon18			
9 Unité5 leçon19			
10 Unité5 leçon20			
11 まとめ (1)			
12 まとめ (2)			
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト参考文献	INITIALvol.1		

外国語学部共通科目	基礎スペイン語 I (A)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全学共通授業科目	スペイン語 I Aa	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心としながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p> <p>注意! <u>秋学期、木曜2限のスペイン語 I Aa (浦部) と同じく秋学期、火曜1限のスペイン語 I Ab (ガリード) はどちらも秋学期に置かれてあるが、ともに初心者用の授業を行う。したがって、この二つの授業を秋学期に取ることで、春・秋通して、スペイン語 I Aa, スペイン語 I Ab をとることと同じになる。また、この二つの授業はペア授業とするため、他のクラスとの組み合わせはできない。</u></p>	授業計画	1 発音・アクセント
			2 名詞の性・数、冠詞
			3 形容詞
			4 動詞の活用 --- 直説法現在規則形
			5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則形
			6 ser, estar 動詞の使い方
			7 代名詞の使い方
評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	デキスト 参考 文献	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
			『オラ・アミーゴス』(芸林書房) および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。

全学共通授業科目	スペイン語 I Ab	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>スペイン語 I Aa に引き続き、週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、口頭練習を中心としながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p> <p>注意! <u>秋学期、木曜2限のスペイン語 I Aa (浦部) と同じく秋学期、火曜1限のスペイン語 I Ab (ガリード) はどちらも秋学期に置かれてあるが、ともに初心者用の授業を行う。したがって、この二つの授業を秋学期に取ることで、春・秋通して、スペイン語 I Aa, スペイン語 I Ab をとることと同じになる。また、この二つの授業はペア授業とするため、他のクラスとの組み合わせはできない。</u></p>	授業計画	1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ			
			2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ			
			3 代名詞の使い方			
			4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形			
			5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形			
			評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	デキスト 参考 文献	基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
						『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。

外国語学部共通科目	基礎スペイン語 I (B)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全学共通授業科目	スペイン語 I Ba	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 会話コースであるスペイン語 I Ca との同時履修とする。	授業計画	1 発音・アクセント	
	評価方法		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	2 名詞の性・数、冠詞
			テキスト等 文献	『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。
4 形容詞				
5 動詞の活用 --- 直説法現在規則形				
6 動詞の活用 --- 直説法現在不規則形				
7 ser, estar 動詞の使い方				
8. 代名詞の使い方				
		基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。		

全学共通授業科目	スペイン語 I Bb	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	スペイン語 I Ba に引き続き、週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 会話コースであるスペイン語 I Cb との同時履修とする。	授業計画	1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ	
	評価方法		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ
			テキスト等 文献	『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。
4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形				
5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形				
				基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。

外国語学部共通科目	基礎スペイン語 I (C)	担当者	各担当教員
-----------	---------------	-----	-------

全学共通授業科目	スペイン語 I Ca	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>文法コースであるスペイン語 I Ba との同時履修とする。</p>	授業計画	<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I Ba の「授業計画」を参照のこと。</p>	
	評価方法			出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。
	テキスト等			『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。

全学共通授業科目	スペイン語 I Cb	担当者	各担当教員
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>スペイン語 I Ca に引き続き、週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>文法コースであるスペイン語 I Bb との同時履修とする。</p>	授業計画	<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 I Bb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
	評価方法			出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。
	テキスト等			『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。

外国語学部共通科目	基礎中国語 I (A)	担当者	各担当教員
-----------	-------------	-----	-------

全学共通授業科目	中国語 I Aa	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義の目的 週1回のクラスで、中国語の簡単な文章の読み書きと会話の初歩を習得する。	授業計画	1
	講義の概要 中国語は発音が難しいと言われる。この授業は、まず最初の難関である発音に重点を置く。ローマ字発音表記法(ピンイン)を正しく発音できるように、また中国語独特の抑揚(四声)を完全に把握できるようにする。同時に、今中国で使われている簡体字、基本的語彙・語法を習得する。		2
	成績は、定期試験と出席点・小テスト・練習問題への取り組みなどによる平常点と両方によって評価する。総合成績が60点以上で単位取得となる。		3
テキスト参考文献	『中国語ステップ・ハイステップ』白水社		4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

全学共通授業科目	中国語 I Ab	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義の目的 これまでに習得した基礎的な語学力を発展させ、更に日常の様々な活動を言い表す対話を中心とした実用中国語を耳から口へというコースで習得する。	授業計画	1
	講義の概要 まずはじめに、発音の復習に重点を置く。中国についての基本的な知識が身につけられるよう、会話内容を充実させ、簡単な文の組み立てができるように、基本的な語彙を修得する。		2
	成績は、定期試験と出席点・小テスト・練習問題への取り組みなどによる平常点と両方によって評価する。総合成績が60点以上で単位取得となる。		3
テキスト参考文献	『中国語ステップ・ハイステップ』白水社		4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

外国語学部共通科目	基礎中国語 I (B)	担当者	各担当教員
-----------	-------------	-----	-------

全学共通授業科目	中国語 I Ba	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に押さえ、話せる中国語を目指します。	授 業 計 画	1	教科書に沿って進みます。(詳しくは各担当先生が授業中に指示します。)	
	評価方法		出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。	2	
			テキスト参考文献	『発信型 中国語初級テキスト』 大塚秀明他著 光生館 2,400円	3
				4	
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		

全学共通授業科目	中国語 I Bb	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	目的は前期と同様、概要は実際の会読文の発音練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。テキストの本文の暗記、暗唱が必要最低条件です。	授 業 計 画	1	教科書に沿って進みます。(詳しくは各担当先生が授業中に指示します。)	
	評価方法		出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。	2	
			テキスト参考文献	『発信型 中国語初級テキスト』 大塚秀明他著 光生館 2,400円	3
				4	
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		

外国語学部共通科目	基礎中国語 I (C)	担当者	各担当教員
-----------	-------------	-----	-------

全学共通授業科目	中国語 I Ca	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>まず、中国語の正確な発音法の習得に力をいれます。次いで、基礎的文法と基本語彙を習得し、さらにその知識を応用し、中国語を使ったごく初歩的な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>具体的には、はじめの数週間で、発音練習を集中的に行い、中国語のすべての音節の発音法を習得します。その後は、テキストに沿って、文法事項の解説を行い、本文（平易な会話文）を読解するという形式で授業を進めます。基本文を暗記し、練習問題を解く作業を通じて、知識の定着を目指します。</p>	授業計画	1 ガイダンス 第1課：発音（声調）
			2 第1課：発音（単母音・複母音）
			3 第2課：発音（子音）
			4 第3課：発音（鼻音を伴う母音）
			5 第4課：発音
			6 発音のまとめ
			7 第5課
			8 第6課
			9 Review（第5,6課の復習）
			10 第7課
評価方法	具体的な評価方法については、学年始めに担当教員に説明を求めてください。		11 第8課
テキスト参考文献	テキスト：『学ビテ時ニ之ヲ習フ』好文出版 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館		12 Review（第7,8課の復習）

全学共通授業科目	中国語 I Cb	担当者	各担当教員
----------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>前期の中国語 I Ca を受講した学習者を対象とします。</p> <p>日常会話に必要なレベルの基礎的文法や語彙を習得し、さらにその知識を応用し、中国語を使った簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>基本的には、テキストに沿って、文法事項の解説を行い、本文（平易な会話文）を読解するという形式で授業を進めます。基本文を暗記し、練習問題を解く作業を通じて、知識を定着させると同時に、口頭並びに書面による表現能力を身に付けてゆきます。</p>	授業計画	1 第9課
			2 第10課
			3 Review（第9,10課の復習）
			4 第11課
			5 第12課
			6 Review（第11,12課の復習）
			7 第13課
			8 第14課
			9 Review（第13,14課の復習）
			10 第15課
評価方法	具体的な評価方法については、学年始めに担当教員に説明を求めてください。		11 第16課
テキスト参考文献	テキスト：『学ビテ時ニ之ヲ習フ』好文出版 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館		12 Review（第15,16課の復習）

外国語学部共通科目	基礎ポルトガル語 I	担当者	山本 麻美子
-----------	------------	-----	--------

全学共通授業科目	ポルトガル語 I a	担当者	山本 麻美子
----------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【講義目標】</p> <p>ポルトガル語をはじめて学ぶ者や初級者を対象として、正しい発音、聞き取り、会話、文法の基礎固めをする。ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーションに必要な総合的基礎力の養成を目指す。また、映像資料を通してポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景の理解も試みる。</p> <p>【講義概要】</p> <p>テキストに沿って基本表現を口頭練習しながらポルトガル語の正しい発音をマスターする。現地会話に馴染むように実際の生活で頻出する口語表現も学習し、日常レベルでのコミュニケーション能力を養うと同時に、配布資料で文法事項を丁寧に解説していく。ヒアリング・発音練習にはブラジルやポルトガルのポピュラー音楽（サンバ、ボサノヴァ、ファド等）や映画、テレビ番組の一部を利用する。その他、ドキュメンタリー・ビデオ等の映像資料で社会的・文化的背景の理解も深める。本講義は、ポルトガル語文化圏の全体像を正しくイメージするための機会としたい。</p>	授業計画	1 ポルトガル語総論
			2 アルファベット、綴り字記号、母音（口母音、鼻母音、二重口母音、二重鼻母音）、子音、アクセント
			3 文型と特徴：品詞（変化語と不変化語）、文の構成と種類、基本文型
			4 主格人称代名詞、動詞 SER、動詞 ESTAR、疑問文と否定文
			5 名詞、冠詞、形容詞
			6 名詞・冠詞・形容詞の性数一致
			7 時の副詞、指示詞
			8 現在形と現在進行形
			9 規則動詞の活用（直説法・現在形）
			10 主要不規則動詞の活用（直説法・現在形）、数詞
評価方法	出席状況と試験により評価する。		11 《IR の直・現在形+Infinitivo》の未来表現、動詞総説
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Helena H. Toida/M. Neves Jr./大野隆雄『こうすれば話せるCD ブラジルポルトガル語』（朝日出版社） ・ 池上岑夫他『現代ポルトガル語辞典』（白水社） 		12 まとめ

全学共通授業科目	ポルトガル語 I b	担当者	山本 麻美子
----------	------------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【講義目標】</p> <p>初級者を対象として正しい発音、聞き取り、会話、文法の基礎固めをする。ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーションに必要な総合的基礎力の養成を目指す。また、映像資料を通してポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景の理解も試みる。</p> <p>【講義概要】</p> <p>テキストに沿って基本表現を口頭練習しながらポルトガル語の正しい発音をマスターする。現地会話に馴染むように実際の生活で頻出する口語表現も学習し、日常レベルでのコミュニケーション能力を養うと同時に、配布資料で文法事項を丁寧に解説していく。ヒアリング・発音練習にはブラジルやポルトガルのポピュラー音楽（サンバ、ボサノヴァ、ファド等）や映画、テレビ番組の一部を利用する。その他、ドキュメンタリー・ビデオ等の映像資料で社会的・文化的背景の理解も深める。本講義は、ポルトガル語文化圏の全体像を正しくイメージするための機会としたい。</p>	授業計画	1 直説法・完了過去形
			2 直説法・未完了過去形
			3 前置詞、直説法・現在未来形
			4 所有詞、疑問詞
			5 前置詞句
			6 比較級
			7 接続詞、-mente の副詞
			8 時の副詞句
			9 直説法・過去未来形（丁寧な依頼）
			10 縮小辞、受身文
評価方法	出席状況と試験により評価する。		11 重要表現、既習文法事項の確認
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Helena H. Toida/M. Neves Jr./大野隆雄『こうすれば話せるCD ブラジルポルトガル語』（朝日出版社） ・ 池上岑夫他『現代ポルトガル語辞典』（白水社） 		12 まとめ

外国語学部共通科目	基礎ポルトガル語Ⅱ	担当者	山本 麻美子
-----------	-----------	-----	--------

全校共通授業科目	ポルトガル語Ⅱa	担当者	山本 麻美子
----------	----------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】</p> <p>ポルトガル語Ⅰより一歩進んだ会話表現、文法、読解、作文力を習得し、ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を向上させる。ポルトガル語の基礎を構造的に完成させ、実際に活用できるようにする。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景について理解を深める。</p> <p>【講義概要】</p> <p>原則としてポルトガル語Ⅰの続きと位置付け、初級後半から中級レベルを想定して授業を行うが、受講者の習熟度に応じて内容を調節する予定である。ポルトガル語Ⅰと合わせてひと通りポルトガル語の基礎文法を習得し終えることを目指すが、重要な表現や文法事項は既習のものでも繰り返し解説する。会話、文法、読解、作文の力がバランスよく身に付くように、実践形式で取り組む。また、映像資料を使ってブラジルやポルトガル等の社会、歴史、文化にも触れ、「ルゾフォニア」と称されるポルトガル語文化圏について様々な角度から理解を試みたい。</p>	授業計画	1 ポルトガル語総論、ポルトガル語Ⅰの復習
			2 重要表現の確認、重要動詞の基本的用法、目的格人称代名詞
			3 否定語とポルトガル語の否定文
			4 不定数量表現、命令文
			5 関係詞
			6 大過去複合形（完了表現）
			7 接続法・未来形
			8 直説法・過去未来形（条件法）
			9 仮定文①
			10 代名動詞、非人称的用法のSE
			11 直説法・完了過去複合形
			12 まとめ
評価方法	出席状況と試験により評価する。		
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Helena H. Toida/M. Neves Jr./大野隆雄『こうすれば話せるCD ブラジルポルトガル語』（朝日出版社） ・ 池上岑夫他『現代ポルトガル語辞典』（白水社） 		

全校共通授業科目	ポルトガル語Ⅱb	担当者	山本 麻美子
----------	----------	-----	--------

講義目的および講義概要	<p>【講義の目標】</p> <p>ポルトガル語Ⅰより一歩進んだ会話表現、文法、読解、作文力を習得し、ポルトガル語でのコミュニケーション及びプレゼンテーション能力を向上させる。ポルトガル語の基礎を構造的に完成させ、実際に活用できるようにする。また、ポルトガル語圏の社会的、歴史的、文化的背景について理解を深める。</p> <p>【講義概要】</p> <p>原則としてポルトガル語Ⅰの続きと位置付け、初級後半から中級レベルを想定して授業を行うが、受講者の習熟度に応じて内容を調節する予定である。ポルトガル語Ⅰと合わせてひと通りポルトガル語の基礎文法を習得し終えることを目指すが、重要な表現や文法事項は既習のものでも繰り返し解説する。会話、文法、読解、作文の力がバランスよく身に付くように、実践形式で取り組む。また、映像資料を使ってブラジルやポルトガル等の社会、歴史、文化にも触れ、「ルゾフォニア」と称されるポルトガル語文化圏について様々な角度から理解を試みたい。</p>	授業計画	1 強調構文
			2 直説法・現在未来複合形
			3 人称不定詞
			4 動詞総説
			5 接続法の用法① 名詞節において
			6 "
			7 接続法の用法② 形容詞節において
			8 "
			9 接続法の用法③ 副詞節において
			10 "
			11 仮定文②
			12 まとめ
評価方法	出席状況と試験により評価する。		
テキスト参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Helena H. Toida/M. Neves Jr./大野隆雄『こうすれば話せるCD ブラジルポルトガル語』（朝日出版社） ・ 池上岑夫他『現代ポルトガル語辞典』（白水社） 		

外国語学部共通科目	基礎ロシア語 I (総合)	担当者	齊藤 毅
-----------	---------------	-----	------

全学共通授業科目	ロシア語 I Aa	担当者	齊藤 毅
----------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>ヨーロッパとアジアのちょうど間にあたるロシアは、今日の国際情勢の中で重要な位置を占めているだけでなく、1000年以上の期間に渡り、西欧とは異なる独特の文化を培ってきました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語などとはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期の「ロシア語 I Ab」を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「基礎ロシア語 I(文法)」、「ロシア語 I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>	授業計画	全体で教科書の第9課まで進むことを目標とし、文字の読み方、発音の練習にも重点を置きます。
	評価方法		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。
	テキスト参考文献		黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

全学共通授業科目	ロシア語 I Ab	担当者	齊藤 毅
----------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	「ロシア語 I Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語の文法を学んでゆきます。	授業計画	全体で教科書の第20課まで進むことを目標とします。
	評価方法		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。
	テキスト参考文献		黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

外国語学部共通科目	基礎ロシア語Ⅰ（会話）	担当者	佐藤千登勢
-----------	-------------	-----	-------

全学共通授業科目	ロシア語ⅠBa	担当者	佐藤千登勢
----------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>はじめてロシア語を学ぶ学生を対象としています。ロシア語は、そのアルファベットのかたち（キリル文字）からしてカッコよく、音もとても美しい言葉です。ロシア人はこれを誇って次のように言ってるほどです。「ドイツ語は男と話すに良く、フランス語は女と話すのに良い。スペイン語は神と話すにふさわしい。ところがロシア語はそのすべてに適している」と。</p> <p>この授業では、発音、イントネーション、リズムを正しく身につけていく練習を重ね、ロシア語で挨拶をしたり、買い物をしたりできるようにします。また、ロシアの文化や生活習慣について、映像資料などを通して紹介していきます。</p> <p>Говорим по-русски! Я желаю вам успехов в учёбе.</p>	授 業 計 画	1		
			2		
			3	<p>発音練習、アクセントを基調としたリズム練習、イントネーション練習に力を入れます（ヒアリングのためには、自ら正しい発音を獲得していることが重要ですので、音読練習を徹底させます）。</p> <p>毎回の授業は、音読→暗記→ディクテーションという流れで前半を進め、後半は会話練習（さまざまな状況における決まった表現を習得）を行い、最後にロシアの映像を10分程度鑑賞していきます。</p> <p>会話練習の内容において予定しているのは、「自己紹介」「家族紹介」「買い物をする」などです。</p>	
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		
評価方法	期末に行う試験（会話・ディクテーション）。もっともウェートを占めるのは出席率です。				
テキスト参考文献	プリントを配付します。				

全学共通授業科目	ロシア語ⅠBb	担当者	佐藤千登勢
----------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅠBb」の続きとなります。ロシア語の音の響きの美しさをともに味わいながら、会話の練習をさらに深めていきます。</p>	授 業 計 画	1		
			2		
			3	<p>発音練習、アクセントを基調としたリズム練習、イントネーション練習に力を入れます（ヒアリングのためには、自ら正しい発音を獲得していることが重要ですので、音読練習を徹底させます）。</p> <p>毎回の授業は、音読→暗記→ディクテーションという流れで前半を進め、後半は会話練習（さまざまな状況における決まった表現を習得）を行い、最後にロシアの映像を10分程度鑑賞していきます。</p> <p>会話練習の内容において予定しているのは、「道を訊ねる」「外食する」「ホテルに泊まる」などです。</p>	
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		
評価方法	期末に行う試験（会話・ディクテーション）。もっともウェートを占めるのは出席率です。				
テキスト参考文献	プリントを配付します。				

外国語学部共通科目	基礎ロシア語Ⅱ（総合）	担当者	佐藤千登勢
-----------	-------------	-----	-------

全学共通授業科目	ロシア語ⅡAa	担当者	佐藤千登勢
----------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>基本的には、基礎ロシア語Ⅰを履修した学生を対象としています。初級文法の復習を行いつつ、さらなるロシア語の力を身につけていきます。また、筆記体でロシア語を書く練習も並行して行います。筆記体を習得することで、ロシア語の勉強はいつそう楽しくなることでしょう。</p> <p>ロシアはヨーロッパとアジアの融合とよく言われるように、その文化や自然、民族は多様性に富んでおり、豊かな芸術を誇る国です。映像資料を通してロシアの文化や生活習慣についても紹介していきます。価値観の画一化が地球的規模で進んでいる昨今ですが、こういう時代だからこそ改めて、民族・文化の多様性について知り、マイナーなものに対する眼差しを忘れないようにしてほしいと思います。</p> <p>「基礎ロシア語Ⅱ（会話）」「ロシア語ⅡB」と併せて受講することが望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	テキストは12課からはじめ、文法の確認と補強を行いながら、語彙力や表現力を高めていきます。
			6	
			7	動詞の人称変化、所有の表現、運動の動詞（定動詞、不定動詞）、動詞の体（完了体、不完了体）比較級を確実に学んでいきます。
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	レポートと平常点により決定しますが、もっともウェートを占めるのは出席率です。			
テキスト参考文献	「ロシア語文法への旅」黒田龍之助著 大学書林			

全学共通授業科目	ロシア語ⅡAb	担当者	佐藤千登勢
----------	---------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅡAa」の続きとなります。これと同じテキストを用いて、ひき続き、文法の習得を中心に授業を進めます。ロシアの文化・芸術を知るためのビデオ、映画もできるだけ楽しむようにしたいと思います。ロシア語も2年目になると、だいぶ耳が慣れてきて、映画なども面白くなっていくはずですよ。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	テキストは18課から続けていきます。命令形、関係代名詞など新たな文法事項を習得し、練習問題や作文を多くこなして力をつけていきます。
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	レポートと平常点により決定しますが、もっともウェートを占めるのは出席率です。			
テキスト参考文献	「ロシア語文法への旅」黒田龍之助著 大学書林			

外国語学部共通科目	基礎ロシア語Ⅱ（会話）	担当者	齊藤 毅
-----------	-------------	-----	------

全学共通授業科目	ロシア語ⅡBa	担当者	齊藤 毅
----------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>昨年度に法・経済学部の「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、会話中心の教科書、および音声教材を用い、これまで学んだ文法事項を復習しながら、易しい会話表現を学んでゆきます。とくにロシア語は発音がやや難しい言語ですので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>文法を中心とした「基礎ロシア語Ⅱ（総合）」、「ロシア語ⅡA」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>	授業計画	全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。	
	評価方法		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	2
			テキスト参考文献	米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』（白水社）。辞書等は授業時に紹介します。
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

全学共通授業科目	ロシア語ⅡBb	担当者	齊藤 毅
----------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅡBa」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p>	授業計画	全体で教科書の第17課まで進むことを目標とします。	
	評価方法		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	2
			テキスト参考文献	米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』（白水社）。辞書等は授業時に紹介します。
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

外国語学部共通科目	基礎朝鮮語Ⅰ（総合）	担当者	朴 勇俊
-----------	------------	-----	------

全学共通授業科目	朝鮮語ⅠAa	担当者	朴 勇俊
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。 このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	授 業 計 画	1 本講義に対する紹介、概要説明
			2～5 韓国語の文字・文章の理解と解読
			6～11 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「挨拶」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	12	前期末試験
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）		

全学共通授業科目	朝鮮語ⅠAb	担当者	朴 勇俊
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。 このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	授 業 計 画	1～11 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」	
			12	後期末試験
	評価方法		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）			

外国語学部共通科目	基礎朝鮮語Ⅰ（講読・会話）	担当者	李 貞美
-----------	---------------	-----	------

全学共通授業科目	朝鮮語ⅠBa	担当者	李 貞美
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	授業計画	<p>1 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着を目指す。</p> <p>「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」</p> <p>12 前期末試験</p>
	評価方法		<p>評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。</p>
	テキスト参考文献		<p>『韓国語学習－基礎から完成まで－』 朴勇俊（プリント）</p>

全学共通授業科目	朝鮮語ⅠBb	担当者	李 貞美
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	授業計画	<p>1～11 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着を目指す。</p> <p>「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」</p> <p>12 後期末試験</p>
	評価方法		<p>評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。</p>
	テキスト参考文献		<p>「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）</p>

外国語学部共通科目	基礎朝鮮語Ⅱ（総合）	担当者	李 貞美
-----------	------------	-----	------

全校共通授業科目	朝鮮語ⅡAa	担当者	李 貞美
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の習得を目指す。	授業計画	1	本講義に対する紹介、概要説明
			2～11	次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「誕生日」 「古宮」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「虎と干し柿」（民話） 「民族衣装」
			12	前期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験と学習への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。			
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）			

全校共通授業科目	朝鮮語ⅡAb	担当者	李 貞美
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の習得を目指す。	授業計画	1～11	次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。 「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「牛になった怠け者」（民話） 「済州島」 「韓国の風俗と礼節」
			12	後期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験と学習への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。			
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）			

外国語学部共通科目	基礎朝鮮語Ⅱ（講読・会話）	担当者	朴 勇俊
-----------	---------------	-----	------

全学共通授業科目	朝鮮語ⅡBa	担当者	朴 勇俊
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	韓国語の多面的な会話表現力の定着を目指し、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	授業計画	1 本講義に対する紹介、概要説明
			2～11 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」
			12 前期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）		

全学共通授業科目	朝鮮語ⅡBb	担当者	朴 勇俊
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	韓国語の多面的な会話表現力の定着を目指し、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	授業計画	1～11 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着を目指す。 「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「慶州」
			12 後期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊（プリント）		

外国語学部共通科目	基礎タイ語Ⅰ	担当者	江藤 双恵
-----------	--------	-----	-------

全学共通授業科目	タイ語Ⅰa	担当者	江藤 双恵
----------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができ、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴のないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。</p>	授業計画	1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？
			2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音
			3 文字の読み書き 1 (中子音・高子音)
評価方法	定期試験の成績および出席状況		4 文字の読み書き 2 (低子音と長母音)
			5 文字の読み書き 3 (真正二重子音・平音節・促音節)
テキスト参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著/大学書林) およびプリント		6 文字の読み書き 4 (声調符号、短母音)
			7 文字の読み書き 5 (低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音)
			8 文字の読み書き 6 (一字再読字)
			9 文字の読み書き 7 (タイ数字、年月日に関する表記、例外)、10 タイ文化入門 (希望により映画などビジュアル教材を用いる)
			11 会話 1 (挨拶、所在に関する表現)、タイ語を聞いて書く
			12 会話 2 (ものの性質などに関する表現)、タイ語を聞いて書く

全学共通授業科目	タイ語Ⅰb	担当者	江藤 双恵
----------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができ、文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴のないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、挨拶、数、年月日と時間など日常会話に最低限必要な表現を学ぶ。さまざまな状況に応じた会話表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、ディクテーションによって正確な発音と表記の仕方を身につけ、作文練習によって表現能力をつける。</p>	授業計画	1 会話 1 (家族に関する表現)、タイ語を聞いて書く
			2 会話 2 (所有、存在に関する表現)、タイ語を聞いて書く
			3 会話 3 (職業、国名に関する表現) タイ語を聞いて書く
評価方法	定期試験の成績および出席状況		4 会話 4 (可能、不可能に関する表現)、タイ語を聞いて書く
			5 会話 5 (名前、所在、手段などに関する表現)
テキスト参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著/大学書林) およびプリント		6 会話 6 (動詞を用いた表現)、タイ語を聞いて書く
			7 会話 7 (類別詞の用法1)、タイ語を聞いて書く
			8 会話 8 (類別詞の用法2)、タイ語を聞いて書く
			9 会話 9 (日時に関する表現)、タイ語を聞いて書く
			10 会話 10 (比較を含む表現)、タイ語を聞いて書く
			11 会話 11 (自己紹介など)、タイ語を聞いて書く
			12 タイ文化入門 (タイ映画などビジュアル教材の鑑賞)

外国語学部共通科目	基礎タイ語Ⅱ	担当者	江藤 双恵
-----------	--------	-----	-------

全学共通授業科目	タイ語Ⅱa	担当者	江藤 双恵
----------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。</p> <p>なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。</p>	授業計画	1 導入；今タイ語を学ぶ意義。タイ文化、社会に関するトピックス。
			2 会話 1 （比較、最上級に関する表現）
			3 会話 2 （食べ物に関する表現）
評価方法	定期試験の成績および出席状況		4 会話 3 （疑問詞の使い方）
テキスト参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著 大学書林刊) およびプリント		5 会話 4 （可能表現のいろいろ）
			6 文法 1 （疑問文・否定文、疑問文への答え方）
			7 会話 6 （推量に関する表現）
			8 会話 7 （お金の計算）
			9 会話 8 （電話をかける）
			10 会話 9 （旅行する）
			11 文法 2 （存在・所有動詞の用法、繁辞の用法）
			12 購読 1 （平易な物語など）

全学共通授業科目	タイ語Ⅱb	担当者	江藤 双恵
----------	-------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、現代タイ事情に関する簡単な読み物を通じて生きたタイ語に触れるとともに、背景説明などを加えて理解を深める。</p> <p>なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。</p>	授業計画	1 会話 1 （受身の表現）
			2 会話 2 （病気のとき）
			3 会話 3 （買い物をする）
評価方法	定期試験の成績および出席状況		4 会話 4 （素材に関する表現）
テキスト参考文献	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著 大学書林刊) およびプリント		5 購読 1 （平易な物語など）
			6 購読 2 （平易な物語など）
			7 文法 1 （類別詞の用法、比較）
			8 文法 2 （一般動詞の用法）
			9 文法 3 （助動詞）
			10 購読 3 （現代タイ事情）
			11 購読 4 （現代タイ事情）
			12 ビジュアル作品などの鑑賞

外国語学部共通科目	基礎アラビア語Ⅰ	担当者	師岡 カリーマ
-----------	----------	-----	---------

全学共通授業科目	アラビア語Ⅰa	担当者	師岡 カリーマ
----------	---------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>アラビア語は、総人口が2億8千万に達するアラブ21箇国の国語であり、国連の公用語の一つに指定されています。またイスラームの啓典『クルアーン(コーラン)』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、10億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界で最も誤解された宗教」と言われていますが、アラブ世界もまた、世界で最も誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。</p> <p>本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かなアラブ文化に親んでもらうことを目指しています。</p> <p>本講義では文法に片寄らず、「まずは言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に、会話にも重点を置きつつ、さまざまなメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。</p>	授業計画	1. Introduction	
	評価方法		簡単な会話・筆記試験を行います。	2. (会話) アラブ人と友達になろう 1
			テキスト 参考文献 『アラビア語の入門』(改訂版)(本田孝一著、白水社) 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう』(本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社) 『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	3. (会話) アラブ人と友達になろう 2
4. (文法) アラビア文字に挑戦! 1				
5. (文法) アラビア文字に挑戦! 2				
6. (会話) アラブ人と友達になろう 3				
7. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 1				
8. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 2				
9. (会話) 友達を紹介しよう 1				
10. (会話) 友達を紹介しよう 2				
11. (文法) アラビア文字はどう読むの? 1				
12. (文法) アラビア文字はどう読むの? 2				

全学共通授業科目	アラビア語Ⅰb	担当者	師岡 カリーマ
----------	---------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚をつかんでもらうことを目指しています。</p> <p>本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。</p>	授業計画	1. (文法) 自分の名前をアラビア語で書いてみよう	
	評価方法		簡単な会話・筆記試験を行います。	2. (会話) 「これは何ですか?」 1
			テキスト 参考文献 『アラビア語の入門』(改訂版)(本田孝一著、白水社) 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう』(本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社) 『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	3. (会話) 「これは何ですか?」 2
4. (文法) 「私は日本人です」 1				
5. (文法) 「私は日本人です」 2				
6. (会話) 空港でアラビア語を使ってみよう 1				
7. (会話) 空港でアラビア語を使ってみよう 2				
8. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 1				
9. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 2				
10. (会話) 「ご出身はどちらですか?」 1				
11. (会話) 「ご出身はどちらですか?」 2				
12. 期末テスト				

外国語学部共通科目	基礎アラビア語Ⅱ	担当者	師岡 カリーマ
-----------	----------	-----	---------

全学共通授業科目	アラビア語Ⅱa	担当者	師岡 カリーマ
----------	---------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>前年度に基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象としています。</p> <p>テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、詩、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。</p>	授業計画	1. 復習
			2. 復習
			3. (文法)「私は～を持っています」 1
4. (文法)「私は～を持っています」 2			
5. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 1			
6. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 2			
7. (文法) of の表現			
8. (文法) 双数と複数			
9. (会話) 数の表し方 1			
10. (会話) 数の表し方 2			
11. (文法) 動詞(完了形)の使い方 1			
12. (文法) 動詞(完了形)の使い方 2			
評価方法	簡単な会話・筆記試験を行います。		
テキスト参考文献	<p>テキスト 『アラビア語の入門』(改訂版)(本田孝一著、白水社)</p> <p>参考文献 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう』(本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニ一著、白水社) 『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニ一著、白水社)</p>		

全学共通授業科目	アラビア語Ⅱb	担当者	師岡 カリーマ
----------	---------	-----	---------

講義目的および講義概要	<p>前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。</p> <p>一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァラエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブ世界の素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれ興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。</p>	授業計画	1. (会話) 「昨日、あなたは何をしましたか？」 1
			2. (会話) 「昨日、あなたは何をしましたか？」 2
			3. (文法) 動詞(未完了形)の使い方 1
4. (文法) 動詞(未完了形)の使い方 2			
5. (会話) カイロの街角で 1			
6. (会話) カイロの街角で 2			
7. (文法) 命令形の作り方 1			
8. (文法) 命令形の作り方 2			
9. (応用) 手紙を書いてみよう			
10. (応用) 絵本を読んでみよう			
11. (会話) 復習			
12. 期末テスト			
評価方法	簡単な会話・筆記試験を行います。		
テキスト参考文献	<p>テキスト 『アラビア語の入門』(改訂版)(本田孝一著、白水社)</p> <p>参考文献 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう』(本田孝一・師岡カリーマ・エルサムニ一著、白水社) 『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニ一著、白水社)</p>		

外国語学部共通科目	現代ヘブライ語 I	担当者	高橋 正男
-----------	-----------	-----	-------

全学共通授業科目	現代ヘブライ語 I a	担当者	高橋 正男
----------	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行われてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. セム語概説 2. ヘブライ文字（アレフ・ベイト）の書体（活字体・筆記体） 3. ヘブライ文字の書き方(1) 4. ヘブライ文字の書き方(2) 5. 発音 6. 発音の手引 (1) 7. 発音の手引 (2) 8. 名詞と代名詞 (1) 9. 名詞と代名詞 (2) 10. 形容詞 11. 前置詞 12. 動詞の現在形 (1)
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ヘブライ語入門発音テープ』（45分テープ 2本組）ミルトス（5棟3階 外国語教育研究所で利用可能） <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。 <p>受講者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。
	テキスト参考文献		

全学共通授業科目	現代ヘブライ語 I b	担当者	高橋 正男
----------	-------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル・ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル＝ベン・イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ・イスラエル文化を紹介する。</p> <p>講義概要</p> <p>我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行われてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。</p>	授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 13. 動詞の現在形 (2) 14. 語根と動詞 15. ラメッド・ヘー型のバアル態 16. 不定詞 (1) 17. ビエル態の現在形 18. ヒトバエル態の現在形 19. ニファル態の現在形 20. ヒフフィル態の現在形 21. 不規則名詞複数形 22. 数詞 (1) 23. 数詞 (2) 24. 名詞の人称接尾辞と連結詞
	評価方法		<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ヘブライ語入門発音テープ』（45分テープ 2本組）ミルトス（5棟3階 外国語教育研究所で利用可能） <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。 <p>受講者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。
	テキスト参考文献		

外国語学部共通科目	現代ヘブライ語Ⅱ	担当者	高橋 正男
-----------	----------	-----	-------

全校共通授業科目	現代ヘブライ語Ⅱa	担当者	高橋 正男
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義の目標	授 業 計 画	1. 復習
	講義概要		2. 復習
			3. ニフアル態の現在形
	評価方法		4. ヒフィル態の現在形
5. 不規則な名詞複数形		5. 不規則な名詞複数形	
テキスト参考文献	6. 数詞 (1)	6. 数詞 (1)	
	7. 数詞 (2)	7. 数詞 (2)	
	8. 名詞の人称接尾辞	8. 名詞の人称接尾辞	
	9. 連結語 / ヘブライ語新聞講読 (1)	9. 連結語 / ヘブライ語新聞講読 (1)	
	10. バアル態の過去形	10. バアル態の過去形	
	11. ラメッドーヘー型バアル態の過去形	11. ラメッドーヘー型バアル態の過去形	
	テキスト	テキスト	
	・神藤燭他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。	・神藤燭他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。	
	・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。	・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。	
	参考文献	参考文献	
	・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)	・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)	
	評価方法	評価方法	
	・平常点と学年末の口述会話テストによる。	・平常点と学年末の口述会話テストによる。	
	受講者への要望	受講者への要望	
	・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。	・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。	
	・前期末・後期末に補講を予定している。	・前期末・後期末に補講を予定している。	

全校共通授業科目	現代ヘブライ語Ⅱb	担当者	高橋 正男
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	講義の目標	授 業 計 画	12. ビエル態の過去形
	講義概要		13. ヒトバエル態の過去形
			14. ニフアル態の過去形
	評価方法		15. プアル態とフフアル態
16. 比較の表現		16. 比較の表現	
テキスト参考文献	17. 不定詞 (2) / ヘブライ語新聞講読 (2)	17. 不定詞 (2) / ヘブライ語新聞講読 (2)	
	18. 動詞の未来形	18. 動詞の未来形	
	19. バアル態の未来形	19. バアル態の未来形	
	20. ヒフィル態の未来形	20. ヒフィル態の未来形	
	21. ニフアル態の未来形	21. ニフアル態の未来形	
	22. 不規則な未来形	22. 不規則な未来形	
	23. 条件文	23. 条件文	
	24. ヘブライ語新聞講読 (3)	24. ヘブライ語新聞講読 (3)	
	テキスト	テキスト	
	・神藤燭他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。	・神藤燭他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000年。	
	・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。	・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001年。	
	参考文献	参考文献	
	・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)	・『ヘブライ語入門発音テープ』(45分テープ2本組) ミルトスー (5棟3階 外国語教育研究所で利用可能)	
	評価方法	評価方法	
	・平常点と学年末の口述会話テストによる。	・平常点と学年末の口述会話テストによる。	
	受講者への要望	受講者への要望	
	・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。	・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。	
	・前期末・後期末に補講を予定している。	・前期末・後期末に補講を予定している。	

外国語学部共通科目	古典ギリシア語 I	担当者	古川 堅治
-----------	-----------	-----	-------

全学共通授業科目	古典ギリシア語 Ia	担当者	古川 堅治
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目標>一年間の授業を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。</p> <p><講義概要>授業は毎回単元を1~2つずつ学習するペースで進むが、映像などを使いながら、アホムな雰囲気で行ないたい。予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくので、出席は必ず毎回するように心がけること。連続して欠席していることについてこられなくなるので注意して欲しい。</p>	授 業 計 画	1 字母・発音・音韻などの分類 (この時点で、古典ギリシア語で名前が書ける)
			2 音節・アクセント・句読点 (この時点で、古典ギリシア語の単語が読める)
			3 動詞の変化・直接法能動相現在 (この時点で、単文が理解できる)
			4 名詞の第一変化 (この時点で、名詞の規則変化が理解できる)
評価方法	出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしない(平常点評価)。	5 動詞の変化・直接法能動相未来 (この時点で、未来形が理解できる)	6 動詞の変化・直説法能動相未完了過去 (この時点で、動詞の3時称をマスターできる)
			7 名詞の第二変化 (この時点で、スペルがすらすら書ける)
テキスト参考文献	テキスト：田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円)	8 形容詞の変化(第一・第二変化) (語順が決まっていないことが理解できる)	9 前置詞(ヨーロッパ近代諸語の前置詞の用法との対比によって、その類似性がわかる)
			10 動詞の変化・直説法能動相アリスト (過去時制の文章理解ができるようになる)
		11 動詞の変化・現在完了と過去完了 (動詞の諸時制を学び、文章理解が促進する)	12 指示代名詞と強意代名詞 (この時点で、新約聖書が読めるようになる)
		()内は到達度チェックの最後のポイントを示している。	

全学共通授業科目	古典ギリシア語 Ib	担当者	古川 堅治
----------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目標></p> <p>同上</p> <p><講義概要></p> <p>同上</p>	授 業 計 画	1 ε ι μ ι 動詞と φ η μ ι 動詞 (動詞の人称変化の基本が理解できる)
			2 疑問代名詞と不定代名詞 (アクセントの有無で意味が変わることがわかる)
			3 動詞の変化・直説法中動相の各時制(1) (中動相の独特の用法を理解できる)
			4 動詞の変化・直接法中動相の各時制(2) (微妙な文章表現が理解できるようになる)
評価方法	同上	5 人称代名詞(人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる)	6 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 (文章上のつながりが理解しやすくなる)
			7 第二アリストの用法 (動詞の、いわゆる不規則変化を理解する)
テキスト参考文献	同上	8 動詞の変化・直接法受動相 (受身の文章の表現の仕方がわかる)	9 名詞の第三変化(1) (名詞の不規則変化の「規則性」を理解する)
			10 名詞の第三変化(2) (同上)
		11 能相欠如動詞と約音動詞 (辞書を片手に文章理解が可能となる)	12 まとめ (古典ギリシア語習得の意味)
		()内は到達度チェックの際のポイントを示している。	

外国語学部共通科目	古典ギリシア語Ⅱ	担当者	古川 堅治
-----------	----------	-----	-------

全学共通授業科目	古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川 堅治
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目標>一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手にともかく可能になることを主目的とする。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語かつ一文一文と、こまめに根気良く掘り下げて行くことから始めたい。丁寧にゆっくりと、かつじっくり取り組むように心がけたい。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。</p> <p><講義概要>毎回、楽しい読み物（「イップ物語」「人さまざま」など）の極めてやさしい短い文章をもとに、ノートの作り方、単語の辞書による引き方、文章理解のための文法知識、裏話しやレポート、関連する映像など、さまざまな工夫をこらして授業を進めたい。出席は毎回心がけること。受講対象者は初級文法を修了している方が望ましい。</p>	授 業 計 画	1 はじめに (辞書の引き方、ノートの作り方等を指導する)	
	評価方法		出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行なう(平常点評価)。	2 「イップ物語」は単なる童話か? (アイソポスの知恵)
			テキスト参考文献	テキストは使用せず、プリントを配布する。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介する。
			4 ②にわとりと泥棒 (その2)	
			5 ③にわとりと泥棒 (その3)	
			6 ④かめとその寝ぐら (その1)	
			7 ⑤かめとその寝ぐら (その2)	
			8 ⑥かめとその寝ぐら (その3)	
			9 ⑦狼の叫び (その1)	
			10 ⑧狼の叫び (その2)	
			11 ⑨狼の叫び (その3)	
			12 春学期のまとめ	

全学共通授業科目	古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川 堅治
----------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><講義目標></p> <p>同上</p> <p><講義概要></p> <p>同上</p>	授 業 計 画	1 さまざまな人間類型 (テオフラストスの鋭い人間観)	
	評価方法		同上	2 ①おべっか使い (その1)
			テキスト参考文献	同上
			4 ③おべっか使い (その3)	
			5 ④不平たらたら (その1)	
			6 ⑤不平たらたら (その2)	
			7 ⑥不平たらたら (その3)	
			8 ⑦信用できない人 (その1)	
			9 ⑧信用できない人 (その2)	
			10 ⑨ニュース・メーカー (その1)	
			11 ⑩ニュース・メーカー (その2)	
			12 秋学期のまとめ (古典ギリシア語習得の意味)	

外国語学部共通科目	ラテン語Ⅰ	担当者	松田 治
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	ラテン語Ⅰa	担当者	松田 治
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	古典ラテン語は難しそうに見えるが、語尾変化などの約束ごとを理解すればわりあい簡単である。多くの例文を読むことで約束ごとは身に付く。そうすると自分でラテン語の文をつづれるようになる。最初は動詞の現在活用および、名詞の変化を反復練習して、これを覚え、やさしい文章を読んで理解することを目標にする。	授 業 計 画	1	授業概説
			2	ラテン語の読み方
			3	SUMの現在形
	4		規則動詞(1)	
	5		規則動詞(2)	
	6		名詞(1)	
	7		名詞(2)	
	8		形容詞(1)	
	9		形容詞(2)	
	10		規則動詞(3, 4)	
評価方法	コンスタントに出席し、問題に取り組むこと。		11	人称代名詞
テキスト参考文献	『ラテン語初歩』改訂版, 田中利光著 (岩波書店)		12	前置詞

全学共通授業科目	ラテン語Ⅰb	担当者	松田 治
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	前半の授業で身に付けた文法を土台にして、やや複雑な語法や文の構造を把握できるような形で授業を進める。やはり動詞の活用が大切で、直説法や接続法などのモードによる変化、現在・過去・未来といった時制による変化など、ラテン語形態論の基本をしっかり学びたい。動詞は完了まで学べばラテン語Ⅱにつなげることができるので、そのあたりを目標にした。	授 業 計 画	1	動詞の過去形
			2	不規則動詞
			3	名詞(3)
	4		形容詞(3)	
	5		指示代名詞	
	6		動詞の未来形, 現在分詞	
	7		疑問詞	
	8		関係代名詞	
	9		完了(1)	
	10		完了(2)	
評価方法	コンスタントに出席し、問題に取り組むこと。		11	命令法
テキスト参考文献	『ラテン語初歩』改訂版, 田中利光著 (岩波書店)		12	受動態

外国語学部共通科目	ラテン語Ⅱ	担当者	松田 治
-----------	-------	-----	------

全学共通授業科目	ラテン語Ⅱa	担当者	松田 治
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	ラテン語文の意味は、動詞の活用と名詞語尾の母音の長短によって決定されるといっても過言ではない。前半の授業ではこの基本を再認識するため、最初は名詞の変化や、動詞の活用を復習し、それからやさしいリーダーに取り組むことにする。これが終われば、次は古典の中から、初級文法を身に付けていれば誰でも読めるようなやさしい文章をえらんで取り組む。	授業計画	1	授業概説	
	評価方法		どれだけ積極的に授業に参加したかを重視して評価する	2	名詞変化の復習
			テキスト参考文献	『ラテン語文選』 小林 標 編著 (大塚書林) 他にプリント配布	3
			4	動詞活用の復習(2)	
			5	やさしいリーダー(1)	
			6	やさしいリーダー(2)	
			7	やさしいリーダー(3)	
			8	やさしいリーダー(4)	
			9	女のいくさ(フラウトラス)(1)	
			10	女のいくさ(2)	
			11	女のいくさ(3)	
			12	女のいくさ(4)	

全学共通授業科目	ラテン語Ⅱb	担当者	松田 治
----------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	前半の授業で確認した文法を活かして、やや歯ごたえのある古典の文章にも取り組む。ゆっくり時間をかけて進めたい。ここではただラテン語を読むだけではなく、作家のこと、その時代のことなど、偉大な文明を築いた古代ローマ人たちの姿にも触れて、彼らの残した文化をうかがい知る端緒となるような授業を心がけたい。	授業計画	1	ローマ建国の物語(フォルス,リウィウス)(1)	
	評価方法		どれだけ積極的に授業に参加したかを重視して評価する	2	ローマ建国の物語(2)
			テキスト参考文献	『ラテン語文選』 小林 標 編著 (大塚書林)	3
			4	ローマ建国の物語(4)	
			5	ハンニバルとの戦争(ネポース)(1)	
			6	ハンニバルとの戦争(2)	
			7	貞淑な寡婦の恋(1)	
			8	貞淑な寡婦の恋(2)	
			9	歴史逸話集(ゲックウス)(1)	
			10	歴史逸話集(2)	
			11	キケローの散文	
			12	カエサルの散文	

外国語学部共通科目	国語表現	担当者	福沢 健
-----------	------	-----	------

--	--	--	--

講義目的 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」「聞く」に焦点を絞り、さまざまな問題演習を行なう。漢字検定2級・SPIに対応できる程度の基礎的な国語力を身につけることを目標とする。 講義概要 基本的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。具体的には、概説・練習問題を通して国語の基本的な知識の確認、さらには社会生活に不可欠な敬語の正しい使い方の練習、手紙文の書き方などについても触れる。 なお、受講生が多数にわたる場合、履修者を抽選で定めることがある。	授業計画	1 前期講義の概要・予告
		2 漢字の読み
		3 音訓の読み分け
		4 熟語の構成
		5 部首
		6 送り仮名
		7 対義語・類義語
		8 四字熟語
		9 誤字訂正
		10 同音・同訓異字
評価方法	試験	11 書き取り
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。	12 前期講義のまとめ

--	--	--	--

講義目的 前期に引き続いて、国語の基本事項の問題演習を行なう。日本語検定2級程度に対応できる文章表現能力を身につけることを目標とする。	授業計画	1 後期授業の概要
		2 文章の組み立て①【部分を設けて書く】
		3 文章の組み立て②【文章の定型による構成】
		4 文章の組み立て③【文章構成の原理】
		5 文章の組み立て④【定型がない場合の文章構成】
		6 文章表現①【正しい表現】
		7 文章表現②【わかりやすく書く】
		8 文章表現③【短い文章を書く】
		9 文章を書く①【文章を読んで要旨を捉える】
		10 文章を書く②【論説・議論文を書く】
評価方法	試験	11 文章を書く③【書簡文を書く】
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。	12 後期授業のまとめ

外国語学部共通科目	人文科学特殊講義A (日本金現代史)	担当者	今野日出晴
-----------	--------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>日本の近現代史を対象にしながら、歴史を学ぶ意味、そして、歴史に接近する方法を考えてみたい。</p> <p>講義概要</p> <p>近代日本の歩みは、戦争の歴史を抜きに語ることはできない。しかし、意外な程に、戦争に対する認識が曖昧であることに気づく。例えば、「軍部が台頭した」とする際の「軍部」とは何なのか。抽象的な軍や軍部を主語としていたのではないか。実態としての軍隊や戦争（生活・衣食住・戦場など）に接近してみたい。そのなかから、体験者と非体験者の共有できる場を考えてみたい。</p>	授業計画	1 歴史を学ぶとは
			2 戦争イメージの検証
			3 大文字の歴史から小文字の歴史へ
			4 原爆という経験 1
			5 原爆という経験 2
			6 大文字としての「十五年戦争」 1
			7 大文字としての「十五年戦争」 2
			8 軍隊に入るとのこと
			9 動員のしくみ 1
			10 動員のしくみ 2
評価方法			11 戦場で戦う -中国戦線-
テキスト参考文献			12 戦場で生活する -中国戦線-

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 聞けわたつみのこえ
			2 農民兵士の声
			3 捕虜を殺さない兵士
			4 さまざまな戦場
			5 戦争を伝える プロパガンダ
			6 戦争を伝える ラジオ
			7 戦争を伝える 映画・亀井文夫
			8 戦争を伝える 人種偏見
			9 戦争犯罪を考える
			10 免責の系譜
評価方法			11 戦争責任論の現在
テキスト			12 過ぎ去ろうとしない過去

経済学部共通科目	経済原論	担当者	阿部正浩
----------	------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 この授業のすすめ方
			2 経済学の考え方
			3 取引と貿易
	4 需要と供給と価格		
	5 予備日		
	6 需要・供給分析の応用（その1）		
	7 需要・供給分析の応用（その2）		
	8 時間とリスク(その1)		
	9 時間とリスク（その2）		
	10 公共部門（その1）		
	11 公共部門（その2）		
	12 予備日		
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）		

--	--	--	--

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 GNP とは（その1）
			2 GNP とは（その2）
			3 マクロ経済学と完全雇用（その1）
	4 マクロ経済学と完全雇用（その2）		
	5 経済成長(その1)		
	6 経済成長（その2）		
	7 失業と総需要（その1）		
	8 失業と総需要		
	9 インフレーション（その1）		
	10 インフレーション（その2）		
	11 まとめ		
	12 予備日		
文献			
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）		

外国語学部共通科目	日本国憲法	担当者	加藤一彦
-----------	-------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>憲法学の内、人権分野を中心に講義する。 毎回事例を紹介し、学説・判例の習得を目指す。 人権の大切さが理解できれば、十分である。 なお、六法は必携（出版社は問わない）。 出席は一切とらない。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 六法の使い方／憲法総論 3. 日本憲法史／憲法の三大原理 4. 人権総論／人権の享有主体性 5. 法の下での平等 6. 精神的自由権（1）信教の自由 7. 精神的自由権（2）学問の自由 8. 精神的自由権（3）表現の自由／総論 9. 精神的自由権（4）報道の自由 10. 精神的自由（5）プライバシー権 11. 精神的自由（6）結社の自由 12. 予備日。
評価方法	2回の定期テストの総合評価。		
テキスト参考文献	加藤・植村編著『現代憲法入門講義』（北樹出版） 芦部ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）		

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 13. 経済的自由（1） 14. 経済的自由（2） 15. 人身の自由 16. 社会権（1）総論 17. 社会権（2）生存権 18. 社会権（3）教育権 19. 平和主義（1） 20. 平和主義（2） 21. 選挙権（1）総論 22. 選挙権（2）選挙の憲法原則 23. 選挙権（3）判例研究 24. 予備日
評価方法			
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	教育法	担当者	市川須美子
-----------	-----	-----	-------

--	--	--	--

<p>： <講義目的および講義概要> 講義の目標 戦後教育法制の特徴とその変遷、教育法の概念とその機能的種別、ならびに各種の教育人権など、教育法学の基礎理論の理解の上に、1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に教育法の現代的問題点を分析し、教育法の体系的理解を目標とする。 前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。 後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰裁判、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。 <評価方法> 前期 レポート（不提出の場合は後期受験不可） 後期 試験（事前に問題を発表する） 小テスト 時々の講義テーマに応じて <テキスト・参考文献> ○テキスト ・ 『教育小六法』学陽書房。 ○参考文献 ・ 参考文献は必要不可欠ではありませんが、教育関係法令集は必携です。 ・ 兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版1995年 ・ 市川・安達・青木編『教育法学と子どもの人権』三省堂1998年</p>

<p>春学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理 2. 戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して 3. 教育法における教育人権と一般人権、教育権カ 4. 教師の教育権(1) 5. 教師の教育権(2) 6. 親の教育権(1) 7. 親の教育権(2) 8. 子どもの学習権(1) 9. 子どもの学習権(2) 10. 国家の教育権と国民の教育の自由 最高裁学テ判決 11. 教育の地方自治 教育委員準公選制 12. 前期まとめ (13.)
--

--	--	--	--

<p>： 受講者への要望 六法にあまり魅力を感じていない法学部生には、身近な問題から法学的方法を学ぶ機会です。</p>

<p>秋学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの人権裁判総説 2. 体罰裁判(1) 特徴と論点 3. 体罰裁判(2) 体罰判例の展開と動向 4. いじめ裁判(1) いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件 5. いじめ裁判(2) その後のいじめ判例 6. 校則裁判(1) 中学校校則裁判 7. 校則裁判(2) バイク退学事件・パーマ退学事件 8. 学校教育措置訴訟(1) 特徴と論点、内申書裁判 9. 学校教育措置訴訟(2) エホバ(σ)証人生徒退学事件 10. 学校教育措置訴訟(3) 障害生徒入学不許可事件・特殊学級訴訟 11. 教育情報裁判 町田いじめ作文開示請求訴訟 12. まとめ 子どもの権利条約と教育法 (13.)

外国語学部共通科目	社会心理学	担当者	玉井 寛
-----------	-------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。</p> <p>社会的な環境にある個人はその文化に規定されるが、そうした個人と社会、個人と集団、文化と態度、社会と集団などの相互関係や影響の過程などのテーマについても考察する。考察テーマは身近なものを取り上げたい。</p> <p>履修条件：秋学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、秋学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会心理学への導入 前期授業の案内
			2 社会的行動の基礎 行動の動機
			3 社会のなかの個人 人の理解-1
			4 社会のなかの個人 人の理解-2
			5 他者との影響 さまざまな見方-1
			6 他者との影響 さまざまな見方-2
			7 相互作用 協力と対立-1
			8 相互作用 協力と対立-2
			9 態度変容 説得とメディア-1
			10 態度変容 説得とメディア-2
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します		11 コミュニケーション
テキスト参考文献	授業の中で随時紹介します		12 集団とメンバー

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では個人と集団ならびに社会とのかかわりの観点から相互作用について考える。個人の行動をもたらす知覚、感情、思考といった個人心理学も視野に入れながら他者との影響や環境との相互作用から個人の態度や行動が変化する様子を考えてゆく。</p> <p>社会生活上における具体的な事象を組織、集団や群衆行動や、社会病理といった観点からとりあげ、さらに文化と適応を国際化社会に生きる現代の様相を考える。最後に近代化した社会での孤独と不安について考察しい。</p> <p>履修条件：春学期と連動した内容で講義を進めます。従って、本学期では社会心理学の領域をすべて網羅していませんので、春学期も合わせて受講することを条件とします。</p>	授業計画	1 社会生活 世論とマスコミ-1
			2 社会生活 世論とマスコミ-2
			3 組織、集団 組織と心理-1
			4 組織、集団 組織と心理-2
			5 群衆行動-1 流言と群集
			6 群衆行動-2 群集制御
			7 社会病理-1 ストレス
			8 社会病理-2 社会不安
			9 文化と適応-1 異文化適応
			10 文化と適応-2 ボーダーレス社会
評価方法	試験結果、レポートと出席回数を加味します		11 現代人の心理 孤独と不安
スト参考文献	授業の中で随時紹介します		12 社会、文化、個人 社会心理学まとめ

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A（文化人類学特殊講義）	担当者	井上兼行
-----------	----------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>‘未開人の認識’とでも題する講義を行う。 従来‘未開’人と呼ばれてきた人には、われわれとははじむに異なる、事物・現象についての認識の仕方をもっている。これを‘理解できない’などと称するとは、そこが正しいか、もしくは正しいか、われわれの認識の仕方をはじめてからこれに迫るとは可能である。文化人類学の立場からその成果の一端を知る。テーマとして‘空間’‘色彩’‘動物’などを考えているが、年間講義予定については第1回の講義においてその大枠を述べる。</p> <p>2年生以上、または文化人類学の単位を取ったか、興味をもって何か読んだことのある人に登録してほしい。全く知識や興味のない人にはわかりにくいと思う。</p>	授 業 計 画	1
			2
			3
評価方法	試験かレポートか、登録者の差によって決める		4
テキスト参考文献	テキストはなし。参考文献は随時紹介する。		5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

--	--	--	--

講義目的および講義概要	同工	授 業 計 画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

外国語学部共通科目	社会科学特殊講義A (広告論)	担当者	梶山 皓
-----------	-----------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p><講義の目的> 現代社会における広告の役割を明らかにします。また企業の広告を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。</p> <p><講義の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. CMを通じて、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 <p><履修の方法> <u>抽選科目ですので、教務課の掲示に従って登録してください。</u></p>	授業計画	1 現代広告の課題
			2 広告の定義
			3 広告の機能
			4 広告の種類
			5 広告人と広告界
			6 広告主の業務
			7 広告会社の役割
			8 広告会社とビジネス
			9 放送メディア
			10 プリントメディア
			11 インターネット
			12 SP メディア
評価方法	前・後期に試験を行い、平均点で評価します。		
テキスト	梶山皓『広告入門<新版>』日経文庫、2002年11月。		

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p><講義の目的> 現代社会における広告の役割を明らかにします。また企業の広告を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。</p> <p><講義の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. CMを通じて、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 <p><履修の方法> <u>抽選科目ですので、教務課の掲示に従って登録してください。</u></p>	授業計画	1 マーケティングと広告①
			2 マーケティングと広告②
			3 コミュニケーションと広告①
			4 コミュニケーションと広告②
			5 消費者市場とビジネス市場
			6 広告計画と広告目標
			7 広告予算
			8 クリエイティブ戦略
			9 メディア戦略
			10 広告調査と効果測定
			11 広告の自主規制
			12 広告の法規制
評価方法	前・後期に試験を行い、平均点で評価します。		
テキスト	梶山皓『広告入門<新版>』日経文庫、2002年11月。		

外国語学部共通科目	自然科学特殊講義 A (人間の自然認識)	担当者	東 孝博
-----------	----------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	現代物理学を支える二本の柱は相対論と量子論であるが、この講義では量子論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、自然科学の法則における人間(観測者)の存在ということに注目していきたい。前期はミクロの世界の成り立ちとそこを支配する法則である量子力学について概説する。後期は場の理論や観測の問題等を扱う。ブラックホールの蒸発や宇宙の発生というような新しい話題も紹介したい。	授業計画	1 はじめに
			2 原子と原子模型
			3 光の波動説
			4 電磁波
			5 光電効果
			6 光とは何か?
			7 光量子仮説
			8 Bohr の仮定
			9 粒子性と波動性を結ぶ関係
			10 Schrödinger 方程式
評価方法	日常の授業への参加態度と毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。		11 確率の波
テキスト参考文献	テキストはとくになし。 参考文献は適宜紹介する。		12 不確定性関係

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 不確定性原理
			2 観測の問題
			3 粒子のスピン
			4 反粒子と反世界
			5 クォーク
			6 基本相互作用
			7 大統一理論
			8 ビッグバン宇宙
			9 宇宙の進化
			10 ブラックホールの蒸発
評価方法			11 量子宇宙論
テキスト参考文献			12 まとめ

外国語学部共通科目	コンピュータ入門	担当者	各担当教員
-----------	----------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作
			2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション
			3 日本語入力とタイピング
			4 インターネット—ブラウザ・メール・検索（1）
			5 インターネット—ブラウザ・メール・検索（2）
			6 情報倫理
			7 ワープロ入門—文書の編集（1）
			8 ワープロ入門—文書の編集（2）
			9 ワープロ入門—文書の編集（3）
			10 ワープロ入門—文書の編集（4）
			11 ワープロ入門—文書の編集（5）
			12 総合問題
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	情報科学概論	担当者	呉 浩東
-----------	--------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では、情報科学とコンピュータの勉強をされる学生たちを念頭におき、情報科学とコンピュータリテラシの話からスタートし、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化とコンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの間を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、ソフトウェア開発の概要について述べる。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>	授業計画	1 本講義の概略 前期講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方
			2 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報の発達
			3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論
			4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換
			5 データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類
			6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置とメインメモリ
			7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺装置
			8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類
			9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能
			10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類
評価方法	期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。		11 基本データ構造 木構造、配列構造、リスト構造、スタック構造
テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する		12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術に重点をおき、コンピュータ利用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>具体的に、ファイルとデータベースの構造、データベース管理システムの概要、データ通信とコンピュータ・ネットワーク、特にインターネットについて述べる。最後に、情報システムの設計、情報セキュリティについて解説する。最後に、情報技術の最新展開を紹介し、コンピュータを使いながら情報検索や情報処理のテクニックを身に付けることを目標とします。本講義は情報処理技術者試験を受験しようとする学生たちに、また、コンピュータに関する知識を中心とした情報科学に深い興味をもつ学生たちに十分に役立つように工夫している。</p>	授業計画	1 ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途
			2 データベース データベースの概要、データベースの種類
			3 データベース言語 データベース言語、データベースの定義と操作
			4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化
			5 コンピュータ通信 情報通信の基礎、データ転送のしくみ
			6 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式
			7 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS
			8 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど
			9 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システムの基礎
			10 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、バーチャルリアリティ
評価方法	期末のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。		11 情報検索 情報検索の方法と演習
テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する		12 アプリケーション・ソフトウェア オンラインソフトの使い方と使用

外国語学部共通科目	情報科学各論（初級）「表計算入門」（春・秋学期）	担当者	各担当教員
-----------	--------------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算 (MS-Excel) の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成
			3 表の編集、グラフの装飾、印刷
			4 計算式の利用
			5 ネットワークからのデータの収集・整理
			6 関数の利用 (1)
			7 関数の利用 (2)
			8 関数の利用 (3)
			9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは)
			10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ)
			11 プレゼンテーション (3) —発表
			12 総合演習
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

外国語学部共通科目	情報科学各論（初級）「プレゼンテーション」（春・秋学期）	担当者	金井 満
-----------	------------------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
	2 Powerpoint の基本操作 1		
	3 Powerpoint の基本操作 2		
	4 Powerpoint の基本操作 3		
	5 Powerpoint の基本操作 4		
	6 Powerpoint の基本操作 5		
	7 プレゼンテーションの注意点		
	8 グループプレゼンテーションの組み分けと個人プレゼンテーションの準備		
	9 個人プレゼンテーションの準備		
	10 個人プレゼンテーション		
	11 個人プレゼンテーション		
	12 個人プレゼンテーション		
評価方法	グループ及び個人プレゼンテーション。		
テキスト参考文献	テキスト 授業で指示します。		

--	--	--	--

外国語学部共通科目	情報科学各論（初級）「HTML 入門」（春・秋学期）	担当者	各担当教員
-----------	----------------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
			2 コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成
			3 ファイルの種類とフォルダ構成
			4 WWW と WWW ブラウザ
			5 インターネットと情報倫理
			6 ページの構造と HTML
			7 ホームページの作成—テキスト
			8 ホームページの作成—リンク
			9 ホームページの作成—イメージ
			10 ホームページの作成—テーブル・その他
			11 ホームページの作成—完成
			12 ファイルの転送とページの更新
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。		

--	--	--	--

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「表計算応用 1」	担当者	松山恵美子

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行う。</p> <p>Excel には様々な機能が用意されている。その中のひとつに「マクロ」機能がある。「マクロ」とは一連の操作を登録しておき、その操作を行いたいときに呼び出すと実行できるという機能である。</p> <p>本講義は簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA (Visual Basic for Applications) プログラムを理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると処理が行われる。それと同じことがプログラミングでもできるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p>	授業計画	1 ガイダンスと Excel の復習
			2 マクロとは
			3 マクロの実行方法
			4 マクロの作成 (1)
			5 マクロの作成 (2)
			6 フォームの利用
			7 Visual Basic Editor の利用 (1)
			8 Visual Basic Editor の利用 (2)
			9 Visual Basic Editor の利用 (3)
			10 最終課題作成 (1)
			11 最終課題作成 (2)
			12 最終課題作成 (3)
評価方法	出席とレポート課題		
テキスト 参考 文献	第 1 回目の授業で指示		

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	東 孝博
-----------	-----------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 授業内容説明
	2 HTMLの復習（簡単なCGIの利用）		
	3 HTMLの復習（Javaスクリプトの埋め込み）		
	4 Javaアプレットの概要		
	5 プログラム練習（グラフィックスイメージの表示）		
	6 プログラム練習（定数と変数）		
	7 プログラム練習（for文1）		
	8 プログラム練習（for文2）		
	9 プログラム練習（if文）		
	10 プログラム練習（配列）		
	11 プログラム練習（Mathオブジェクト）		
	12 総合演習		
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		

--	--	--	--

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	金子憲一
-----------	-----------------------	-----	------

--	--	--	--

--	--	--	--

講義目的および講義概要	講義の目標 この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。	授業計画	1 ガイダンスとイントロダクション
	講義の概要 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。		2 HTML と FTP の復習（1）
			3 HTML と FTP の復習（2）
			4 インタラクティブなページ（HTML と CGI）
			5 JavaScript（1）
			6 JavaScript（2）
			7 JavaScript（3）
			8 JavaScript（4）
			9 CGI の利用（1）
			10 CGI の利用（2）
			11 CGI の利用（3）
			12 総合報告会
評価方法	授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は特に重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。		
テキスト 参考文献	授業中に指示する。 プリントの配布も行う。		

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「HTML 応用 1」	担当者	田中雅英
-----------	-----------------------	-----	------

--	--	--	--

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、cgi や java script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指しては、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なおこの授業計画はあくまでの一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>	授業計画	1. ガイダンスと復習
			2. Web ページのネットへのアップロード等
			3. java script 1
			4. java script 2
			5. java script 3
			6. java script 4
			7. cgi 1
			8. cgi 2
			9. 情報の収集 1
			10. 情報の収集 2
			11. 応用
			12. その他
評価方法	授業中に指示する課題と平常点で評価する。		
テキスト参考文献	授業中に適宜指示する。		

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「HTML 応用 2」	担当者	東 孝博
-----------	-----------------------	-----	------

--	--	--	--

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したりアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>	授業計画	1 Javaの基本構造
			2 イベント処理 (マウスイベント1)
			3 イベント処理 (マウスイベント2)
			4 イベント処理 (キーイベント1)
			5 イベント処理 (キーイベント2)
			6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス)
			7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー)
			8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト)
			9 スレッドの利用 (イメージの移動)
			10 スレッドの利用 (色の変化・時計)
			11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム)
			12 総合演習
評価方法	日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。		
テキスト参考文献	プリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。		

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「データベース 1」（春・秋学期）	担当者	松山恵美子
-----------	-----------------------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフト (Excel) の基礎をマスターした学生を対象とし、データベースの扱い方の基礎を学ぶ。数値データだけでなく文字データの処理方法についても学習する。膨大な量のデータの中から必要なデータを的確に抽出する力を習得する。また検索・加工・分析・発表という一連の過程からデータベースの基本的な概念を学習することを目標とする。</p> <p>紙面上のデータをデジタル化してデータベースを構築する方法、またインターネット上から取得したデータをもとにデータベースを構築する方法についても学ぶ。</p> <p>最後に、自ら作成したデータベースを利用して抽出や検索などのデータベース機能を使って分析を行い、その結果を Word でまとめレポートを作成する。</p>	授業計画	1 本講義の概要および Excel の復習
			2 データベースとは何か
			3 データの取得と加工
			4 並べ替え
			5 集計
			6 レコードの抽出
			7 レコードの検索
			8 クロス集計
			9 データベース作成 (1)
			10 データベース作成 (2)
			11 レポート作成 (1)
			12 レポート作成 (2)

評価方法	出席およびレポート課題で評価を行う。
------	--------------------

テキスト参考文献	「Windows による情報活用」 共立出版
----------	------------------------

--	--	--	--

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「データベース 1」	担当者	長崎 等
-----------	----------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義は表計算ソフトウェア (Excel) の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習
			2 データベースについての調査
			3 データベースの基本概念
			4 並べ替え
			5 集計
			6 レコードの抽出
			7 条件検索 1
			8 条件検索 2
			9 データベース関数
			10 クロス集計とピボットテーブル
評価方法	出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。		11 まとめ
テキスト参考文献	1 回目の授業で指示します。		12 実習試験

--	--	--	--

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「データベース 2」	担当者	長崎 等

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらい、グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>	授業計画	1 データベースの概念と機能
	2 Access の基本操作		
	3 テーブル		
	4 テーブルと結合		
	6 クエリー (1)		
	6 クエリー (2)		
	7 グループによるテーブル設計 1 (ハイレベルエンティティ分析)		
	8 グループによるテーブル設計 2 (関係データ分析)		
	9 グループによるテーブル設計 3 (テーブル作成)		
	10 グループによるクエリ設計 1 (外部スキーマの設計)		
	11 グループによるクエリ設計 1 (クエリの作成)		
	12 グループによるプレゼンテーション		
評価方法	出席及びレポート課題によって評価します。		
テキスト参考文献	30H で理解できるアクセス 2000, 実教出版 図解雑学 データベース, ナツメ出版		

外国語学部共通科目	情報科学各論（中級）「プログラミング論1・2」	担当者	呉 浩東
-----------	-------------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>コンピュータで問題を解決するには、プログラムを書かなくてはなりません。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説します。プログラミングのノウハウや方法などを理解することを目標とします。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語とオペレーティングシステムについて概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、およびプログラミング言語の構造、さらに基本的なプログラムの仕組みなどを学びます。いくつかのプログラムの設計について講義と実習を行います。</p>	授業計画	1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説	
	評価方法		前期の定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 プログラミング言語とオペレーティングシステム
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。
			4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング	
			5 簡単なプログラムの作成 データ型、演算子、プロパティの値の取得と演算	
			6 選択構造をもつプログラムの作成 (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング	
			7 選択構造を持つプログラムの作成 (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計	
			8 繰り返しあるプログラムの作成 ループ構造とその応用	
			9 配列とコントロール配列 一次元配列、二次元配列、コントロール配列	
			10 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き	
			11 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス	
			12 総合練習 アプリケーションを試作する	

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>プログラミング技術を上達させるために、系統的に異なる様々な視点でのアルゴリズム (algorithms) 学習が効果的です。そのために、本講義はコンピュータのプログラミングで使われるデータ構造とアルゴリズムについて重点的に概説します。本講義では受講者に基本的なデータ構造とアルゴリズムをわかりやすく説明し、プログラミング能力をさらに上達することに目指します。初めに、プログラミングの設計に重要であるデータ構造とアルゴリズムの概念を概説します。さらに、データ構造を細かく分析する上、さまざまな例を用いてデータ構造の定義から使い方を説明し、演習を行います。また、データ構造をアルゴリズムに応用し、プログラミングに特によく使うアルゴリズムを講義と演習しながら学びます。</p>	授業計画	1 なぜデータ構造とアルゴリズムが重要なのか？ データの記録と表現、プログラミングのツール	
	評価方法		定期試験と、2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。	2 アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの基本的な考え方
			テキスト参考文献	(1) 最初の講義で指示する (2) 随時必要な資料を配布する
			4 探索 二分探索、併合、逐次探索と番兵	
			5 ソート 選択ソート、挿入ソート	
			6 文字列処理 文字列の照合、文字列の置き換え	
			7 再帰というプログラミング手法 再帰とは、再帰の簡単な例	
			8 木構造 木と二分探索木、二分探索木のさまざまな表現	
			9 知的データベースの設計	
			10 さまざまなグラフィックスの処理	
			11 アプリケーションの開発 (1) 実習 (1)：課題の説明と作成	
			12 アプリケーションの開発 (2) 実習 (2)：課題設計のスキルと方法の解説	

外国語学部共通科目	日本語学特殊講義A	担当者	城田俊/中西家栄子
-----------	-----------	-----	-----------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>1. この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>2. 日本語学習者、解読者としてのテキストの英文を正確に読解できるよう習練をその目的の一つである。</p> <p>3. 担当部分の英文と担当者があらかじめ達意の日本語に訳し、その要約をつくり、それと参加者に配布できるように準備する。</p> <p>4. 日本語と学ぶ英語話者が陥りがちな誤用を研究し、そこから浮びてくる日本語の特徴を考察する。</p> <p>5. その考察を日本語の音声システムと文法組織の全体像の中に位置づけ、知識の体系化を計る。</p> <p>6. シラバスに記したものと実際の授業とは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。授業への積極的参加が望まれる。</p>	授業計画	1 発表担当の分担。いかなる方法で勉強を進めるかの説明。
			2 Preliminaries (p.2-10)を読み、それについての討論とまとめ
			3 Greetings-1 (p.12-13)を読み、それについての討論とまとめ
			4 Adjectival Predicate (p.14-16)を読み、それについての討論とまとめ
			5 Spoken, Written, Formal and Informal styles (p.17-19)を読み、それについての討論とまとめ
			6 Adjectival Predicate with Topic (p.20-22)を読み、それについての討論とまとめ
			7 Loan Words (p.22-26)を読み、それについての討論とまとめ
			8 Personal Names and Occupations (p.26-28)を読み、それについての討論とまとめ
			9 Self-identification by Da (p.29-30) 及び "The Ko-so-a-da System" (p.30-31)を読み、それについての討論とまとめ
			10 Expressions for Social Introduction (p.31-34)を読み、それについての討論とまとめ
			11 Common Verbs: Non-past (p.35-40)を読み、それについての討論とまとめ
			12 Existential Verbs: Non-past (p.41-44)を読み、それについての討論とまとめ
評価方法	(1) 期末試験の得点 (2) 授業への参加態度と貢献度 (3) 出席率 (欠席4回以上はF評価とする)		
テキスト参考文献	AN INTRODUCTION TO JAPANESE GRAMMAR AND COMMUNICATION STRATEGIES By Senko K. Maynard The Japan Times		

--	--	--	--

講義目的および講義概要	前期〔城田俊〕と同じ	授業計画	1 Entry13~22(pp.46-82)
	後期では引き続き <i>Japanese Grammar and Communication Strategies</i> を使用し、その pp45-417〔最後〕までを学習する。各 Entry の長さにもよるが、毎回10エントリー分ぐらいの割合で進む。		2 Entry23~32(pp.83-116)
			3 Entry33~42(pp.117-146)
			4 Entry43~52(pp.147-175)
			5 Entry53~62(pp.176-204)
			6 Entry63~72(pp.205-230)
			7 Entry73~82(pp.231-265)
			8 Entry83~92(pp.266-300)
			9 Entry93~102(pp.301-331)
			10 Entry103~112(pp.332-363)
			11 Entry113~122(pp.364-394)
			12 Entry123~130(pp.395-417)
評価方法	(1) 授業への参加態度と貢献度 (2) 出席率 (3) 期末テスト (4) 課題発表		
テキスト参考文献	前期と同じ		

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語Ⅱ (A)	担当者	各担当教員
-----------	-------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識を応用し、辞書さえ利用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。 読解練習のテーマとしてはノンフィクション、ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイをテキストとして使用します。 最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を十分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。 それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。	授業計画	1 ガイダンス	
			2 文法の復習、未習事項の学習	
			3 同上	
	4 同上			
	5 同上			
	6 同上			
	7 同上			
	8 読解練習			
	9			
	10			
評価方法	期末試験の成績と授業への出席状況など総合的に判断して評価します。			11
テキスト参考文献	各担当教員の指示するテキスト			12

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
	評価方法				11
	テキスト参考文献				12

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語Ⅱ (B)	担当者	各担当教員
-----------	-------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識を応用し、辞書さえ利用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。 読解練習のテーマとしてはフィクション、小説・童話・説話などをテキストとして使用します。 最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を十分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。 それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。	授業計画	1 ガイダンス
			2 文法の復習、未習事項の学習
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 読解練習
			9
			10
			11
			12

評価方法
期末試験の成績と授業への出席状況など総合的に判断して評価します。

テキスト参考文献
各担当教員の指示するテキスト

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法

テキスト参考文献

外国語学部共通科目	基礎ドイツ語Ⅱ（C）	担当者	各担当教員
-----------	------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識や基本単語を使って何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝える能力を養成することを目標とします。</p> <p>読解練習のテーマとしてはフィクション、小説・童話・説話などをテキストとして使用します。</p> <p>最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後場面に応じて、基本的な文章と聞き取り、反復・応答ができるように練習します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2 文法の復習、未習事項の学習
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 口頭練習
			9
			10
評価方法	期末試験の成績と授業への出席状況など総合的に判断して評価します。		11
テキスト参考文献	各担当教員の指示するテキスト		12

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法			11
テキスト参考文献			12

外国語学部共通科目	基礎フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員
-----------	----------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	1年次に学んだ基礎フランス語をもとに、さらにフランス語の力を伸ばすための講座です。2人の先生がペアを組んで授業を行います。クラス分けは教務課の方で行います。	授業計画	1
	授業の内容および進め方に関しては担当の先生より説明があります。		2
			3
	評価方法		担当の各先生から説明があります。
5			
テキスト参考文献	授業の際、担当の先生が指示します		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

--	--	--	--

講義目的および講義概要	1年次に学んだ基礎フランス語をもとに、さらにフランス語の力を伸ばすための講座です。2人の先生がペアを組んで授業を行います。クラス分けは教務課の方で行います。	授業計画	1
	授業の内容および進め方に関しては担当の先生より説明があります。		2
			3
	評価方法		担当の各先生から説明があります。
5			
テキスト参考文献	授業の際、担当の先生が指示します		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

外国語学部共通科目	基礎スペイン語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員
-----------	--------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（総合）は、スペイン語Ⅰ（総合）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 <u>スペイン語Ⅱ(会話)</u> との同時履修とする。</p>	授業計画	1 動詞の活用 … 直説法点過去
			2 動詞の活用 … 直説法線過去
			3 点過去と線過去の違い
			4 比較表現
			5 過去分詞と現在分詞
			6 動詞の活用 … 直説法現在完了形
			7 動詞の活用 … 現在進行形
			8 動詞の活用 … 接続法現在規則形
			9 動詞の活用 … 接続法現在不規則形
			10 命令表現
評価方法	定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。		
テキスト等参考文献	『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。		基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	
評価方法			
テキスト等参考文献			

外国語学部共通科目	基礎スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
-----------	--------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（会話）は、スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 <u>スペイン語Ⅱ(総合)との同時履修とする。</u></p>	授業計画	<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ(総合)の項目と同じであるが、スペイン語Ⅱ(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>
評価方法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
テキスト等参考文献	<p>『オラ・アミーゴス』（芸林書房） また、担当者が随時プリントを配布。</p>		

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	
評価方法			
テキスト等参考文献			

外国語学部共通科目	基礎中国語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
-----------	------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	中国語作文のテキストを使って、1年で習得した中国語文法を復習しながら中国語で書く能力をつけることを目指す。テキスト中の練習文や単語を授業中に暗記するだけでなく、毎回小テストを行う。授業内容はハードであるが、作文の能力が身につけば同時に話す能力も培うことになり、出席者が中国語検定4級に合格できるよう指導していきたい。予習をしてきたことを前提として授業を進めるので、予習を怠らないこと。	授業計画	1 発音のおさらい
			2 一語文・一句文——形容詞述語文、間投詞、評価の表現、決まり文句
			3 基本構文と主題化——基本語順、定語と状語について、主述述語文
			4 時間（時点と時間量）——主な時間詞、数量補語、動詞の重ね型、離合詞
			5 場所と存在・移動——方位詞、存現文、移動を表す文
			6 疑問・否定——“呢”疑問文、疑問詞疑問文、推測を確認するための疑問文
			7 願望・必要——願望の表し方“想”“祝”“希望”等、必要の表し方“要”“得”等
			8 命令・依頼・可能——命令文、禁止、依頼のしかた、丁寧な依頼文
			9 推定・伝聞——推定を表す副詞、“不一定”と“不可能”、蓋然性を表す助動詞
			10 数量表現——量詞の種類、数量表現の位置、“～多”の位置
評価方法	小テスト、前期・後期テスト及び授業の参加度		11 修飾語——動詞句または文が定語となった場合、複数の定語の配列順
テキスト参考文献	董燕・遠藤光暁著『書く中国語』、『わかる中国語単語1000』（共に朝日出版社）		12 まとめ及びテスト

--	--	--	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 形容詞の程度と動詞の様態——形容詞の程度、“太”と“太～了”、様態補語
			2 比較・類似——比較の言い方、比較の否定、比較の疑問形、差量の表し方、一致と類似
			3 時制とアスペクト——未来・過去、変化の“了”、数量表現を伴う場合の“了”の位置
			4 結果・方向・可能——結果補語、方向補語及びその派正義、可能を表す助動詞と可能補語
			5 二重目的語と対象を表す前置詞——二重目的語、取得対象を表す前置詞“向”等
			6 使役・受身・“把”——使役文と使役動詞、受身文、“把”構文、意味上の受身
			7 仮定・条件——接続詞と接続副詞、もしも～なら、～したからには、たとえ～
			8 順序・全称——時間的順序、～するしないなや、同一疑問詞の呼応、～すら
			9 原因・目的・逆接——因果関係、原因、目的、連動式、逆接、～ではなく～だ
			10 並列・累加——並列、～しながら～する、～かのどちらかだ、～だけでなく～も
評価方法			11 手紙の書き方について
テキスト参考文献			12 まとめ及びテスト

外国語学部共通科目	基礎中国語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
-----------	------------	-----	-------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

--	--	--	--

講義目的および講義概要	最初の授業で説明	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

外国語学部共通科目	総合講座B (世界のマイノリティと民族問題) (春・秋学期)	担当者	佐藤唯行
-----------	--------------------------------	-----	------

--	--	--	--

講義目的および講義概要	「世界のマイノリティと民族問題」というテーマのもとに、主として外国語学部所属の教員が1年間にわたって、輪講形式で、各自の専門を話してまいります。90分授業の内、75分を講義、最後の15分を質疑応答にあてます。となく一方通行になりがちで、通常授業の欠点を解消するつもりです。聞き手である学生諸君からの積極的な質問を歓迎します。	授業計画	1 佐藤唯行, ガイダンス
			2 佐藤唯行, アメリカ政治のエグザ・パロー
			3 中野聡, フリヒー・アメリカンの語り方
			4 平田雅博, 英国黒人の歴史と現在
			5 辻康吾, 中国の少数民族政策
			6 佐原徹哉, バルカンの民族問題とマケドニア
			7 佐藤勘治, 米国ラティーノ
			8 = = , ラテンアメリカの先住民
			9 山本英政, ハワイ: 先住民アメリカへの日本人の移動, 巻の1
			10 = = = = 巻の2
評価方法	前期, 後期に筆記試験を実施, 形式は4択20問のクイズ形式で, 範囲は授業内容に即したものを		11 井藤早織, スコティッシュの選択 - 「イギリス」のなかのスコットランド人 -
テキスト参考文献			12 井上兼行, カリブ海地域の黒人クレオール 巻の1

--	--	--	--

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 佐藤唯行, 試験問題返却・講評・後期ガイダンス
			2 竹田いさみ, インドネシア・南太平洋の民族紛争
			3 本田浩邦, ロサンゼルスの人種・移民問題 (1) アメリカ・メキシコ国境の交差点をめぐって
			4 = = , = = (2) IT時代のスウェットショップ
			5 金子芳樹, 華僑・華人コネクション - ネットワークが支えた社会 -
			6 = = , マイノリティとしてのイスラム教徒 - 過激派テロリストを生むメカニズム -
			7 辻康吾, 中国の少数民族問題
			8 古田善文, 統一ドイツの民族問題
			9 = = , EU諸国における極右・ポピュリスト勢力の台頭
			10 高橋雄一郎, セクシヤリティーアメリカを中心に
評価方法			11 御園生真, 19世紀前半の4エゴの経済発展と民族 - 4エゴ: ドイツ人・メキシコ人 -
テキスト参考文献			12 高橋雄一郎, セクシヤリティーの多様性を求めて - アメリカを中心に -